

第4次古賀市総合振興計画策定に係る
各種アンケート報告書

平成22年3月

古賀市

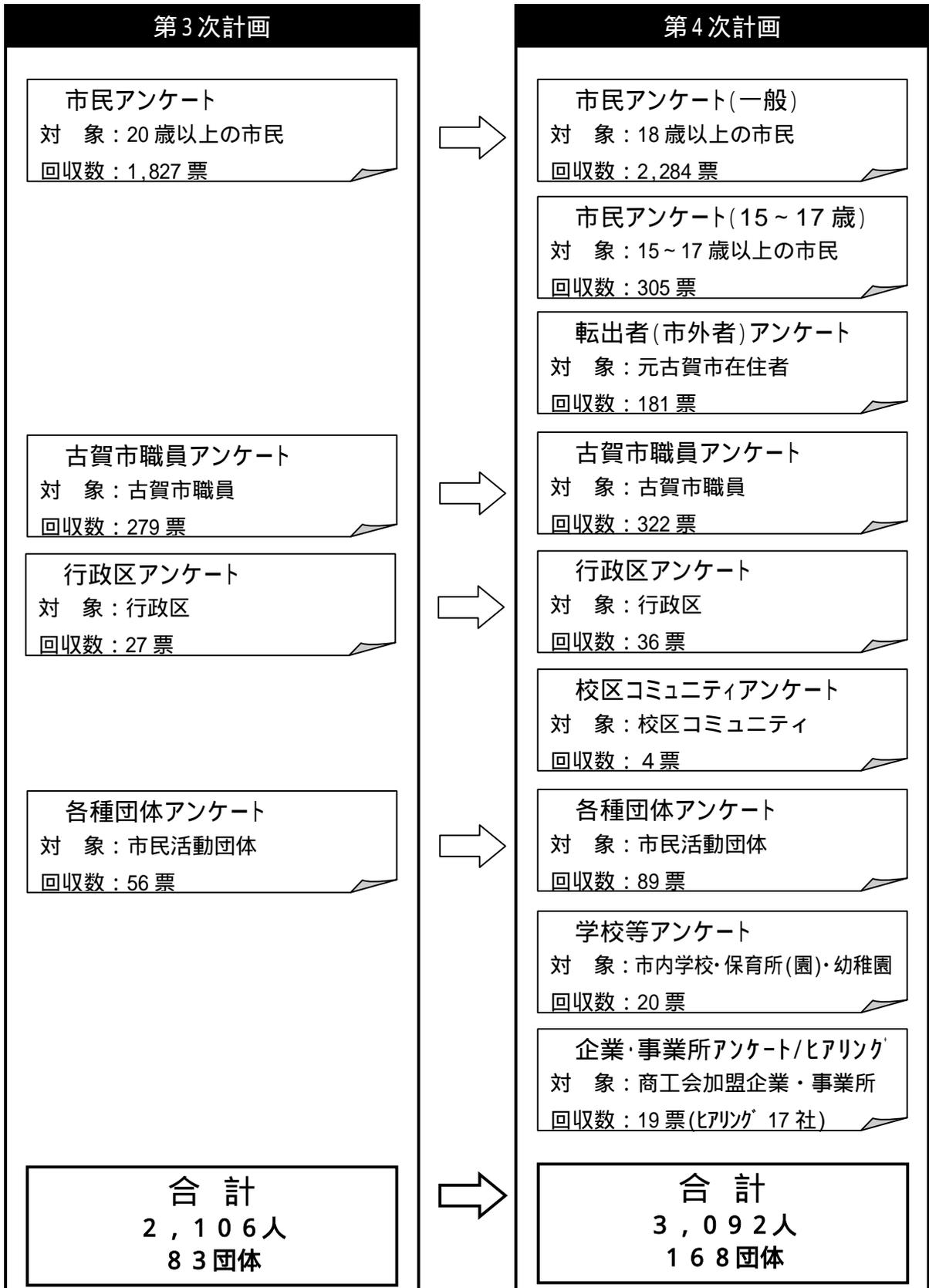
目 次

アンケートの全体像	1
- 1 アンケートの全体像.....	2
アンケート結果のまとめ	5
- 1 各種アンケートのまとめ.....	6
- 2 アンケートの比較・分析.....	23
各アンケートの結果	43
- 1 市民アンケート調査.....	44
- 2 転出者（市外者）アンケート調査結果.....	84
- 3 古賀市職員アンケート調査.....	105
- 4 行政区アンケート調査.....	134
- 5 校区コミュニティアンケート調査.....	146
- 6 各種団体アンケート調査.....	154
- 7 学校等アンケート調査.....	172
- 8 企業・事業所アンケート・ヒアリング調査.....	181

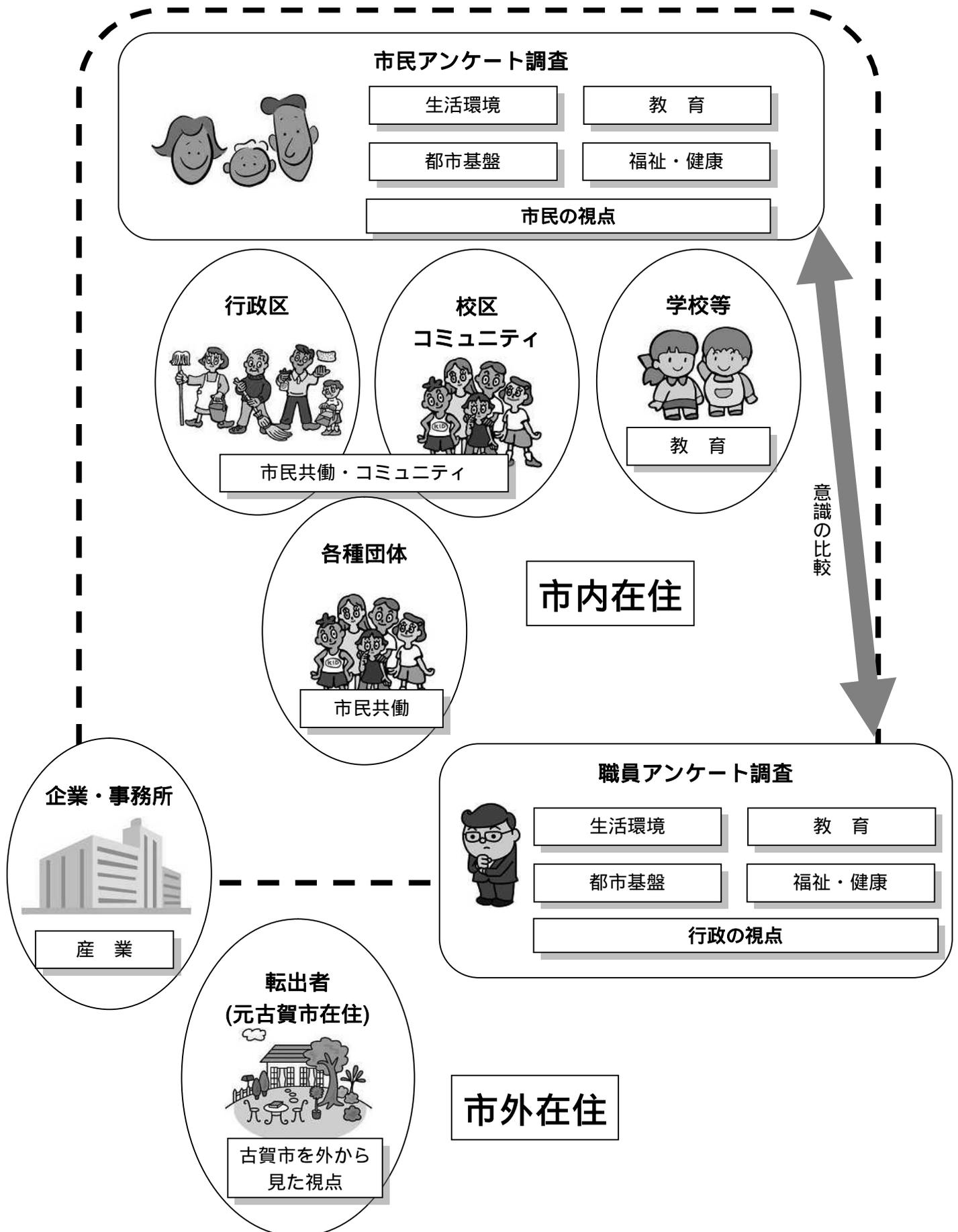
I アンケートの全体像

1 アンケートの全体像

(1) 第3次計画と第4次計画との比較



(2) アンケートの全体イメージ



(3) アンケート調査概要

調査	市民アンケート		転出者 アンケート	古賀市職員 アンケート	行政区 アンケート	校区コミュニティ アンケート	各種団体 アンケート	学校等 アンケート	企業・事業所 アンケート・ヒアリング
	18歳以上の 市民	15～17歳 の市民							
対象			転出者（市外者） ・元古賀市在住者	市役所職員	行政区	校区コミュニティ	市民活動団体 ・ボランティアセンター 登録団体 ・市民共働隊登録団体 ・その他市民活動団体	市内学校等 ・小学校・中学校 ・高校・大学 ・保育所（園）・幼稚園 ・養護学校	市内企業・事業所 ・商工会加盟企業、 事業所
配布数	2,585	362	218	355	45	7	130	29	30
回収数	2,284	305	181	322	36	4	89	20	19 (内17社ヒアリング実施)
回収率	88.4%	84.3%	83.0%	90.7%	80.0%	57.1%	68.5%	69.0%	63.3%
回答者の属性									
古賀市の住みやすさ					-	-	-	-	-
古賀市に住み続けたいか					-	-	-	-	-
将来の古賀市のイメージ									
古賀市の人口政策					-	-	-	-	-
満足度（充実度）と優先順位					-	-	-	-	-
分野別の意識・ニーズ					-	-	-	-	-
力を入れて欲しいこと					-	-	-	-	-
まちづくりへの参加意向					-	-	-	-	-
総合振興計画について					-	-	-	-	-
抱えている課題や悩み					-	-	-	-	-
共働のまちづくり					-	-	-	-	-
活動の中で感じること					-	-	-	-	-
古賀市の強み・弱み					-	-	-	-	-
企業の立地条件					-	-	-	-	-
企業活動のしやすさ					-	-	-	-	-
引っ越し（転出）について					-	-	-	-	-
古賀市をどう感じていたか					-	-	-	-	-
古賀市に戻りたいか					-	-	-	-	-
自由記述									

主な調査内容

アンケート結果のまとめ

- 1 各種アンケートのまとめ

(1) 市民アンケート調査(一般)

1) 古賀市の住みやすさについて

「住みやすい(24.1%)」「どちらかといえば住みやすい(32.0%)」を合わせた『住みやすい』は56.1%となり、半数以上が「住みやすい」と評価しています。

住みやすいとは思わないが特に不満を感じていないと考えられる「普通(34.7%)」を合わせると90.8%となり、約9割が不満を感じていないことがうかがえます。

「どちらかというに住みにくい(5.7%)」「住みにくい(1.7%)」を合わせた『住みにくい』は7.4%となり、「住みにくい」と感じている市民は少ないことがわかります。

2) 古賀市に住み続けたいかについて

「今の場所に住み続けたい(67.7%)」が最も高く、「市内の別の場所に移りたい(10.8%)」を合わせた『住み続けたい』は78.5%と、約8割が市内に住み続けたいと思っています。

今の場所から移りたい主な理由として、「鉄道やバスなどの交通手段が便利な場所へ移りたい(34.6%)」「買い物が便利な場所に移りたい(28.3%)」が上位にあげられ、移動や買い物の利便性を求めていることがうかがえます。

3) 古賀市の人口施策について

「人口の増加が望ましい」が20.7%、「現状の人口を維持する」が47.5%と約7割の市民が人口増加・維持を望んでいます。

一方「人口の減少は仕方がない」は14.8%となっています。

4) 分野別の満足度・優先順位について

都市基盤の整備

各項目を指数化 1 すると満足度は「消防・救急体制の整備状況(3.17)」「インターネットなど情報通信の環境(2.94)」「鉄道の利用しやすさ(2.91)」が高く、「歩道の整備状況(2.33)」「バスの便数などの利用しやすさ(2.35)」「防犯灯や街路灯の整備状況(2.43)」が低くなっています。

1 「満足」+5、「やや満足」+4、「普通」+3、「やや不満」+2、「不満」+1として加重平均して指数化しています。なお、「わからない」「無回答」は除外して算出しています。

優先順位は、「防犯灯や街路灯の整備状況(37.5%)」「歩道の整備状況(28.1%)」「バスの便数などの利用しやすさ(23.3%)」が高く、「インターネットなど情報通信の環境(2.6%)」「幹線道路の整備状況(10.3%)」「鉄道の利用しやすさ(10.5%)」が低くなっています。「歩道の整備」「防犯灯や街路灯の整備」「バスの便数などの利用しやすさ」は満足度が低く、優先順位は高くなっており、市民がより望んでいる施策といえます。

生活環境の整備

各項目を指数化すると満足度は「し尿の収集・処理(3.18)」「上水道の整備状況(3.17)」「市内における日常の買い物の便利さ(3.13)」が高く、「河川やため池の保全・整備状況(2.66)」「山や緑の保全状況(2.83)」「自然や街並みなど美しい景観の形成(2.84)」「海岸の保全・整備の状況(2.84)」が低くなっています。

優先順位は、「自然や街並みなどの美しい景観形成(32.1%)」「市内における日常の買い物の便利さ(27.0%)」「河川やため池の保全・整備状況(21.6%)」が高く、「し尿の収集・処理(4.1%)」「上水道の整備状況(8.8%)」「下水道の整備状況(12.2%)」が低くなっています。「自然や街並みなど美しい景観の形成」「河川やため池の保全・整備」は満足度が低く、優先順位は高くなっており、市民がより望んでいる施策といえます。

健康の増進と福祉の充実

各項目を指数化すると満足度は「定期健診などの健康診査(3.04)」「病気の予防・健康づくりの情報提供(3.03)」「病院・診療所の便利さ(2.92)」が高く、「夜間・休日など救急時の医療体制(2.68)」「障害者(児)の福祉サービス(2.75)」「生きがい対策等の高齢者のサービス(2.76)」が低くなっています。

優先順位は、「夜間・休日など救急時の医療体制(45.7%)」「生きがい対策等の高齢者のサービス(31.7%)」「病院・診療所の便利さ(29.7%)」が高く、「障害者(児)の福祉サービス(11.4%)」「保育所などの児童の福祉サービス(15.8%)」「病気の予防・健康づくりの情報提供(16.9%)」が低くなっています。

「夜間・休日など救急時の医療体制」「生きがい対策等の高齢者のサービス」は満足度が低く、優先順位は高くなっており、市民がより望んでいる施策といえます。

生涯学習の推進と教育・文化の向上

各項目を指数化すると満足度は「図書館の利用しやすさ(3.25)」「中央公民館の利用しやすさ(3.01)」「歴史的景観や文化財の保護(2.96)」が高く、「公園や広場、遊び場の整備状況(2.55)」「スポーツ・レクリエーションの場の整備(2.80)」「子どもに関する相談事業(2.81)」が低くなっています。

優先順位は、「公園や広場、遊び場の整備状況(36.1%)」「スポーツ・レクリエーションの場の整備(23.7%)」「生涯学習の機会(23.1%)」が高く、「中央公民館の利用しやすさ(6.0%)」「歴史的景観や文化財の保護(7.4%)」「子どもに関する相談事業(7.8%)」が低くなっています。

「公園や広場、遊び場の整備」「スポーツ・レクリエーションの場の整備」は満足度が低く、優先順位は高くなっており、市民がより望んでいる施策といえます。

産業の振興

各項目を指数化すると満足度は「工場などの新たな企業誘致による工業の振興（2.84）」「生産者と消費者の交流促進による農林業の振興（2.80）」が高く、「中心市街地の活性化による商業の振興（2.21）」が低くなっています。

優先順位は、「中心市街地の活性化による商業の振興（35.6%）」「働く場所の多さ（26.3%）」が高くなっています。

「中心市街地の活性化による商業の振興」は満足度が低く、優先順位は高くなっており、市民がより望んでいる施策といえます。

人権の確立

「あらゆる差別をなくす啓発活動」「差別や人権に関する相談体制」の2項目のみの調査であったが、満足度に大きな差は表れていません。

優先順位は、「あらゆる差別をなくす啓発活動（42.9%）」が高くなっています。

市民参画

各項目を指数化すると満足度は「広報こがや公式ホームページなどによる情報提供（3.20）」「地域のコミュニティ活動（2.99）」「男女共同参画の推進（2.96）」が高く、「市民意見の収集とその対応（2.65）」「懇談会など市政への市民参加（2.75）」が低くなっています。

優先順位は、「市民意見の収集とその対応（42.3%）」「地域のコミュニティ活動（28.0%）」「集会場などコミュニティ施設の整備（25.7%）」が高く、「男女共同参画の推進（9.9%）」「懇談会など市政への市民参加（20.5%）」「広報こがや公式ホームページなどによる情報提供（23.7%）」が低くなっています。

「市民意見の収集とその対応」は満足度が低く、優先順位は高くなっており、市民がより望んでいる施策といえます。

行財政

各項目を指数化すると満足度は「市職員の電話や窓口での対応（2.75）」「公共施設の民間委託（2.54）」が高く、「税金や利用料金など市民負担のあり方（2.05）」「コスト削減などの行財政改革（2.27）」が低くなっています。

優先順位は、「税金や利用料金など市民負担のあり方（40.6%）」「コスト削減などの行財政改革（22.0%）」が高く、「公共施設の民間委託（2.7%）」「積極的な情報公開の推進（6.8%）」が低くなっています。

「税金や利用料金など市民負担のあり方」「コスト削減などの行財政改革」は満足度が低く、優先順位は高くなっており、市民がより望んでいる施策といえます。

5) 土地利用について

24.8%が「特に乱開発も見受けられず、おおむね良いと思う」と回答しています。

一方、「計画性に欠けた秩序のない土地利用になっていると思う」が19.6%、「山林や農地をつぶしすぎたように思う」が14.4%と、合計34.0%が土地利用に何らかの不満を感じています。その要因として「山間部や田園地帯で住宅等の開発が進んでいる(37.8%)」「狭い道路のまま建物が建て込んでいる(36.5%)」「山間部の自然が失われている(34.9%)」ことが上位にあげられています。

土地利用に対する規制については、「もう少し規制を強くするべきである」が19.9%、「現状程度の規制で十分である」が20.7%、「今よりも規制を弱めるべき」が7.2%となっており、約4割が「現状あるいはそれ以上の規制が必要」と考え、「今より規制を弱めるべき」と考えている市民は1割未満であることがわかります。

今後進めていくべき土地利用として、「JR駅周辺の商業施設や利便施設の整備(32.3%)」「商店街などの商業地の整備(24.6%)」「JR駅周辺の道路整備(22.8%)」「国道など幹線道路沿いの商業・利便施設の整備(22.4%)」「公園・スポーツ施設などの用地の整備(22.2%)」が上位にあげられています。

6) 景観について

保全した方がよいと考えられる景観として「白砂青松の海岸部の景観(36.4%)」「市東側に広がる西山や犬鳴山系などの山々の自然景観(27.9%)」「鹿部山公園など市街地に残っている緑地景観(26.1%)」「大根川や青柳川沿いの河川沿いの景観(22.3%)」が上位にあげられ、多くの市民が「自然景観を保全すべき」と考えていることがうかがえます。

改善すべき景観として「大根川や青柳川沿いの河川沿いの景観(29.9%)」「緑がなくなっている山々の景観(28.5%)」が多くあげられています。

古賀市らしい特色を生かした古賀市の誇りとなるような景観の形成については、76.7%と約8割の市民が必要と感じており、景観をよくするためには「市と地域が話し合いながら景観づくりを行う(62.0%)」取組が必要と考えています。

7) 生活環境について

快適で美しい社会、資源循環の社会を保つためには、「地域のリサイクル活動地域の緑化活動(39.0%)」「地域の環境美化活動(37.6%)」「地域の緑化活動(32.9%)」が必要と考えています。

8) 健康・福祉について

健康を維持していくために、「食生活や栄養バランスに気をつける(49.5%)」「ウォーキングなどの軽い運動を日常的に行う(33.9%)」に取り組みたいと多くの市民が思っています。

少子化問題に対応するためには、「子育てや教育に係る経済的負担の軽減のための取組(43.8%)」「保育所など子育て支援サービスの充実(35.5%)」「仕事と子育てをしやすい職場環境(27.6%)」が重要と考えています。

団塊の世代や高齢者が地域でいきいきと暮らしていくためには、「健康づくりや生きがい活動の支援（38.5%）」「専門知識・技術・経験などを地域活動に生かす環境づくり（27.0%）」が重要と考えています。

9)教育・生涯学習・スポーツについて

子どもの教育には、「子ども同士のつながりをふやすこと(32.1%)」「健康・体力づくり(28.0%)」「学校と地域社会の連携の拡充（27.9%）」「親子のふれあいの場や機会の増加（24.2%）」が重要と考えています。

生涯学習として「趣味や教養に関すること（60.7%）」「健康・スポーツに関すること(47.3%)」に取り組みたいと考えています。

運動やスポーツを始めたり、継続したりするための条件として「身近にスポーツ施設があれば（50.3%）」「余暇時間があれば（44.6%）」「仲間や指導者がいたり、気軽に加入できるサークルがあれば（41.8%）」が多くあげられています。

10)人権について

基本的人権について「守られていると思う」と回答した市民は57.9%、「守られていないと思う」と回答した市民は15.2%で、性別で見ると男性57.7%、女性60.2%と女性がやや高くなっています。

11)市民参画について

まちづくりのための市民活動への参加意識は、「積極的に参加したい（10.7%）」「時間があれば参加したい（52.5%）」「自分や家族に関係するときは参加したい（26.2%）」と約9割の市民が何らかの形で『参加したい』と回答し、まちづくりへの参加の意向を持っています。

まちづくりの市民参画を進めるためには、「楽しく参加できるようやり方を工夫する（49.8%）」「わかりやすい情報提供・情報公開の推進(48.5%)」を行うことが重要と考えています。

地域をよりよくするために協力したい活動として「環境関係（46.4%）」「防犯・防災・交通安全（25.0%）」が上位にあげられています。

12)将来の古賀市のイメージについて

「便利で快適に暮らせるまち（47.5%）」「美しい自然環境に包まれたまち（39.5%）」「子どもを安心して産み育てられるまち（24.6%）」が上位にあげられています。

(2) 市民アンケート調査(15～17歳)

1) 古賀市の住みやすさについて

「住みやすい(20.4%)」「どちらかといえば住みやすい(29.4%)」を合わせた『住みやすい』は49.8%となり、約半数が「住みやすい」と評価しています。

また、住みやすいとは思わないが特に不満を感じていないと考えられる「普通(39.1%)」を合わせると88.9%となり、約9割が不満を感じていないことがうかがえます。

「どちらかというに住みにくい(8.0%)」「住みにくい(2.0%)」を合わせた『住みにくい』は10.0%となり、「住みにくい」と感じている市民は少ないことがわかります。

2) 古賀市に住み続けたいかについて

「住み続けたい(14.7%)」「どちらかといえば住み続けたい(34.1%)」を合わせた『住み続けたい』が48.8%、「どちらかといえば住み続けたくない(36.8%)」「住み続けたくない(13.4%)」を合わせた『住み続けたくない』が50.2%とほぼ半分にわかれています。

住み続けたくない主な理由として「買い物をするところが少ない(40.0%)」「遊ぶ場所がない(38.7%)」「親から独立して暮らしてみたい(31.3%)」が上位にあげられています。

3) まちづくりで力を入れて欲しいことについて

「公共交通の整備・充実(42.5%)」「公園や広場、遊び場の整備・充実(34.4%)」「海や山、川などの保全(33.4%)」が上位にあげられています。

4) 土地利用について

今後進めていくべき土地利用については、「公園・スポーツ施設などの用地の整備(33.4%)」「JR駅周辺の商業施設や利便施設の整備(24.4%)」「商店街などの商業地の整備(23.1%)」「国道など幹線道路沿いの商業・利便施設の整備(23.1%)」が求められています。

5) まちづくりの参加意向について

参加できる(したい)まちづくり活動として「環境に関すること(38.1%)」「地域行事に関すること(34.1%)」「スポーツに関すること(33.4%)」が上位にあげられています。

6) 将来の古賀市にイメージについて

「便利で快適に暮らせるまち(50.8%)」「美しい自然環境に包まれたまち(39.5%)」「子どもを安心して産み育てられるまち(24.6%)」「健康で暮らせるまち(24.6%)」が上位にあげられています。

(3) 転出者(市外者)アンケート調査

1) 引っ越し(転出)について

引っ越し(転出)の理由

「仕事の都合(就職・転職・転勤)のため(40.3%)」「結婚のため(33.7%)」「学校の都合のため(6.6%)」と、8割以上の方が、結婚や仕事、学校などの止むを得ない理由により転出しており、「生活環境に不満があった」は0.6%と、不満があつて転出した人は少ないことがわかります。

引っ越し(転出)先市町村

「県内」が56.9%、「県外」が40.3%となっており、県内の転出では「福岡市(25.4%)」「宗像市(6.6%)」「福津市(5.5%)」「新宮町(5.5%)」とJR鹿児島本線・国道3号沿いの近隣市町への転出が多く見られます。

引っ越し(転出)先決定の重視点

「職場・学校への近さ、通勤・通学のしやすさ(61.9%)」「住宅・家賃の価格(51.4%)」「交通の便利さ(34.8%)」が上位にあげられ、引っ越し先を選ぶ際に、通勤・通学などの交通の便利さと住宅・家賃の価格を重視していることがわかります。

2) 古賀市の住みやすさについて

「住みやすかった(48.1%)」「どちらかといえば住みやすかった(29.8%)」を合わせた『住みやすかった』は78.9%と、約8割が「住みやすかった」と評価しています。

「どちらかというに住みにくかった(3.9%)」「住みにくかった(1.1%)」を合わせた『住みにくかった』は5.0%と、「住みにくかった」と感じていた人は少ないです。

3) 古賀市に感じていたことについて

各項目を指数化すると「自然環境(4.03)」「近所づきあい(3.72)」「買い物などの日常生活のしやすさ(3.61)」が高く、「自然豊かで近所づきあいも良好で、日常生活のしやすいまち」と感じていた人が多いことがうかがえます。

「交通の便利さ」は、『よい』と回答した人は48.6%と多いが、『悪い』と回答した人も23.7%おり、JR駅周辺の市街地に住んでいた人と農村部に住んでいた人で意見が分かれたと考えられます。

すべての項目で『よい』が『悪い』を上回り、古賀市に対してよいイメージを持っていたことがわかります。

4)古賀市への回帰(Uターン)意向について

「できれば戻りたい(24.3%)」「どちらかといえば戻りたい(18.2%)」を合わせた『戻りたい』は42.5%となり、約4割の人が本市に戻りたいと思っています。

「どちらかといえば戻りたい(6.1%)」「できれば戻りたくない(3.3%)」を合わせた『戻りたくない』は9.4%と本市に戻りたくないと思っている人は1割未満となっています。

5)将来の古賀市にイメージについて

「便利で快適に暮らせるまち(42.5%)」「美しい自然環境に包まれたまち(36.5%)」「子どもを安心して産み育てられるまち(34.8%)」が上位にあげられています。

(4)市職員アンケート調査

1)古賀市の住みやすさ(イメージ)について

「住みやすい(18.6%)」「どちらかといえば住みやすい(41.0%)」を合わせた『住みやすい』は59.6%と、約6割の職員が住みやすいというイメージを持っています。

住みやすいイメージはないが、特に住みにくいイメージもない「普通(29.2%)」を合わせると88.8%となり、約9割が住みにくいイメージを持っていないことがわかります。

「どちらかという住みにくい(9.6%)」「住みにくい(0.9%)」を合わせた『住みにくい』は10.5%と、約1割の職員は、住みにくいというイメージを持っています。

2)古賀市の人口施策について

「人口の増加が望ましい」が24.2%、「現状の人口を維持する」が50.0%と多くの職員が人口増加・維持が必要と考えています。

一方「人口の減少は仕方がない」は18.9%となっています。

3)分野別の充実度・優先順位について

都市基盤の整備

各項目を指数化 2 すると充実度は「鉄道の利用しやすさ(3.59)」「消防・救急体制の整備状況(3.41)」「インターネットなど情報通信の環境(3.06)」が高く、「バスの便数などの利用しやすさ(2.15)」「歩道の整備状況(2.29)」「計画的な土地利用の推進(2.31)」が低くなっています。

2 「充実」+5、「やや充実」+4、「普通」+3、「やや不満」+2、「不満」+1として加重平均して指数化しています。なお、「わからない」「無回答」は除外して算出しています。

優先順位は、「計画的な土地利用の推進(41.3%)」「生活道路の整備状況(30.1%)」「歩道の整備状況(29.2%)」が高く、「インターネットなど情報通信の環境(2.5%)」「鉄道の利用しやすさ(4.0%)」「消防・救急体制の整備状況(8.1%)」が低くなっています。

「計画的な土地利用の推進」「歩道の整備」は充実度が低く、優先順位は高くなっており、行うと効果の高い施策といえます。

生活環境の整備

各項目を指数化すると充実度は「ごみ収集・処理(3.39)」「上水道の整備状況(3.34)」「し尿の収集・処理(3.33)」が高く、「自然や街並みなど美しい景観の形成(2.66)」「山や緑の保全状況(2.71)」「河川やため池の保全・整備状況(2.85)」が低くなっています。

優先順位は、「自然や街並みなどの美しい景観形成(36.0%)」「市内における日常の買い物の便利さ(31.7%)」「山や緑の保全状況(30.4%)」が高く、「し尿の収集・処理(5.3%)」「海岸の保全・整備の状況(7.1%)」「上水道の整備状況(7.8%)」が低くなっています。

「自然や街並みなど美しい景観の形成」「山や緑の保全」は充実度が低く、優先順位は高くなっており、行うと効果の高い施策といえます。

健康の増進と福祉の充実

各項目を指数化すると充実度は「病院・診療所の便利さ(3.25)」「定期健診などの健康診査(3.24)」「病気の予防・健康づくりの情報提供(3.17)」が高く、「夜間・休日など救急時の医療体制(2.99)」「障害者(児)の福祉サービス(3.08)」「生きがい対策等の高齢者のサービス(3.10)」が低くなっています。

優先順位は、「夜間・休日など救急時の医療体制(45.3%)」「生きがい対策等の高齢者のサービス(29.8%)」「保育所などの児童の福祉サービス(28.0%)」が高く、「障害者(児)の福祉サービス(14.6%)」「定期健診などの健康診査(15.5%)」「病気の予防・健康づくりの情報提供(22.7%)」が低くなっています。

「夜間・休日など救急時の医療体制」「生きがい対策等の高齢者のサービス」は充実度が低く、優先順位は高くなっており、行うと効果の高い施策といえます。

生涯学習の推進と教育・文化の向上

各項目を指数化すると充実度は「図書館の利用しやすさ(3.52)」「小・中学校の教育環境(3.14)」「生涯学習の機会(3.10)」が高く、「公園や広場、遊び場の整備状況(2.64)」「学校と家庭と地域が連携して子どもを育む環境(2.75)」「スポーツ・レクリエーションの場の整備(2.91)」が低くなっています。

優先順位は、「学校と家庭と地域が連携して子どもを育む環境(39.1%)」「公園や広場、遊び場の整備状況(35.4%)」「小・中学校の教育環境(26.7%)」が高く、「図書館の利用しやすさ(5.6%)」「歴史的景観や文化財の保護(6.2%)」「中央公民館の利用のしやすさ(7.8%)」が低くなっています。

「学校と家庭と地域が連携して子どもを育む環境」「公園や広場、遊び場の整備」は充実度が低く、優先順位は高くなっており、行うと効果の高い施策といえます。

産業の振興

各項目を指数化すると充実度は「働く場所の多さ(3.00)」「工場などの新たな企業誘致による工業の振興(2.76)」が高く、「中心市街地の活性化による商業の振興(1.81)」が低くなっています。

優先順位は、「中心市街地の活性化による商業の振興(45.3%)」が多項目を引き離して最も高くなっています。

「中心市街地の活性化による商業の振興」は充実度が低く、優先順位は高くなっており、行うと効果の高い施策といえます。

人権の確立

「あらゆる差別をなくす啓発活動」「差別や人権に関する相談体制」の2項目のみの調査であったが、充実度・優先順位に大きな差は表れていません。

市民参画

各項目を指数化すると充実度は「広報こがや公式ホームページなどによる情報提供(3.54)」「集会場などコミュニティ施設の整備(3.05)」「男女共同参画の推進(3.00)」が高く、「懇談会など市政への市民参加(2.74)」「地域のコミュニティ活動(2.88)」「市民意見の収集とその対応(2.92)」が低くなっています。

優先順位は、「地域のコミュニティ活動(56.6%)」「市民意見の収集とその対応(38.1%)」が高く、「男女共同参画の推進(11.9%)」「広報こがや公式ホームページなどによる情報提供(17.6%)」が低くなっています。

「地域のコミュニティ活動」「市民意見の収集とその対応」は充実度が低く、優先順位は高くなっており、行うと効果の高い施策といえます。

行財政

各項目を指数化すると満足度は「コスト削減などの行財政改革(3.27)」「公共施設の民間委託(3.05)」が高く、「税金や利用料金など市民負担のあり方(2.95)」「市職員の電話や窓口での対応(2.97)」が低くなっています。

優先順位は、「税金や利用料金など市民負担のあり方(28.0%)」「コスト削減などの行財政改革(17.9%)」が高く、「積極的な情報公開の推進(13.2%)」「市職員の電話や窓口での対応(15.4%)」が低くなっています。

「市職員の電話や窓口での対応」は満足度が低く、優先順位は高くなっており、行うと効果の高い施策と考えられています。

4)土地利用について

「計画性に欠けた秩序のない土地利用になっている」と回答した職員は53.1%と過半数を超え、その要因として「山間部や田園地帯で住宅等の開発が進んでいる(69.0%)」「狭い道路のまま建物建って込んでいる(46.0%)」があげられています。

土地利用に対する規制については、「もう少し規制を強くすべきである」が34.8%、「現状程度の規制で十分である」が23.0%、「今よりも規制を弱めるべき」が9.6%となっており、約6割の職員が「現状あるいはそれ以上の規制が必要」と考え、「今よりも規制を弱めるべき」と考える職員は1割未満であることがわかります。

今後進めていくべき土地利用については、「JR駅周辺の商業施設や利便施設の整備(29.5%)」「国道など幹線道路沿いの商業・利便施設の整備(28.6%)」「商店街などの商業地の整備(28.3%)」「古賀インターチェンジ周辺の土地の有効利用(25.5%)」が上位にあげられています。

5)景観について

保全した方がよいと考えられる景観として「市東側に広がる西山や犬鳴山系などの山々の自然景観(45.7%)」「白砂青松の海岸部の景観(43.8%)」「大根川や青柳川沿いの河川沿いの景観(23.9%)」が上位にあげられ、多くの職員が「自然景観を保全すべき」と考えていることがうかがえます。

改善すべき景観として「大根川や青柳川沿いの河川沿いの景観（32.6%）」「緑がなくなっている山々の景観（31.1%）」「田園地帯と調和していない住宅地開発の景観（24.2%）」が多くあげられています。

古賀市らしい特色を生かした古賀市の誇りとなるような景観の形成については、82.0%と8割以上の職員が必要と感じており、景観をよくするためには「市と地域が話し合いながら景観づくりを行う（54.7%）」取組が必要だと考えています。

6)生活環境について

快適で美しい社会、資源循環の社会を保つためには、「地域の環境美化活動（45.3%）」「地域のリサイクル活動（40.1%）」「地域の緑化活動（29.5%）」が必要と考えています。

7)健康・福祉について

少子化問題に対応するためには、「仕事と子育てをしやすい職場環境（38.2%）」「子育てや教育に係る経済的負担の軽減のための取組（36.0%）」「保育所など子育て支援サービスの充実（34.5%）」が重要と考えています。

団塊の世代や高齢者が地域でいきいきと暮らしていくためには、「専門知識・技術・経験などを地域活動に生かす環境づくり（44.1%）」「健康づくりや生きがい活動の支援（43.8%）」が重要と考えています。

8)教育・生涯学習・スポーツについて

子どもの教育には、「学校と地域社会の連携を拡充する（38.8%）」「子ども同士のつながりをつくる（35.4%）」「健康・体力づくりを支援する（27.3%）」取組が重要と考えています。

9)市民参画について

まちづくりの市民参画を進めるためには、「楽しく参加できるようなやり方を工夫する（56.8%）」「わかりやすい情報提供・情報公開の推進（41.3%）」「地域の自治活動を活性化（41.3%）」が重要と考えています。

10)将来の古賀市にイメージについて

「便利で快適に暮らせるまち（47.5%）」「美しい自然環境に包まれたまち（34.8%）」「子どもを安心して産み育てられるまち（32.3%）」が上位にあげられています。

(5) 行政区アンケート調査

1) 抱えている課題や悩みについて

「役員のなり手がいない(61.1%)」「活動に対する住民の関心の低さ(55.6%)」「若い人の参加が少なく、役員等の高齢化が進んでいる(47.2%)」が上位にあげられ、行政区の主な課題や悩みは「役員の高齢化やなり手不足」や「活動に対する関心の低さ」であることがわかります。

2) 抱えている課題や悩みの解決方法について

「世代間交流を積極的に行う(72.2%)」「PRや啓発を積極的に行う(41.7%)」「他各種団体との連携強化、ネットワーク作り、情報交換を行う(36.1%)」が上位にあげられ、行政区の課題や悩みの解決には、「世代間交流」や「活動のPR」「他各種団体などとの連携、情報交換」が必要であると考えています。

3) 共働のまちづくりについて

9割以上の行政区に共働のまちづくりへの参加意向がうかがえ、取り組みたい分野としては「高齢者」「安全・安心」「まちづくり」「連携・交流」に関するものが多くあげられています。共働のまちづくりを進めるためには、様々な主体との「情報の交換・共有」が求められています。

市や企業には「地域活動への財政支援」が求められ、企業には「行政区が行う活動やイベント等への参加・協力」も求められています。

4) 活動の中で感じていることについて

「市と連携が取れている(47.3%)」「地域活動が活発(47.2%)」「企業と連携が取れていない(66.6%)」と多くの行政区が感じています。

5) 古賀市の強み・弱みについて

強みとして「豊かな自然環境」「交通の便利さ・好立地条件」「充実した教育」などがあげられています。

弱みとして「まちのPR不足」「まちの特徴のなさ」「施設・インフラ整備の不備」などがあげられています。

6) 将来の古賀市にイメージについて

「美しい自然環境に包まれたまち(44.4%)」「防災・防犯体制が整ったまち(36.1%)」「市民同士がふれあい豊かに暮らせるまち(33.3%)」が上位にあげられています。

(6) 校区コミュニティアンケート調査

1) 抱えている課題や悩みについて

「活動に必要な資金不足(75.0%)」が上位にあげられ、校区コミュニティの主な課題や悩みは「資金不足」であることがわかります。

2) 抱えている課題や悩みの解決方法について

「PRや啓発を積極的に行う(75.0%)」「市との連携強化、ネットワーク作り、情報交換を行う(75.0%)」「世代間交流を積極的に行う(50.0%)」「市、企業などから補助金、協賛金を出してもらおう(50.0%)」が上位にあげられ、校区コミュニティの課題や悩みの解決には、「活動のPR」や「市との連携、情報交換」「世代間交流」「市や企業などからの財政支援」が必要であると考えています。

3) 共働のまちづくりについて

すべての校区コミュニティに共働のまちづくりへの参加意向がうかがえ、取り組みたい分野としては「高齢者」「子育て」「安全・安心」「世代間交流」「地域間交流」に関することがあげられています。

共働のまちづくりを進めるためには、様々な主体との「情報の交換・共有」が求められ、市には「財政支援」、企業には「活動やイベント等の共催」が求められています。

4) 活動の中で感じていることについて

「ボランティア意識が高い(75.0%)」「地域活動が活発(75.0%)」「他各種団体と連携が取れている(75.0%)」と多くの校区コミュニティが感じています。

5) 古賀市の強み・弱みについて

「校区コミュニティの構築」「校区コミュニティに対する市の支援」「盛んなボランティア活動」などが強みとしてあげられ、「校区コミュニティの方針の不明確さ」「校区コミュニティのPR不足」などが弱みとしてあげられています。

6) 将来の古賀市にイメージについて

「美しい自然環境に包まれたまち(75.0%)」「市民同士がふれあい豊かに暮らせるまち(50.0%)」が上位にあげられています。

(7) 各種団体アンケート調査

1) 抱えている課題や悩みについて

「会員数が増えない、減っている(57.3%)」「若い人の参加が少なく、役員等の高齢化が進んでいる(41.6%)」「役員のなり手がいない(33.7%)」が上位にあげられ、各種団体の主な課題や悩みは「会員数の伸び悩み」と「役員等の高齢化やなり手不足」であることがわかります。

2) 抱えている課題や悩みの解決方法について

「PRや啓発を積極的に行う(53.9%)」が上位にあげられ、「他主体との連携強化、ネットワーク作り、情報提供を行う」も多くあげられています。

各種団体の課題や悩みの解決には、「活動のPR」や「地域・行政・他各種団体などとの連携、情報交換」が必要であると考えています。

3) 共働のまちづくりについて

9割以上の各種団体に共働のまちづくりへの参加意向がうかがえ、取り組みたい分野としては「子育て」「環境美化」「連携・交流」「安全・安心」に関することが多くあげられています。

共働のまちづくりを進めるためには、様々な主体との「情報の交換・共有」や「活動やイベント等の共催」が求められ、市や企業には「財政支援」が求められています。

4) 活動の中で感じていることについて

「ボランティア意識が高い(66.3%)」「ボランティアが活発(57.3%)」「市と連携が取れている(57.3%)」「企業と連携が取れていない(68.6%)」と多くの団体が感じています。

5) 古賀市の強み・弱みについて

強みとして「交通の便利さ・好立地条件」「豊かな自然環境」「活発な地域・ボランティア活動」などがあげられています。

弱みとして「活動に対する市の財政支援不足」「市の連携不足(縦割行政)」「市民や団体間の連携・つながり不足」「施設・インフラ整備の不備」などがあげられています。

6) 将来の古賀市にイメージについて

「美しい自然環境に包まれたまち(41.6%)」「市民同士がふれあい豊かに暮らせるまち(34.8%)」「子どもを安心して産み育てられるまち(23.6%)」が上位にあげられています。

(8) 学校等アンケート調査

1) 共働のまちづくりについて

すべての学校等に共働のまちづくりへの参加意向がうかがえ、取り組みたい分野としては「地域との交流」「環境美化」に関することが多くあげられています。

共働のまちづくりを進めるためには、各種団体には、「お互いの活動やイベント等への参加・協力」、企業には「出前講座」「学校等の活動やイベントへの参加・協力」「社会科見学・職場体験等の受け入れ」、市には「財政支援」「学校等の活動やイベントへの参加・協力」が求められています。

2) 活動の中で感じていることについて

「市と連携が取れている(60.0%)」「地域活動が活発(55.0%)」「企業と連携が取れていない(70.0%)」と多くの学校等が感じています。

3) 古賀市の強み・弱みについて

「学校等に対する市の支援」「豊かな自然環境」「交通の便利さ・好立地条件」「盛んなボランティア活動」などが強みとしてあげられ、「関係機関の連携不足」「市民のモラルの低さ」などが弱みとしてあげられています。

4) 将来の古賀市にイメージについて

「教育・文化・スポーツ等の水準の高いまち(55.0%)」「美しい自然環境に包まれたまち(45.0%)」「市民同士がふれあい豊かに暮らせるまち(30.0%)」「子ども安心して産み育てられるまち(30.0%)」が上位にあげられています。

(9) 企業・事業所アンケート・ヒアリング調査

1) 企業の立地条件・企業活動について

企業・事業所の立地条件について『よい』が68.4%、『よくない』が5.3%と、古賀市は企業・事業所にとって「福岡市と北九州市の間に位置する好立地なまち」であると認識されています。企業活動のしやすさについて『行いやすい』が63.2%、『行いにくい』が5.3%と、古賀市は、「企業活動のしやすいまち」であるとも認識されています。

それらの要因として、国道3号・国道495号・古賀ICの存在や道路・交通網・上下水道の整備状況、自然環境がよいことがあげられ、企業・事業所からは、「好立地条件・交通アクセスを生かし、積極的に企業誘致を行ってはどうか」との意見も多くあがっています。

2) 共働のまちづくりについて

約9割の企業・事業所に『共働のまちづくり』への参加意向がうかがえ、取り組みたい分野としては「環境美化」に関するものが多くあげられています。

共働のまちづくりに積極的に参加するためには、「コスト負担が大きくなること(84.2%)」「複数の企業や地域と連携して活動できること(47.4%)」「企業・事業所のイメージアップなど具体的な効果が見込めること(31.6%)」が求められています。

3) 古賀市の強み・弱みについて

「交通の便利さ・好立地条件」「豊かな自然環境」「工業団地の存在」「下水道の整備状況」「多業種の企業立地」などが強みとしてあげられています。

弱みとしては、「古賀駅周辺の活気のなさ」「まちのPR不足」「若い人を惹きつける魅力のなさ」などが多くあげられています。

4) 将来の古賀市にイメージについて

「活力ある産業のまち(52.6%)」「美しい自然環境に包まれたまち(36.8%)」「市民同士がふれあい豊かに暮らせるまち(26.3%)」が上位にあげられています。

- 2 アンケートの比較・分析

(1) 古賀市の将来イメージについて

9つすべてのアンケートで「将来の古賀市がどのようなイメージのまちになることを望むか」について質問し、9つの将来イメージの中から2つまで選んでもらい、その結果の上位3つを表に示しました。

すべてのアンケートで『美しい自然環境に包まれたまち』が1位または2位にあげられています。これは、本市の特性である白砂青松を持つ海や緑豊かな犬鳴山系などの美しい自然環境を未来へ残し、引き継ぎたいという意識の表れと考えられます。

個人が回答する4つのアンケート()では、すべて『便利で快適に暮らせるまち』が1位にあげられ、生活者の視点では、買い物などの日常生活のしやすさや通勤・通学などの交通便利性を望んでいることがうかがえます。

一方、個人以外の団体・企業が回答する5つのアンケート()では、『市民同士がふれあい豊かに暮らせるまち』が上位にあげられ、行政区や校区コミュニティ、各種団体などは、市民同士のふれあいを望んでいることがうかがえます。

『子どもを安心して産み育てられるまち』は、個人・各種団体・学校等が回答した6つのアンケート()で上位にあげられ、市民や学校などは子育てしやすいまちづくりを望んでいることがわかります。

『健康で暮らせるまち』は、市民アンケート(15~17歳)と校区コミュニティアンケートで3位にあげられ、市民アンケート(一般)においても4位(23.2%)で、市民は健康づくりにも関心が高いことがうかがえます。

『防災・防犯体制が整ったまち』は、行政区とコミュニティが回答したアンケート()で上位にあげられ、行政区や校区コミュニティは安全で安心して生活できるまちづくりを望んでいることがうかがえます。

学校等アンケートでは『教育・文化・スポーツ等の水準の高いまち』が、企業・事業所アンケートでは『活力のある産業のまち』がそれぞれ1位にあげられ、各主体特有の視点が表れています。

個人が回答した の4つのアンケートで上位3つが同じ回答となっていることが特徴といえます。

このことから、今後のまちづくりのキーワードは

- 1 美しい自然環境
- 2 便利さ・快適さ
- 3 子育て・教育
- 4 ふれあい・共働
- 5 健康づくり
- 6 安全・安心
- 7 活力ある産業

といえます。

古賀市の将来イメージ

分類	アンケートの種類		1位	2位	3位
市民 元市民	市 民	一般 (18歳以上)	便利で快適に 暮らせるまち(47.5%)	美しい自然環境に 包まれたまち(39.5%)	子どもを安心して産み 育てられるまち(24.6%)
		15~17歳	便利で快適に 暮らせるまち(50.8%)	美しい自然環境に 包まれたまち(39.5%)	子どもを安心して産み育てられるまち 健康で暮らせるまち(17.4%)
	転出者(市外者)		便利で快適に 暮らせるまち(42.5%)	美しい自然環境に 包まれたまち(36.5%)	子どもを安心して産み 育てられるまち(34.8%)
職員	市職員		便利で快適に 暮らせるまち(47.5%)	美しい自然環境に 包まれたまち(34.8%)	子どもを安心して産み 育てられるまち(32.3%)
地域	行政区		美しい自然環境に 包まれたまち(44.4%)	防災・防犯体制が 整ったまち(36.1%)	市民同士がふれあい豊かに 暮らせるまち(33.3%)
	校区コミュニティ		美しい自然環境に 包まれたまち(75.0%)	市民同士がふれあい豊かに 暮らせるまち(50.0%)	防災・防犯体制が整ったまち 教育文化・スポーツ等の水準の高いまち 便利で快適に暮らせるまち 健康で暮らせるまち(25.0%)
団体 学校等	各種団体		美しい自然環境に 包まれたまち(41.6%)	市民同士がふれあい豊かに 暮らせるまち(34.8%)	子どもを安心して産み 育てられるまち(23.6%)
	学校等		教育・文化・スポーツ等の 水準の高いまち(55.0%)	美しい自然環境に 包まれたまち(45.0%)	市民同士がふれあい豊かに暮らせるまち 子どもを安心して産み育てられるまち(30.0%)
産業	企業・事業所		活力のある産業のまち (52.6%)	美しい自然環境に 包まれたまち(36.8%)	市民同士がふれあい豊かに 暮らせるまち(26.3%)

(2) 古賀市の住みやすさについて

市民・転出者（市外者）アンケートで「古賀市の住みやすさ」について質問し、その結果をグラフに示しました。

市民（一般）では「住みやすい（24.1%）」、「どちらかといえば住みやすい（32.0%）」を合わせた『住みやすい』は56.1%となり、半数以上が「住みやすい」と評価しています。

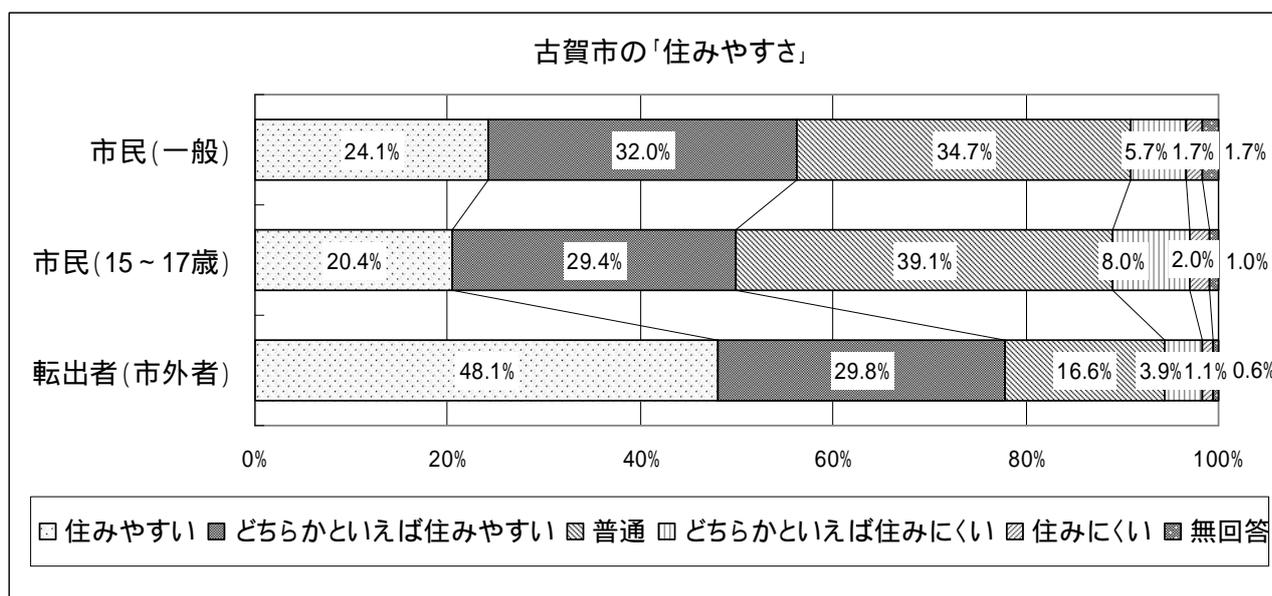
「どちらかというに住みにくい（5.7%）」、「住みにくい（1.7%）」を合わせた『住みにくい』は7.4%となり、「住みにくい」と感じている市民は少ないことがわかります。

市民（15～17歳）では、『住みやすい』が49.8%、「普通（39.1%）」を合わせると88.9%、『住みにくい』が10.0%となっており、市民（一般）と同様の評価となっています。

以前本市に在住していたが、現在は転出している市外者では、『住みやすかった』が78.9%となり、市外から本市を見ると「住みやすいまち」と評価されていることがわかります。なお、『住みにくかった』は5.0%となっています。

このことから、市民の約半数が「住みやすい」と評価し、「住みにくい」と感じているのは1割以下であることがわかります。

転出者（市外者）は約8割が「住みやすかった」と評価し、市民よりも高く評価していることが特徴といえます。



(3)古賀市への定住化・回帰(Uターン)意向について

市民(一般・15~17歳)アンケートで「古賀市に住み続けたいか」を、転出者(市外者)アンケートで「将来、古賀市に戻りたいか」を質問し、その結果をグラフに示しました。

市民(一般)では「今の場所に住み続けたい(67.7%)」が最も高く、「市内の別の場所に移りたい(10.8%)」を合わせた『住み続けたい』は約8割となり、多くの市民が市内に住み続けたいと思っていることがわかります。(『住み続けたい』は以下同じ)

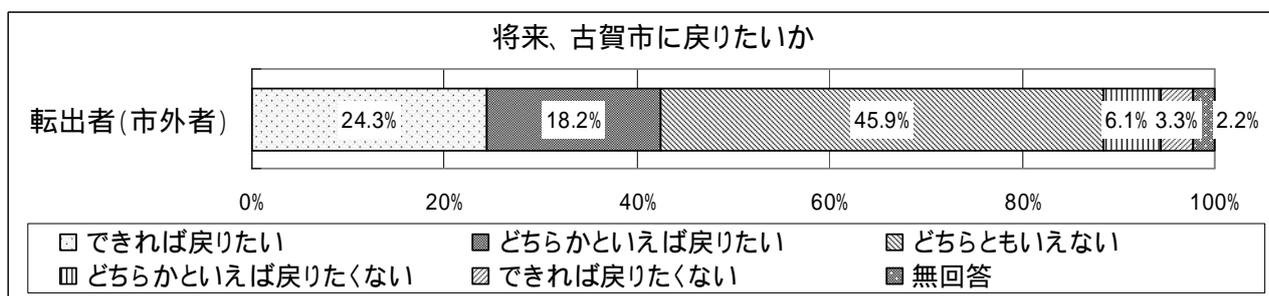
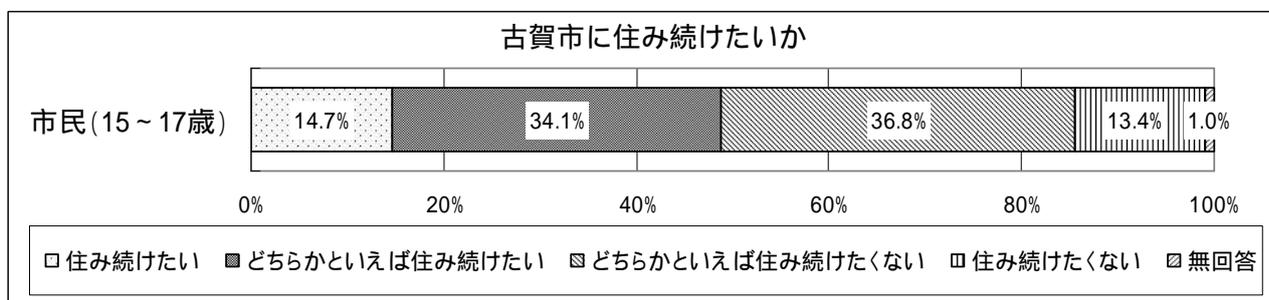
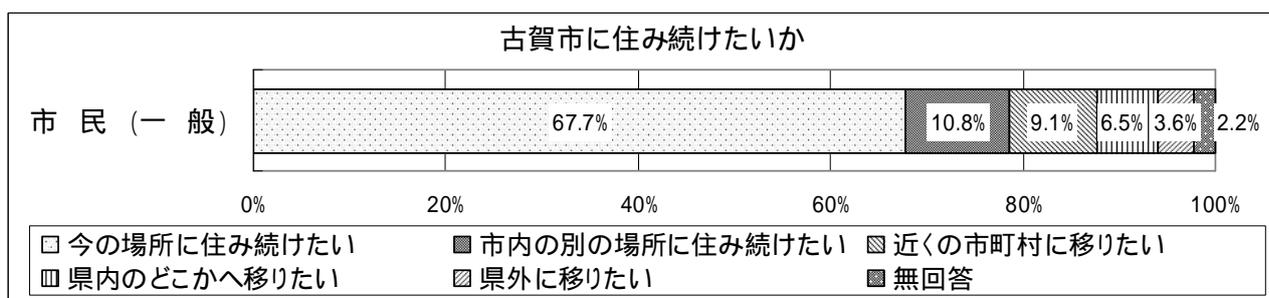
市民(15~17歳)では『住み続けたい』が48.8%、「どちらかといえば住み続けたくない」「住み続けたくない」を合わせた『住み続けたくない』が50.2%と、『住み続けたい』と『住み続けたくない』は半々に分かれています。

転出者に、本市への回帰(Uターン)意向を聞くと「できれば戻りたい(24.3%)」「どちらかといえば戻りたい(18.2%)」を合わせた『戻りたい』は42.5%となり、約4割が本市に戻りたいと思っていることがわかります。

また、「どちらかといえば戻りたくない(6.1%)」「できれば戻りたくない(3.3%)」を合わせた『戻りたくない』は9.4%と低く、約半数が「どちらともいえない(45.9%)」と回答しています。

このことから、18歳以上の市民は本市への定住化の意向は高いが、15~17歳の若い市民の定住化の意向は約5割であり、半数は市外に移りたいと考えています。

また、転出者の約4割は本市へ戻りたいと感じていることがわかります。



(4) 市民と市職員の意識の比較について

市民満足度と職員充実度

市民（一般）アンケートで生活環境や日常生活の満足度（満足と感じている度合い）を、市職員アンケートでその充実度（充実していると思っている度合い）について質問し、その結果の上位3つと下位3つを表に示しました。

満足度は、「満足」+5、「やや満足」+4、「普通」+3、「やや不満」+2、「不満」+1として加重平均して指数化し、充実度も同様に指数化しています。なお、「わからない」「無回答」は除外して算出しています。

都市基盤に関しては、「消防・救急体制の整備状況」「鉄道の利用しやすさ」「インターネットなどの情報通信の環境」が市民満足度・職員充実度ともに高く、「歩道の整備状況」「バスの便数などの利用しやすさ」がともに低くなっており、市民・市職員ともに消防・救急体制には充実・満足しているが、道路の安全性は低いと感じ、鉄道の利便性は高いがバスの利便性は低いと感じていることがわかります。

生活環境に関しては、「し尿の収集・処理」「上水道の整備状況」がともに高く、「河川やため池の保全・整備状況」「山の緑の保全状況」「自然や街並みなど美しい景観の形成」がともに低くなっており、市民・市職員ともに生活に必要なインフラ整備には満足・充実しているものの自然環境の保全は不十分と感じていることがわかります。また、市民は日常の買い物のしやすさにも満足していることがわかります。

健康・福祉に関しては、「定期健診などの健康診査」「病気の予防・健康づくりの情報提供」「病院・診療所の便利さ」がともに高く、「夜間・休日など救急時の医療体制」「障害者（児）の福祉サービス」「生きがい対策等の高齢者サービス」がともに低くなっており、市民・市職員ともに定期健診や健康づくりなどの情報提供、病院の利用しやすさには満足・充実しているものの、救急時の医療体制や障害者（児）・高齢者への福祉サービスは不十分と感じていることがわかります。

生涯学習と教育・文化に関しては、「図書館の利用しやすさ」がともに高く、「公園や広場、遊び場の整備状況」「スポーツ・レクリエーションの場の整備」がともに低くなっており、市民・市職員ともに図書館は利用しやすいが、公園やスポーツ・レクリエーションなどを行う場の整備が不十分と感じていることがわかります。また、市民は中央公民館は利用しやすいが、子どもに関する相談事業は不十分、市職員は小・中学校の教育環境は充実しているが、子育てに関する学校・家庭・地域の連携は不十分と感じていることがわかります。

産業に関しては、「工場などの新たな企業誘致による工業の振興」がともに高く、「中心市街地の活性化による商業の振興」がともに低くなっており、工業の振興には比較的満足・充実しているものの古賀駅周辺の商業の活性化は不十分と感じていることがわかります。また、市民は働く場所がやや少ないと感じているが、市職員は働く場所は多いと感じていることもわかります。

人権に関しては、「あらゆる差別をなくす啓発活動」「差別や人権に関する相談体制」で職員満足度・市民充実度ともにあまり大きな差異は出ておらず、どちらも比較的満足・充実していると感じていることがわかります。

市民参画に関しては、「広報こがや公式ホームページなどによる情報提供」「男女共同参画の推進」がともに高く、「市民意見の収集とその対応」「懇談会など市政への市民参加」が低くなっており、市民・市職員ともに行政による情報提供や男女共同参画には満足・充実しているものの、市民意見の収集や市政への市民参画は不十分と感じていることがわかります。また、市民は地域のコミュニティ活動に満足しているが、市職員は不十分であると感じていることもわかります。

行財政に関しては、全体的に職員充実度に比べ、市民満足度が低くなっており、市民は特に税金や利用料金の負担のあり方やコスト削減などの行財政改革が不十分であると感じていることがわかります。

このことから、市民と市職員の意識が合致しているものがある半面、市職員は充実していると感じているが、市民は満足と感じておらず、意識のずれが大きいものもあることがわかります。

市民満足度と市職員充実度

分野	満足度 充実度	市民（一般）	市職員
都市基盤	高	消防・救急体制の整備状況(3.17) インターネットなど情報通信の環境(2.94) 鉄道の利用しやすさ(2.91)	鉄道の利用しやすさ(3.59) 消防・救急体制の整備状況(3.41) インターネットなど情報通信の環境(3.06)
	低	歩道の整備状況(2.33) バスの便数などの利用しやすさ(2.35) 防犯灯や街路灯の整備状況(2.43)	バスの便数などの利用しやすさ(2.15) 歩道の整備状況(2.29) 計画的な土地利用の推進(2.31)
生活環境	高	し尿の収集・処理(3.18) 上水道の整備状況(3.17) 市内における日常の買い物の便利さ(3.13)	ごみ収集・処理(3.39) 上水道の整備状況(3.34) し尿の収集・処理(3.33)
	低	河川やため池の保全・整備状況(2.66) 山や緑の保全状況(2.83) 自然や街並みなど美しい景観の形成(2.84) 海岸の保全・整備の状況(2.84)	自然や街並みなど美しい景観の形成(2.66) 山や緑の保全状況(2.71) 河川やため池の保全・整備状況(2.85)
健康・福祉	高	定期健診などの健康診査(3.04) 病気の予防・健康づくりの情報提供(3.03) 病院・診療所の便利さ(2.92)	病院・診療所の便利さ(3.25) 定期健診などの健康診査(3.24) 病気の予防・健康づくりの情報提供(3.17)
	低	夜間・休日など救急時の医療体制(2.68) 障害者(児)の福祉サービス(2.75) 生きがい対策等の高齢者のサービス(2.76)	夜間・休日など救急時の医療体制(2.99) 障害者(児)の福祉サービス(3.08) 生きがい対策等の高齢者のサービス(3.10)
生涯学習 教育・文化	高	図書館の利用しやすさ(3.25) 中央公民館の利用しやすさ(3.01) 歴史的景観や文化財の保護(2.96)	図書館の利用しやすさ(3.52) 小・中学校の教育環境(3.14) 生涯学習の機会(3.10)
	低	公園や広場、遊び場の整備状況(2.55) スポーツ・レクリエーションの場の整備(2.80) 子どもに関する相談事業(2.81)	公園や広場、遊び場の整備状況(2.64) 学校と家庭と地域が連携して子どもを育む環境(2.75) スポーツ・レクリエーションの場の整備(2.91)
産業	高	工場などの新たな企業誘致による工業の振興(2.84) 生産者と消費者の交流促進による農林業の振興(2.80)	働く場所の多さ(3.00) 工場などの新たな企業誘致による工業の振興(2.76)
	低	中心市街地の活性化による商業の振興(2.21) 働く場所の多さ(2.70)	中心市街地の活性化による商業の振興(1.81) 生産者と消費者の交流促進による農林業の振興(2.70)
人権	高	あらゆる差別をなくす啓発活動(2.99)	あらゆる差別をなくす啓発活動(3.38)
	低	差別や人権に関する相談体制(2.94)	差別や人権に関する相談体制(3.28)
市民参画	高	広報こがや公式ホームページなどによる情報提供(3.20) 地域のコミュニティ活動(2.99) 男女共同参画の推進(2.96)	広報こがや公式ホームページなどによる情報提供(3.54) 集会場などコミュニティ施設の整備(3.05) 男女共同参画の推進(3.00)
	低	市民意見の収集とその対応(2.65) 懇談会など市政への市民参加(2.75) 集会場などコミュニティ施設の整備(2.95)	懇談会など市政への市民参加(2.74) 地域のコミュニティ活動(2.88) 市民意見の収集とその対応(2.92)
行財政	高	市職員の電話や窓口での対応(2.75) 公共施設の民間委託(2.54)	コスト削減などの行財政改革(3.27) 公共施設の民間委託(3.05)
	低	税金や利用料金など市民負担のあり方(2.05) コスト削減などの行財政改革(2.27)	税金や利用料金など市民負担のあり方(2.95) 市職員の電話や窓口での対応(2.97)

優先すべき施策

市民（一般）アンケートで各分野の中で最も優先してほしい事項を、市職員アンケートで各分野の中で最も優先して推進すべき事項を質問し、各分野2つまで選んでもらい、その結果の上位3つを表に示しました。

都市基盤に関しては、市民は防犯灯や街路灯、歩道、バスの便数など身近な生活の問題の優先順位が高く、市職員は計画的な土地利用や道路の整備など市全体を捉えた問題を優先すべきとしています。

生活環境に関しては、市民・市職員ともに自然や街並みなどの美しい景観形成と市内における日常の買い物の便利さの優先順位が高くなっています。

健康・福祉に関しては、市民・市職員ともに夜間・休日などの救急時の医療体制と生きがい対策などの高齢者サービスの優先順位が高くなっています。

生涯学習と教育・文化に関しては、市民は公園や広場、スポーツ・レクリエーションなどの場づくりの優先順位が高く、市職員は公園などの場づくりだけでなく、学校・家庭・地域が連携して子どもを育む環境づくりも優先すべきとしています。

産業に関しては、市民・市職員ともに中心市街地の活性化による商業の推進の優先順位が高く、市民は働く場所の確保も優先すべきと考えています。

人権に関しては、市民は啓発活動の優先順位が高く、市職員は相談体制の整備を優先すべきとしています。大きな差は出ていません。

市民参画に関しては、市民・市職員ともに市民意見の収集とその対応、地域のコミュニティ活動推進の優先順位が高くなっています。

行財政に関しては、市民・市職員ともに税金や利用料金などの市民負担のあり方とコスト削減などの行財政改革の優先順位が高くなっています。

このことから、市民の優先してほしいことと市職員が優先して推進すべきことに若干の差異があるものの、多くの施策で優先順位は合致していることがわかります。

市民と市職員の優先順位

分野	市民（一般）	市職員
都市基盤	防犯灯や街路灯の整備状況(37.5%) 歩道の整備状況(28.1%) バスの便数などの利用しやすさ(23.3%)	計画的な土地利用の推進(41.3%) 生活道路の整備状況(30.1%) 歩道の整備状況(29.2%)
生活環境	自然や街並みなどの美しい景観形成(32.1%) 市内における日常の買い物の便利さ(27.0%) 河川やため池の保全・整備状況(21.6%)	自然や街並みなどの美しい景観形成(36.0%) 市内における日常の買い物の便利さ(31.7%) 山や緑の保全状況(30.4%)
健康・福祉	夜間・休日など救急時の医療体制(45.7%) 生きがい対策等の高齢者のサービス(31.7%) 病院・診療所の便利さ(29.7%)	夜間・休日など救急時の医療体制(45.3%) 生きがい対策等の高齢者のサービス(29.8%) 保育所などの児童の福祉サービス(28.0%)
生涯学習 教育・文化	公園や広場、遊び場の整備状況(36.1%) スポーツ・レクリエーションの場の整備(23.7%) 生涯学習の機会(23.1%)	学校と家庭と地域が連携して子どもを育む環境(39.1%) 公園や広場、遊び場の整備状況(35.4%) 小・中学校の教育環境(26.7%)
産業	中心市街地の活性化による商業の振興(35.6%) 働く場所の多さ(26.3%)	中心市街地の活性化による商業の振興(45.3%) 生産者と消費者の交流促進による農林業の振興(15.5%)
人権	あらゆる差別をなくす啓発活動(42.9%) 差別や人権に関する相談体制(31.9%)	差別や人権に関する相談体制(47.8%) あらゆる差別をなくす啓発活動(41.3%)
市民参画	市民意見の収集とその対応(42.3%) 地域のコミュニティ活動(28.0%) 集会場などコミュニティ施設の整備(25.7%)	地域のコミュニティ活動(56.6%) 市民意見の収集とその対応(38.1%) 懇談会など市政への市民参加(25.8%)
行財政	税金や利用料金など市民負担のあり方(40.6%) コスト削減などの行財政改革(22.0%) 市職員の電話や窓口での対応(11.6%)	税金や利用料金など市民負担のあり方(28.0%) コスト削減などの行財政改革(17.9%) 公共施設の民間委託(17.0%)

土地利用

市民（一般）アンケート・市職員アンケートで土地利用について質問し、その結果を表・グラフに示しました。

市民は、土地利用について「おおむね良い」が 24.8%であるのに対し、「山林や農地をつぶし過ぎた（14.4%）」「秩序のない土地利用（19.6%）」「山林や農地を保全しすぎた（2.5%）」を合わせると 36.5%と、土地利用に何らかの問題を感じている人の方が多くなっています。

市職員は、「おおむね良い」が 15.2%と少なく、「計画性に欠けた秩序のない土地利用」が 53.1%と約半数の市職員が無秩序な土地利用となっていると感じています。

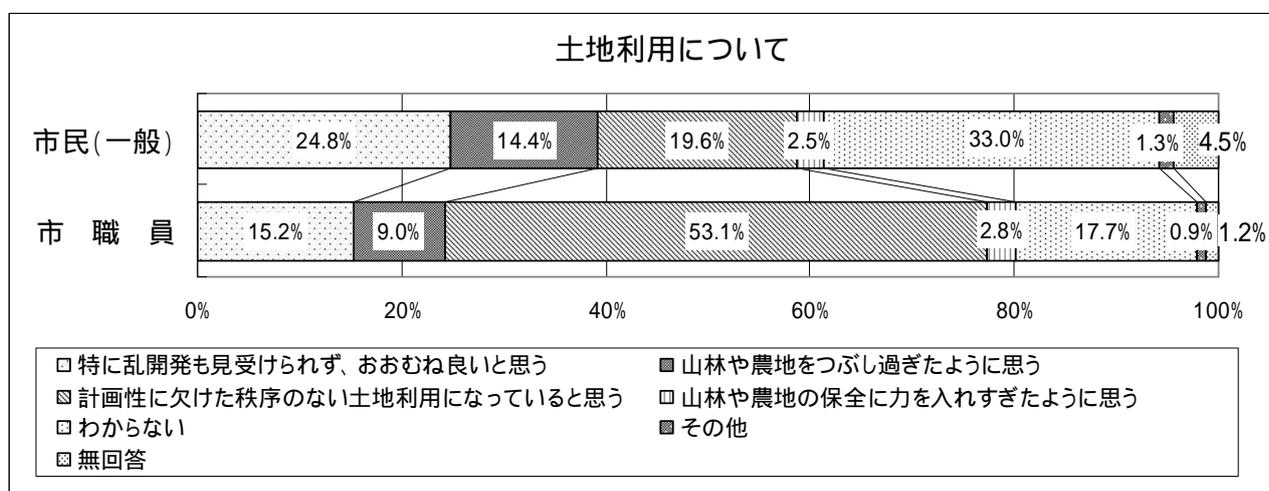
土地利用規制については、市民・市職員ともに「今より規制も弱めるべき」と回答したのは 1割未満と、多くが現状あるいはそれ以上の規制が必要と考えています。

好ましくない土地利用のイメージする状況としては、市民・市職員ともに「山間部や田園地帯で住宅地等の開発が進んでいる」「狭い道路のまま建物建て込んでいる」「山間部の自然環境が失われている」が上位にあげられています。

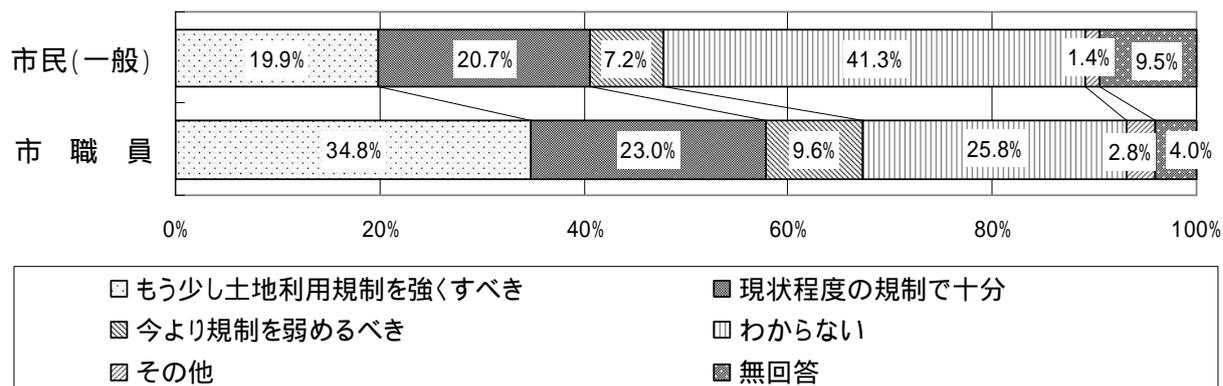
進めていくべき土地利用としては、市民・市職員ともに「J R 駅周辺の商業施設や利便施設の整備」「商店街など商業地の整備」が上位にあげられ、市民は「J R 駅周辺の道路整備」を、市職員は「国道など幹線道路沿いの商業・利便施設の整備」を上位にあげており、古賀駅周辺や幹線道路沿いの商業・利便施設や道路の整備が求められていることがうかがえます。

このことから、市民・市職員ともに土地利用に何らかの問題を感じ、それを防ぐための規制が必要と考えていますが、市職員の方がより無秩序な土地利用になっていると感じ、規制も必要と強く考えていることがわかります。

また、市民・市職員ともに J R 駅周辺の商業・利便施設と商店街などの商業地の整備が必要と考えていることもわかります。



土地利用規制について



施策項目	市民(一般)	市職員
好ましくない土地利用としてイメージする状況	山間部や田園地帯で住宅地等の開発が進んでいる(37.8%) 狭い道路のままで建物が建て込んでいる(36.5%) 山間部の自然環境が失われている(34.9%)	山間部や田園地帯で住宅地等の開発が進んでいる(69.0%) 狭い道路のままで建物が建て込んでいる(46.0%) 山間部の自然環境が失われている(26.5%)
進めていくべき土地利用	J R 駅周辺の商業施設や利便施設の整備(32.3%) 商店街など商業地の整備(24.6%) J R 駅周辺の道路整備(22.8%)	J R 駅周辺の商業施設や利便施設の整備(29.5%) 国道など幹線道路沿いの商業・利便施設の整備(28.6%) 商店街など商業地の整備(28.3%)

景 観

市民（一般）アンケート・市職員アンケートで景観について質問し、その結果を表・グラフに示しました。

市民・市職員ともに景観上保全した方がよいと考えられるところとして「白砂青松の海岸部の景観」「市東側の西山や犬鳴山系などの山々の自然景観」が上位にあげられ、景観上改善した方がよいと考えられるところとして「大根川や青柳川などの河川沿いの景観」「緑がなくなっている山々の景観」が上位にあげられています。

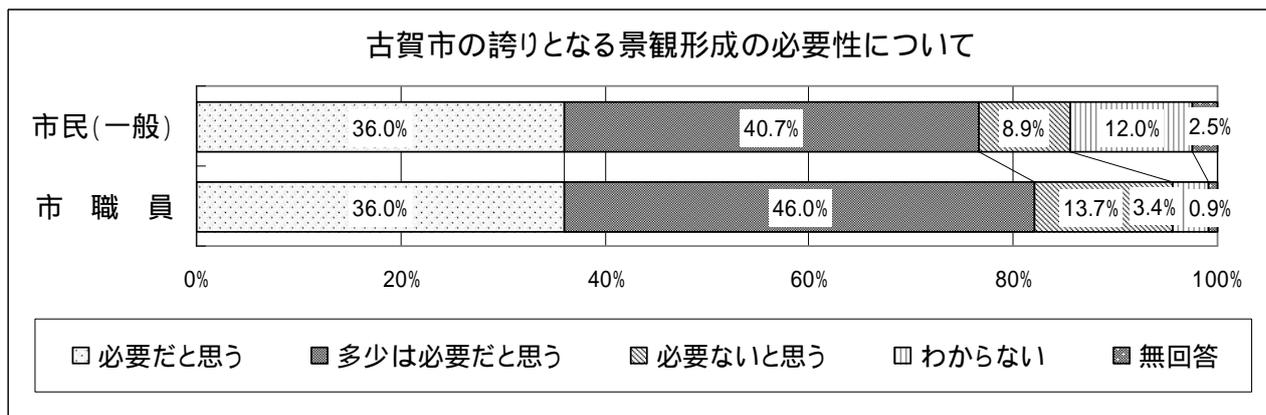
景観を良くするために必要な取組としては、「市と地域が話し合いながら景観づくりを行う」が多くあげられています。

本市の誇りとなる景観形成の必要性については、市民・市職員ともに約8割が必要と回答しています。

このことから、市民・市職員ともに、海岸部と山々の自然景観を保全し、河川沿いと緑がなくなっている山々の景観を改善すべきと考え、景観を良くするためには、市と地域が話し合いながら取り組んでいくことが必要と考えていることがわかります。

また、市民・市職員ともに本市の誇りとなる景観形成の必要性を感じていることもわかります。

施策項目	市民（一般）	市職員
景観上保全した方がよいと考えられるところ	白砂青松の海岸部の景観(36.4%) 市東側の西山や犬鳴山系などの山々の自然景観(27.9%) 鹿部山公園などの市街地に残っている緑地景観(26.1%)	市東側の西山や犬鳴山系などの山々の自然景観(45.7%) 白砂青松の海岸部の景観(43.8%) 大根川や青柳川沿いの景観(23.9%)
景観上改善した方がよいと考えられるところ	大根川や青柳川などの河川沿いの景観(29.9%) 緑がなくなっている山々の景観(28.5%) 国道沿いの商業施設の看板や屋外広告物の景観(21.6%)	大根川や青柳川などの河川沿いの景観(32.6%) 緑がなくなっている山々の景観(31.1%) 田園地帯と調和していない住宅地開発の景観(24.2%)
景観を良くするために必要な取組み	市と地域が話し合いながら景観づくりを行う(62.0%) 市が景観に対する意識を高める啓発運動を行う(10.1%) 市が自主的な市民活動による景観づくり活動を支援する(10.0%)	市と地域が話し合いながら景観づくりを行う(54.7%) 市が自主的な市民活動による景観づくり活動を支援する(22.4%) 市が景観に対する意識を高める啓発運動を行う(8.1%)



生活環境

市民（一般）アンケート・市職員アンケートで「快適で美しい社会、資源循環型社会を保つため取組みで重要と考えること」を質問し、その結果の上位3つを表に示しました。

市民・市職員ともに、「地域のリサイクル活動」「地域の環境美化活動」「地域の緑化活動」が上位にあげられています。

このことから、市民・市職員ともに快適で美しい社会、資源循環型社会を保つためには、地域での活動が重要と考えていることがわかります。

施策項目	市民（一般）	市職員
快適で美しい社会、資源循環型社会を保つための取組みについて重要なこと	地域のリサイクル運動(39.0%) 地域の環境美化活動(37.6%) 地域の緑化活動(32.9%)	地域の環境美化活動(45.3%) 地域のリサイクル運動(40.1%) 地域の緑化活動(29.5%)

福 祉

市民（一般）アンケート・市職員アンケートで福祉に関して質問し、その結果の上位3つを表に示しました。

少子化問題に対応するための重要な取組については、市民・市職員ともに「子育てや教育に係る経済的負担の軽減のための取組」「保育所など子育て支援サービスの充実」「仕事と子育てをしやすい職場環境づくり」が上位にあげられています。

団塊の世代や高齢者が地域で生き生きと暮らしていくために重要なこととしては、「健康づくりや生きがい活動を支援する」「専門知識・技術・経験などを地域活動に生かす環境づくり」が上位にあげられています。

このことから、市民・市職員ともに、少子化問題に対応するためには、経済負担の軽減や子育て支援サービスの充実、仕事と子育てが両立できる職場環境づくりが重要で、団塊世代や高齢者が地域で生き生きと暮らしていくためには、健康づくりや生きがい活動の支援と専門知識・技術・経験などを生かせる環境づくりが重要であると考えていることがわかります。

施策項目	市民（一般）	市職員
少子化問題に対応するための重要な取組	子育てや教育に係る経済的負担の軽減のための取組(43.8%) 保育所など子育て支援サービスの充実(35.5%) 仕事と子育てをしやすい職場環境づくり(27.6%)	仕事と子育てをしやすい職場環境づくり(38.2%) 子育てや教育に係る経済的負担の軽減のための取組(36.0%) 保育所など子育て支援サービスの充実(34.5%)
団塊の世代や高齢者が地域で生き生きと暮らしていくために重要なこと	健康づくりや生きがい活動を支援する(38.5%) 専門知識・技術・経験などを地域活動に生かす環境づくり(27.0%) 就労を支援する(20.5%)	専門知識・技術・経験などを地域活動に生かす環境づくり(44.1%) 健康づくりや生きがい活動を支援する(43.8%) 地域住民の交流の場をつくる(25.8%)

子どもの教育

市民（一般）アンケート・市職員アンケートで「子どもの教育で重要と考えること」を質問し、その上位3つを示しました。

「子ども同士のつながりをつくる」「健康・体力づくりを支援する」「学校と地域社会の連携を拡充する」が上位にあげられています。

このことから、市民・市職員ともに、子どもの教育には、子ども同士のつながりや学校と地域社会の連携、健康・体力づくりが重要と考えていることがわかります。

施策項目	市民（一般）	市職員
子どもの教育で重要なこと	子ども同士のつながりをつくる (32.1%) 健康・体力づくりを支援する (28.0%) 学校と地域社会の連携を拡充する (27.9%)	学校と地域社会の連携を拡充する (38.8%) 子ども同士のつながりをつくる (35.4%) 健康・体力づくりを支援する (27.3%)

市民参画

市民（一般）アンケート・市職員アンケートで「まちづくりの市民参加を進めるために力を注いだらよいと考えること」を質問し、その結果の上位3つを表に示しました。

市民・市職員ともに「楽しく参加できるようやり方を工夫する」「わかりやすい情報提供・情報公開の推進」「地域の自治活動を活性化する」が上位にあげられています。

このことから、市民・市職員ともに、まちづくりの市民参加を進めるためには、市民参加のやり方の工夫や情報提供・情報公開、地域の自治活動の活性化に力を注ぐことが重要と考えていることがわかります。

施策項目	市民（一般）	市職員
まちづくりの市民参加を進めるために力を注ぐ点	楽しく参加できるようやり方を工夫する(49.8%) わかりやすい情報提供・情報公開の推進(48.5%) 地域の自治活動を活性化する(15.7%)	楽しく参加できるようやり方を工夫する(56.8%) わかりやすい情報提供・情報公開の推進(41.3%) 地域の自治活動を活性化する(41.3%)

(5) 古賀市の強み・弱みについて

各種団体、行政区、校区コミュニティ、学校等の4つアンケートと企業・事業所ヒアリングで、活動に取り組んでいる中で感じる古賀市の強み（良い点、生かすべき点）と弱み（悪い点、改善されるべき点）を質問し、その結果を表に示しました。（回答は自由記入）

本市の強みとして多くの団体や企業が「豊かな自然環境」「交通の便利さ」「好立地条件」をあげています。

校区コミュニティ・各種団体・学校等からは、「盛んな地域・ボランティアの活動」があげられ、企業・事業所からは企業立地の観点から、「工業団地の存在」と「下水道の整備状況」があげられています。

その他「充実した教育環境」「多業種の企業立地」が本市の強みとしてあげられています。

弱みとしては各種団体・学校等から「市民や団体間などの連携・つながり不足」をあげています。

市に対しては、「市の連携不足（縦割行政）」や「まちのPR不足」「活動に対する財政支援不足」「施設・インフラ整備の不備」があげられています。

校区コミュニティからは、「校区コミュニティの方針の不明確さ」があげられ、企業・事業所からは「古賀駅周辺の活気のなさ」「若い人を惹きつける魅力のなさ」があげられています。

その他「まちの特徴のなさ」「市民のモラルの低さ」が本市の弱みとしてあげられています。

このことから、本市の強み・弱みは

強み

- ・豊かな自然環境
- ・交通の便利さ
- ・好立地条件
- ・盛んな地域・ボランティア活動
- ・充実した教育環境
- ・多業種の企業立地

弱み

- ・市民や団体間の連携・つながり不足
- ・市の連携不足（縦割行政）
- ・まちのPR不足
- ・まちの特徴のなさ
- ・若い人を惹きつける魅力のなさ
- ・古賀駅周辺の活気のなさ

といえます。

古賀市の強み・弱み

アンケートの種類	強み (良い点、生かすべき点)	弱み (悪い点、改善すべき点)
行政区	<ul style="list-style-type: none"> ・交通の便利さ ・好立地条件 ・豊かな自然環境 ・充実した教育環境 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちのPR不足 ・まちの特徴のなさ ・施設・インフラ整備の不備
校区コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ・校区コミュニティに対する市の支援 ・校区コミュニティの構築 ・盛んなボランティア活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・校区コミュニティの方針の不明確さ ・校区コミュニティのPR不足
各種団体	<ul style="list-style-type: none"> ・交通の便利さ ・好立地条件 ・豊かな自然環境 ・盛んな地域・ボランティア活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に対する市の財政支援不足 ・市の連携不足(縦割行政) ・市民や団体間の連携・つながり不足 ・施設・インフラ整備の不備
学校等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校等に対する市の支援体制 ・豊かな自然環境 ・交通の便利さ ・好立地条件 ・盛んなボランティア活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関の連携不足 ・市民のモラルの低さ
企業・事業所	<ul style="list-style-type: none"> ・交通の便利さ ・好立地条件 ・豊かな自然環境 ・工業団地の存在 ・下水道の整備状況 ・多業種の企業立地 	<ul style="list-style-type: none"> ・古賀駅周辺の活気のなさ ・まちのPR不足 ・若い人を惹きつける魅力のなさ

(6) 共働のまちづくりについて

各種団体、行政区、校区コミュニティ、学校等、企業・事業所の5つアンケートで、『共働のまちづくり』への参加意向と取り組みたい分野を質問し、その結果を表に示しました。

団体・企業の9割以上が、『共働のまちづくり』に取り組んでいきたい意向を持っていることがわかります。

回答別にみると「要請があるならば取り組んでいきたい」が25.0%あり、要請があれば取り組みたいと考えている団体・企業が多いことがうかがえます。

取り組んでみたい分野では、「連携・交流」「環境美化」「子育て」「安全・安心」「高齢者」に関する分野が多くあげられています。

このことから、団体や企業は『共働のまちづくり』への参加意向は高く、「連携・交流」「環境美化」「子育て」「安全・安心」「高齢者」に関する分野に取り組みたいと感じていることがわかります。

また、要請があれば取り組みたいと考えている団体・企業も多く、『共働のまちづくり』を推進するためには、積極的に働きかけを行うことが重要であると考えられます。

共働のまちづくりへの取組意向

アンケートの種類	取り組んでいきたい		取り組みたくない
		取り組みたい分野	
行政区	91.7% ・積極的に(38.9%) ・要請があるならば(25.0%) ・興味のある分野ならば(11.1%) ・余裕があれば(16.7%)	高齢者(5件) 安全・安心(4件) まちづくり(4件) 連携・交流(4件) 施設・インフラ(3件)	5.6% ・あまり取り組みたくない(5.6%) ・取り組みたくない(0.0%)
校区コミュニティ	100.0% ・積極的に(75.0%) ・要請があるならば(0.0%) ・興味のある分野ならば(25.0%) ・余裕があれば(0.0%)	高齢者(2件) 子育て(2件) 安全・安心(1件) 世代間交流(1件) 地域間交流(1件)	0.0% ・あまり取り組みたくない(0.0%) ・取り組みたくない(0.0%)
各種団体	92.1% ・積極的に(38.2%) ・要請があるならば(29.2%) ・興味のある分野ならば(6.7%) ・余裕があれば(18.0%)	子育て(13件) 環境美化(12件) 連携・交流(12件) 安全・安心(8件) 農業(5件)	3.3% ・あまり取り組みたくない(2.2%) ・取り組みたくない(1.1%)
学校等	100.0% ・積極的に(60.0%) ・要請があるならば(20.0%) ・興味のある分野ならば(15.0%) ・余裕があれば(5.0%)	地域との交流(4件) 環境美化(4件) 子育て(3件) 世代間交流(2件)	0.0% ・あまり取り組みたくない(0.0%) ・取り組みたくない(0.0%)
企業・事業所	89.5% ・積極的に(15.8%) ・要請があるならば(15.8%) ・興味のある分野ならば(5.3%) ・余裕があれば(52.6%)	環境美化(3件) 地域との交流(1件) 安全・安心(1件) 工場受入れ(1件)	5.3% ・あまり取り組みたくない(5.3%) ・取り組みたくない(0.0%)
合計	92.8% ・積極的に(39.3%) ・要請があるならば(25.0%) ・興味のある分野ならば(8.9%) ・余裕があれば(19.6%)	連携・交流関連(25件) 環境美化(19件) 子育て(18件) 安全・安心(14件) 高齢者(7件)	3.3% ・あまり取り組みたくない(3.0%) ・取り組みたくない(0.3%)

各アンケートの結果

- 1 市民アンケート調査

(1) 調査の概要

1) 調査目的

本調査は、市民のまちづくりへの満足度や要望、将来への期待を調査し、「第四次古賀市総合振興計画・第三次古賀市国土利用計画（平成 23 年度～）」及び「古賀市都市計画マスタープラン（平成 21 年度～）」などの策定に生かすとともに、市民と古賀市の将来について考えていくための資料とするために実施した。

2) 調査対象

18 歳以上の市民

15～17 歳の市民

3) 調査方法

区長等による配布・回収、一部郵送による配布・回収

4) 調査期間

平成 19 年 10 月～12 月

5) 回収状況

18 歳以上の市民

・配布数 2,585 票

・有効回収数 2,179 票

・有効回収率 84.3%

15～17 歳の市民

・配布数 362 票

・有効回収数 299 票

・有効回収率 82.6%

(2) 調査の結果

1) 古賀市の「住みやすさ」について

【一般】

問1 現在の古賀市の「住みやすさ」について、どのようにお感じですか。次の中から1つだけ選んで、番号に 印をつけて下さい。

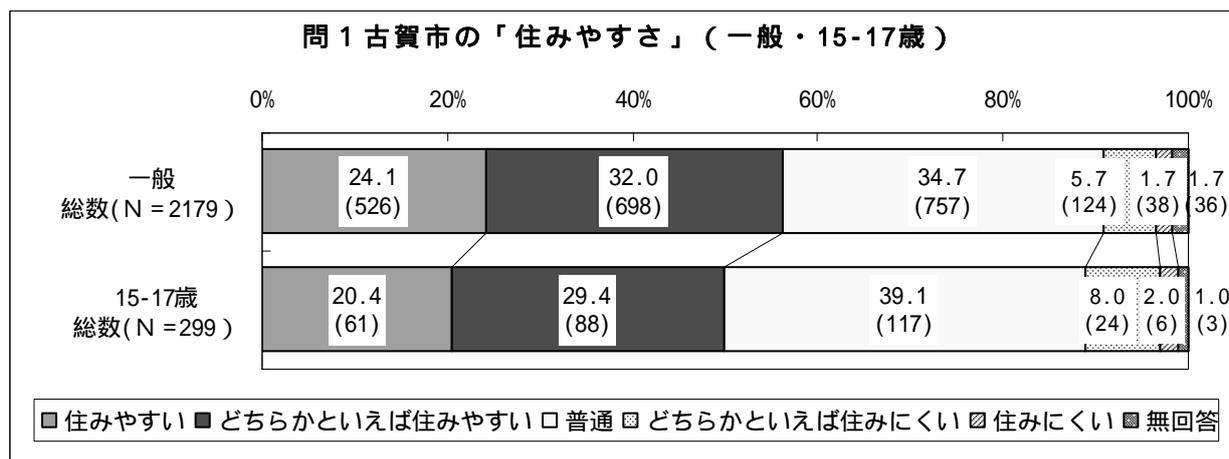
【15～17歳】

問1 あなたは現在の古賀市の「住みやすさ」についてどのようにお感じですか。次の中から1つだけ選んで、番号に 印をつけて下さい。

一般では「住みやすい」(24.1%)、「どちらかといえば住みやすい」(32.0%)を合わせた『住みやすい』の割合が56.1%となっており、半数以上が住みやすいと評価しています。(『住みやすい』は以下同様の意味で使用しています。)また、積極的に住みやすいとは思わないが特に不満を感じていないと考えられる「普通」(34.7%)を合わせると90.8%となっており、約9割が住みやすい、あるいは特に不満を感じていないと評価しています。一方、「どちらかといえば住みにくい」(5.7%)と「住みにくい」(1.7%)を合わせた『住みにくい』は7.4%となっています。(『住みにくい』は以下同様の意味で使用しています。)

15～17歳では『住みやすい』の割合は49.8%となっており、一般に比べやや低いものの、約半数が住みやすいと評価しています。また、積極的に住みやすいとは思わないが特に不満を感じていないと考えられる「普通」(39.1%)を合わせると88.9%となっており、一般と同程度の評価になっています。

回答の選択肢が異なるため単純な比較はできませんが、参考に一般の回答について平成11年(前回)、平成元年(前々回)の類似設問をみると、「住み良い」と「どちらかといえば住み良い」を合わせた『住み良い』の割合はそれぞれ83.1%、76.4%となっています。一方、『住みにくい』の割合はそれぞれ13.7%、18.3%となっており、今回の結果(7.4%)と比較すると、その割合は減少しています。



2) 古賀市に住み続けたいか

【一般】

問2 あなたはこれからも古賀市に住み続けたいと思いますか。次の中から1つだけ選んで番号に 印をつけて下さい。

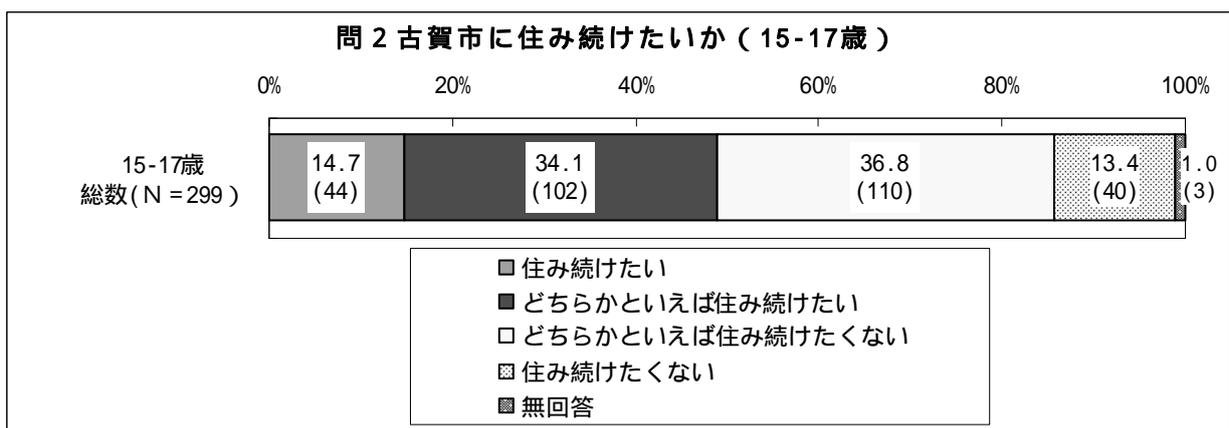
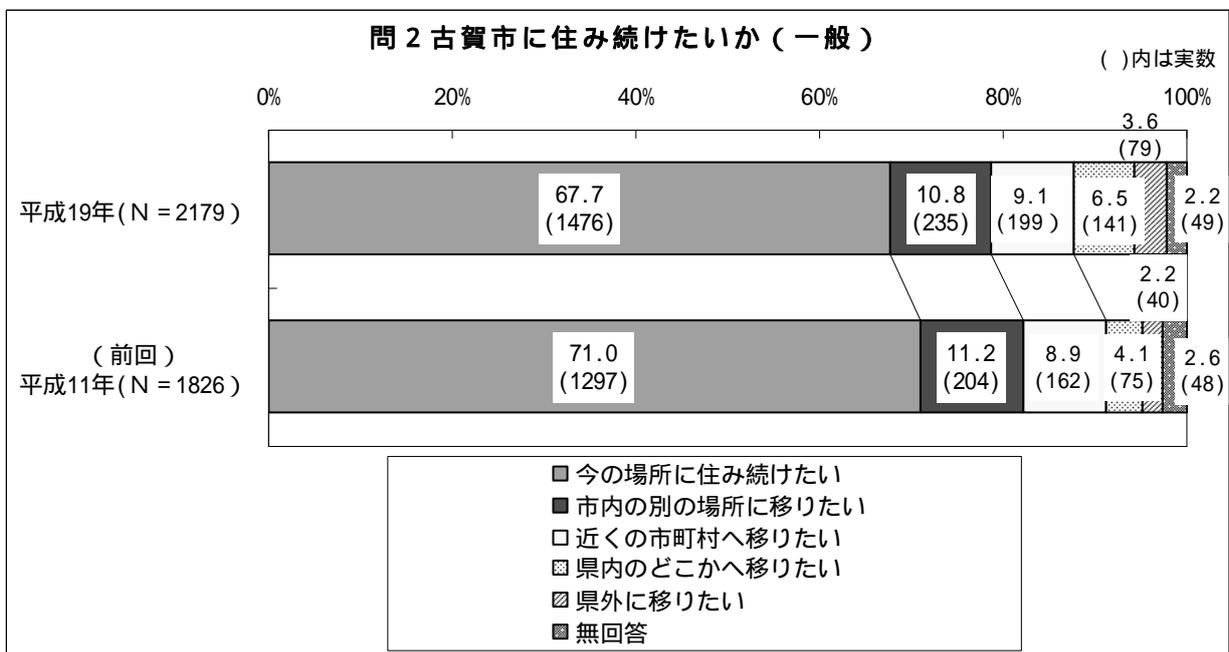
【15～17歳】

問2 あなたは大人になってからも古賀市に住み続けたいと思いますか。次の中から1つだけ選んで番号に 印をつけて下さい。

一般では「今の場所に住み続けたい」(67.7%)の割合が最も高く、「市内の別の場所に移りたい」(10.8%)を合わせると約8割が古賀市内に住み続けたいとなっています。

平成11年と比較しても傾向はほぼ変わりません。

15～17歳では「住み続けたい」(14.7%)、「どちらかといえば住み続けたい」(34.1%)を合わせると約5割が『古賀市に住み続けたい』となっており、一般に比べ定住意向は高くありません。



3)今の場所から移りたいと思う主な理由

【一般】

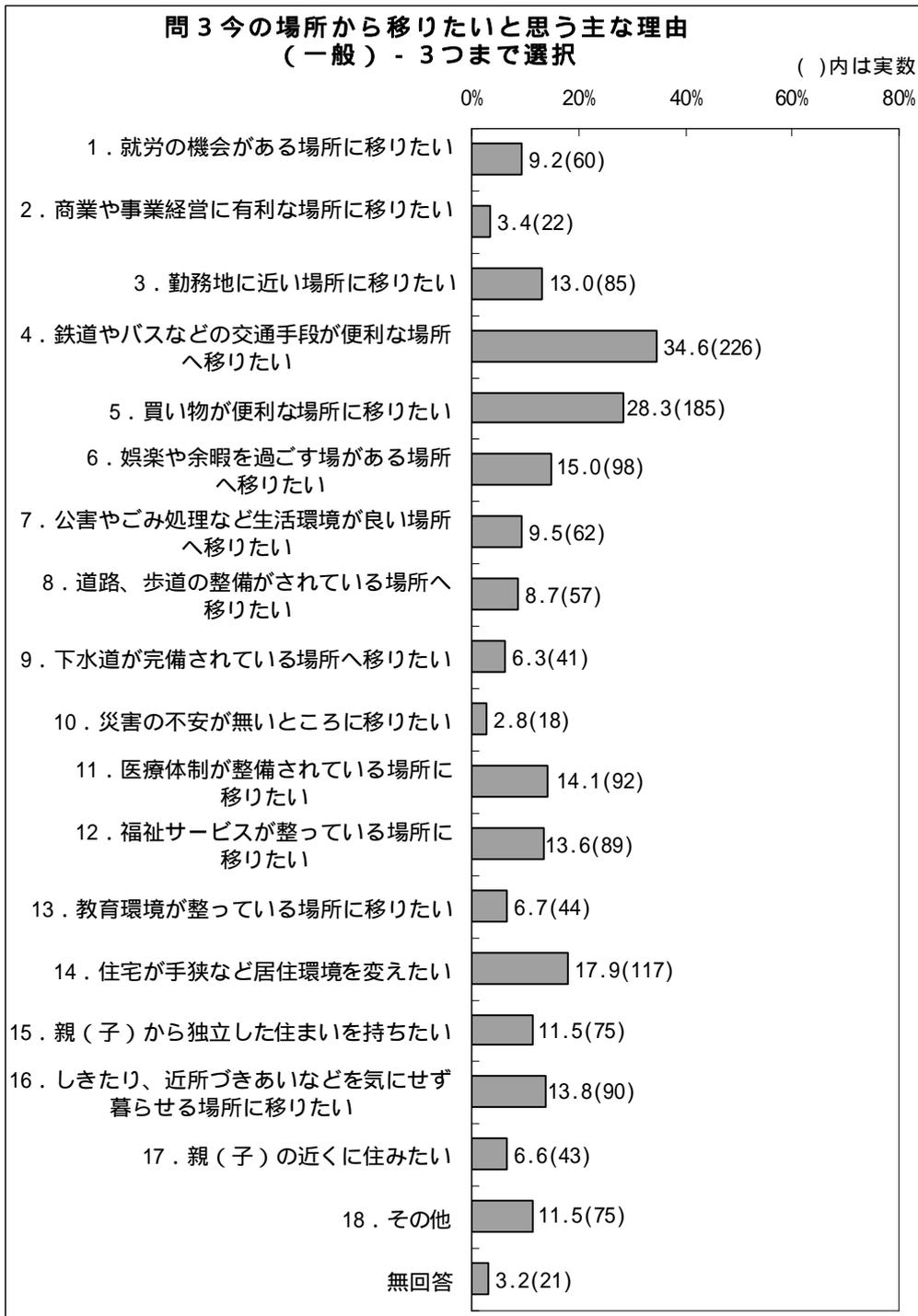
問2で「2～5」に 印をつけられた方におたずねします。

問3 今の場所から移りたいと思う主な理由はどのようなことでしょうか。次の中から3つまで選んで、番号に 印をつけて下さい。

【一般】今の場所から移りたいと思う主な理由

「鉄道やバスなどの交通手段が便利な場所へ移りたい(34.6%)の割合が最も高く、次いで「買い物が便利な場所に移りたい」(28.3%)、「住宅が手狭など居住環境を変えたい」(17.9%)となっており、「公共交通や買い物の利便性」や“居住環境の向上”を求めて移りたいという傾向がうかがえます。

N=654



N(全体総数)は、-2「古賀市に住み続けたいか」の設問で「市内の別の場所に移りたい」、「近くの市町村へ移りたい」、「県内のどこかへ移りたい」、「県外に移りたい」と答えた人を合わせた数である。

【15～17歳】古賀市に住み続けたくないと思う理由

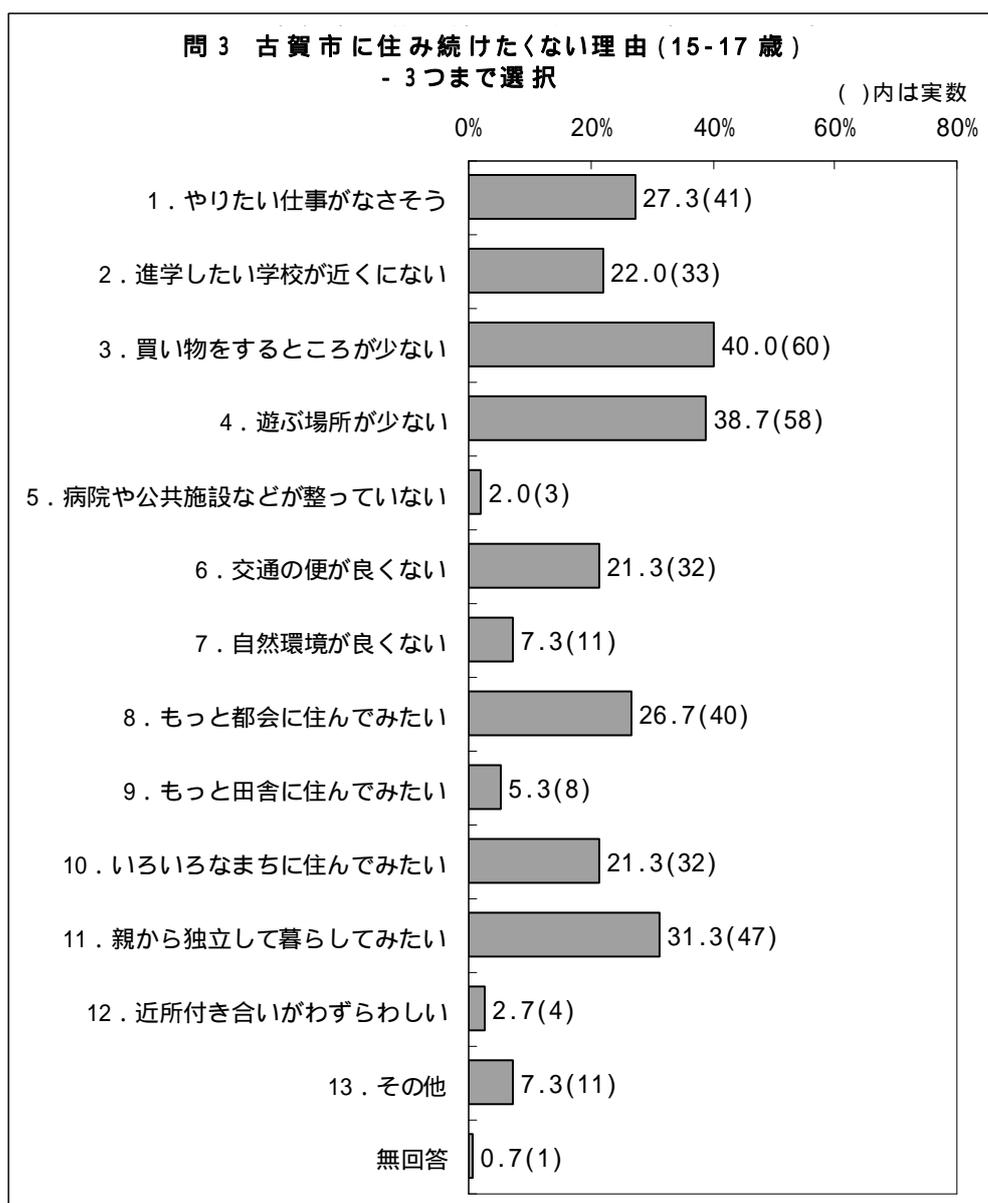
【15～17歳】

「3、4」に 印をつけられた方にお聞きします。

住み続けたくないと思う理由はどのようなことでしょうか。次の中から3つまで選んで、番号に 印をつけて下さい。

15～17歳では「買い物をするところが少ない」(40.0%)、「遊ぶ場所が少ない」(38.7%)の割合が同程度で高く、次いで「親から独立して暮らしてみたい」(31.3%)の順となっています。

N=150



N (全体総数) は、 - 2 「古賀市に住み続けたいか」の設問で「住み続けたくない」、「どちらかといえば住み続けたくない」と答えた人を合わせた数である。

4) 将来の古賀市のイメージ

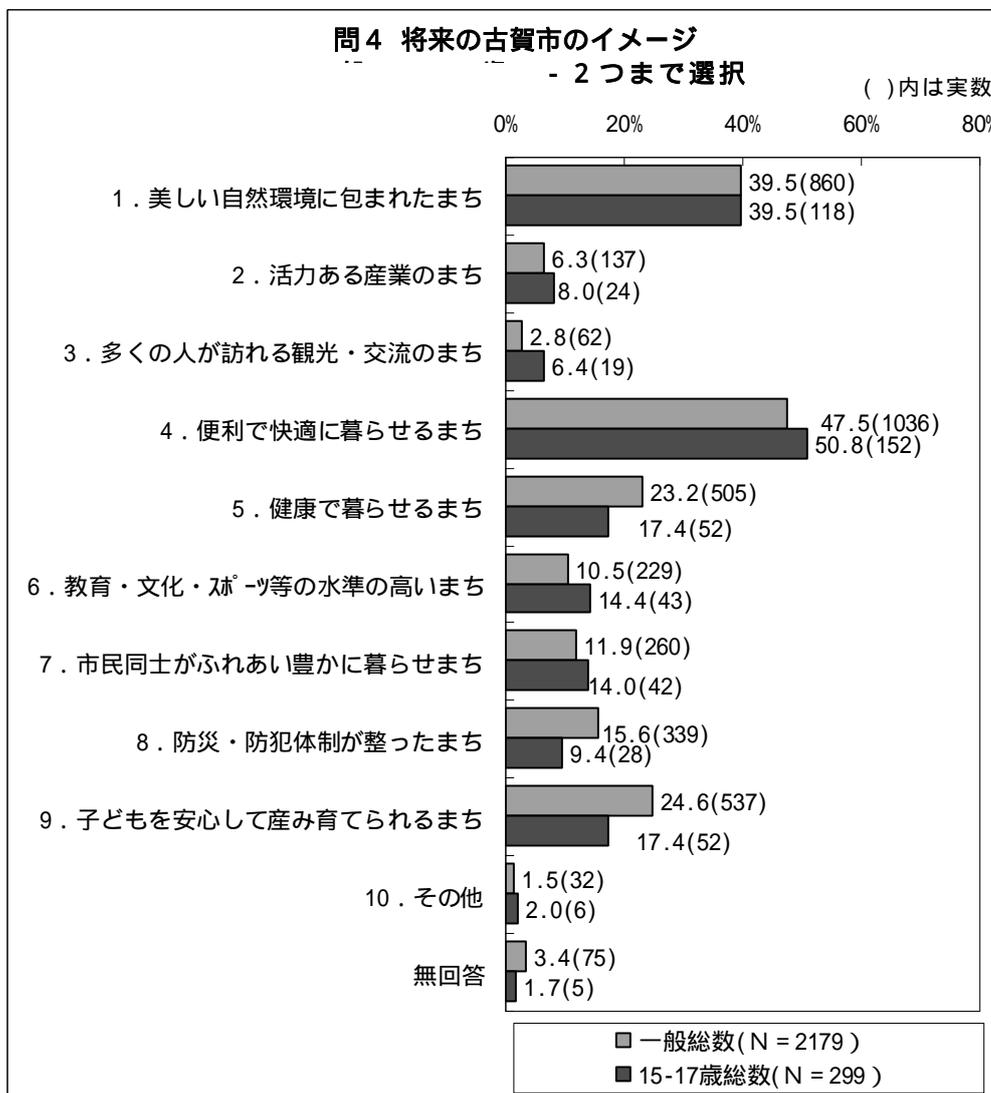
【一般】

問4 将来の古賀市がどのようなイメージのまちになることを望みますか。次の中から2つまで選んで、番号に 印をつけて下さい。

【15～17歳】

問4 あなたは将来の古賀市がどのようなイメージのまちになることを望みますか。次の中から2つまで選んで、番号に 印をつけて下さい。

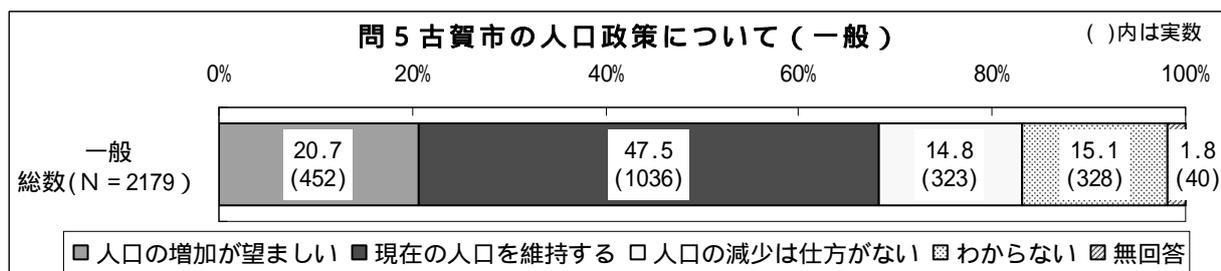
一般、15～17歳とも「便利で快適に暮らせるまち」(それぞれ 47.5%、50.8%)の割合が最も高く、次いで「美しい自然環境に包まれたまち」(ともに 39.5%)、「子どもを安心して産み育てられるまち」(それぞれ 24.6%、17.4%)、「健康で暮らせるまち」(それぞれ 23.2%、17.4%)の順となっています。



5)古賀市の人口政策について

問5 古賀市の平成12年の人口は55,476人、平成17年の人口は55,943人(国勢調査より)と、ほぼ横ばいになっています。また日本全体の人口は平成17年を境に減少に転じています。これからの古賀市の人口政策についてあなたはどのように望みますか。次の中から1つだけ選んで、番号に印をつけてください。

全体では、「現在の人口を維持する」(47.5%)の割合が最も高く、次いで「人口の増加が望ましい」(20.7%)、「人口の減少は仕方がない」(14.8%)の順となっています。



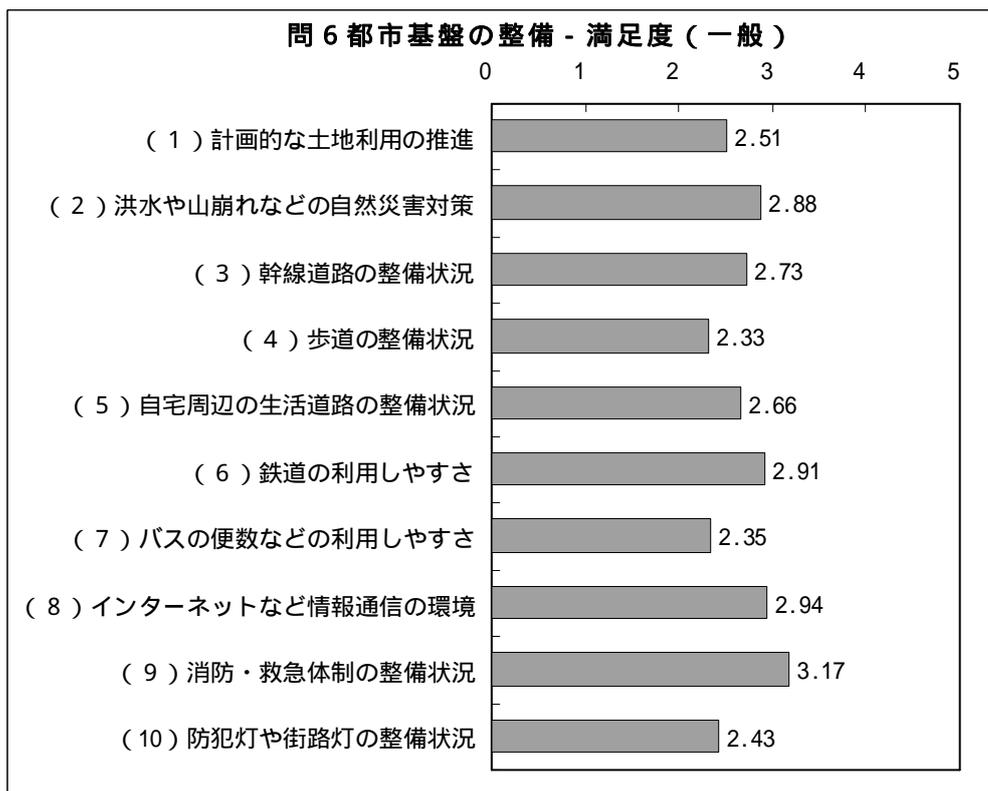
6) 満足度と優先事項について

問6 生活環境や日常生活に関して(1)～(52)の各項目について、現状をどのように感じていますか。それぞれの選択肢の中から1つだけ選んで、番号に 印をつけて下さい。

都市基盤の整備

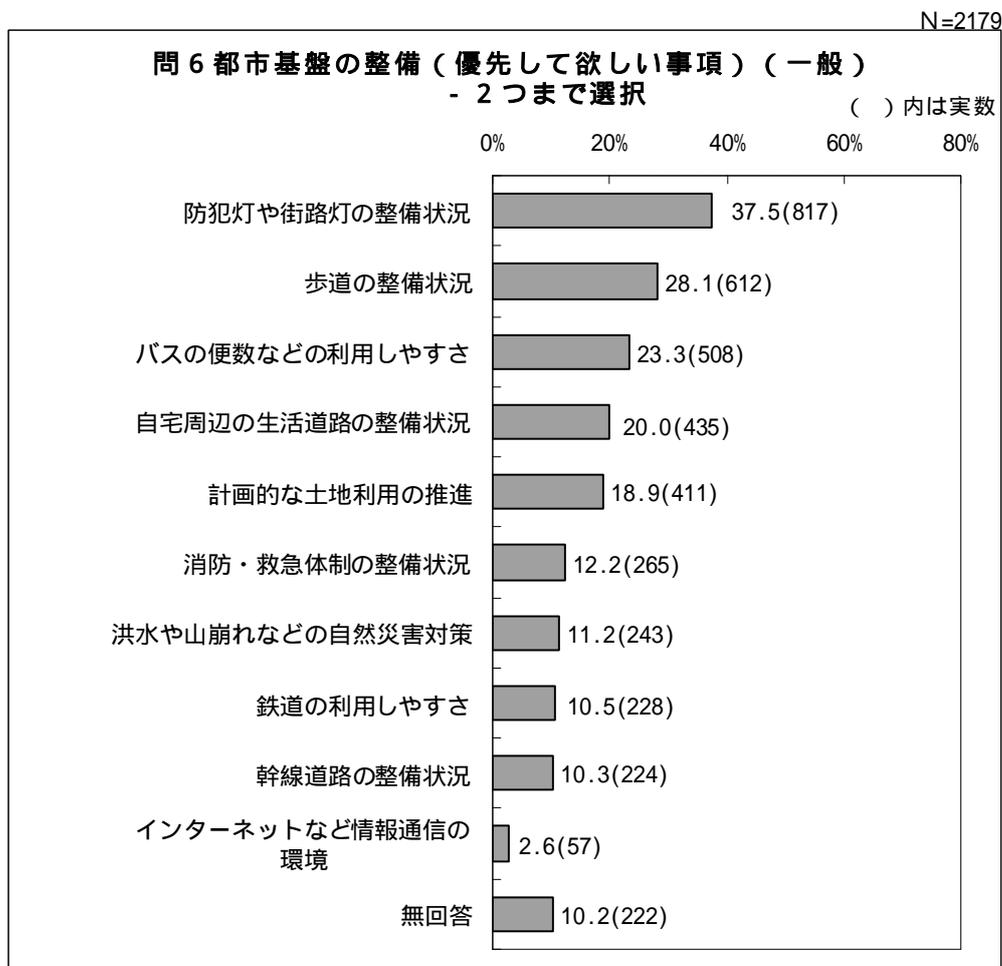
ア 満足度

都市基盤の整備の満足度の指数をみると、数値が高い順より「(9)消防・救急体制の整備状況」(3.17)、「(8)インターネットなど情報通信の環境」(2.94)、「(6)鉄道の利用しやすさ」(2.91)となっています。一方、数値が低いのは、「(4)歩道の整備状況」(2.33)、「(7)バスの便数などの利用しやすさ」(2.35)、「(10)防犯灯や街路灯の整備状況」(2.43)となっています。



イ 最も優先して欲しい事項

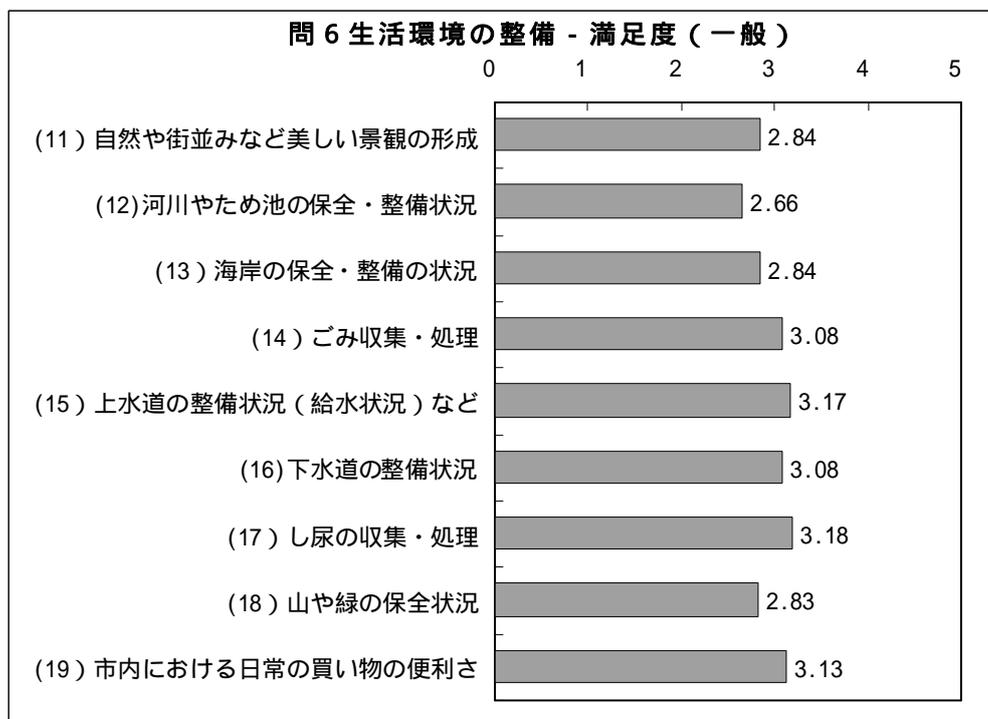
都市基盤の整備で最も優先して欲しい事項として、「防犯灯や街路灯の整備状況」(37.5%)の割合が最も高く、次いで「歩道の整備状況」(28.1%)、「バスの便数などの利用しやすさ」(23.3%)の順となっています。



生活環境の整備

ア 満足度

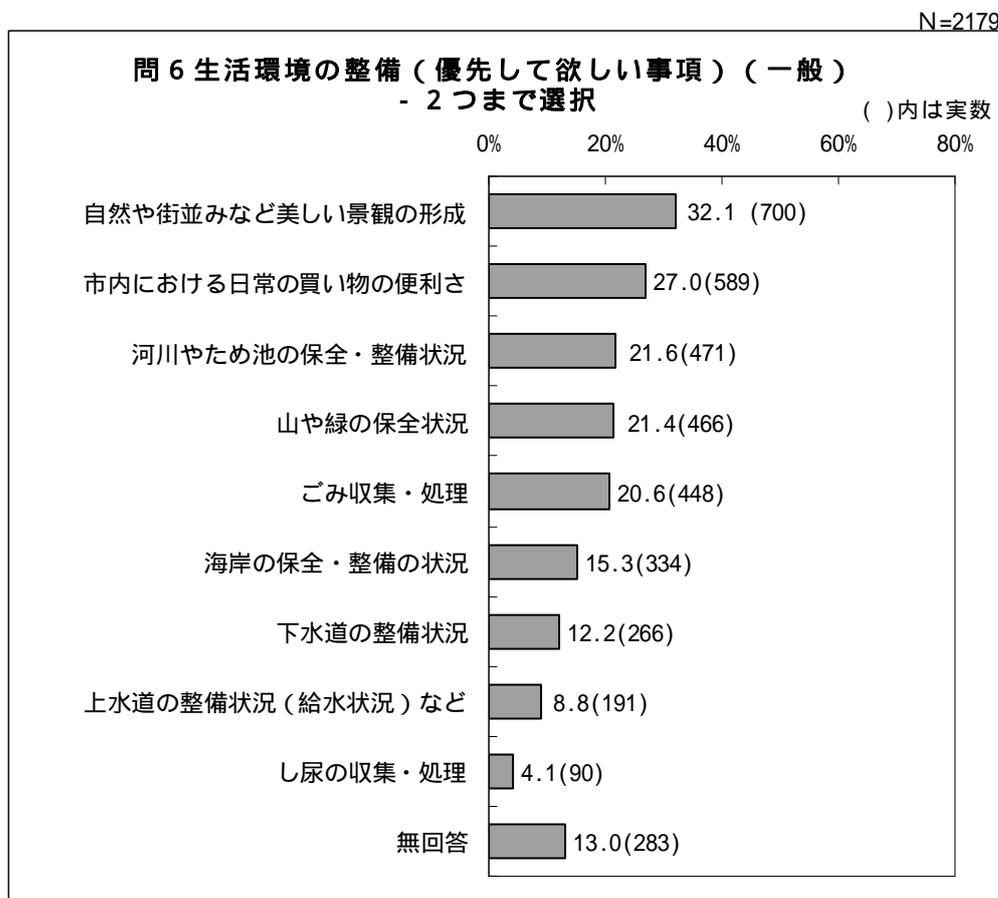
生活環境の整備の満足度の指数をみると、数値が高い順より「(17)し尿の収集・処理」(3.18)、「(15)上水道の整備状況(給水状況)など」(3.17)、「(19)市内における日常の買い物の便利さ」(3.13)、「(14)ごみ収集・処理」(3.08)、「(16)下水道の整備状況」(ともに3.08)となっています。一方、数値が低いのは「(12)河川やため池の保全・整備状況」(2.66)、「(18)山や緑の保全状況」(2.83)、「(11)自然や街並みなど美しい景観の形成」(2.84)、「(13)海岸の保全・整備の状況」(ともに2.84)となっています。



イ 最も優先して欲しい事項

生活環境の整備で最も優先して欲しい事項として「自然や街並みなど美しい景観の形成」(32.1%)の割合が最も高く、次いで「市内における日常の買い物の便利さ」(27.0%)の順となっています。

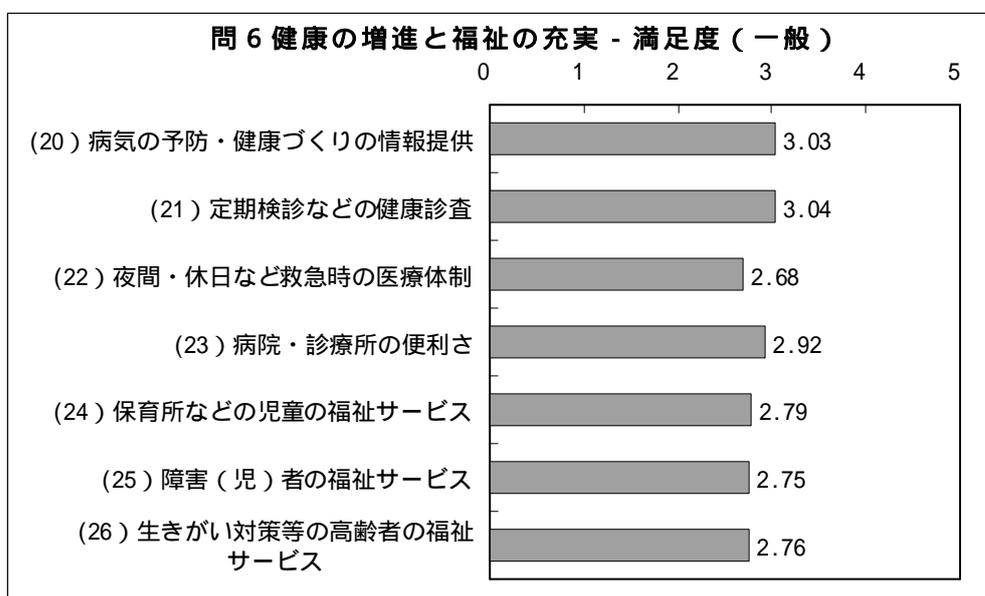
満足度の指数が最も低かった「河川やため池の保全・整備状況」(21.6%)は上位にあるものの、“自然などの美しい景観”や“日常の買い物の便利さ”をより優先して欲しいという傾向がうかがえます。



健康の増進と福祉の充実

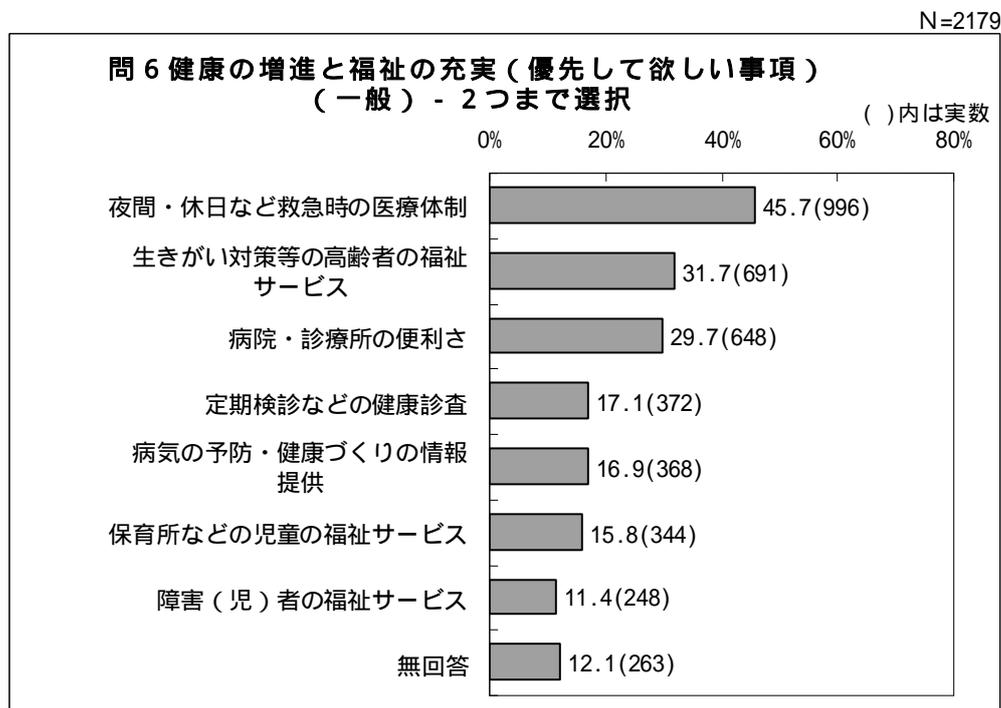
ア 満足度

健康の増進と福祉の充実の満足度の指数をみると、数値が高い順より「(21)定期検診などの健康診査」(3.04)、「(20)病気の予防・健康づくりの情報提供」(3.03)、「(23)病院・診療所の便利さ」(2.92)となっています。一方、数値が低いのは、「(22)夜間・休日など救急時の医療体制」(2.68)となっています。



イ 最も優先して欲しい事項

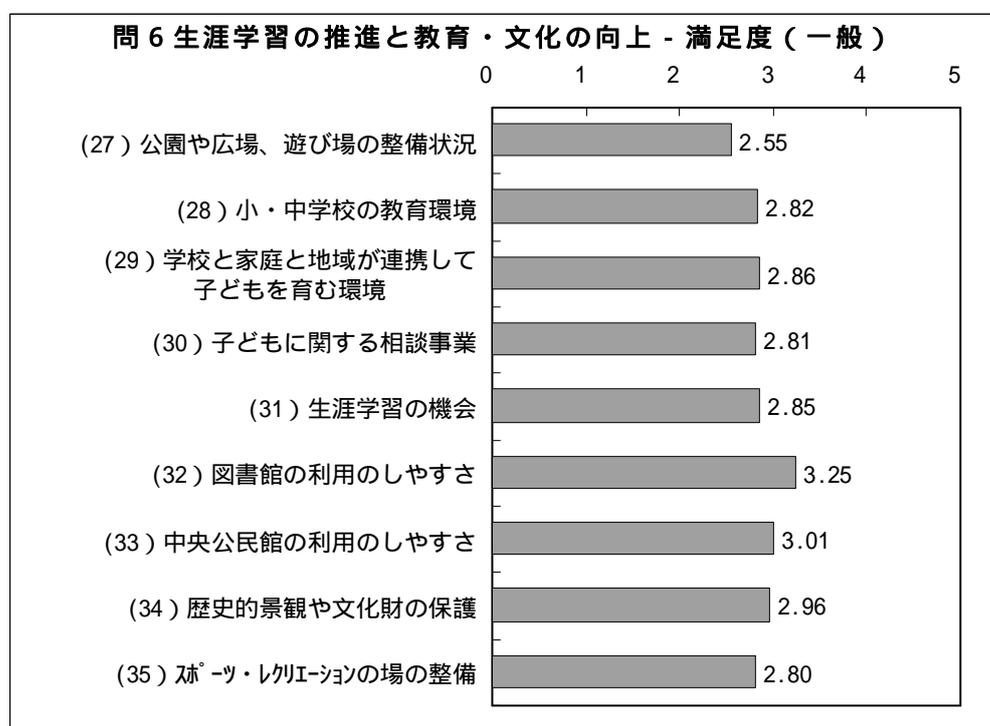
健康の増進と福祉の充実で最も優先して欲しい事項として、「夜間・休日など救急時の医療体制」(45.7%)の割合が最も高く、次いで「生きがい対策等の高齢者の福祉サービス」(31.7%)、「病院・診療所の便利さ」(29.7%)の順となっており、“夜間・休日を問わない日常的な医療の充実”と“高齢者福祉サービス”が求められています。



生涯学習の推進と教育・文化の向上

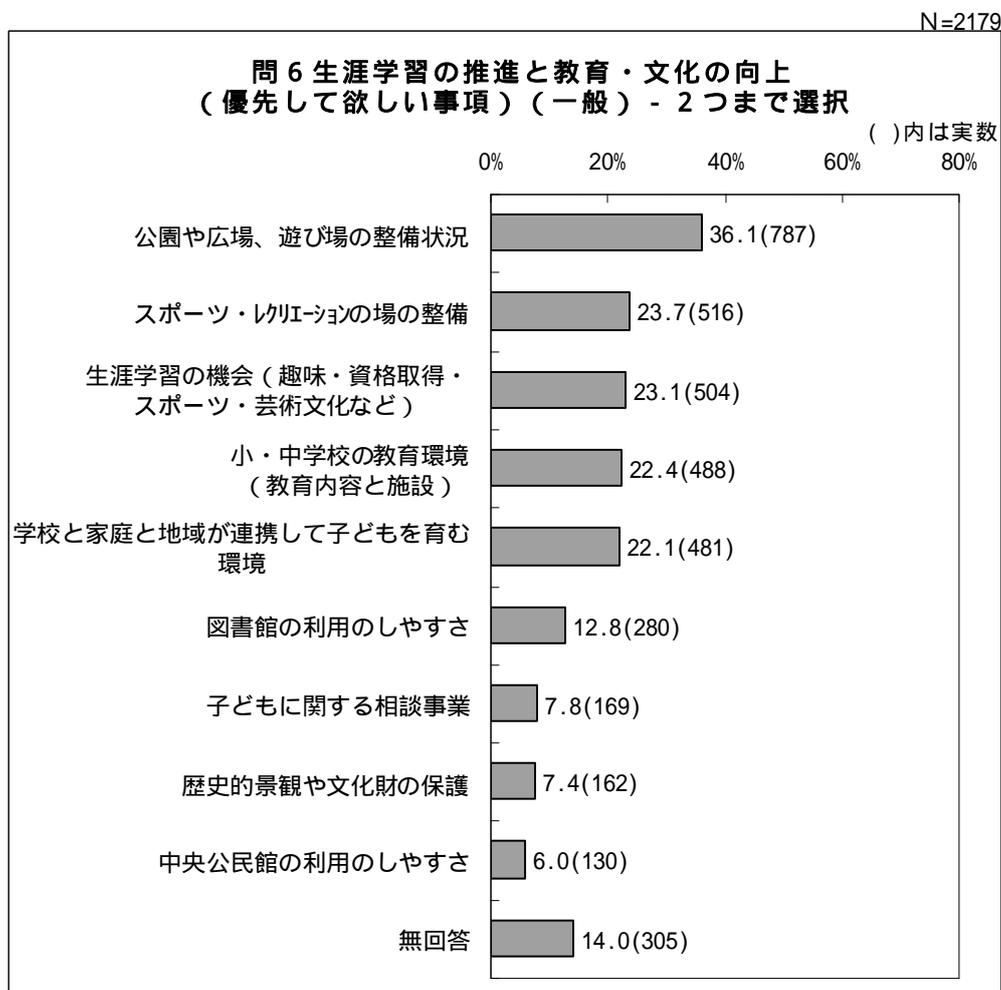
ア 満足度

生涯学習の推進と教育・文化の向上の満足度の指数をみると、数値が高い順より「(32) 図書館の利用のしやすさ」(3.25)、「(33) 中央公民館の利用のしやすさ」(3.01)となっています。一方、数値が低いのは「(27) 公園や広場、遊び場の整備状況」(2.55)となっています。



イ 最も優先して欲しい事項

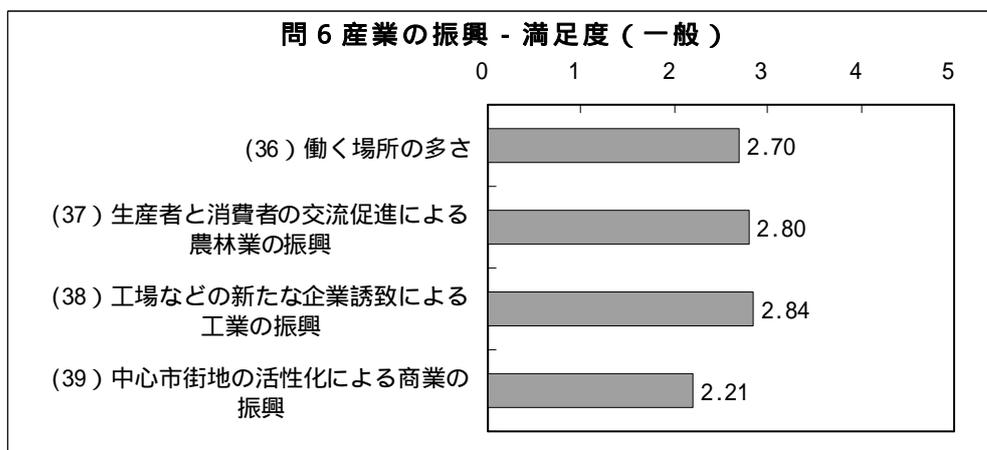
生涯学習の推進と教育・文化の向上で最も優先して欲しい事項として、「公園や広場、遊び場の整備状況」(36.1%)の割合が最も高く、次いで「スポーツ・レクリエーションの場の整備」(23.7%)、「生涯学習の機会」(23.1%)、「小・中学校の教育環境」(22.4%)、「学校と家庭と地域が連携して子どもを育む環境」(22.1%)の割合が同程度となっています。



産業の振興

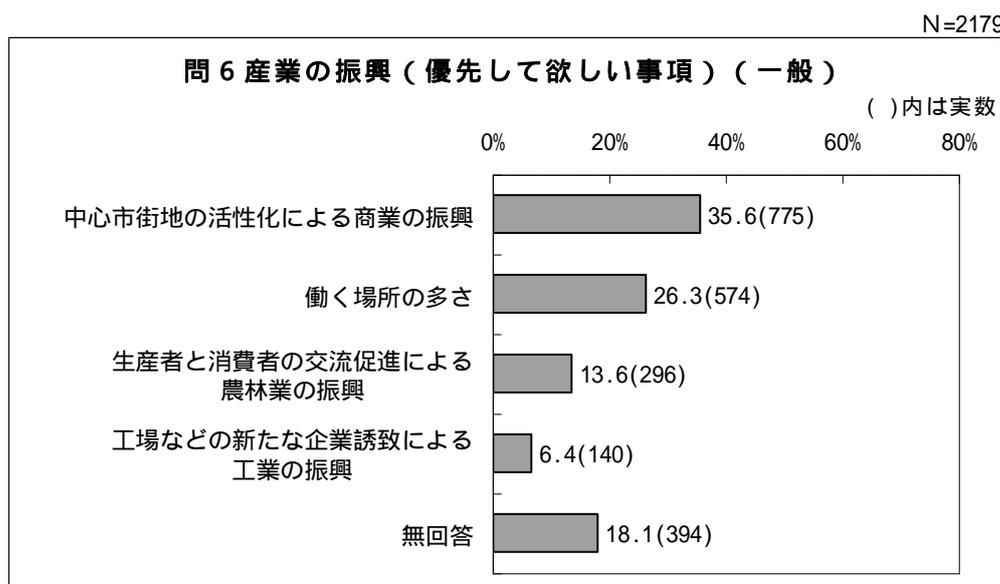
ア 満足度

産業の振興の満足度の指数をみると、「(39) 中心市街地の活性化による商業の振興」(2.21) が低い数値となっています。



イ 最も優先して欲しい事項

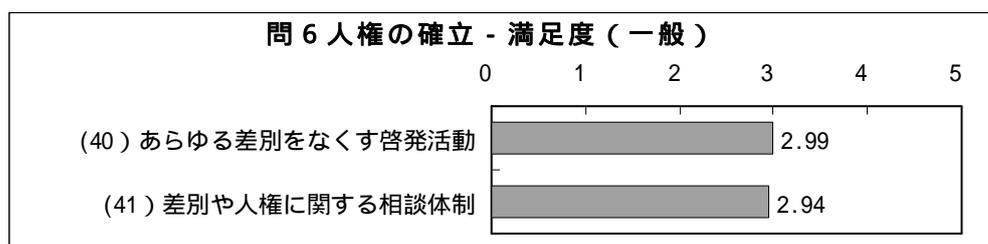
産業の振興について最も優先して欲しい事項として、「中心市街地の活性化による商業の振興」(35.6%) の割合が最も高く、次いで「働く場所の多さ」(26.3%) の順となっています。



人権の確立

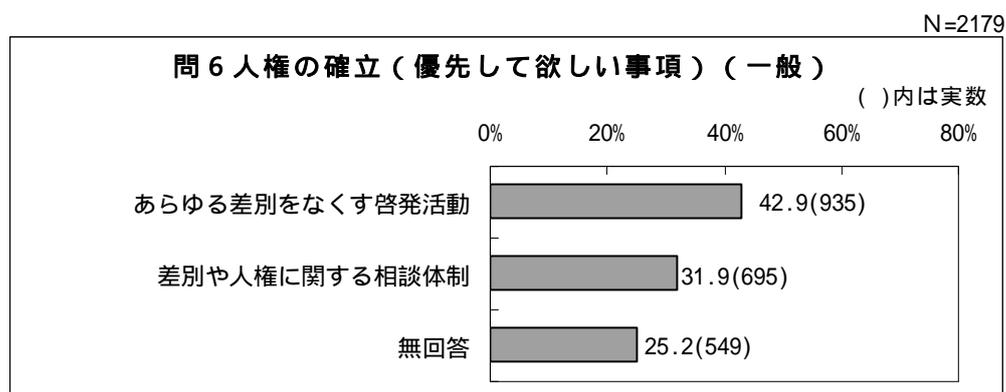
ア 満足度

人権の確立の満足度の指数をみると、2項目ともほぼ同程度の数値となっています。



イ 最も優先して欲しい事項

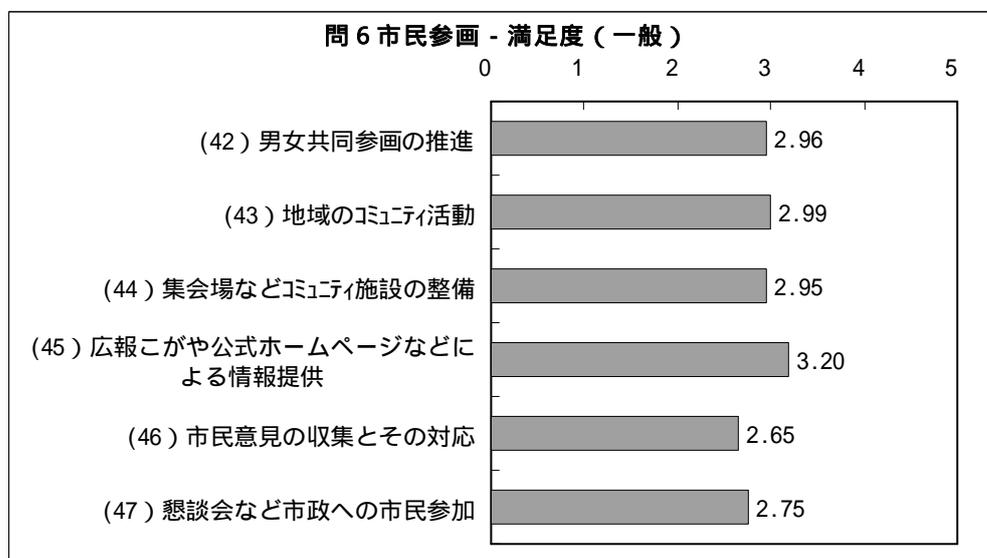
人権の確立で最も優先して欲しい事項として、「あらゆる差別をなくす啓発活動」(42.9%)、「差別や人権に関する相談体制」(31.9%)の順となっています。



市民参画

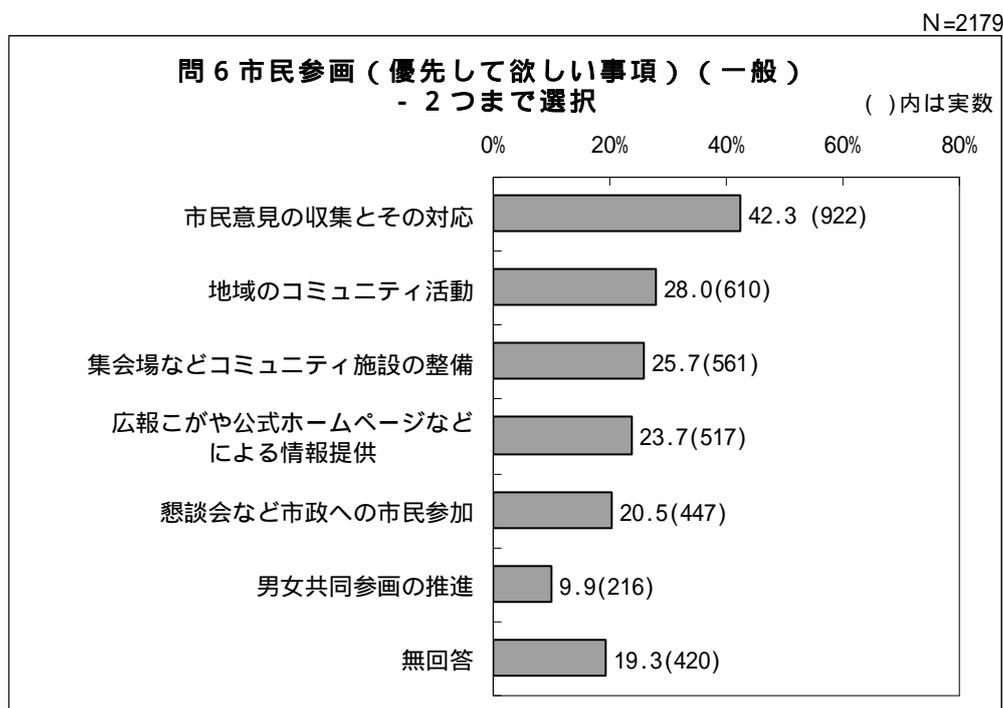
ア 満足度

市民参画の満足度の指数をみると、数値が高いのは、「(45) 広報こがや公式ホームページなどによる情報提供」(3.20)となっています。一方、数値が低いのは、「(46) 市民意見の収集とその対応」(2.65)、「(47) 懇談会など市政への市民参加」(2.75)となっています。



イ 最も優先して欲しい事項

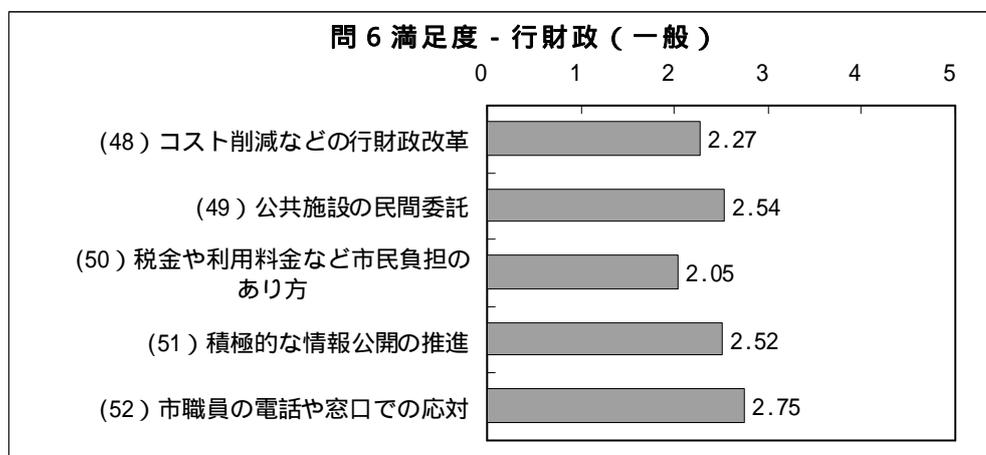
市民参画で最も優先して欲しい事項として、「市民意見の収集とその対応」(42.3%)の割合が最も高く、次いで「地域のコミュニティ活動」(28.0%)、「集会場などコミュニティ施設の整備」(25.7%)の順となっています。



行財政

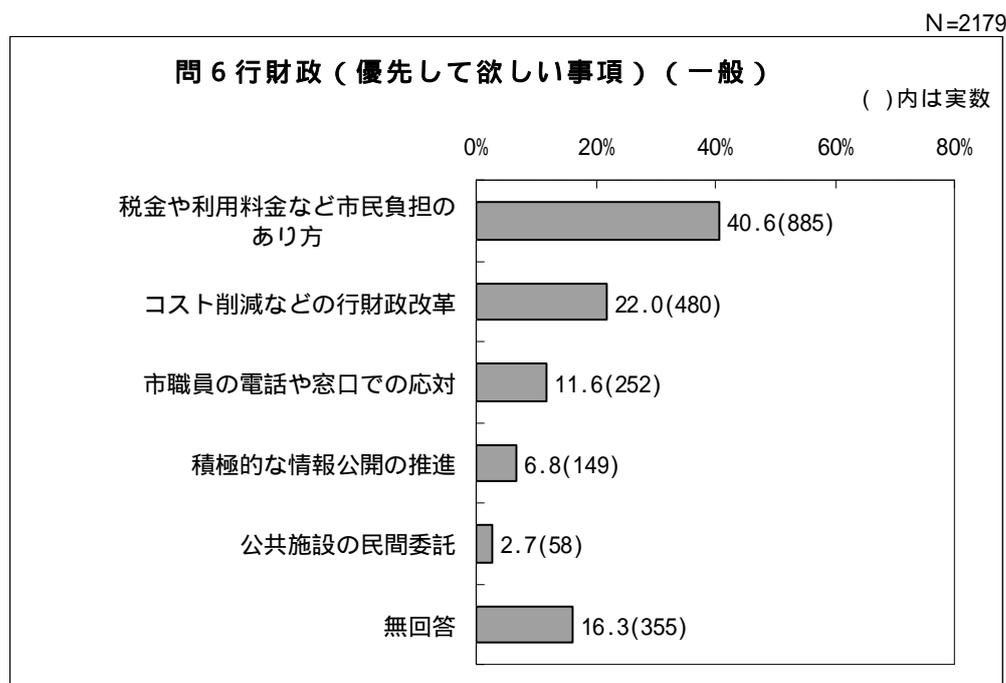
ア 満足度

行財政の満足度の指数をみると、数値が高いのは「(52)市職員の電話や窓口での対応」(2.75)となっています。一方、数値が低いのは「(50)税金や利用料金など市民負担のあり方」(2.05)となっています。



イ 最も優先して欲しい事項

行財政で最も優先して欲しい事項として、「税金や利用料金など市民負担のあり方」(40.6%)の割合が最も高く、次いで「コスト削減などの行財政改革」(22.0%)、「市職員の電話や窓口での対応」(11.6%)の順となっています。



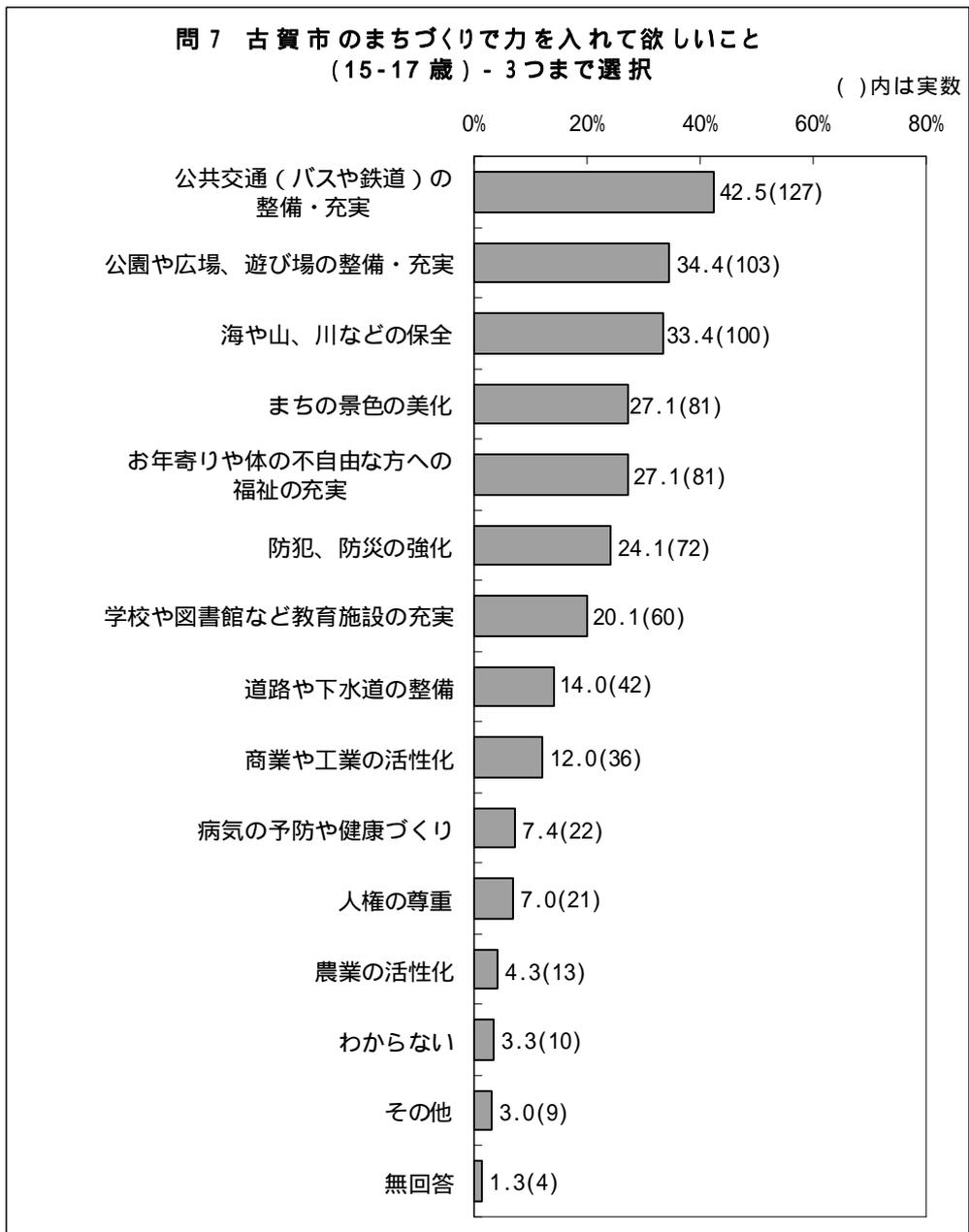
7)力を入れて欲しいこと

【15～17歳】古賀市のまちづくりで力を入れて欲しいこと

【15～17歳】
 問7 あなたは今後の古賀市のまちづくりにおいて、どのようなことに特に力を入れて欲しいと思いますか。次の中から3つまで選んで、番号に 印をつけて下さい。

「公共交通（バスや鉄道）の整備・充実」（42.5%）の割合が最も高く、次いで「公園や広場、遊び場の整備・充実」（34.4%）、「海や山、川などの保全」（33.4%）の割合が同程度で高くなっています。

N=299



8)分野別の意識・ニーズについて

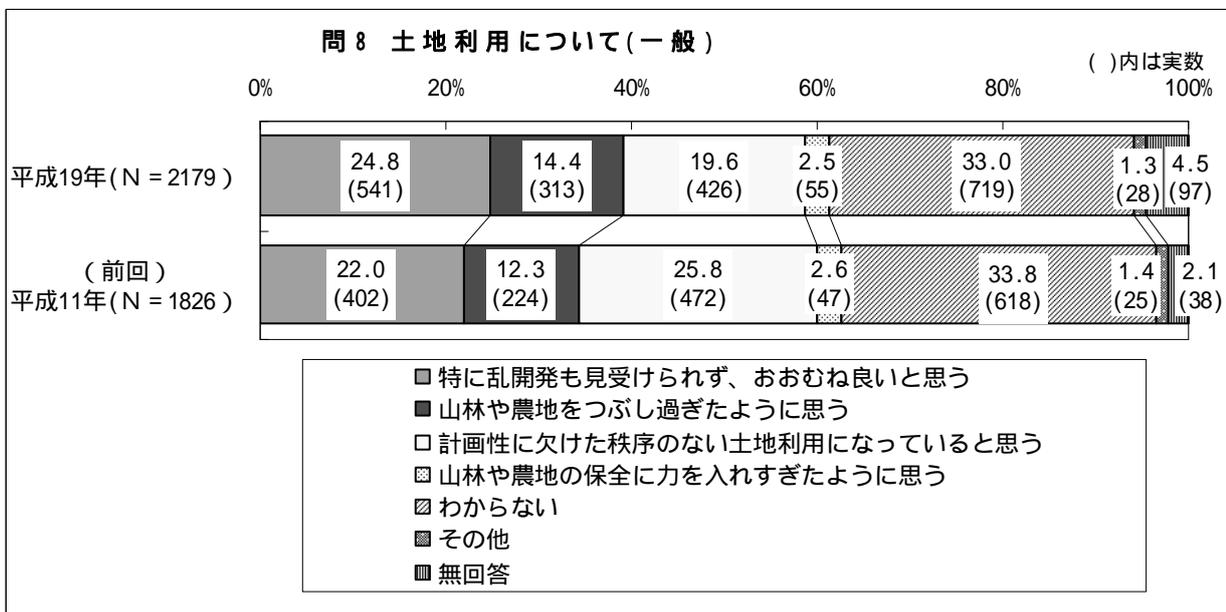
土地利用

ア 土地利用の状況

問8 これまでの古賀市の土地利用について、あなたはどのようにお考えですか。次の中から1つだけ選んで、番号に 印をつけて下さい。

「特に乱開発も見受けられず、おおむね良いと思う」(24.8%)とする評価の割合が高い一方、「計画性に欠けた秩序のない土地利用になっていると思う」(19.6%)、「山林や農地をつぶし過ぎたように思う」(14.4%)という評価もあります。

平成11年と比較すると、「特に乱開発も見受けられず、おおむね良いと思う」の割合(22.0%→24.8%)が増加するとともに、「計画性に欠けた秩序のない土地利用になっていると思う」の割合(25.8%→19.6%)が減少しています。これは鹿部土地区画整理事業(美明地区)、第5工業団地など計画的な開発が行われたことが影響していると考えられます。

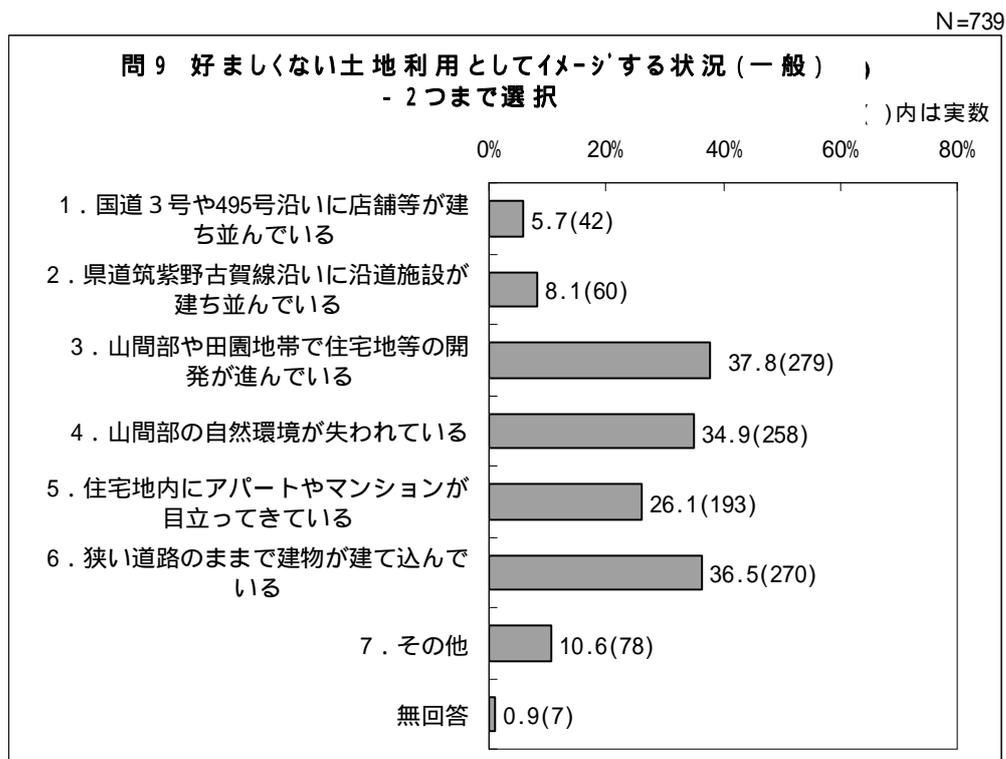


イ「山林や農地をつぶし過ぎた」「計画性に欠けた秩序のない土地利用」と答えた方がイメージする状況

問8で「2」または「3」に をつけた方にお聞きします。

問9 それはどのような状況をイメージされていますか。次の中から2つまで選んで、番号に 印をつけて下さい。

「山間部や田園地帯で住宅地等の開発が進んでいる」(37.8%)の割合が最も高く、次いで「狭い道路のままで建物が建て込んでいる」(36.5%)、「山間部の自然環境が失われている」(34.9%)の順となっています。



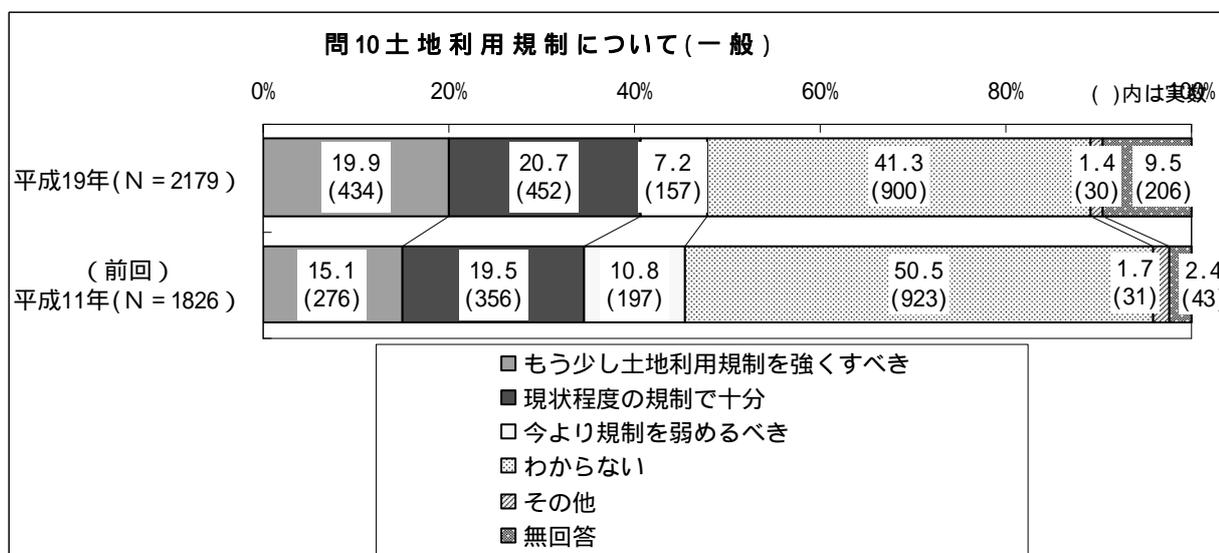
N(全体総数)は、「 - 1(1)の土地利用の状況」の設問で「山林や農地をつぶし過ぎたように思う」、「計画性に欠けた秩序のない土地利用になっていると思う」と答えた人を合わせた数である。

ウ 土地利用規制

問 10 土地利用については、都市計画法などの法律で規制されていますが、本市の土地利用規制について、あなたはどのようにお考えですか。次の中から1つだけ選んで、番号に 印をつけて下さい。

「もう少し土地利用規制を強くすべき」(19.9%)と「現状程度の規制で十分」(20.7%)は合わせて40.6%となっており、何らかの規制が必要であるとする割合が高くなっています。

平成11年と比較すると「今より規制を弱めるべき」(10.8% 7.2%)の割合が減少している一方で、「もう少し土地利用規制を強くすべき」(15.1% 19.9%)の割合が増加しており、全体としては土地利用規制については強化の方向への意向が高まっていると考えられます。



エ 計画的に進める土地利用について

【一般】

問 11 古賀市発展のために、今後、計画的に進めていくべき土地利用は、何だとお考えですか。次の中から2つまで選んで、番号に 印をつけて下さい。

【15～17歳】

問 11 あなたは今後古賀市が発展していくために、計画的に進めていくべき土地利用は、何だと思えますか。次の中から2つまで選んで、番号に 印をつけて下さい。

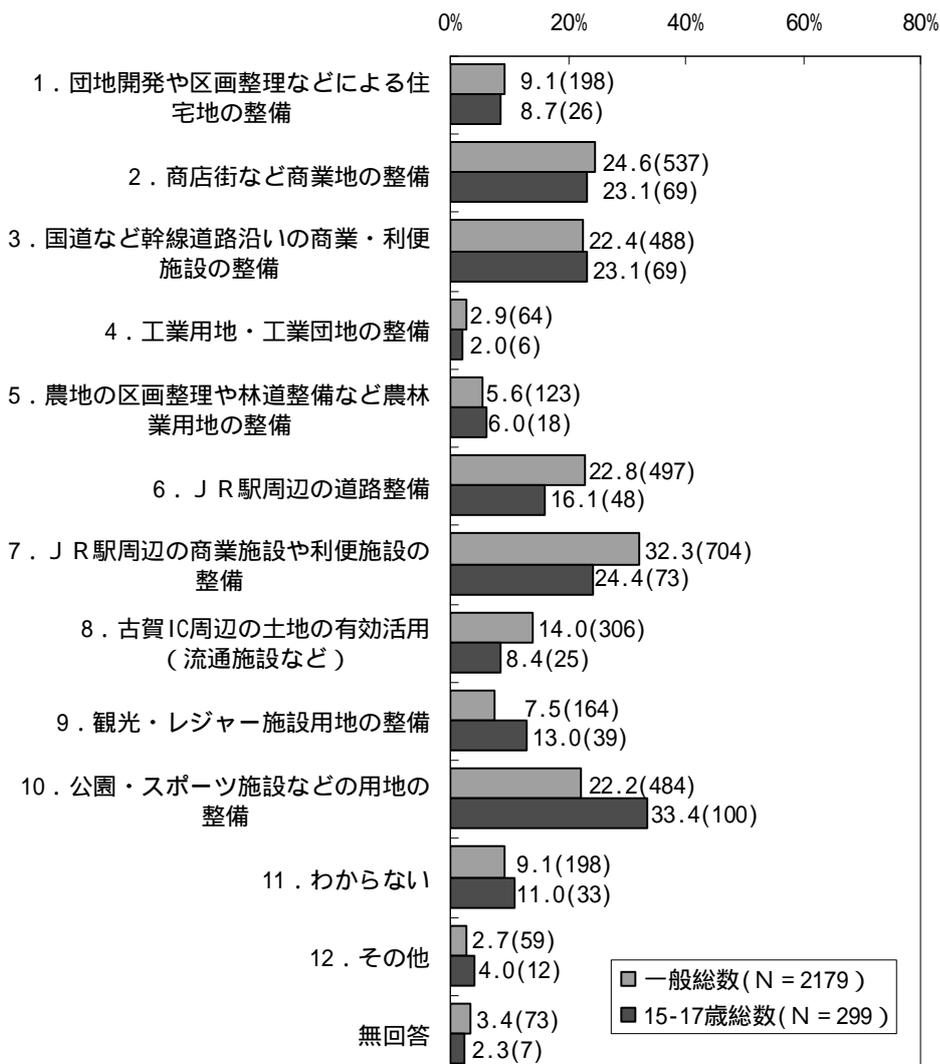
一般では、「JR 駅周辺の商業施設や利便施設の整備」(32.3%)の割合が最も高く、次いで「商店街など商業地の整備」(24.6%)、「JR 駅周辺の道路整備」(22.8%)、「国道など幹線道路沿いの商業・利便施設の整備」(22.4%)、「公園・スポーツ施設などの用地の整備」(22.2%)の順となっています。

15～17歳では、「公園・スポーツ施設などの用地の整備」(33.4%)の割合が最も高く、次いで「JR 駅周辺の商業施設や利便施設の整備」(24.4%)、「国道など幹線道路沿いの商業・利便施設の整備」、「商店街など商業地の整備」(ともに23.1%)の順となっています。一般と15～17歳で順位は異なりますが、ともに「商業施設や利便施設の整備」、「公園・スポーツ施設の整備」があがっています。

参考に平成11年の類似設問をみると、「商店街など商業地の整備」、「公園・スポーツ施設などレクリエーション施設の整備」の割合が高く、今回の調査の傾向と変わりません。

問11 進めていくべき土地利用(一般・15-17歳)
- 2つまで選択

()内は実数



景観

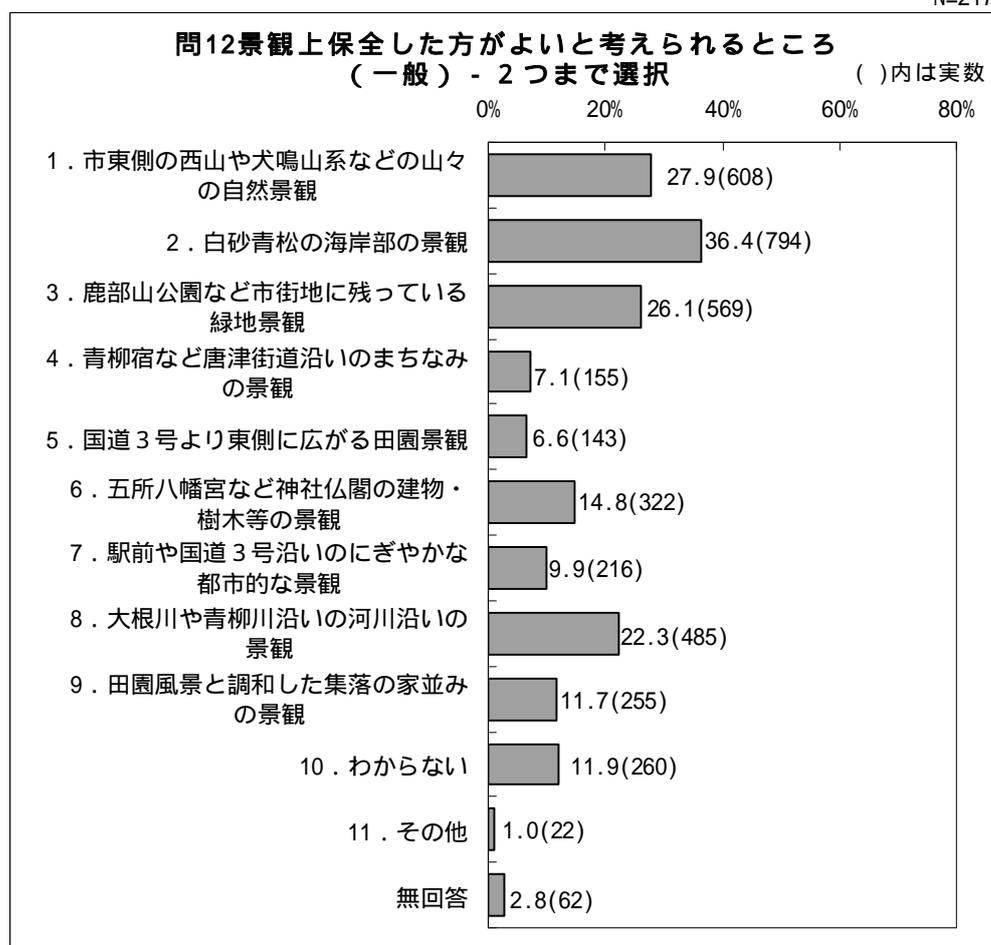
ア 景観上保全した方がよいと考えられるところ

問 12 古賀市内で景観上保全した方がよいと考えられるところはどこですか。次の中から 2 つまで選んで、番号に 印をつけてください。

(景観とは、街並みや緑地などの人の眺める対象を示す「景」という言葉と、それを眺める人の感覚を表す「観」という言葉を組み合わせたものです。)

「白砂青松の海岸部の景観」(36.4%) の割合が最も高く、次いで「市東側の西山や犬鳴山系などの山々の自然景観」(27.9%)、「鹿部山公園など市街地に残っている緑地景観」(26.1%) の順となっています。

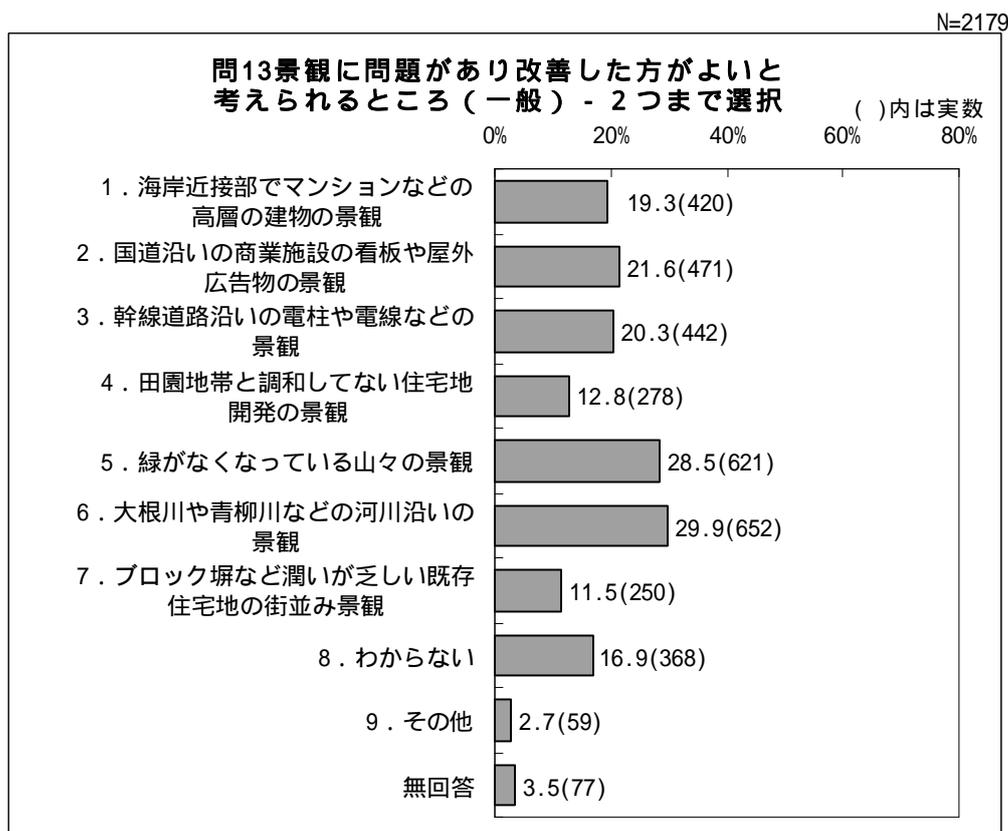
N=2179



イ 景観に問題があり改善した方がよいと考えられるところ

問 13 古賀市内で景観に問題があり改善した方がよいと考えられるところはどこですか。次の中から2つまで選んで、番号に 印をつけて下さい。

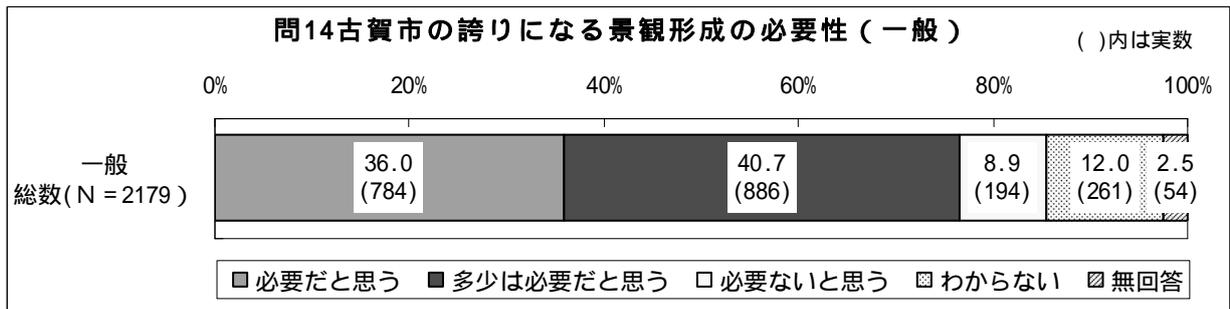
「大根川や青柳川などの河川沿いの景観」(29.9%)、「緑がなくなっている山々の景観」(28.5%)の割合が同程度で高く、次いで「国道沿いの商業施設の看板や屋外広告物の景観」(21.6%)、「幹線道路沿いの電柱や電線などの景観」(20.3%)、「海岸近接部でマンションなどの高層の建物の景観」(19.3%)の順となっています。



ウ 古賀市の誇りになる景観形成の必要性

問 14 古賀市らしい特色を活かした古賀市の誇りになるような景観（例：青柳宿の街並み景観の復元など）の形成は必要だと思いますか。次の中から1つだけ選んで、番号に印をつけて下さい。

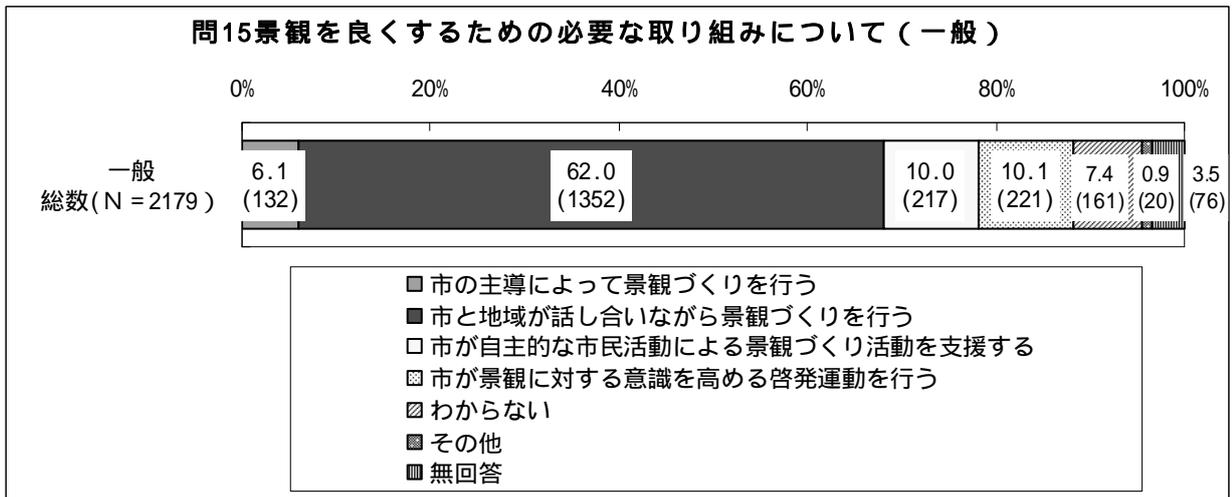
「必要だと思う」(36.0%)、「多少は必要だと思う」(40.7%)を合わせた『必要だと思う』が約8割となっています。一方、「必要ないと思う」(8.9%)は約1割となっており、景観形成に対する必要性の意向は高いことがうかがえます。(『必要だと思う』は以下同様の意味で使用しています。)



エ 景観を良くするための必要な取り組みについて

問 15 古賀市の景観を良くしていくために、どのような取り組みが必要だと考えられますか。次の中から1つだけ選んで、番号に印をつけて下さい。

「市と地域が話し合いながら景観づくりを行う」(62.0%)と「市が自主的な市民活動による景観づくり活動を支援する」(10.0%)を合わせると約7割と高くなっている一方、「市の主導によって景観づくりを行う」(6.1%)は1割未満と低くなっています。

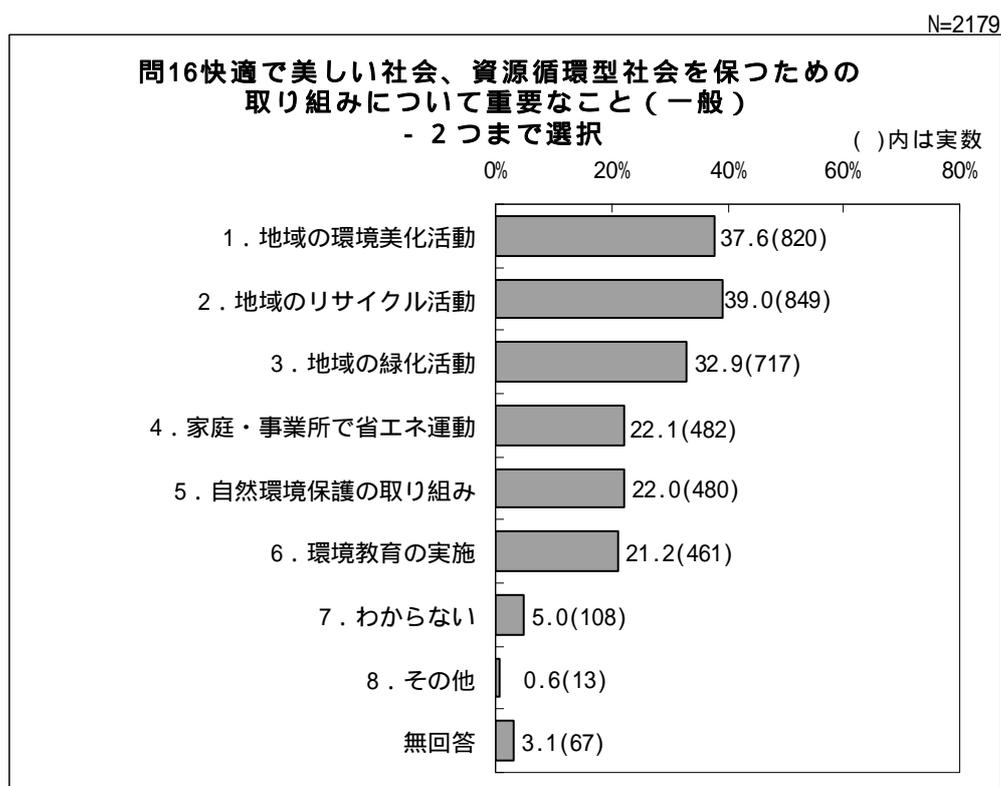


生活環境

ア 快適で美しい社会、資源循環型社会を保つための取り組みについて重要なこと

問 16 快適で美しい社会、資源循環の社会を保つための取り組みについて、どのようなことが重要と考えますか。次の中から2つまで選んで、番号に 印をつけて下さい。

「地域のリサイクル活動」(39.0%)、「地域の環境美化活動」(37.6%)の割合が同程度で高く、次いで「地域の緑化活動」(32.9%)の順となっており、地域ぐるみの取り組みが重要であるとする割合が高くなっています。



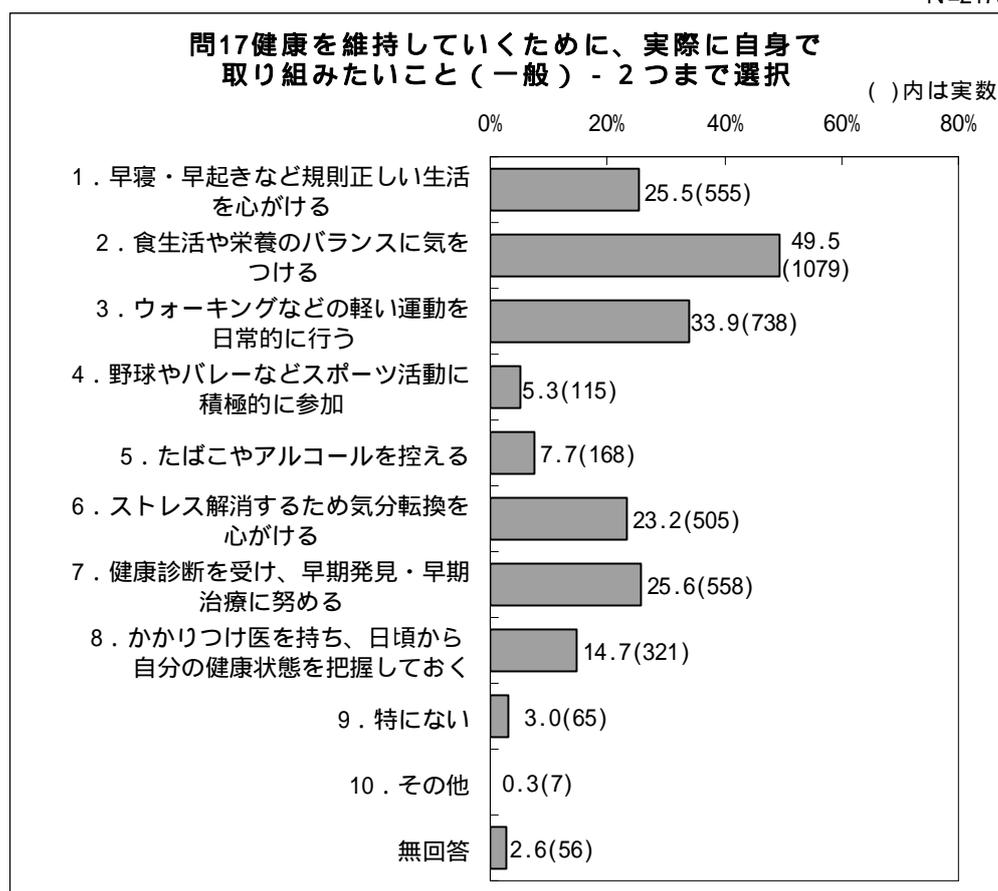
健康・福祉

ア 健康を維持していくために、実際に自身で取り組みたいこと

問17 できるだけ長く健康を維持していくために、実際に自身で取り組みたいことは何ですか。次の中から2つまで選んで、番号に 印をつけて下さい。

「食生活や栄養のバランスに気をつける」(49.5%)の割合が最も高く、次いで「ウォーキングなどの軽い運動を日常的に行う」(33.9%)、「健康診断を受け、早期発見・早期治療に努める」(25.6%)、「早寝・早起きなど規則正しい生活を心がける」(25.5%)の順となっています。

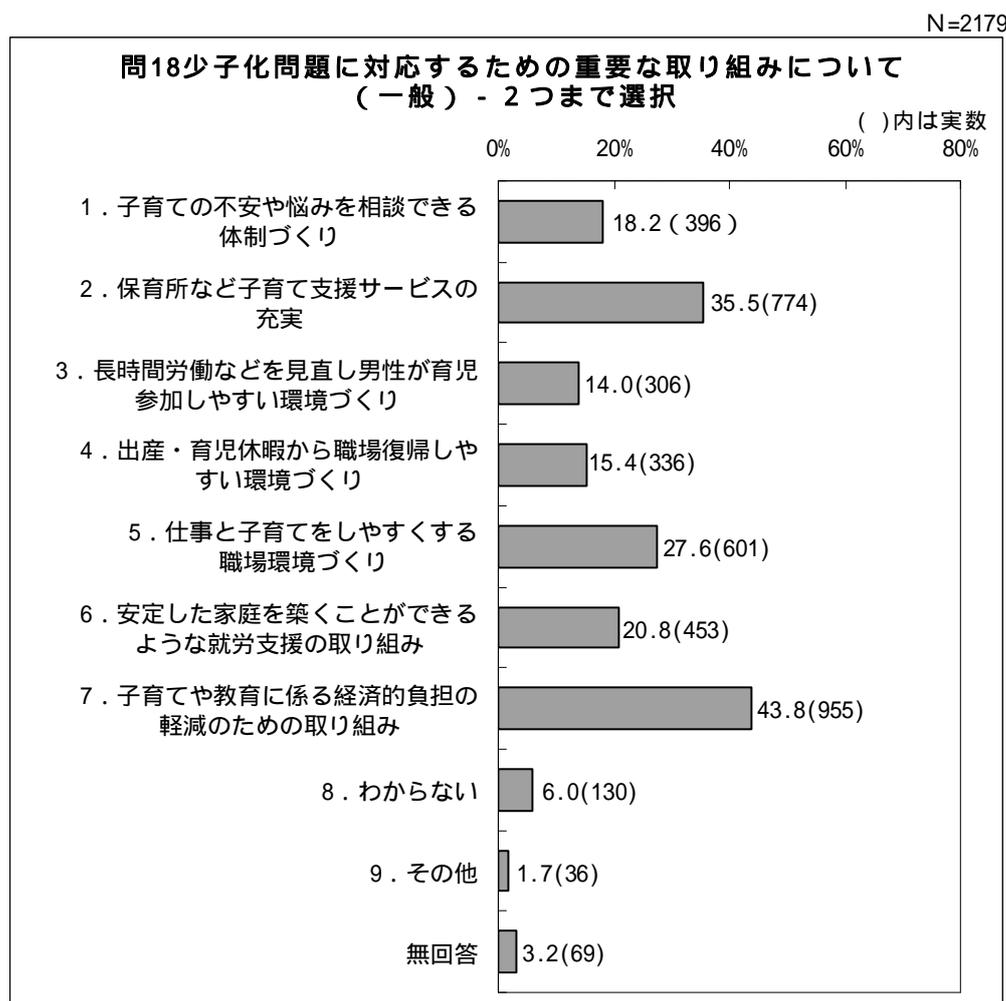
N=2179



イ 少子化問題に対応するための重要な取り組みについて

問 18 少子化問題に対応するためにどのような取り組みが重要と考えますか。次の中から2つまで選んで、番号に 印をつけて下さい。

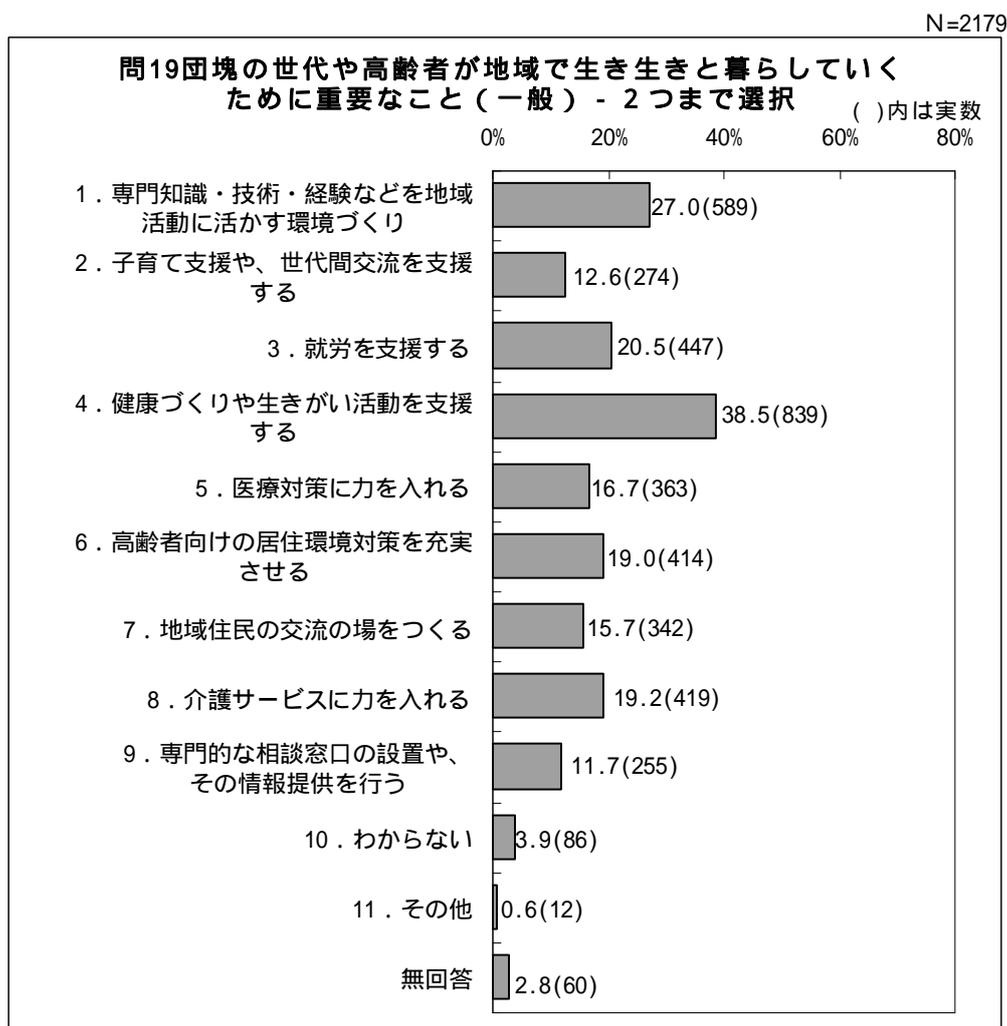
「子育てや教育に係る経済的負担の軽減のための取り組み」(43.8%)の割合が最も高く、次いで「保育所など子育て支援サービスの充実」(35.5%)、「仕事と子育てをしやすいとする職場環境づくり」(27.6%)の順となっており、“経済的負担の軽減”、“子どもを預ける場の充実”、“就労環境の改善”が求められていると考えられます。



ウ 団塊の世代や高齢者が地域で生き生きと暮らしていくために重要なこと

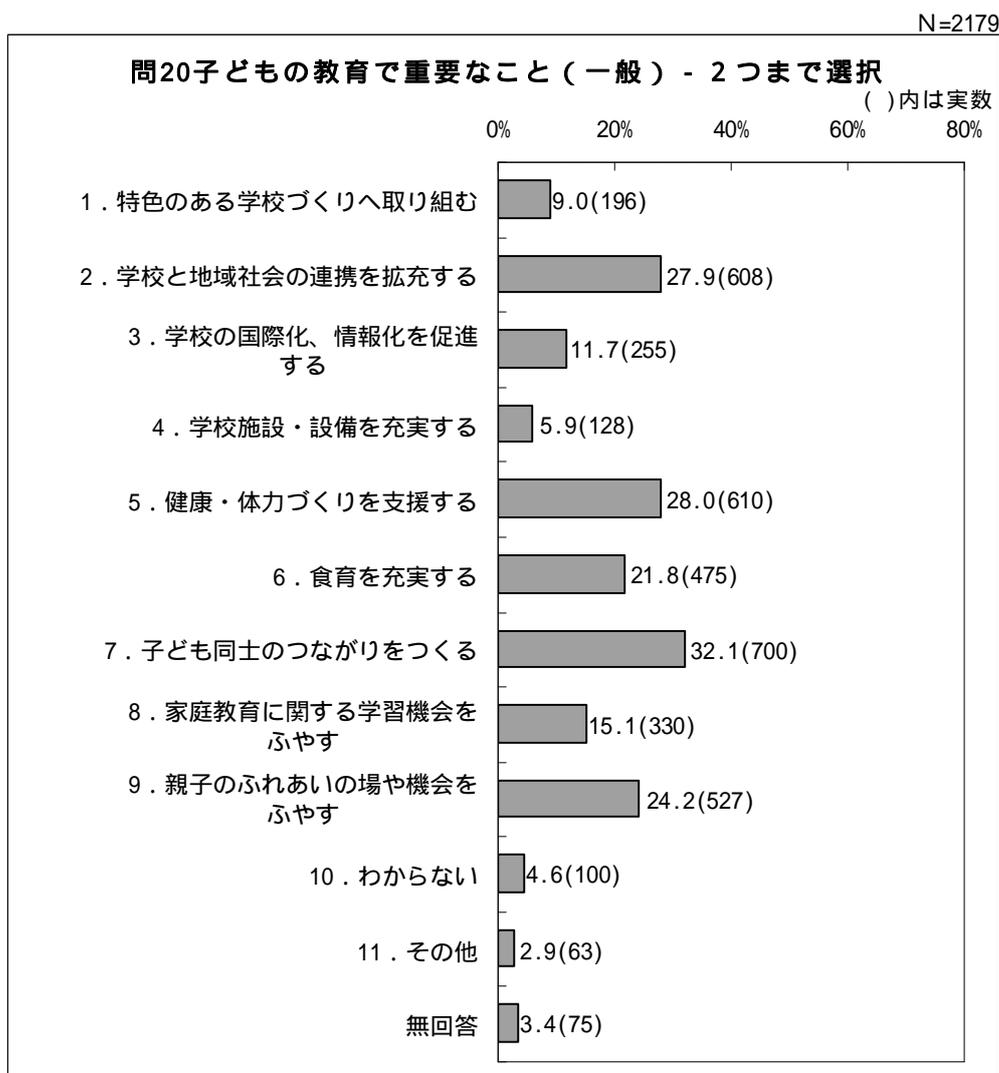
問19 団塊の世代や高齢者が地域で生き生きと暮らしていくためにはどのようなことが重要
 と思いますか。次の中から2つまで選んで、番号に 印をつけて下さい。

「健康づくりや生きがい活動を支援する」(38.5%)の割合が最も高く、「専門知識・技
 術・経験などを地域活動に活かす環境づくり」(27.0%)、「就労を支援する」(20.5%)
 「介護サービスに力を入れる」(19.2%)、「高齢者向けの居住環境対策を充実させる」
 (19.0%)の順となっています。



問20 子どもの教育で何が重要だと考えますか。次の中から2つまで選んで、番号に 印をつけて下さい。

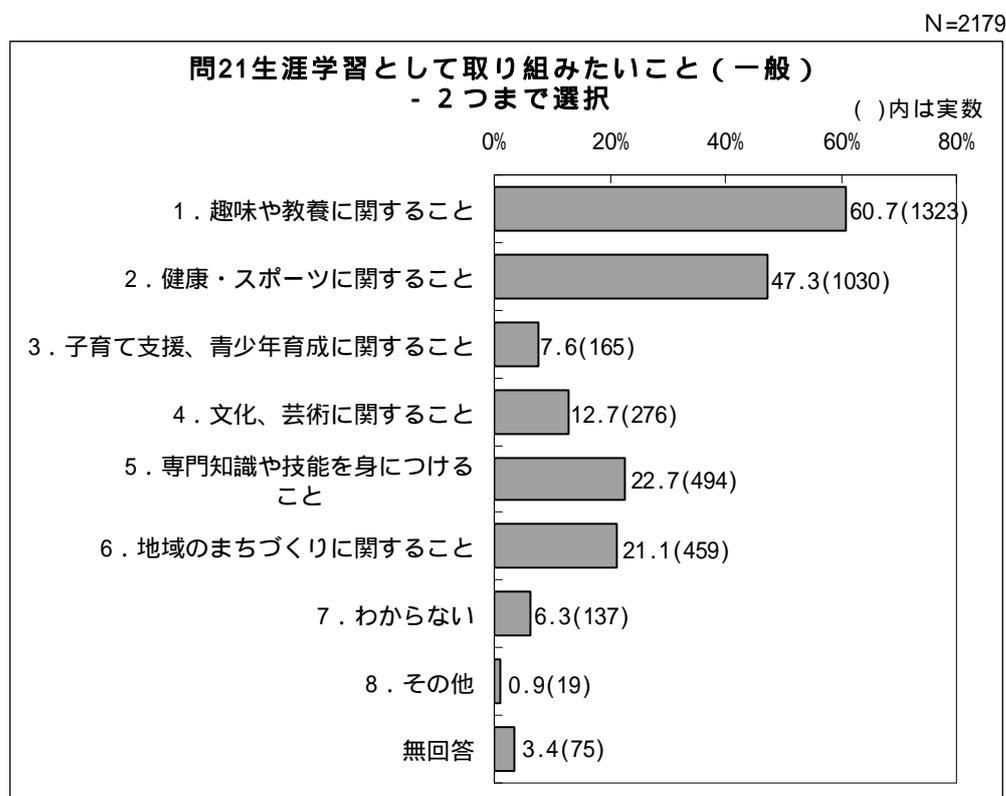
「子ども同士のつながりをつくる」(32.1%)の割合が最も高く、次いで「健康・体力づくりを支援する」(28.0%)、「学校と地域社会の連携を拡充する」(27.9%)の順となっています。



イ 生涯学習として取り組みたいこと

問21 生涯にわたって自分を高めるための生涯学習としてどのようなことに取り組んでいきたいですか。次の中から2つまで選んで、番号に 印をつけて下さい。

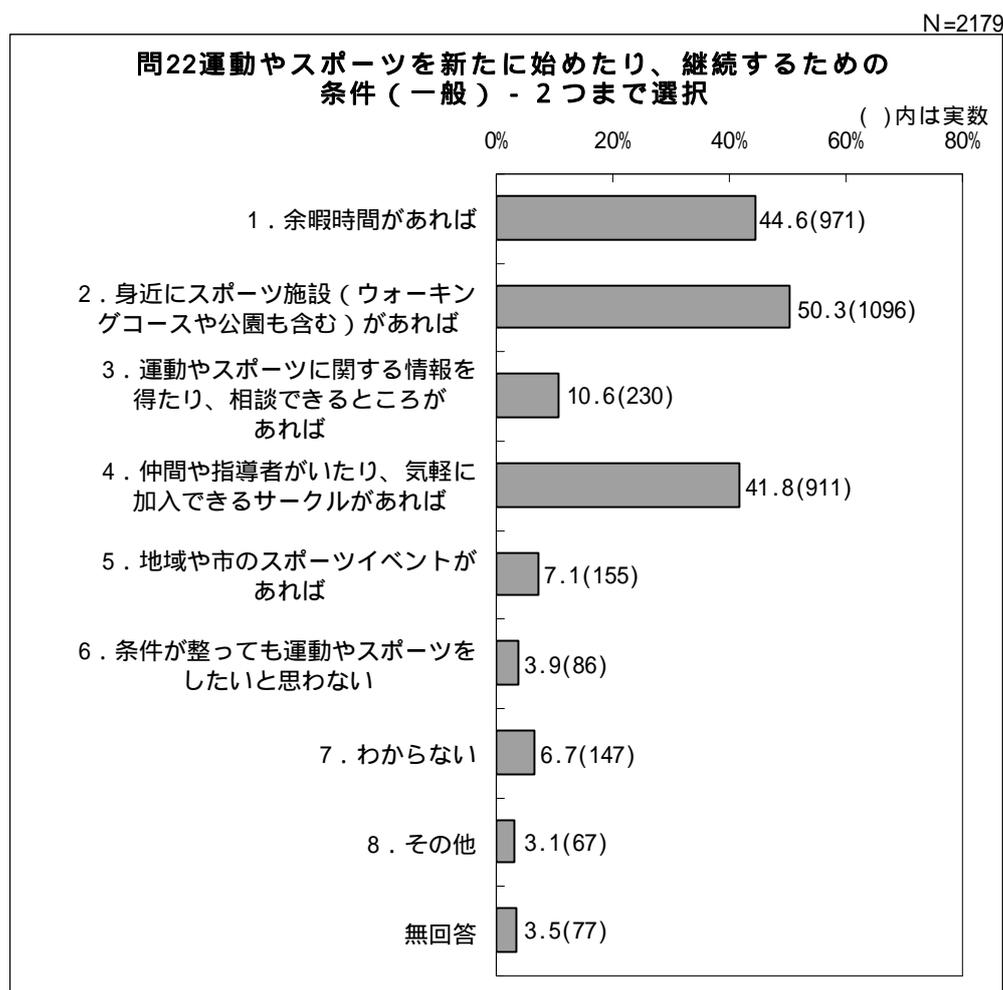
「趣味や教養に関すること」(60.7%)、「健康・スポーツに関すること」(47.3%)の割合が高くなっており、“趣味、教養、健康、スポーツ”への関心が高いことがうかがえます。



ウ 運動やスポーツを新たに始めたり、継続したりするための条件

問22 今後、運動やスポーツを新たに始めたり、継続したりするためにはどのような条件が整えばいいと思いますか。次の中から2つまで選んで、番号に 印をつけて下さい。

「身近にスポーツ施設があれば」(50.3%)の割合が最も高く、次いで「余暇時間があれば」(44.6%)、「仲間や指導者がいたり、気軽に参加できるサークルがあれば」(41.8%)の順となっています。

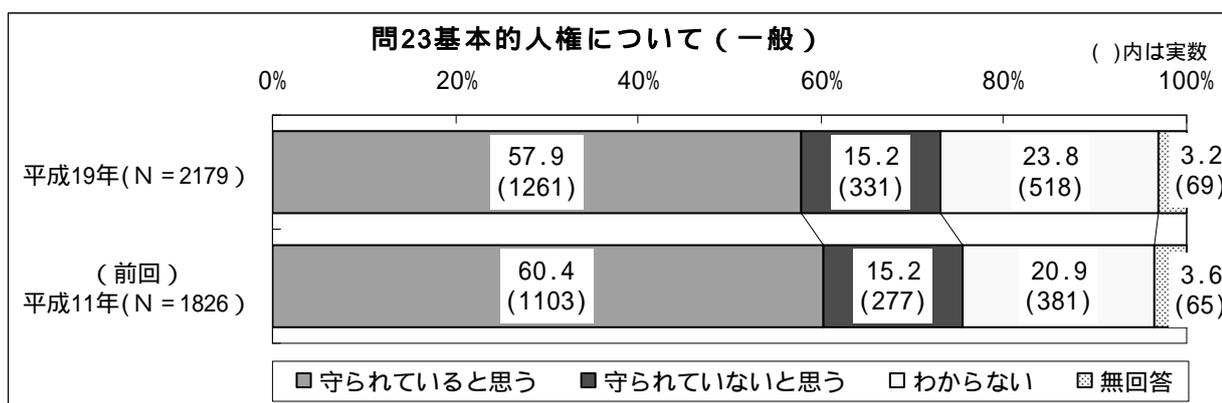


人権

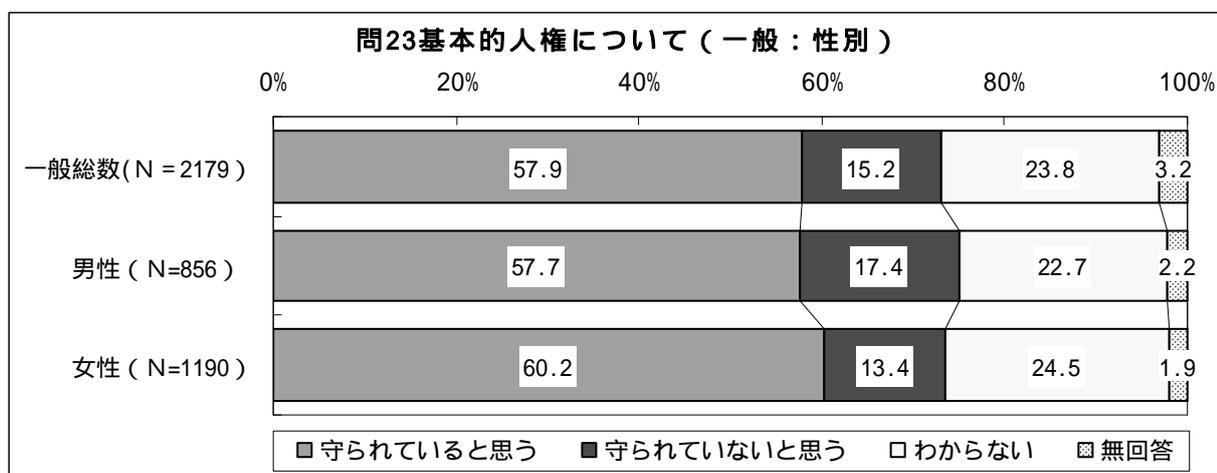
ア 基本的人権が守られているか

問 23 憲法では、すべての人が生まれながらに持っている権利（基本的人権）を守るため、個人の尊重、幸福の追求の権利、教育を受ける権利、勤労の権利などを定めていますが、あなたは自分自身の人権が守られていると思いますか。次の中から1つだけ選んで、番号に 印をつけて下さい。

基本的人権について「守られていると思う」(57.9%)が約6割と最も高くなっており、「守られていないと思う」(15.2%)を大きく上回っています。平成11年と比較すると、「守られていないと思う」の割合は変わりませんが、「守られていると思う」の割合がやや減少し、その分「わからない」がやや増加しています。



性別でみると、全体と同様の傾向ですが、「守られていないと思う」の割合は、男性(17.4%)が女性(13.4%)に比べてやや高くなっています。

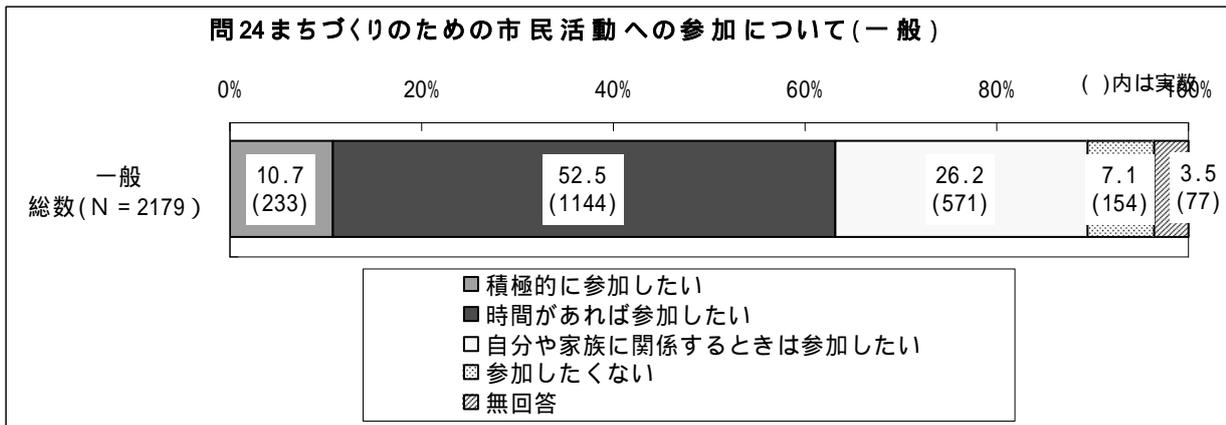


市民参画

ア まちづくりのための市民活動への参加

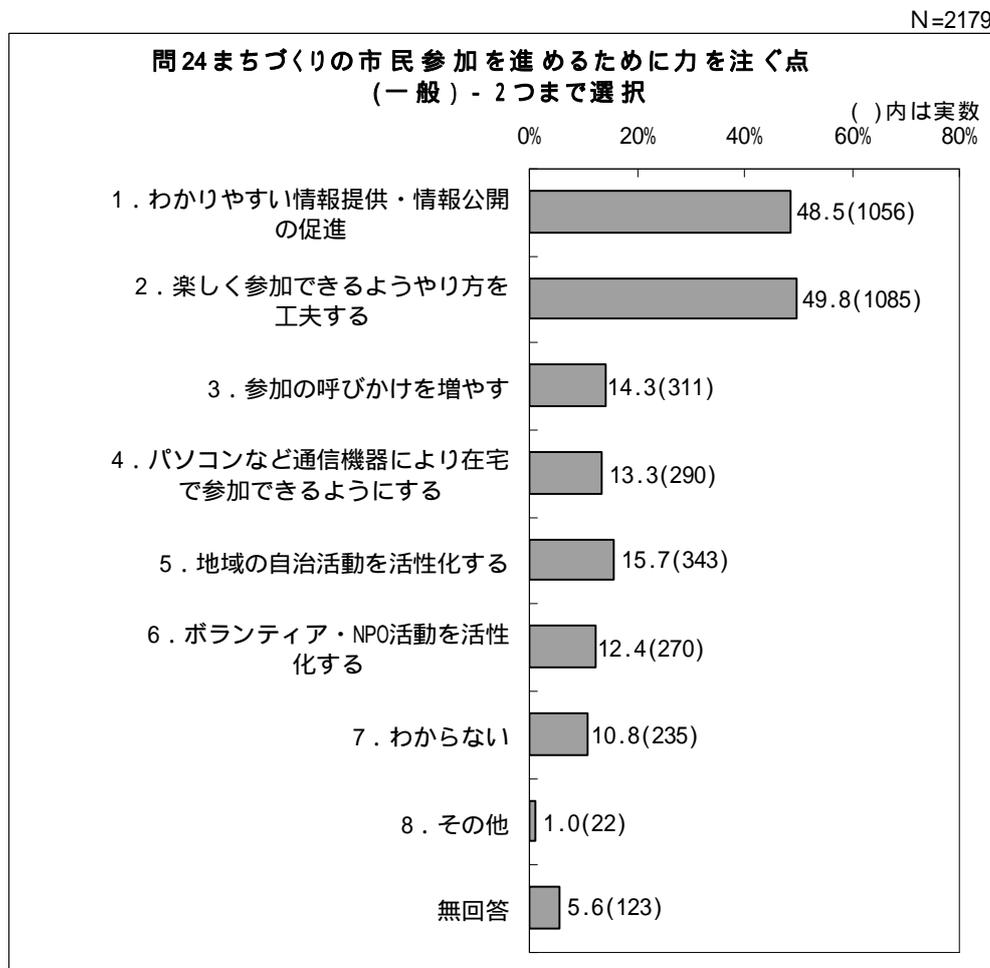
問 24 まちづくりのための市民活動への参加（清掃・緑化活動、お祭りなど地域行事、通学の見守り、地域の福祉活動）についてどう思いますか。次の中から1つだけ選んで、番号に 印をつけて下さい。

まちづくりのための市民活動への参加について、約9割が参加したいとの意向をもっています。その内訳として、「時間があれば参加したい」約5割、「自分や家族に関係するときは参加したい」約3割、「積極的に参加したい」は約1割となっています。



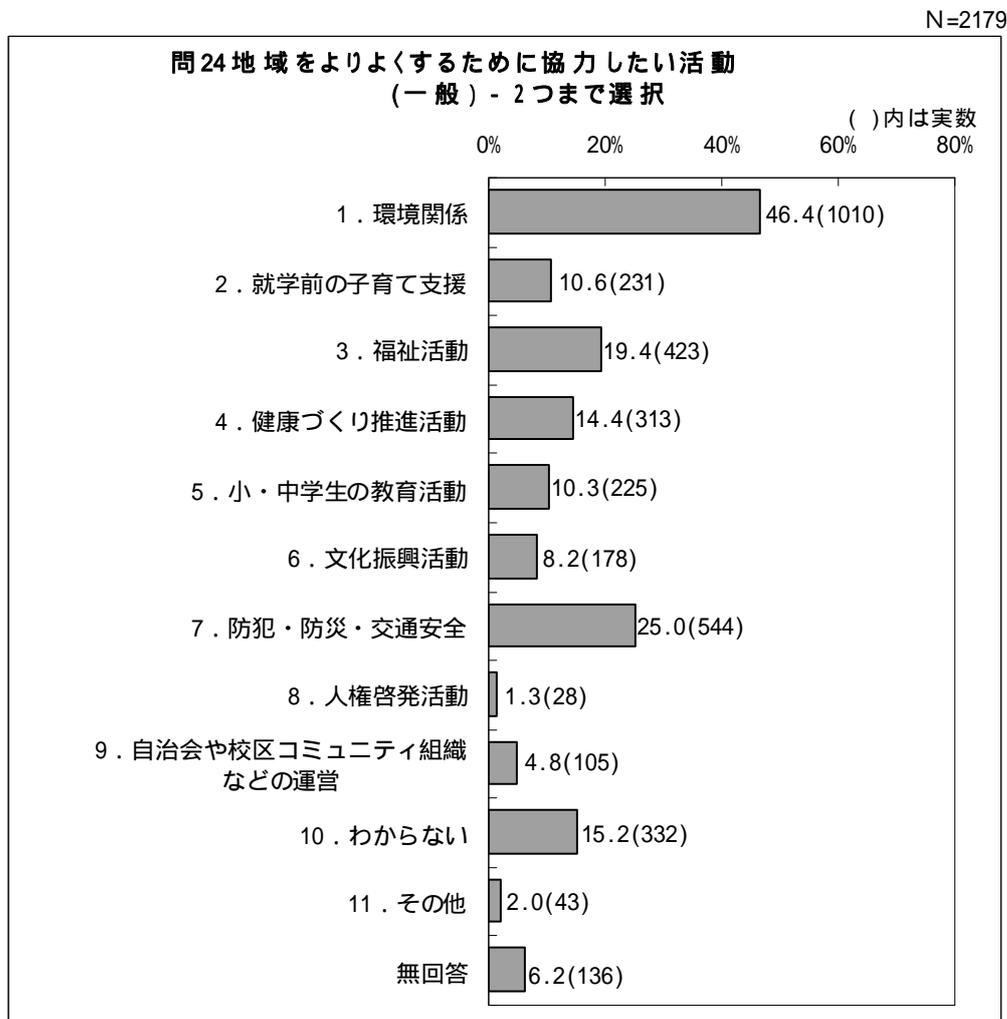
イ まちづくりの市民参加を進めるためにどのような点に力を注ぐとよいか

「楽しく参加できるようやり方を工夫する」(49.8%)、「わかりやすい情報提供・情報公開の促進」(48.5%)の割合が高くなっています。



ウ 地域をよりよくするためにどのような活動に協力したいか

協力したい活動としてリサイクル活動、花いっぱい運動などの「環境関係」(46.4%)の割合が最も高く、次いで「防犯・防災・交通安全」(25.0%)、「福祉活動」(19.4%)の順となっています。



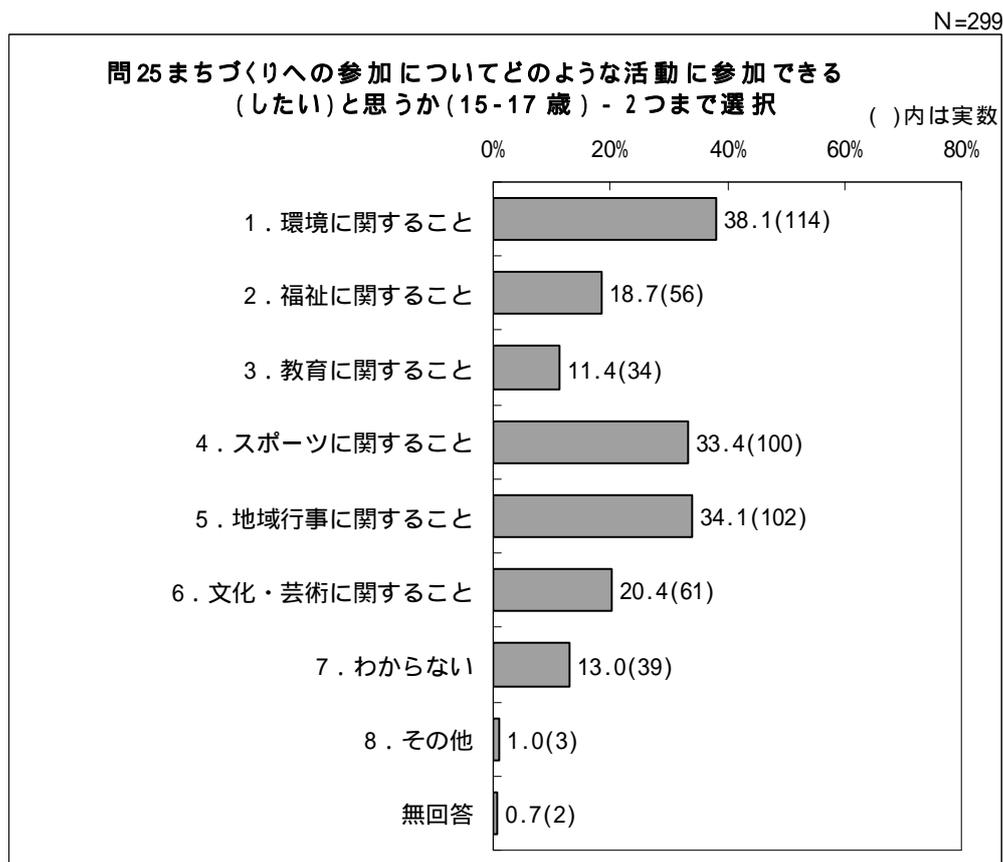
9)まちづくりへの参加意向

【15～17歳】まちづくりへの参加についてどのような活動に参加できる(したい)と思うか

【15～17歳】

問25 まちづくりには、市民のみなさんの活動参加がとても大切です。そこで、古賀市をよりよくするために、あなたはどのような活動に参加できる(したい)と思いますか。次の中から2つまで選んで、番号に印をつけて下さい。

「環境に関すること」(38.1%)、「地域行事に関すること」(34.1%)、「スポーツに関すること」(33.4%)の3つが参加したい活動の主なものとなっています。



- 2 転出者（市外者）アンケート調査結果

(1) 調査の概要

1) 調査の目的

本調査は、内側からだけでなく外側から見た古賀市像を把握し、第4次古賀市総合振興計画策定に生かすことを目的に実施した。

2) 調査対象

過去に古賀市に住んだ経験のある市外在住者（市役所職員の知人）

3) 調査方法

郵送による配布、回収

4) 調査期間

平成21年9～10月

5) 回収状況

- ・ 配布数 218 票
- ・ 回収数 181 票
- ・ 回収率 83.0%

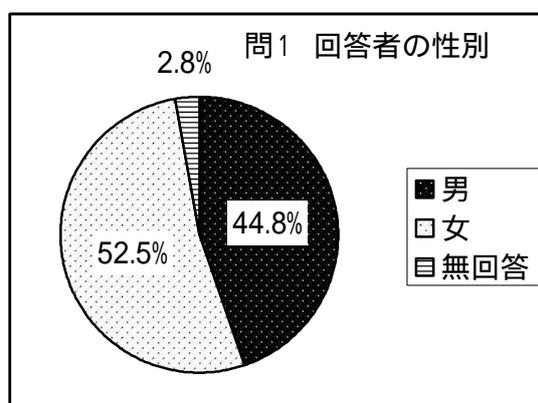
(2) 調査の結果

1) 回答者・世帯主の属性について

問1 あなたの性別を教えてください。（1つに 印）

男性44.8%、女性52.5%で女性が若干多くなっている。

男	81
女	95
無回答	5
計	181

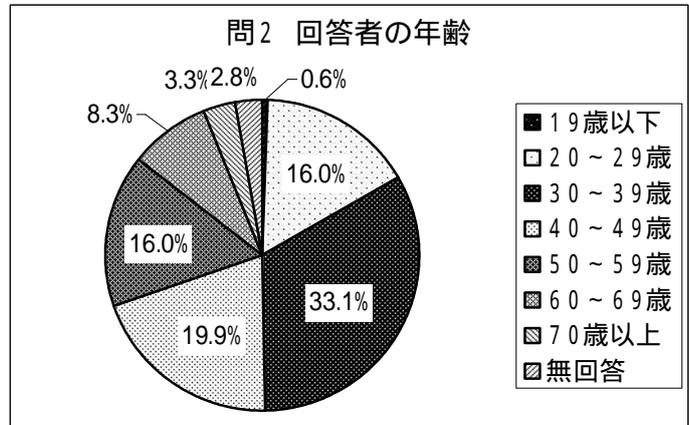


問2 あなたの年齢（満年齢）を教えてください。（1つに 印）

30～39歳までが33.1%と最も多く、次いで40～49歳（19.9%）、20～29歳・50～59歳（16.0%）となっている。

39歳以下の者が占める割合が約半数（49.7%）となっている。

19歳以下	1
20～29歳	29
30～39歳	60
40～49歳	36
50～59歳	29
60～69歳	15
70歳以上	6
無回答	5
合計	181

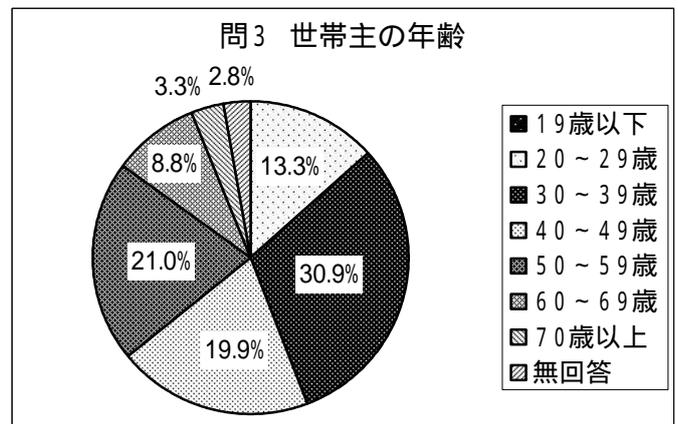


問3 世帯主の年齢（満年齢）を教えてください。（1つに 印）

30～39歳までが30.9%と最も多く、次いで40～49歳（19.9%）、50～59歳（21.0%）となっている。

39歳以下の者が占める割合は44.2%となっている。

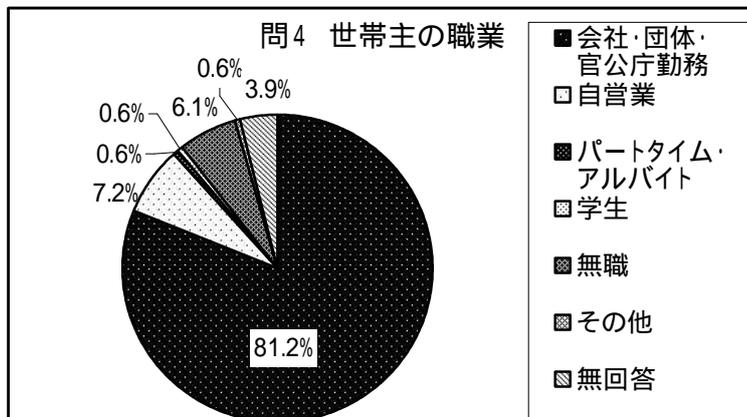
19歳以下	0
20～29歳	24
30～39歳	56
40～49歳	36
50～59歳	38
60～69歳	16
70歳以上	6
無回答	5
合計	181



問4 世帯主の職業を教えてください。(1つに 印)

「会社・団体・官公庁勤務」が最多で81.2%となっており、次いで「自営業」(7.2%)、「無職」(6.1%)となっている。

会社・団体・官公庁勤務	147
自営業	13
パートタイム・アルバイト	1
学生	1
無職	11
その他	1
無回答	7
合計	181

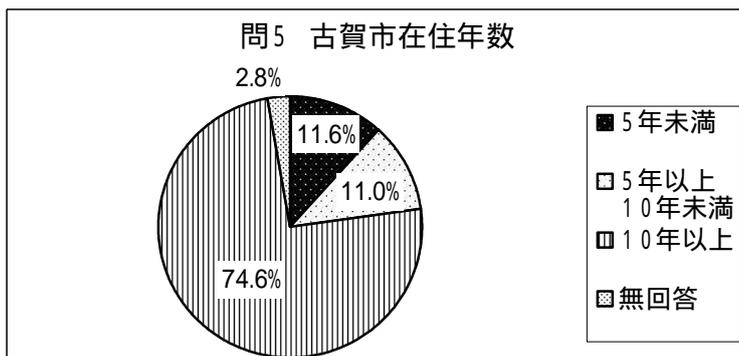


2) 引越しについて

問5 古賀市にどのくらいお住まいでしたか。(1つに 印)

「10年以上」が最も多く74.6%となっており、次いで5年未満(11.6%)、5年以上10年未満(11.0%)となっている。これは、アンケートの対象が主に「職員の知人」であることが要因として考えられる。

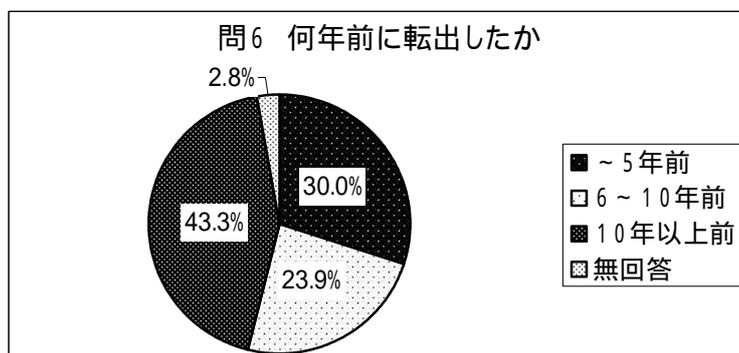
5年未満	21
5年以上10年未満	20
10年以上	135
無回答	5
合計	181



問6 古賀市からいつ引越されましたか。(1つに 印)

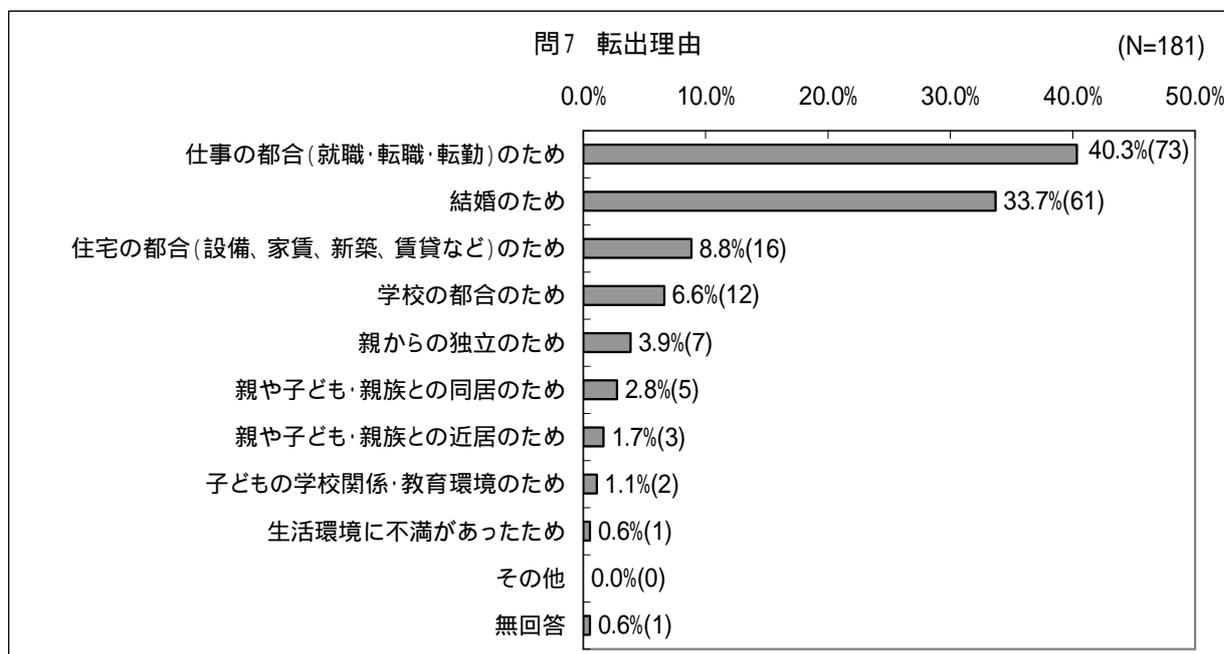
「10年以上前」が最多で43.3%となっている。次いで「～5年前」(30.0%)、「6～10年前」(23.9%)となっており、それらを合わせた「～10年前」が半数以上(53.9%)となっている。

～5年前	54
6～10年前	43
10年以上前	78
無回答	5
合計	181



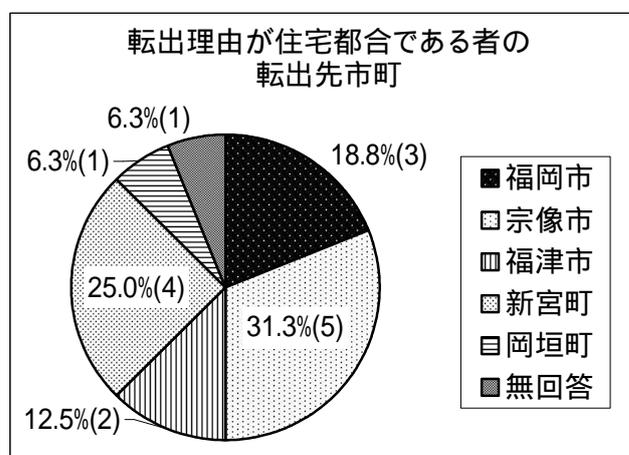
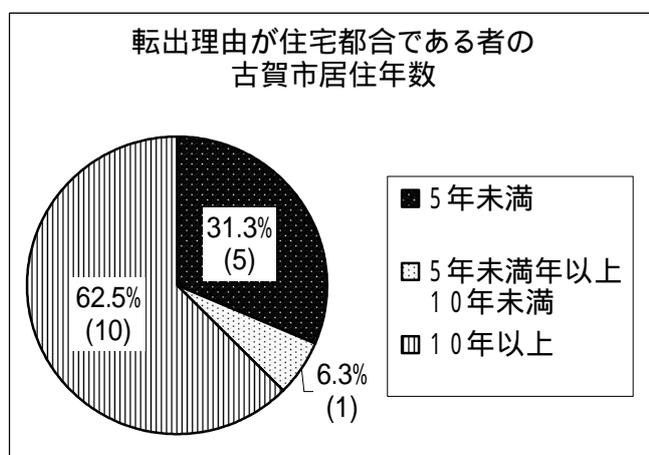
問7 引越しすることになった最も大きな理由は何ですか。(1つに 印)

「仕事の都合のため」が最多で40.3%、次いで「結婚のため」が33.7%となっており、古賀市が引越し先の選択対象となることできない可能性が高い2つの理由が全体の74.0%を占めている。古賀市が引越し先の選択対象となりえる「住宅の都合のため」、「親からの独立のため」、「子どもの学校関係・教育関係のため」、「生活環境に不満があったため」は、合わせて14.4%となっている。



転出理由が「住宅の都合のため」である者の状況を参考として詳細に見てみると、居住年数は「10年以上」が最多で62.5%を占めている。

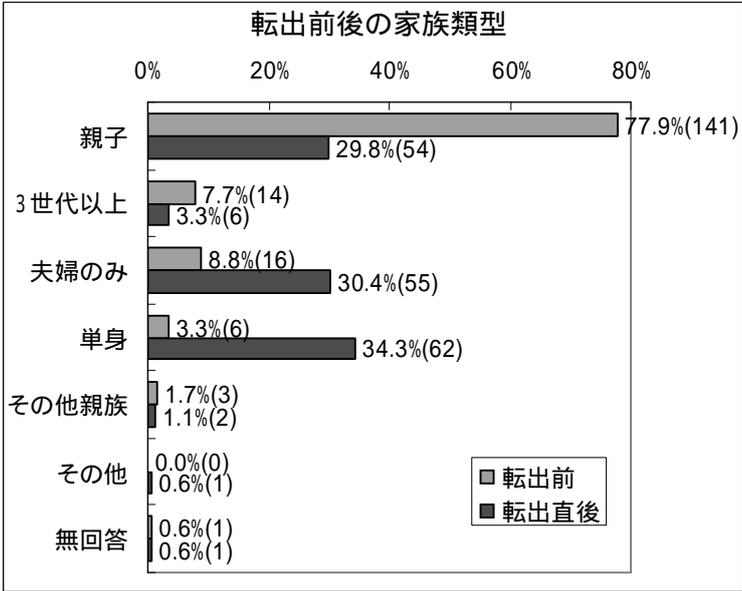
転出先は「宗像市」が最多で31.3%、次いで「新宮町」(25.0%)となっている。全体の転出先(後述)は福岡市が最多(25.4%)、「宗像市」、「新宮町」はそれぞれ6.6%、5.5%となっている。



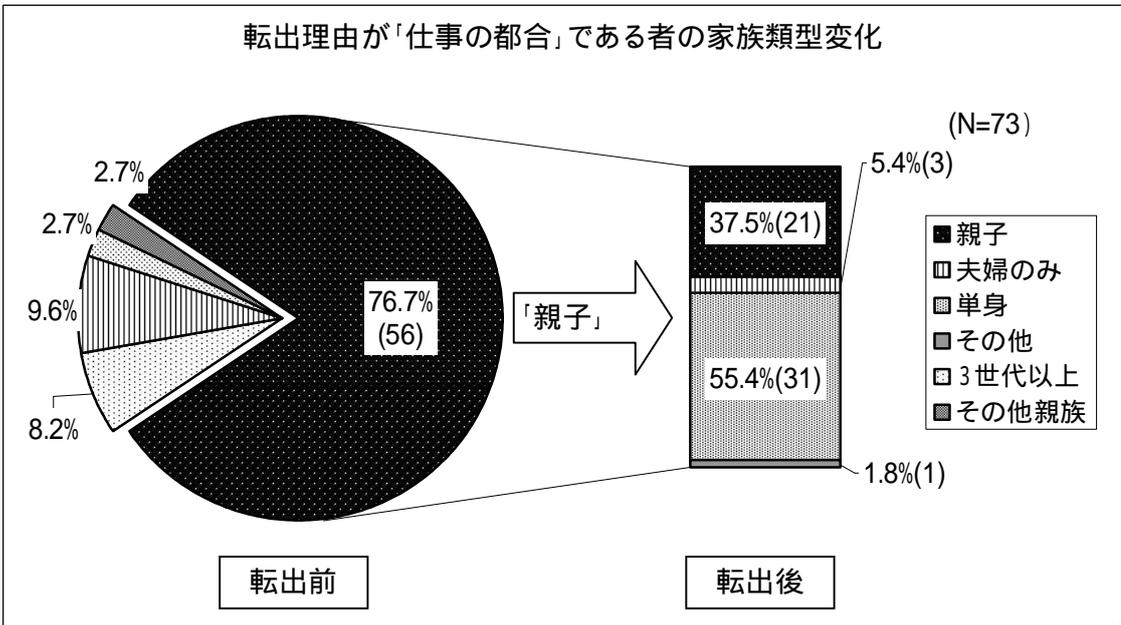
問8 引越し前と引越し直後の家族構成について教えてください。
 (引越し前、引越し直後それぞれ同居されていた方すべてに 印)

転出前の家族類型は「親子」が約8割を占めているが、転出直後では「単身」が最も多く34.3%、次いで「夫婦のみ」30.4%となっており、「親子」は29.8%に減少している。(「親子」には、配偶者の親との同居、結婚により新たに子どもと同居することになった世帯も含まれる。)これは、転出理由が「仕事都合」「結婚」によるものであることが多いことが要因であると考えられる。

	転出前	転出直後
一人住まい	6	61
配偶者	42	106
祖父	12	1
祖母	17	5
父	116	13
母	124	13
子ども	32	46
孫	1	1
兄弟	104	5
その他	2	4
無回答	1	1



転出理由が「仕事のため」である者の中で、転出前に「親子」であった者の家族類型の変化を調べると、「仕事都合」である場合でも、転出により家族類型が変わることが多いことがわかる。

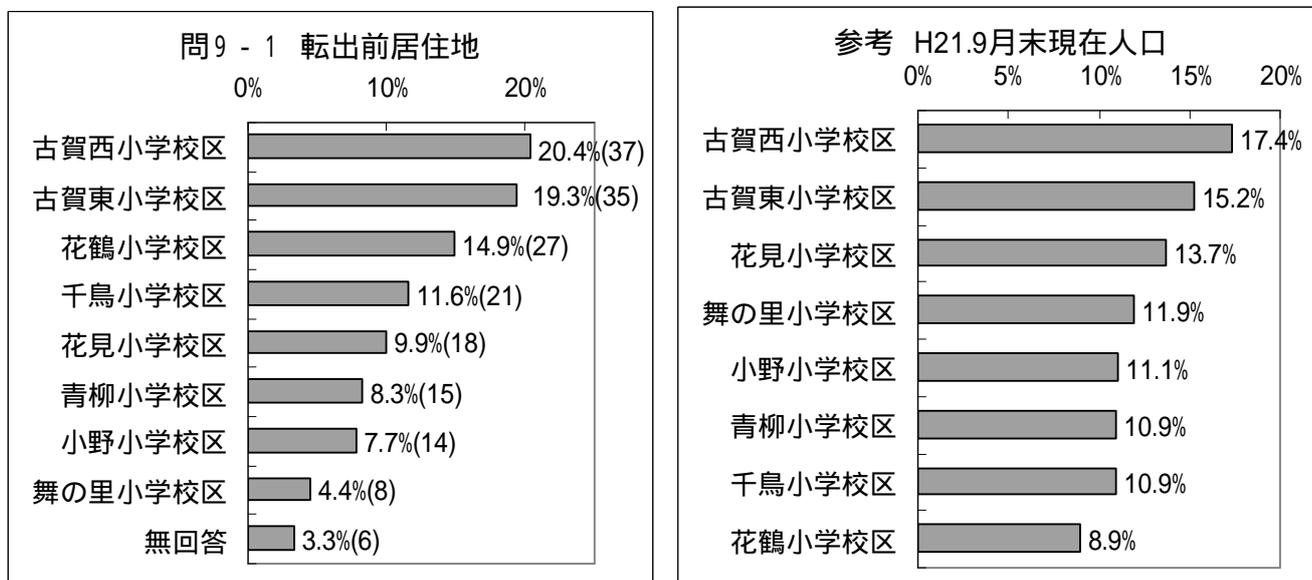


問9 引越し前と引越し直後の居住地について教えてください。

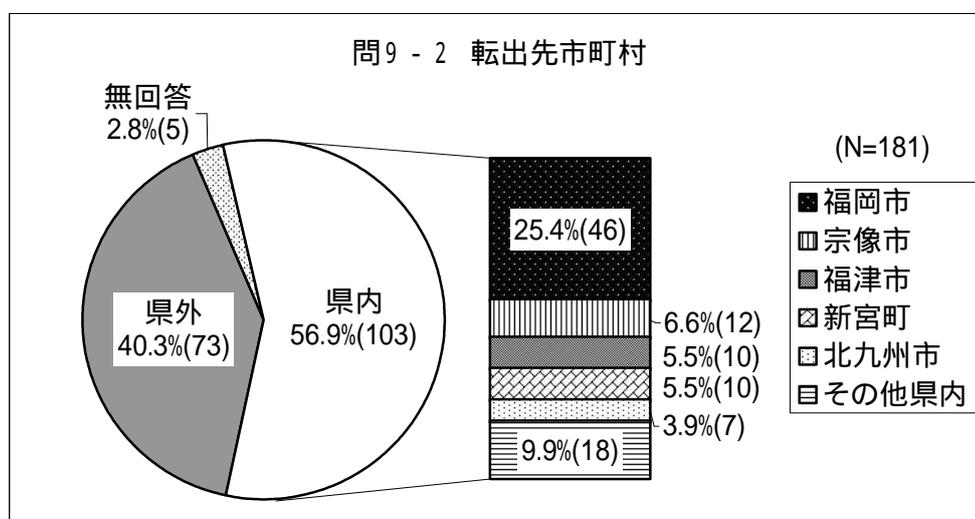
(引越し前、引越し直後それぞれ1つに 印)

転出前居住地は多いほうから古賀西小学校区(20.4%)、古賀東小学校区(19.3%)となっている。

参考として、H21.9月末現在の小学校区ごとの人口を示している。

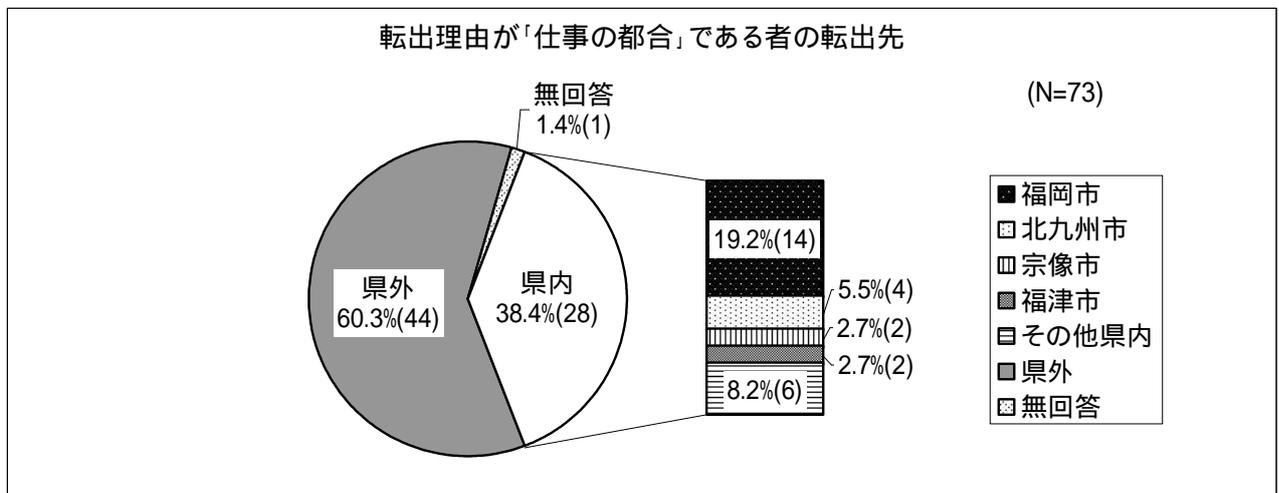


県内への転出先は福岡市が最多であり、25.4%を占めている。また、近隣市町への移動も多く、福岡市・宗像市・福津市・新宮町といったJR鹿児島本線・3号線に沿った近隣市町への転出が、全体の43.0%を占めている。



転出が「仕事の理由」である者の転出先を調べると、60.3%が県外であるが、38.4%は県内であり、福岡市が最多となっている。また、「その他県内」のうち4名は福岡都市圏市町へ転出しており、転出先が福岡都市圏である者は、30.1%にのぼる。

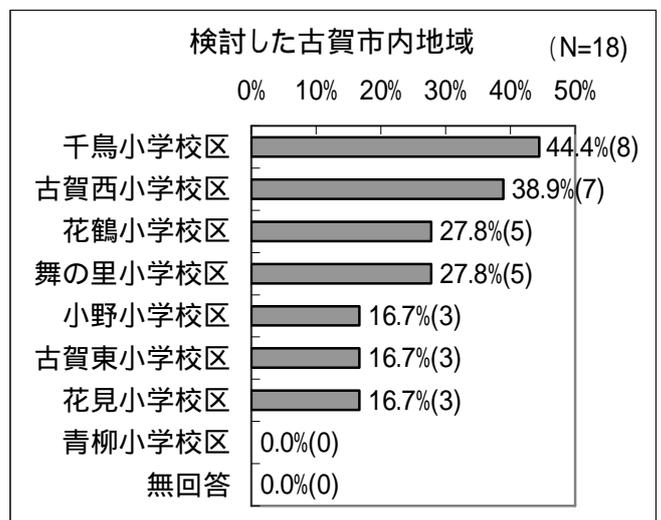
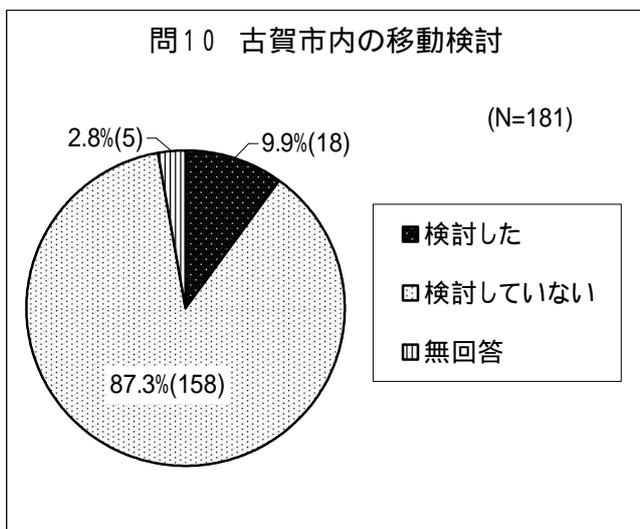
転出先が福岡都市圏市町である者の家族類型の変化をみると、転出前に「親子」であった15名の者のうち、53.3%に当たる8名が転出後に「単身」となっており、就職を契機に親から独立する者が、職場が通勤圏内であっても古賀市から転出しているのではないかと推測される。



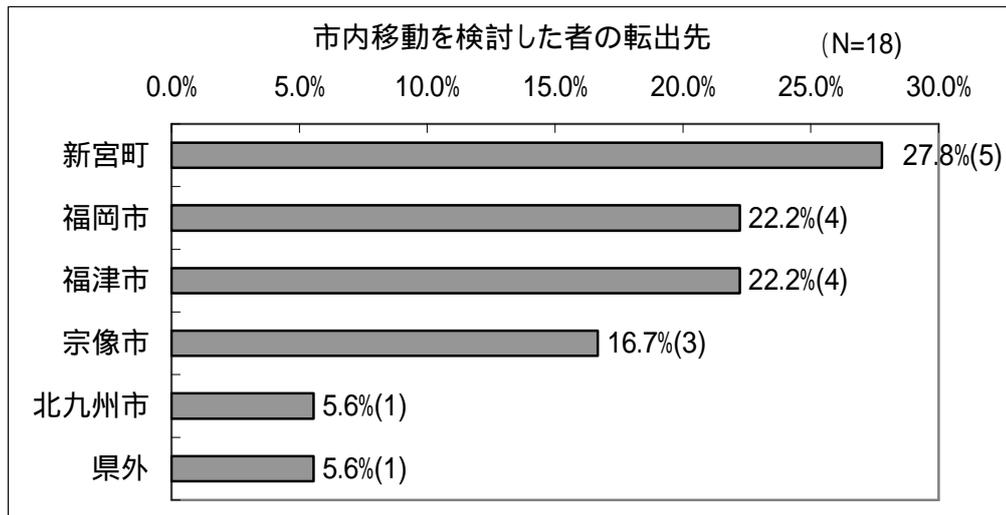
問10 引越し先に古賀市内での移動を検討されましたか。(1つに 印)

古賀市内での移動を検討したのは全体の約1割にすぎず、転出者の約5割が生活環境の類似した福岡都市圏へ移動していることからみても割合的に少ないと思われる。

地域は、市内移動を検討した18人のうち44.4%にあたる8人が千鳥小学校区をあげており、最多となっている。



市内移動を検討した者のうち、88.9%の者が福岡市・宗像市・福津市・新宮町といったJR鹿児島本線・3号線に沿った近隣市町へ転出している。

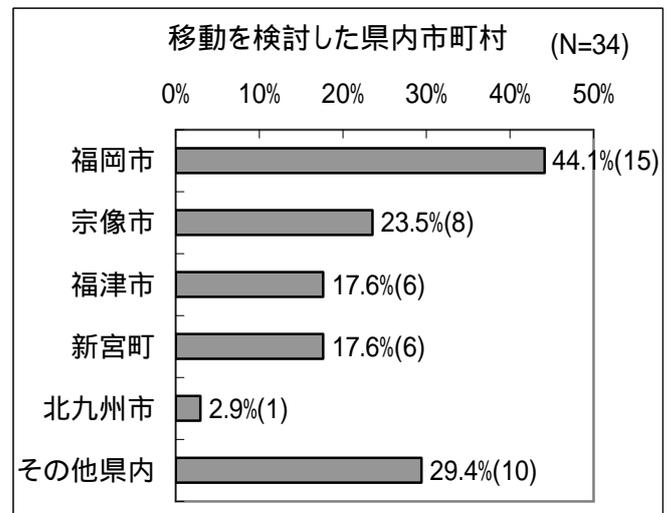
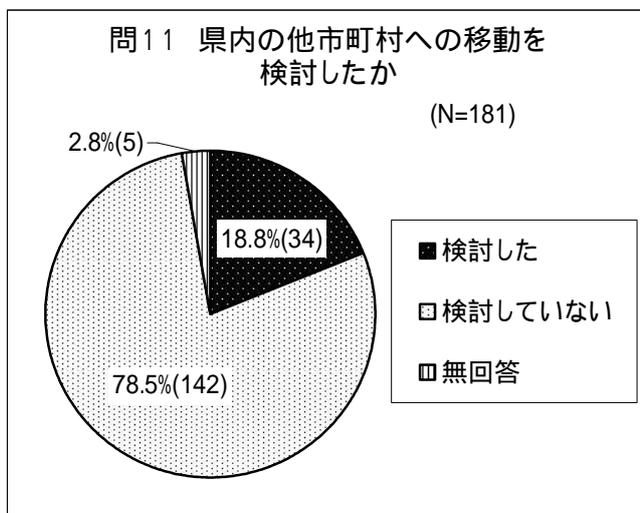


問 1 1 引越し先に福岡県内での移動を検討されましたか。

県内へ転出した者の29.1%、県外へ転出した者の5.5%が転出先とは別の県内市町村を検討している。

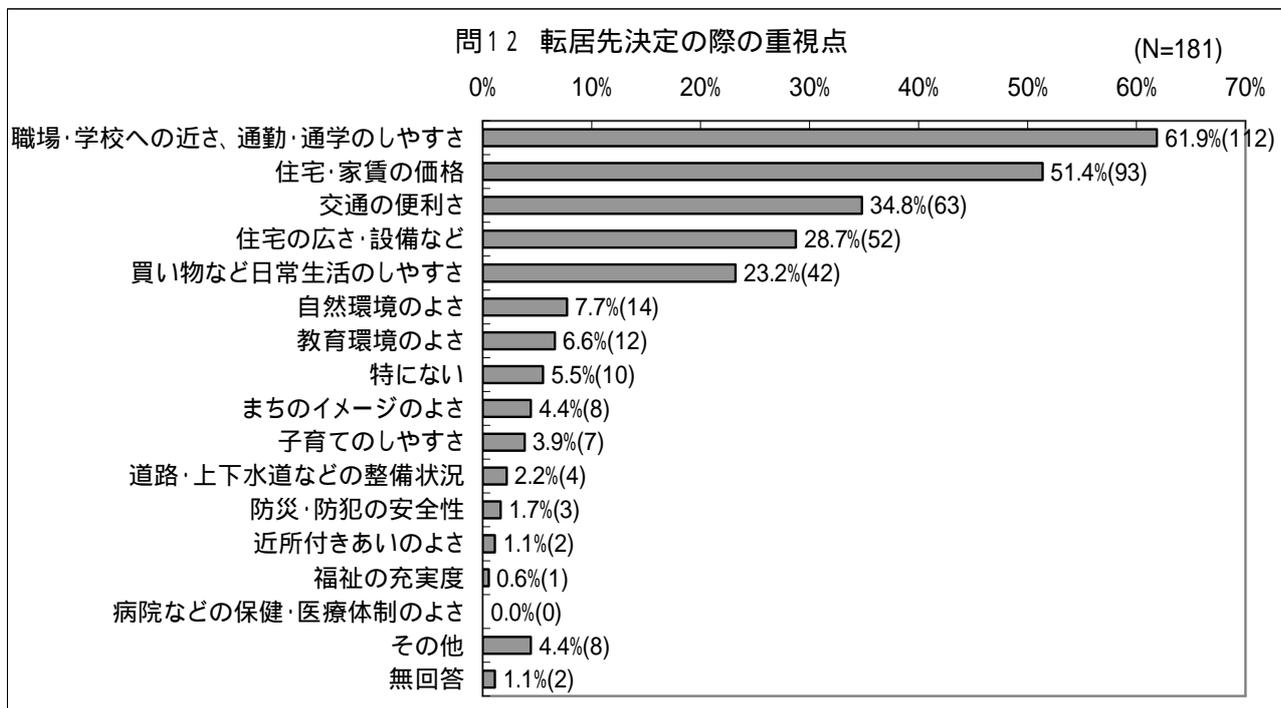
県内移動を検討した者の44.1%が転出先に福岡市を検討しており、最多となっている。

「その他県内」に含まれる市町村は1件を除き福岡都市圏内にある市町村であり、移動先として検討される市町村のほとんどが福岡都市圏内である。



問12 引越し先を選ぶ時にどういった点を重視されましたか。
(主なもの3つ以内に 印)

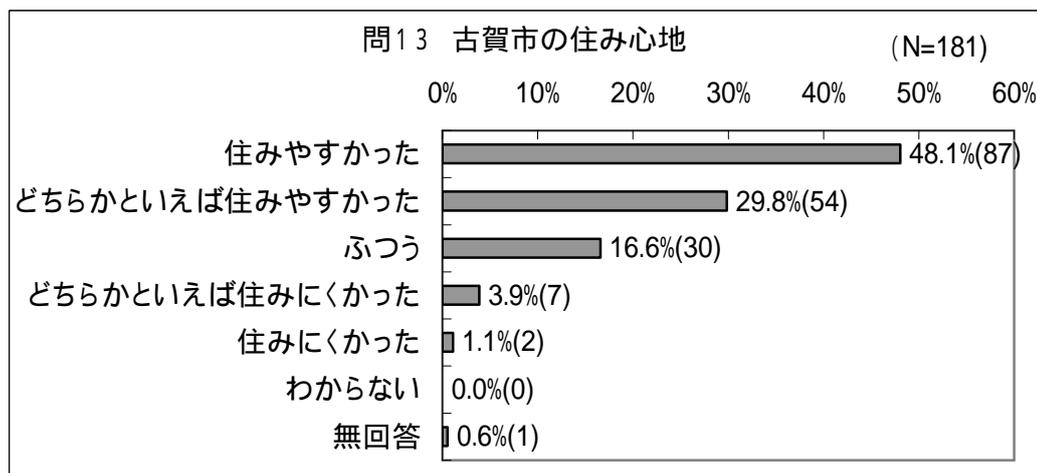
半数以上の者が「職場・学校への近さ、通勤・通学のしやすさ」、「住宅・家賃の価格」をあげている。



3) 古賀市について

問13 古賀市の住み心地はどうでしたか。(1つに 印)

「住みやすかった」「どちらかといえば住みやすかった」を合わせた『住みやすかった』と回答した者は、全体の77.9%にのぼる。また、「住みにくかった」「どちらかといえば住みにくかった」を合わせた『住みにくかった』と回答した者は、全体の5.0%である。

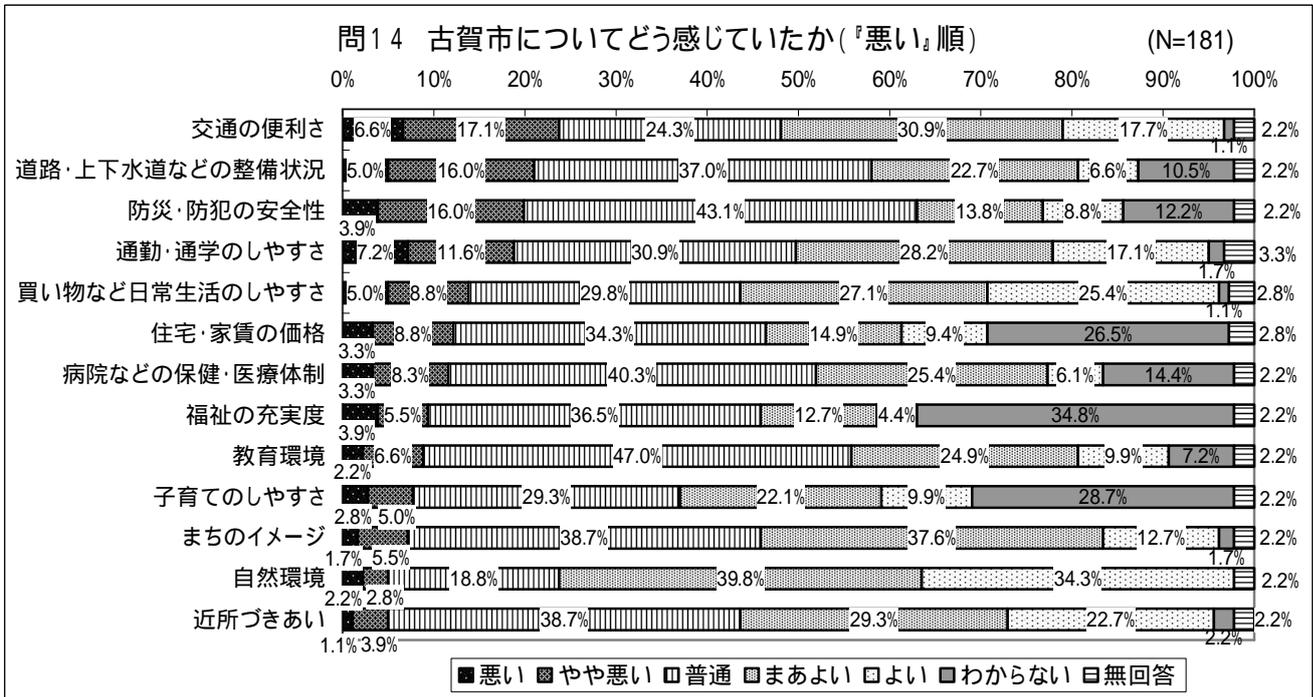
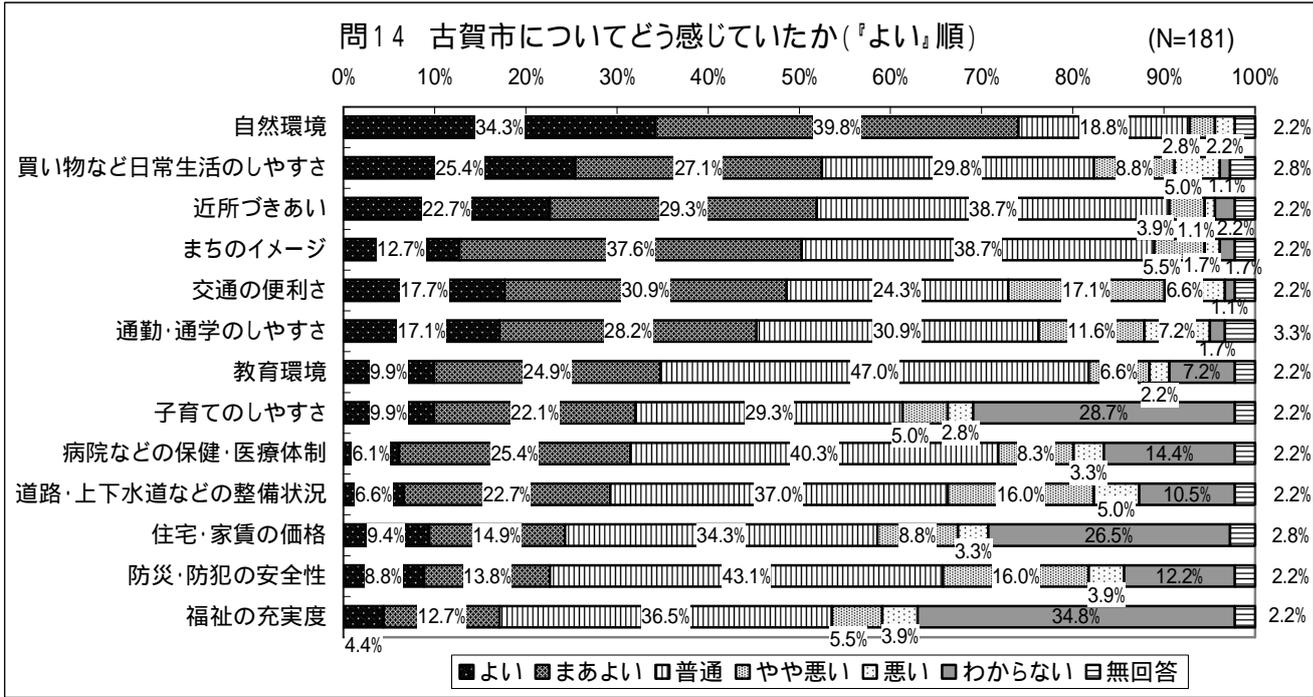


問14 古賀市についてどう感じていましたか。(選択肢の中からそれぞれ1つに 印)

「よい」と「まあよい」を合わせた『よい』と答えた人は、「自然環境」が最も多く、74.1%にのぼっている。「自然環境」、「買い物など日常生活のしやすさ」、「近所づきあい」、「まちのイメージ」の4項目で、『よい』と答えた人が過半数を上回っている。

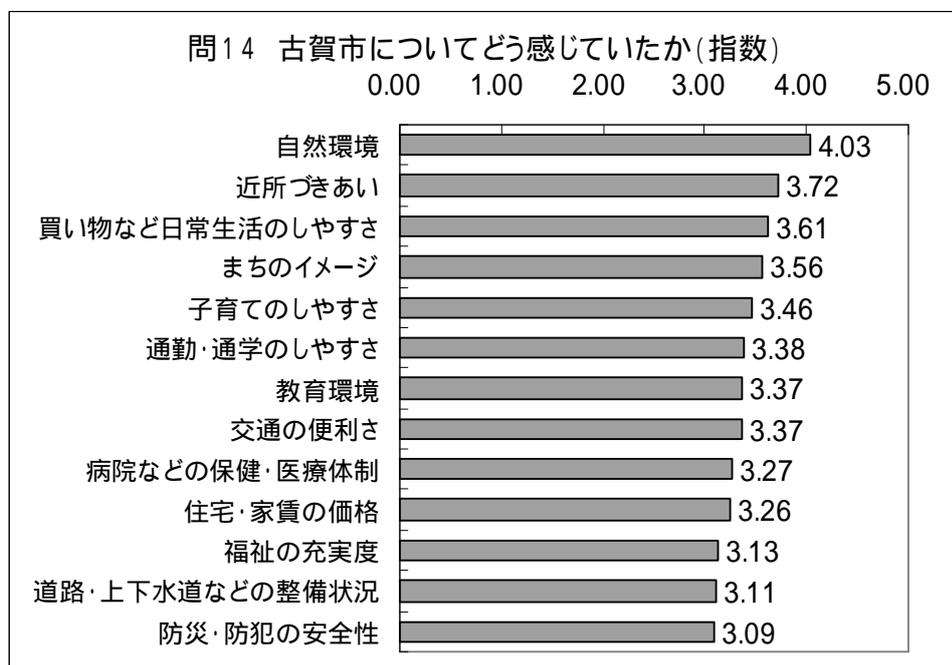
「やや悪い」と「悪い」を合わせた『悪い』と答えた人が多かったのは「交通の便利さ」、「道路・上下水道の整備状況」であり、2割を上回っている。

「交通の便利さ」は『よい』と答えた人が13項目中5番目に多かったのに対し、『悪い』と答えた人は13項目中最も多く、『よい』と答える人と『悪い』と答える人の差が大きい項目となっている。



指数化したものをみると、『よい』と答えた者が最も多かった「自然環境」が、指数も最も良い。

指数が最も低い「防犯・防災の安全性」は『よい』と答えた人が13項目中2番目に少なく、『悪い』と答えた人が3番目に多い。

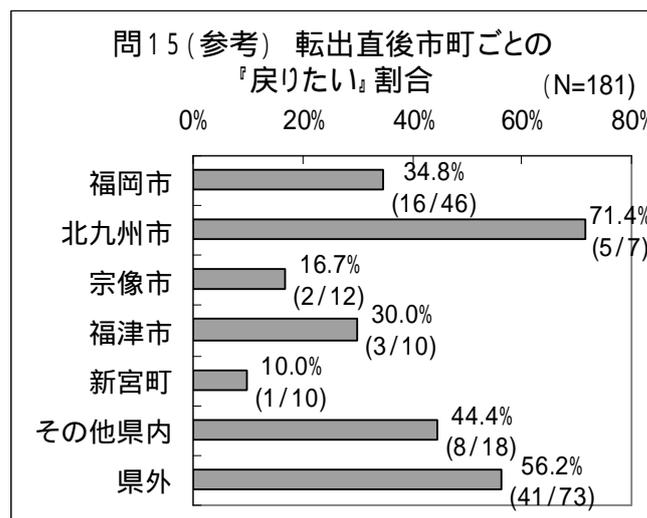
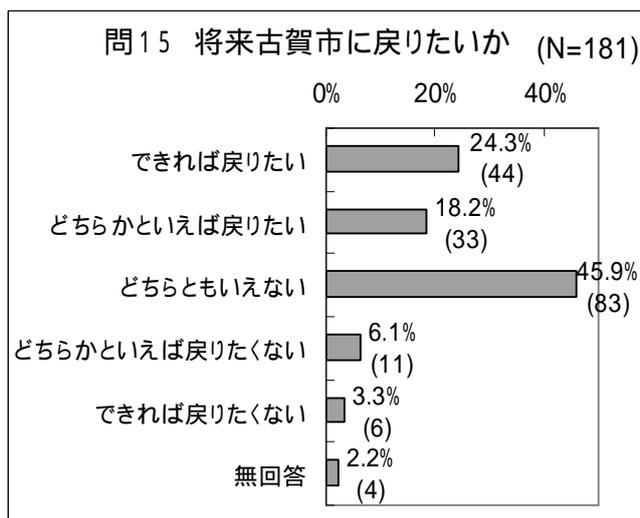


「よい」+ 5、
「ややよい」+ 4、
「普通」+ 3、
「やや悪い」+ 2、
「悪い」+ 1
として加重平均し、
指数化したもの。
(「わからない」、
「無回答」は

問15 将来、古賀市に戻りたいと思いますか。(1つに 印)

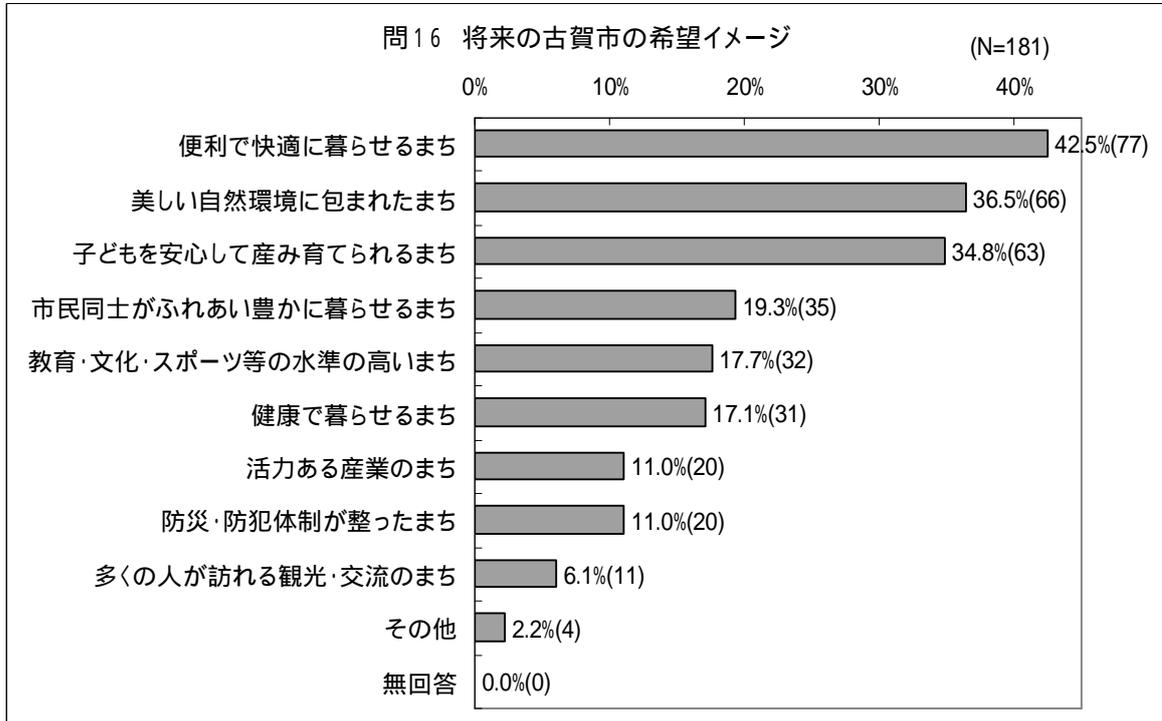
「どちらともいえない」が最多で 45.9%となっている。「できれば戻りたい」「どちらかといえば戻りたい」を合わせた『戻りたい』は 42.5%、「どちらかといえば戻りたくない」「できれば戻りたくない」を合わせた『戻りたくない』は 9.4%となっている。

転出直後の居住市町ごとに見ると、近隣市町への転出者においては『戻りたい』意向が低くなっている。



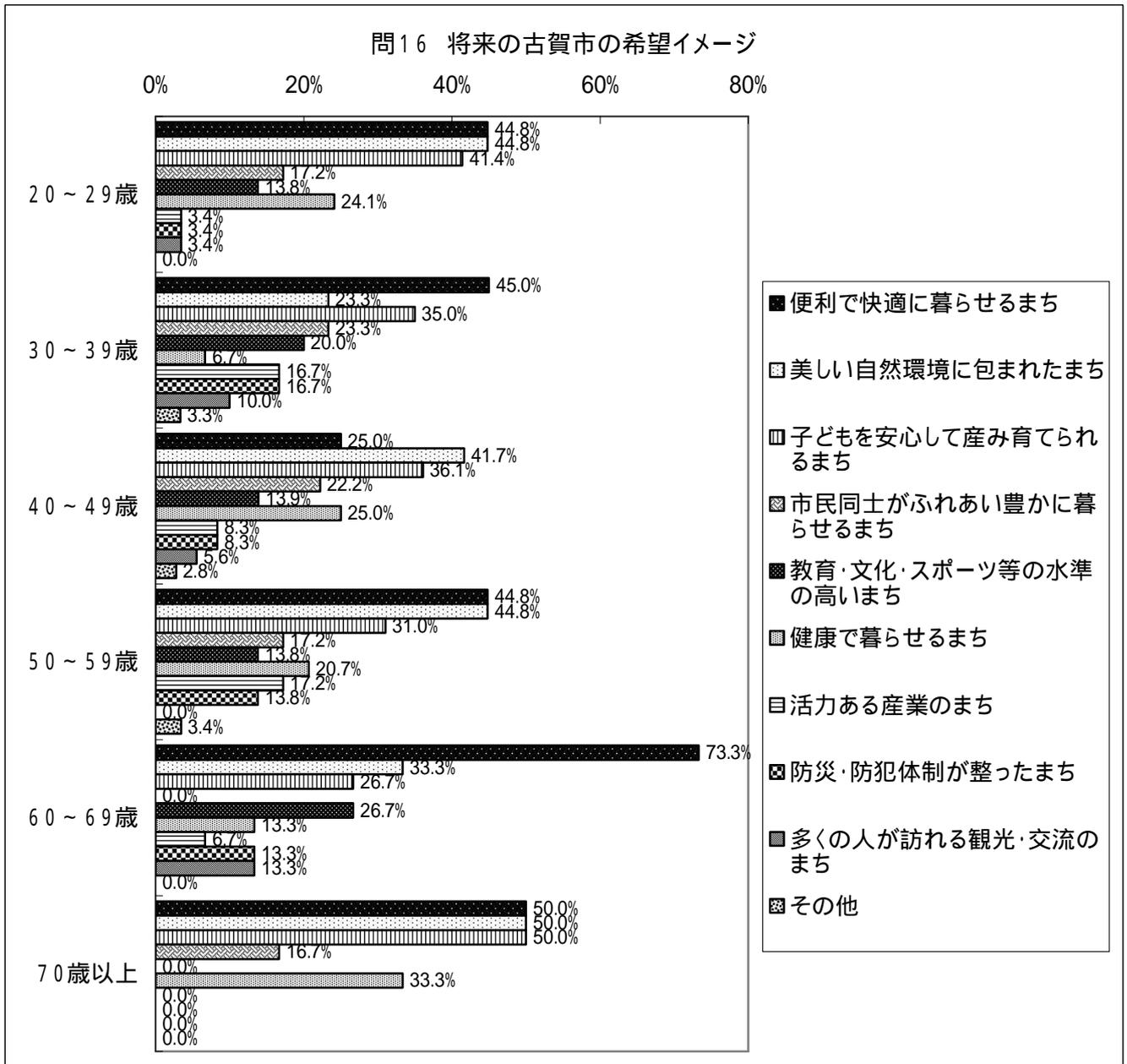
問16 将来の古賀市がどのようなイメージのまちになることを望みますか。(2つ以内に 印)

「便利で快適に暮らせるまち」が最も多く、回答者の42.5%が望んでいる。次いで「美しい自然環境に包まれたまち」、「子どもを安心して産み育てられるまち」となっている。



年代別に見ると、40歳代以外では「便利で快適に暮らせるまち」が最多であり、それぞれ約半数が挙げている。

「美しい自然環境に包まれたまち」と「子どもを安心して産み育てられるまち」は各年代で3位以内に挙げている。



問17 古賀市のまちづくりについて、ご意見、ご提案（アイデア）等をお持ちでしたら以下にご記入ください。

p.97 参照

問17 自由意見

内 容	項 目
若い人が住みたいと思えるような環境を整えるだけでなく、それをうまく世間にPRしていくことが必要だと思います。古賀市のここが自慢、ここに力を入れているところを前面に押し出して、活気あるまちづくりを目指してください。	まちづくり 広報
自然環境に恵まれ、産業もあり、素晴らしい町だと思います。観光等せっかくのいいまちをもっとPRするとよいかと思えます。ほたるの清滝や薬王寺温泉、素敵です。道の駅や人の集まる古賀に、というスポットのPRがもっと欲しい。	広報
古賀に限ったことではないが、離れてしまうと全く街の顔が見えない。他市町村と比較しても劣っている所はないと思うが、情報の発信、情報の作成面では不満です。	広報
自然豊富な地区なので、もっとアピールした方がいいと感じる。都市部と自然を切り離すのではなく、福岡県民のためのちょっとした憩いの場(いい意味での田舎)の町として発展して行ってもらいたい。	広報 自然環境
ほたるもたくさん見られるまちですし、そういった名所をどんどんアピールしていけば、まだまだ盛り上がるのではないかと思う。	広報 自然環境
古賀と言えば「～」のような、特産品や名物等があると知名度が上がっている。	特産品
古賀の特産品と言われても思いつかない。また、名所等も少ないため、もう少し街の歴史をアピールできる資料館、公共施設、海水浴場等の整備等、対外的に宣伝し、市外・県外の人々を引きつける街、魅力のある街にできないか。	特産品 広報 まちづくり
古賀市はシンボルや特産品のイメージがないので(ゴルフ場とインターのイメージ)何か「古賀市と言えばこれ」というものがあればと思います。アピール力があれば、若い世代の人口も増えるのではと思います。	特産品 特色 広報
もっと元気があって良いと思うし、何か市の特色のようなものが欲しい。	特色
祭りや催しがなかった。	イベント
小学校区レベルでイベント等あると良いと思う。	イベント
北九州に引っ越して6年になるが、各区(八幡西区、東区等)それぞれでお祭り行事が多いと感じています。街の人々がみんなで力を合わせてお祭りを盛り上げているという感じがし、毎年恒例というのが当たり前のように。古賀はお祭りが無いのと聞かれたことがある。市民の「熱さ」が違う。	イベント
また花火大会が見られるようになるといいな。	イベント
昔みたいな花火大会も活気があって大好きでした。	イベント
ニュースになるような企画をやって欲しい。	イベント
子どもからお年寄りまで、市民誰もが参加できるイベントがあるといいですね。海や山の自然とふれあえるようなイベント。企画や準備から市民に参加してもらってつくりあげていく、毎年恒例となるイベントがあるといいですね。(古賀市のシンボルマーク付きのTシャツを作ったり、テレビ中継とかもあったりして。)	イベント
市民の多くが参加できる催しがあると活気があり、ふれあいにもつながると思います。	イベント 連携・交流
ハーフマラソン大会を開催する。市内外に古賀市をアピール。そこで観光・特産物販売また私設エイドステーションでの給水など古賀市民の「おもてなし」の良さと、市民(ボランティア)も楽しんでもらう。(レース中の会場:古賀市民グラウンドではイベントをする。)当然、招待選手、ゲストも呼ぶ。そのために何度か全国の人気ハーフマラソン大会を視察する。	イベント 連携・交流
スポーツを通じた市民交流の場を作る。例えば「市民総合スポーツ大会」の実施。スポーツごと、年齢ごとに区別することなく、できる限り同じ場所と時間でいスポーツ間、年齢間の垣根をなくしたスポーツ大会のイメージ。	スポーツ 連携・交流
古賀は広くて町と山の方の畑や田んぼが両方あるので、子ども達を含め、農業体験などの場を増やすとか。(交流を増やす)	農業 連携・交流
複合商業施設やアウトレットモールの誘致をして欲しい。	商業
自然環境を破壊せずに買い物等便利で新宮や福津に負けないくらいで家庭で遊べる施設(雨の日でもOKな施設。ボーリング場や屋内スポーツ施設)があればいいなと思う。	商業
若い人が遊べる場所がない。天神、小倉にもやや遠くて不便。大型のショッピングモールがあると嬉しい。	商業

内 容	項 目
市の玄関とも言える駅周辺に活気がない。	古賀駅周辺
市の玄関であるJR古賀駅周辺を開発するべきだと思います。	古賀駅周辺
駅前商店街を早く整備してもらいたい。	古賀駅周辺、商業
JR古賀駅周辺の商店街の活性化。	古賀駅周辺、商業
20～40年以上前、活気があった古賀駅前商店街が寂しげになっているのが通るたびに気になります。組合等の活動はあっているようですが。	古賀駅周辺 商業
駅前商店街がどんどん暗くなっている印象を受ける。営業しているお店があるとは思えない。駅の周辺はもっと明るい印象が欲しい。	古賀駅周辺 商業
古賀駅周辺の商店街の再開発。活気が無く、古賀市全体で商業のイメージがない。古賀市の「顔」である駅周辺の環境は訪れる人々にとって、好印象を持つかどうかのポイントだと思います。職業柄色々な土地で暮らしていますが、活気のある商店街があるところは非常に住みやすく魅力的です。	古賀駅周辺 商業
古賀駅周辺の商店街が寂れたイメージあるため振興が図れないか？	古賀駅周辺、商業
駅前の商店街が寂しい感じがしています。	古賀駅周辺、商業
駅前商店街が活気なく寂れている。何かテーマ性をつくり、小売店を集めてみては？(例：スイーツタウンとしてケーキ屋など、農家の直売所など)	古賀駅周辺 商業
年1回帰省するのだが、駅前がさびれているような気がします。駅前が開発されるとよりよい発展した町になるのではないかと思います。	古賀駅周辺
古賀駅付近がもっと栄えたらいいと思います。商店街も閉まっているところが多いとさみしいので、飲食店とか、ちょっと電車を待つ間とかにお店があれば便利かと思います。あと、保育園とか託児所があれば働く人には良いのではないのでしょうか。	古賀駅周辺 商業 子育て
駅前商店街と区の再開発及び道路整備。	古賀駅周辺 道路
古賀駅は駐車スペースが少なすぎて、路上駐車がとてもあぶないと思う。	古賀駅周辺 施設・インフラ
古い商店街がさびれてしまいました。町おこしで何かイベントをやってください。	商業
新宮・福津に比べると古賀市は空き地や閉店している店が多く、活気がないのでたまに地元に戻ると淋しく感じる。	商業
個人商店街の充実	商業
商店街などの街並みも楽しめるような古賀市になればいいと思います。	商業、まちづくり
食品工業団地に食品以外の企業をもっと呼んでほしい。	産業
企業の誘致を積極的に行い、税収を増やす、市民への税の負担を軽減する。	産業、行財政
産業(企業)の活性化を図るための施策や優良企業の誘致を行い市財政のより健全化を図る。	産業 行財政
自然を大事にしながらも、今後の産業の発展にも期待したい。	産業、自然環境
将来、若者の雇用のためにも企業の誘致や飲食関係の店、スーパー等がもっとあって活気のある町であってほしいが暮らしやすさは変わらないでいて欲しい。	産業 まちづくり
自然環境もよく住みやすい地域を増やして欲しい。	自然環境
森林の荒廃を早急に改善し、自然環境が良く治水にも恵まれた市とすると市民は健康で快適に暮らせるまちになると思います。山が良くなれば海も良くなります。	自然環境
海に山に川に温泉にと恵まれている印の一つだと思われます。交通アクセスにも恵まれJR駅も増え、これからはますます発展してゆくでしょう。そうすると「破壊」というものが出てくる。どうか自然破壊や人とのつながりの破壊がない市にしてください。	自然環境
宗像市に引っ越しをして最初に感じたことは「空気が違う」ということでした。私は北区に住んでいたのですが、いつの間にか海の潮の香りをずっと感じていました。それは宗像が息苦しいと思うほどでした。ぜひ、この古賀・花見海岸を守って欲しい、さらに整備して、ちょっと寄ってみたいと思う海岸にして欲しいと思っています。	自然環境
薦野に住んでいました。ほたるがあんなに飛ぶ景色がそうそう見られるものではないことを、古賀を出て初めて知ったので、是非ほたるの住み続ける町のままでいてほしいと思います。	自然環境
海も山も温泉もあり、自然環境がとっても良い町！自然は守って行って欲しいです。	自然環境

内 容	項 目
開発により住宅地が増えているが、自然を残すことも考えた町づくりをして欲しい。毎年帰省しているが、千鳥近辺の開発により、ずいぶん自然がこわされているように思った。	自然環境
犬鳴き山麓の集落一帯に里山文化の育成が望まれる。	自然環境
山間部周辺部の開発の見直し(自然環境を重視)	自然環境
マンションの建設に関してきめ細かい配慮が欲しい。建設する場所、大きさ、特に高さ、外壁の色など。周囲の環境、特に自然環境とのバランスを考えて欲しい。	自然環境
街路樹がないのが殺風景さを感じさせる。	自然環境
川の土手が一部しか整備されていない。草刈りとかまめにした方が良い。川が見えない。	自然環境
米多比は私が生まれ育った大事なふるさとです。年に1~2回は帰りますが、その美しさがだんだんと失われることが淋しく思います。開発や改善はそういった昔からの美しい景色や古いものをそこなわないようにと思います。	自然環境
宗像にいて感じたことは、花・木がたくさん植えられていることでした。駅や公園、道路にたくさんの花がいつもたくさん咲いています。残念ながら古賀にはそのようなイメージはありませんでした。少しずつ花をふやして欲しいです。	自然環境
新築マンションが建ったり道路が整備されたりと、変わっていく姿を見るにつけ、きれいになったと思いつつも昔の姿が失われて行くことに一抹の寂しさを感じる。古賀市は緑が多く自然の景観が美しい町。遠く犬鳴き山を眺め、そのふもとから田園風景が続く美しい景観はいつまでも留めていてもらいたいものです。	自然環境
全体的に景観に統一感がなく、きれいな町とはいえないので整備してもいいかも。	自然環境
下水処理を充実して海をきれいにし、テラポット等を沈め、安全に泳げる海、遊べる海にしてもらいたい。	自然環境
海あり山あり祭りあり、今のままでも十分素敵なまちだと思う。グリーンパークやコスモス広場はよく利用している。	自然環境
古賀をはなれてみて初めて、住みやすさに気がつきました。子育てをするなら古賀でしたい!!と思っています。近代化も大切ですが、自然やまちなみは昔のままであってほしいです。	自然環境
帰ったときに「木が大きくなったー」とかいいと思う。	自然環境
海、川、山と自然があるので、自然を生かした環境、まちづくりを行って欲しい。その上で、季節毎のイベント等を行い、活気あるまちにしてほしい。	自然環境 イベント
公園、緑道の整備、例えば家から歩いて駅まで緑道で安全に歩ける環境。公園と公園をつなぐ小川のせせらぎのある道。街中を安全に走れるジョギングやサイクリングロードなど。	自然環境 道路
他県の移動のときに市役所に行ったらゴミ袋(有料)を1袋(15枚入り)を頂いた。引っ越しなどで出るゴミの量は多く適当な仕分けが考えられます。まずは使用くださいからやってもらおうとゴミの分別にも意識がむくと思います。	ゴミ
分別が不便。これまで住んだことのある他の市区町村では、不燃ゴミ、カン、ビン、プラスチックも可燃ゴミ同様回収しに来てくれていたので、古賀市に住み始めたときにとっても面倒だと思った。地区やその他収集所の指定した収集日に仕事があるような単身の人はどうしているのかと思う。	ゴミ
今後も清掃工場(ごみ処理場)の安全点検をよろしくお願いします。	ゴミ
福祉(子どもを安心して産み育てられる市)になって欲しい。(例 産後の家族のケア、訪問、子どものために何か役に立つことをして欲しい)今のままではだめだと思う。	福祉
福祉の形も生活支援、ふれあい、介護、障害者自立支援、ヘルパー養成、レスパイト、子育て支援、学童クラブ、配食サービス等、小学校区、中学校区レベルで多機能型の生活密着型が望まれると思います。	福祉
自助、共助、公助が福祉の基本だと考えるが、共助とはコミュニティを中心として事業化された「助け合い事業」が望ましい形ではないか。住民がベースとなり、それぞれの役割を担い、事業として運営、維持、管理費を利益でなりたつ姿が理想でしょう。そこに公助として行政からの支援、補助を行うことも必要です。	福祉
福祉行政はかなり充実しているように思うが、高齢の両親の今後の生活が遠方に住んでいると気がかりである。さらなるサポート体制の充実を。	高齢者
今は高齢の父が一人暮らしをしています。高齢化社会に向け、福祉の充実をさらにやっていただければと遠くで親を想う者にとっては大変ありがたいと思っています。	高齢者

内 容	項 目
両親が残っているので、高齢者に優しいまちづくりをお願いしたい。	高齢者
子育てセンターはなくてはならない施設。子育てセンターや保育施設の充実、医療費無料化年齢引き上げなどは他市との競合に有効的なアピールポイントになると思います。	子育て
子どもができ、子ども中心の生活となった今、古賀は住みよいところなのか？想像はできませんが、もし福岡に戻れるならば、古賀に帰りたいと思っています。	子育て 住環境
子どもの医療控除の開始が他の地区よりも遅い。	子育て
子育てのしやすい環境を作ってください。3人目からは毎月いくら出すとか。	子育て
子ども(小・中学生)の医療費の補助、無料化。	子育て
福祉や保育園などに力を入れて、子育てしやすい町にして欲しいです。	子育て
でんでんむしは先生と子ども、母たちとの距離が遠すぎる。もっと先生達に関わって欲しいのでは。	子育て
子どもが安全に遊べる場所を増やして欲しい。	子育て
小さい子が遊べる少し広めの公園があったらいいと思う。	子育て、公園
海側にも大きめの子ども達が遊べる緑地があるといい(照葉みたいな)	子育て、公園
子どもと遊べて緑のきれいな公園や運動公園があるような古賀市になればいいと思う。	子育て、公園
花鶴に帰省した際、遊ばせる公園がない。花鶴2号公園が汚い。遊具の安全点検はされているのか。委託するなどして頻繁な清掃を。	子育て 公園
市の中心部に比べ、農業地、山間部に行くほど小さな子から小学生くらいの子が遊べる公園が少なく、この差はいったい何なのかしらと思うことがよくありましたので、この差をなくしていただけたらと思います。	子育て 公園
福岡市は古賀市に比べると子ども達が遊ぶ施設が多く、子どもをもつ親としては住みやすく、魅力です。市民プール、大きな公園はこどもたちの遊び場所。わざわざ古賀市に移り変わって住むまでは考えられません。でも、グリーンパークだけではなく、安心して子どもが外へ出られる場所がたくさんあれば、これから先、少し古賀市に対して移り住む、ということもあるかもしれません。	子育て 公園
友情・郷土愛を育てる教育をして欲しい。	教育
子を持つ親の学習機会を多くするためPTA活動の活性化を望みたい。	教育
学校区の区切り方がおかしいと思うので見直してほしい。(古賀中の前を通って東中へ行く人など大変だと思う)。	教育
国の教育にかかる予算をみても、極めて低い割合だが、古賀市も同じではないか。将来のためにも子どもへの投資を心がけてほしい	教育
小、中学校教育で偏った人権教育及び特定地域への助成が学生の頃かなり疑問に感じていた。現在はどうかかわからないが、未だに続いているのなら、見直さないといけないと思う。	教育
同和教育、平和教育は充実していたと思う。今後も力を入れていただきたい。	教育
時代変化を踏まえ、経済的困窮を生じている家庭が増えています。学校外での学習が困難な児童生徒を対象に、寺子屋的な学習教室を開設する。その際、退職校長を筆頭、ネットワークを通じて講師スタッフを確保する。	教育
古賀西小学校へ通学する子ども達が信号のあるところまで歩くのに旧3号線を歩いて信号まで行く。ガードレールも何もなし。実家は天神なので旧3号線は必ず渡らないと学校へは行けません。とても不安です。	道路
海から山へ向けて自転車専用道をつくり、家族でサイクリングできる環境をつくる。	道路
道路の整備が進んでいない道が悪い。福津市・宗像市に比べて道路の整備が格段に遅れている(がたがたな所が多い)(歩道の整備等)税金がどう使われているのか疑問に思う。	道路
歩道が狭かったり、歩道と道路の段差が高い場所が所々見受けられるので、改善して欲しい。	道路
石ヶ崎橋から花鶴3丁目に入る所の排水溝の段差が大きすぎる(花鶴3丁目10番あたりの川沿い)。	道路
車いすやベビーカー、子ども連れでも安心して歩ける歩道の整備をしていただきたいです。特に子どもが一人でも歩けるようなガードレールが設置してあるとうれしいです。3号線や旧3号線など、特に車の通りが多い道にしかガードレールがないような気がします。	道路

内 容	項 目
街中の歩道整備、町の全体に進むといいですね。	道路
筵内は田舎の方で、道路面(通学路、外灯の不備 防犯への不安)の環境はあまりよくなかった。最近では新しい道路も増え、メイン道路との連絡も便利になったと感じた。交通面をより改善できれば、更に住みよいまちになるのではないだろうか。	道路
古賀市は他市に先駆けた工場団地、高速道路インター等先人の遺産がある。これらを有効に活用して欲しい。	道路 産業
交通インフラが整っているのだから、その利点を生かして産業の誘致を積極的に行うのが良いのではないか。	道路、交通 産業
高速道路古賀ICという交通の利便性をアピールし、工業団地の整備、企業誘致を率先して行い、活力のあるまちづくりをめざして欲しい。	道路 産業 まちづくり
国道3号線の東側の市街化調整区域の見直しを含めた古賀市の都市計画整備(市の東西を結ぶ道路)の促進。	道路 土地利用
横浜市都筑区の港北ニュータウンは緑道、歩道の整備が出来ており、良いモデルです。数十戸の公園と公園が遊歩道でつながっている。	道路 公園
上下水道、道路の整備を進めて欲しい。小野校区は40年前と同じ状況のように感じる。インフラ整備はある程度平等に感じられるように進めて欲しい。	道路 施設・インフラ
小野小学校区への上下水道を引っ張ってほしい。	施設・インフラ
市営の温泉やプールやジムがあったら嬉しい。	施設・インフラ
宗像ユリックスのような施設(プール、フィットネス、サークル活動ができる部屋を兼ね備えたもの)があればいいと思う。	施設・インフラ
スポーツ等のレクリエーション施設が少し不便な場所にあるため、もう少し街中で高齢者や子どもが気軽に利用できるようなになればいいと思う。	施設・インフラ
市の中に人が集まる核となるような施設がない。	施設・インフラ
海、山の自然にも恵まれているので、少してこ入れをすれば観光のスポットにもなり得ると思う。デイキャンプ場の整備や海水浴場の整備など。	施設・インフラ 観光
海の家、ほしいですね。	施設・インフラ
高校生のときに大学受験勉強で研修棟を利用させてもらっていました。研修棟は私の友人も多く利用していて、多くの人々の勉強の環境を整えてくれるものだと思います。研修棟をよい例として建物をはじめとする資源の有効活用をしていけば、古賀市はより市民にとってすみよい街になると思います。	施設・インフラ
古賀ゴルフ場はすごく名門でゆめいなので、もっとたくさんの方が利用できる機会とかプロの育成とか(チャリティーなど)あるといいです。	施設・インフラ
公園へ行ったとき、日陰、木陰がすくないと思いました。少し休みたいと思ったときに、日陰、木陰、ベンチがあれば良いと思いました。	公園
古賀橋から久保石原の3号線付近まで河畔遊歩道等ができないか。河畔公園とまではいかなないまでも、石造りのベンチが所々にあってコスモスが咲くといいのでは。	自然環境 公園
千鳥駅を利用していますが、あまりきれいでなく、利用者も多いので快速は無理でしょうか。検討してください。	交通
道路について渋滞がいつも発生するのは古賀市であるように思う。3号バイパスも福津側から古賀市に入ると信号も多く、古賀市を抜けるのにとっても時間がかかる。一方旧3号線はサンリブ周辺、花見など朝、夕の渋滞はひどく、信号も多い。住みやすい街にするには古賀市の部分を手直しするのではなく、長期にわたり広い視野での取り組みが必要であると思っています。	交通
踏切問題。古賀駅東と西部電機の2箇所は待たされるのが長くていつもうんざりさせられます。古賀市を東西に分断するJRの線路が東側に住んでいる人々の生活にかなりの負担を強いているのではないかと思います。	交通
交通機関の充実。	交通
筵内区に住んでいたが、年々西鉄バスの本数減少で駅まで苦労した。市営バスを運行して欲しい。行き先は駅と病院、市役所だけでもいい。	交通
交通アクセスの整備を要望。西鉄がなくなり、JRかバス、車でないと福岡市内へ行けない。	交通

内 容	項 目
バスが不便(乗りたい時間にバスがない等)	交通
実家が久保にありますが、バス路線が少なく便数も少ないため、交通の不便さを感じます。高齢者も快適に暮らせる街としてルートバス(ワゴン車等を使用して)などを巡回するような施策の検討をお願いしたいと思います。	交通
公共交通機関があまり整っていないので、車を持っていない者には移動しにくい。(100円巡回バス、タクシーなどがあると便利)	交通
車があれば多少遠くても苦にならないが、学生の頃までは徒歩か自転車のみで大変苦労した思い出がある。バスも経営上困難なのはわかりますが、廃線ともなると高齢者の足がなくなり大変な苦労だと思われます。コミュニティバスの充実を願います。	交通
古賀市にはスポーツ施設や公園等充実しているので、そういった場所への交通網の整備、駅方面へのバス整備が整えば若い世代も帰ってきやすくなるのでは?	交通
週1~2回でも良いのでサンコスモ行きのバスがあれば、でんでん虫の利用がもっとでき、乳児健診や予防接種のときに便利だと思う。	交通 子育て
古賀市は最近特に交通の便も良くなり、公共施設もあり、学校も整い、自然もあり、病院も近くにあり、とても住みやすい環境だと思います。	住環境
千葉と比べて古賀はコンパクトながらも自然もあり、便利で暮らしやすいところでした。	住環境
今でも図書館はよく利用させていただいています。とっても便利だと思います。お店も買うのに便利です。	施設・インフラ 商業
実家が小竹だが、交通の便が悪く、道も暗いので、夜は一人で歩いて帰省できない。交通の便が良くなること、外灯を増やして欲しい。	交通 安全・安心
自然はいっぱいでそのままいてほしいですが、同時に大型トラックの山越え道としても利用されるところなので、信号(特に山の付近)は点滅式ではないものをつけて欲しいです。でなきゃ、子どもが育てられません。	交通 安全・安心
放火、盗難、その他犯罪が多い気がする。警察との連携強化、自警団の編成等に力を入れていただきたい。	安全・安心
駅前だったということもありますが、自動車にいたずらされることがありました。防犯体制をもっと整えていただけるとよりよい町になると思います。	安全・安心
お年寄りや小さな子ども達が安全で安心して暮らせる町にしてほしいと思います。	安全・安心
夜暗い場所が多いと犯罪が増えるので、外灯を増やしたり、人目につくように影になる所を減らす。例えば花鶴小学校の近くとか。	安全・安心
犯罪のない街づくりを願いたい。	安全・安心
帰省した際、夜間駅に若者がたむろしているので治安が悪く感じた	安全・安心
防犯上住みやすくなるようになればと思います。	安全・安心
舞の里に住んでいたが、近くに交番がなく防犯体制が不安だった。	安全・安心
便利に安全に。	安全・安心
少子化が進み、地域の子供会等縦横のつながりが弱くなっていた。	子育て コミュニティ
地域公民館の稼働率を高める施策が欲しい。	コミュニティ
山手は田舎の風習が多く残っているイメージが強く、新しい人は入りにくい。	コミュニティ
花鶴3丁目公民館でやっている「夢喫茶」が素敵だと思う。自分の家の近くにもあれば、住民が活躍できる場がたくさんあって、住民同士の交流が深まるし、素晴らしいと思う。	コミュニティ
「限界集落」などでなく、元々根強かった連帯・協同意識を醸成し、楽しく生きがいのある集落にして欲しい。	コミュニティ
今ある自然と人工的な自然の調和ある街づくりが必要。	まちづくり
海浜での催事、山にキャンプ場を作る等子どもたちがのびのびと育ち、若者から老年まで交流ができる明るい古賀市、活気ある町づくりを望みます。	まちづくり
自分の両親、祖母も古賀市にて生活しています。ずっと老後が安心して生活できる町にしたい。里帰りを子どもも喜んでいるので、いつまでも美しい街であってほしいです。子どもの遊べる町でもあって欲しい。	まちづくり
市民がいきいきと生活できるまちづくり。	まちづくり

内 容	項 目
お年寄りの方も健康に暮らせて、若い人も古賀市で子育てをしたいと思うような自然あふれるまちにしていきたいです。	まちづくり
外から人が集まってくる町や活力のある産業のまちづくりより、市民が助け合って楽しく暮らせる古賀市になって欲しいです。	まちづくり
古賀は福津、宗像と比べると観光の力は弱いと思いますが、福岡市への交通の便と住みやすさは優れていると思います。自然も多く、都市としての機能も整備されていますし、以前よりも子どもが育つには良い環境となっています。積極的に開発や改革を行う必要はないと思いますが、暮らしやすさを意識したまちづくりを続けていけば、古賀は良い町として発展していくと思います。	まちづくり
古賀市は観光都市である福岡市と北九州市の間にあるので、交通やベッドタウンの機能を重視したほうがいいと思う。	まちづくり
古賀市が今度単独で一自治体としてやっていくのか、それとも近隣市町と合併していくのかをはっきりしてまちづくりを進めていかないと、無駄なことや施設をつくってしまうことになると思う。	まちづくり
新宮や福津市等、近隣市町と力と知恵をあわせて役割分担やトータルの街づくりを願いたい。	まちづくり
今でも古賀には「想い」があります。すばらしい「まちづくり」のために頑張ってください。	まちづくり
古賀市に行くたびに元気のある街であることを願っている。市民のために努力を重ねてください。	まちづくり
古賀が大好きです。これからもよい街づくりをしてください。応援しています。	まちづくり
地方都市として独自性をもって「福岡に古賀あり」とふるさとであることを自慢できる街になって欲しい。	まちづくり
退職後古賀に戻ることを考えている。高齢になっても安心して暮らせる、お互いに支え合う「まちづくり型福祉」の街づくりが望まれる。施設の中で暮らす「ハード型」ではなく、街の中で見慣れた人と環境の中で暮らせる「ソフト」「コミュニティ型」の街づくりです。福祉・健康先進の街づくりです。	まちづくり 高齢者
高齢者が「お小遣い」の使える街づくりを願います。	まちづくり 高齢者
夫の退職後、古賀に戻ります。しかしながら3～4人に1人が高齢者の時代に、私どもも含めた60～70代が「元気になる街づくり」を提案します。具体策はないが、活動できる場所がある。まだまだ私にも出来る、と元気、やる気もてるような町づくりはいかがでしょうか。	まちづくり 高齢者
「老人力」の活用。学童保育や子育て講座、しめ縄づくり等若い市民が働きやすい環境づくりを支援、さらに伝統文化の継承に「老人力」を活用できるまちづくりを提唱します。	まちづくり 高齢者
古賀市には観光資源を含めた地域資源が潜在的に多く存在していると思います。今後は、これからの地域資源を生かした、また、地域住民を巻き込んだ「地域づくり」に基づき、交流人口の拡大、居住人口の拡大を図られることがよりよい「まちづくり」になると思います。	まちづくり 観光
街づくりのビジョンがよくわからない。青柳、谷山等住宅地なのか工場誘致地区なのか、混在しているように思う。工場団地を整備し、企業誘致を図る一方、住宅地は環境整備するなど街づくりビジョンがあると思うが、それらを徹底して欲しい。	まちづくり 土地利用
博多から近くて便利なベッドタウン、北九州にも通勤可能という立地でありながら、特に目立った良い点がないのが今の古賀市。都会は福岡市、北九州市で十分なので、安らげる街を目指すべき。そのためには住みたくなる環境の整備が必要。	特徴がない 住環境
文化・芸術的な場面・場所が少なかつたように感じました。	文化・芸術
高速道路インターを持つ市としてはその付近に立ち寄りところが無く、単に通過点になっている。スポット的(できれば文化的)なものがあったら良いと思う。	文化・芸術
美術館(ギャラリー)のような施設が欲しい。	文化・芸術
在住民への調査を。「あなたはどんな社会貢献ができますか」の「市民的財産＝人材」調査をいかす方向。	人材
内外の不況で大変な最中に悲観ばかりしておれません。常に「人づくり」と「ものづくり」の根付くような地域であることが大切であり、地域に貢献できる人材を育てて行くことこそ一番だと考えます。	人材

内 容	項 目
<p>転勤に伴いいくつかの自治体で過ごしたが、古賀は施設運営が半官半民だった印象がある。子育て環境もハード面は別として久留米市は充実している気がする。企画自体は小さくとも、様々なイベント等が多くあり、選べる行政の支援も見えている。できる範囲は限られるだろうが、古賀も行政がもっと前面に出ることがあっていいように思えた。</p>	<p>まちづくり 行財政</p>
<p>物事が計画的に進まないことを前提として、行政、住民が柔軟な対応、行動ができる環境づくりが必要ではないでしょうか。</p>	<p>行財政</p>
<p>友人が公共料金が高いと言っていました。</p>	<p>行財政</p>
<p>テレビで無料職業紹介所を見たとき、的確な指導等があり就職率はとても良いとのことだったが、少し前に相談の電話をしたところ期待していたような相談は全然できなかった。この不況の中、就職先等なかなかみつからないのは一般的に理解できることだと思います。メディアで拝見したような対応とはかけ離れていましたが、今は力をいれてないのでしょうか。</p>	<p>行財政</p>
<p>農業体験など生協とタイアップして外部の人を受け入れる仕組みをつくってはどうか。</p>	<p>その他</p>
<p>大変だと思いますががんばってください。</p>	<p>その他</p>
<p>古賀で生まれて育ちました。大好きな古賀、故郷です。がんばってください。</p>	<p>その他</p>

- 3 古賀市職員アンケート調査

(1) 調査の概要

1) 調査の目的

本調査は、古賀市職員のまちづくりの充実度及び将来のまちづくりのイメージ等を調査し、第4次古賀市総合振興計画策定に生かすことを目的に実施した。

2) 調査対象

古賀市職員

3) 調査方法

各課棚入れによる配布、回収

4) 調査期間

平成 21 年 10 月

5) 回収状況

- ・ 配布数 355 票
- ・ 回収数 322 票
- ・ 回収率 90.7%

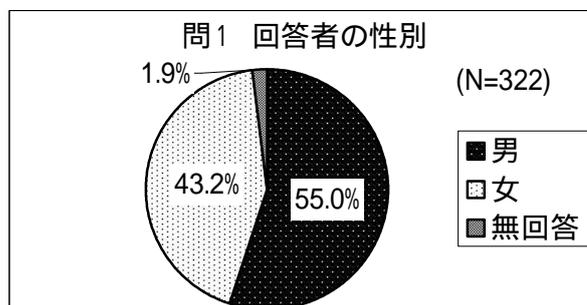
(2) 調査の結果

1) 回答者の概要について

問1 あなたの性別・年齢を教えてください。

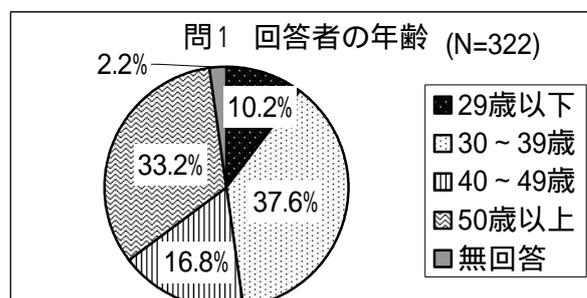
男性 55.0%、女性 43.2%となっており、男性の割合が高くなっている。

男	177
女	139
無回答	6
計	322



30～39歳が37.6%と最も多く、次いで50歳以上(33.2%)、40～49歳(16.8%)、29歳以下(10.2%)となっている。

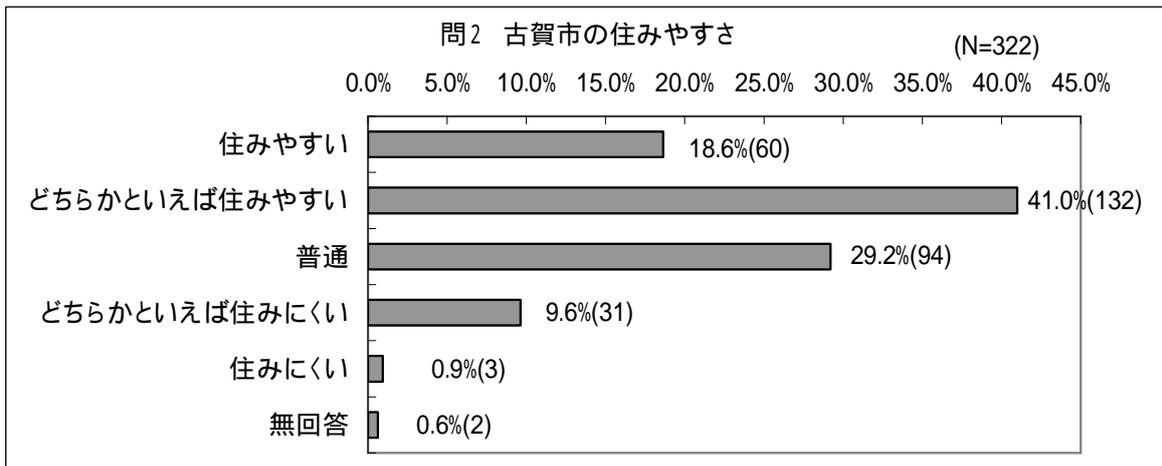
29歳以下	33
30～39歳	121
40～49歳	54
50歳以上	107
無回答	7
計	322



2) 古賀市の住みやすさについて

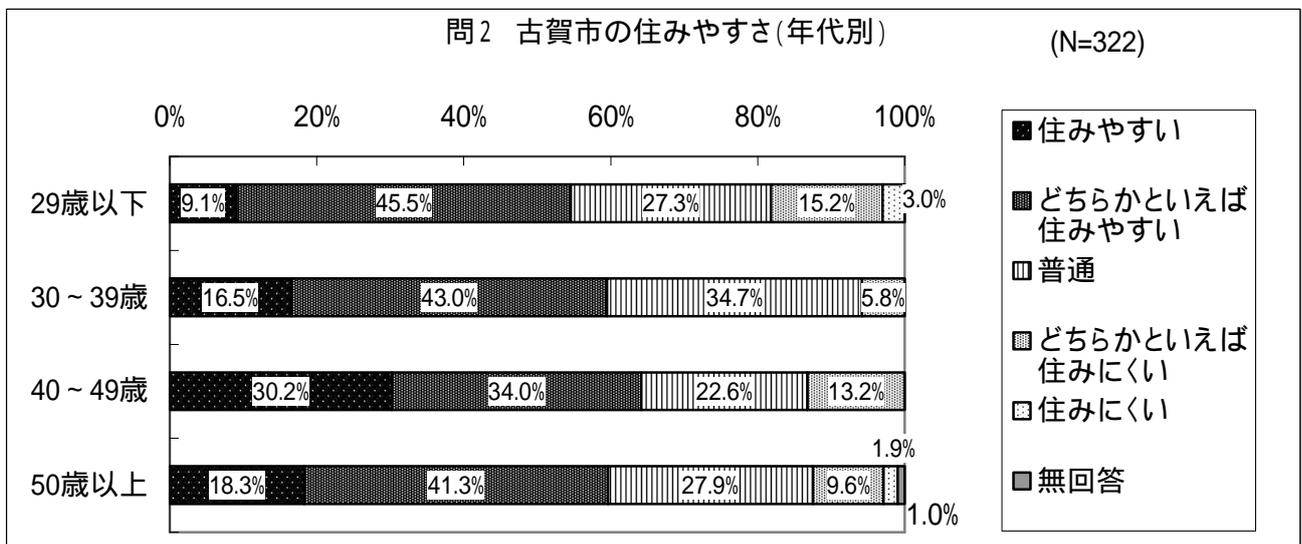
問2 現在の古賀市の「住みやすさ」について、どのようなイメージを持っていますか。
 次の中から1つだけ選んで、番号に 印をつけてください。
 (古賀市在住でない職員もイメージでお答えください)

「住みやすい」(18.6%)、「どちらかといえば住みやすい」(41.0%)を合わせた『住みやすい』と回答した割合が59.6%となっており、半数以上が住みやすいと評価している。一方、「どちらかといえば住みにくい」(9.6%)、「住みにくい」(0.9%)を合わせた『住みにくい』は10.5%となっている。



年代別に見ると、40～49歳において「住みやすい」が他の年代に比べて高く30.2%となっており、『住みやすい』も最多で64.2%となっている。29歳以下では「住みやすい」が他の年代と比べて低く、『住みやすい』も最も低い54.6%となっている。

29歳以下では「どちらかといえば住みにくい」と回答した者の割合は他の年代に比べて高く15.2%となっており、『住みにくい』も最も高い18.2%となっている。『住みにくい』の割合が最も低かったのは30～39歳で、5.8%となっている。

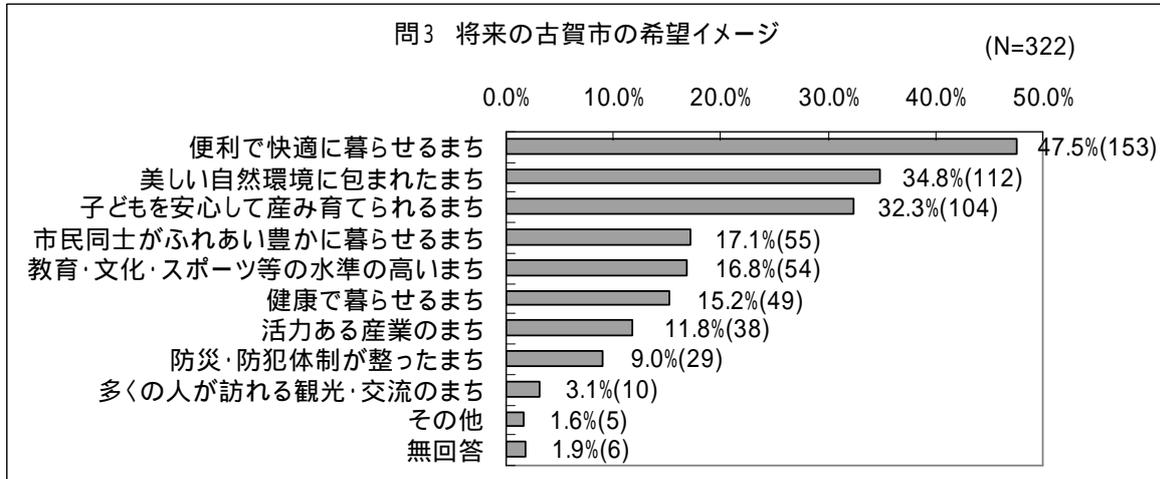


3) 将来の古賀市のイメージについて

問3 将来の古賀市がどのようなイメージのまちになることを望みますか。

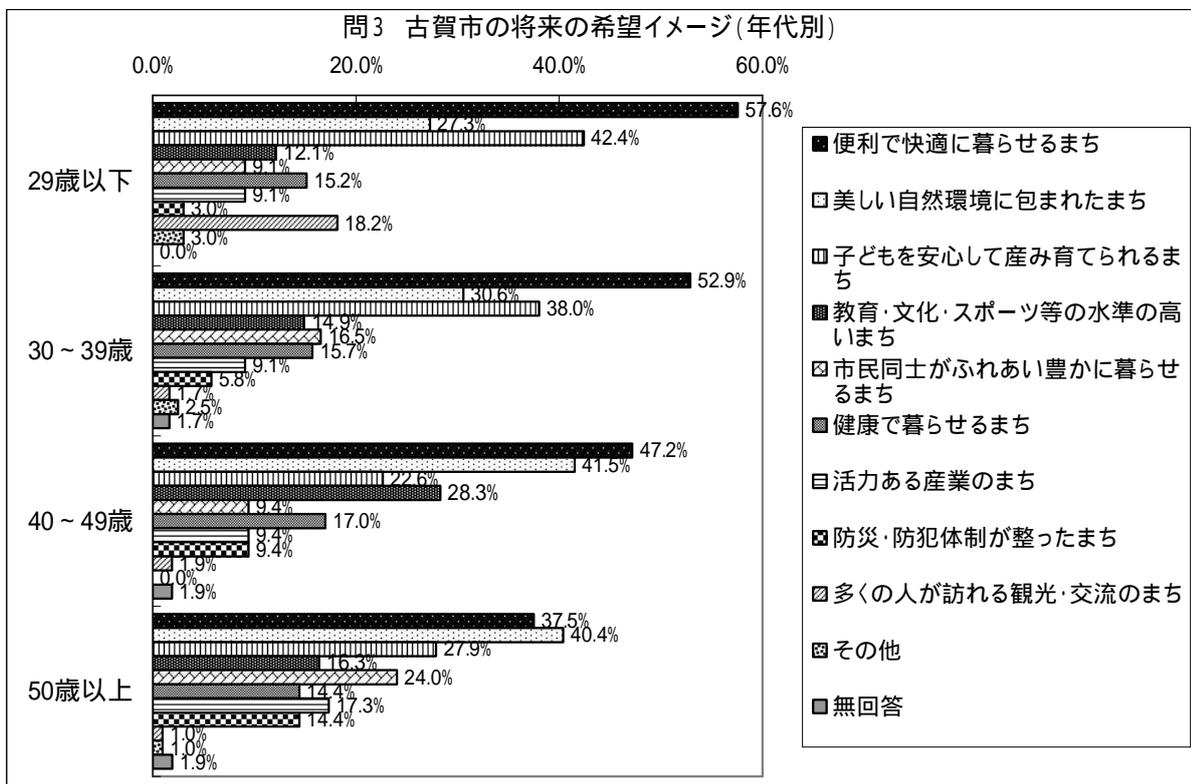
次の中から2つまで選んで、番号に 印をつけてください。

「便利で快適に暮らせるまち」が最多（47.5%）であり、次いで「美しい自然環境に包まれたまち」（34.8%）、「子どもを安心して産み育てられるまち」（32.3%）となっている。



年代別に見ると、「便利で快適に暮らせるまち」が49歳以下の各年代で最多の回答となっており、いずれの年代も回答者の半数近くが挙げている。50歳以上では「美しい自然環境に包まれたまち」が最多（40.4%）となっている。

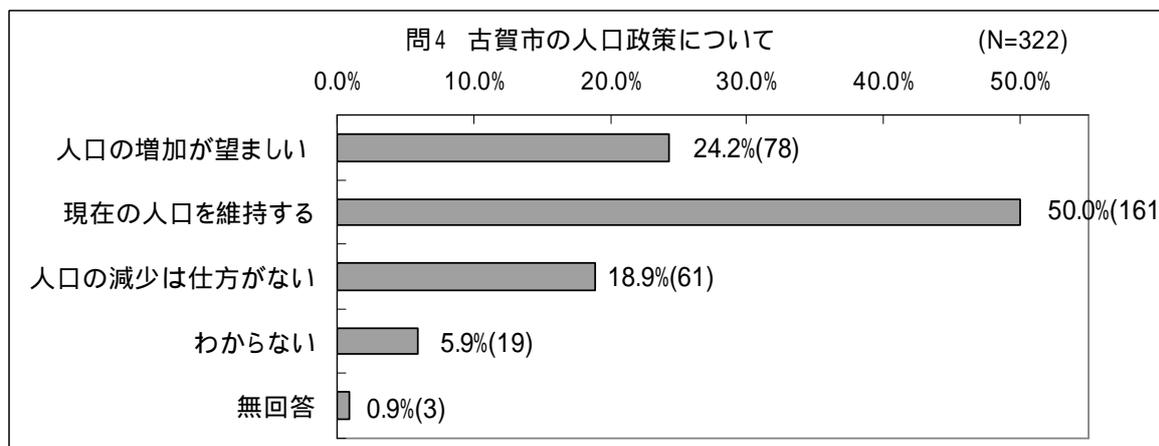
29歳以下、30～39歳では「子どもを安心して産み育てられるまち」が2番目に多い回答（42.4%、38.0%）となっている。



4)古賀市の人口施策について

問4 古賀市の平成12年の人口は55,476人、平成17年の人口は55,943人(国勢調査より)と、ほぼ横ばいになっています。また日本全体の人口は平成17年を境に減少に転じています。これからの古賀市の人口政策についてあなたはどのように考えますか。次の中から1つだけ選んで、番号に 印をつけてください。

現在の人口を維持するが50.0%と最も多く、半数が挙げている。次いで「人口の増加が望ましい」(24.2%)、「人口の減少は仕方ない」(18.9%)となっている。



5)分野別の充実度・優先順位について

問5 生活環境や日常生活に関して(1)～(52)の各項目について、現状をどのように感じていますか。各項目にある充実度のレベルを選択肢の中から1つだけ選んで、番号に 印をつけてください。またそれぞれの分野の中で優先して推進が必要だと思う事項を選んで 番号を記入してください。

都市基盤の整備

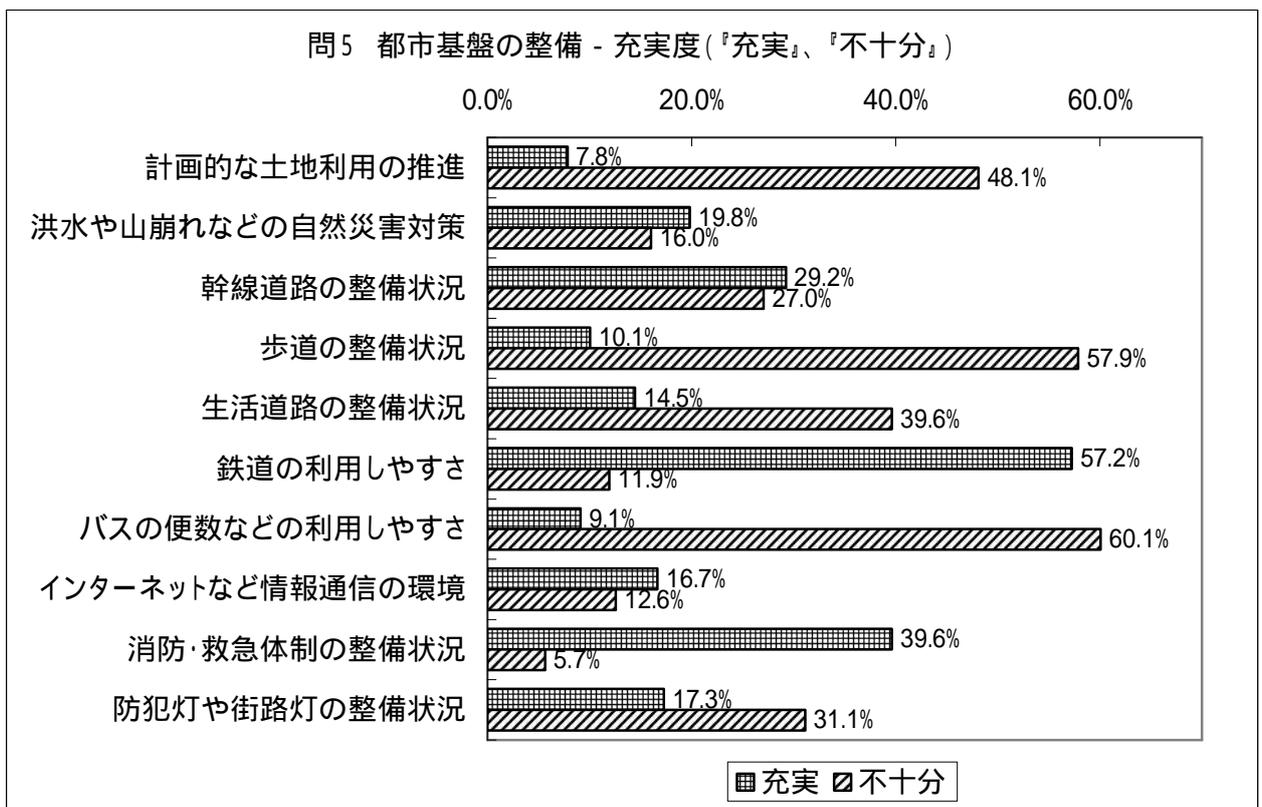
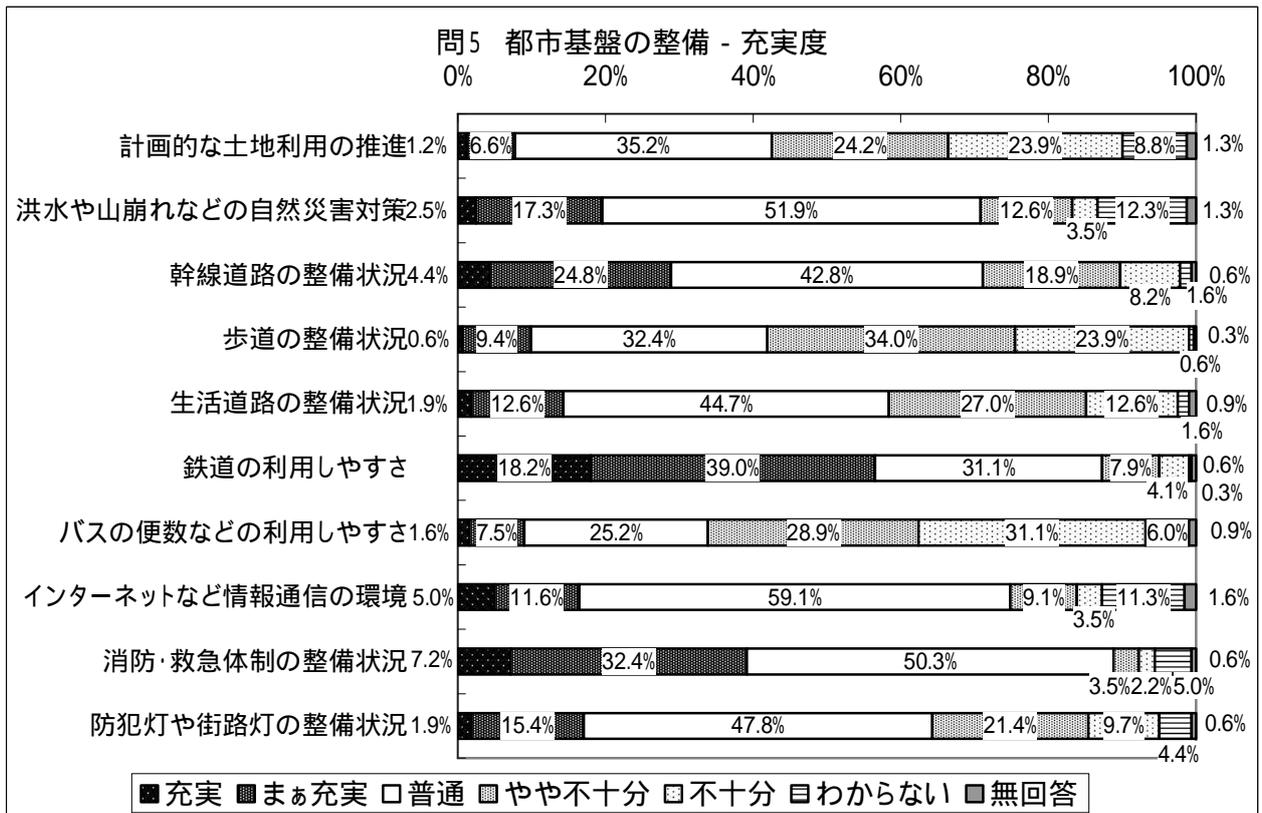
<充実度>

「充実」と「まあ充実」を合わせた『充実』の割合が最も高いのは「鉄道の利用しやすさ」であり、57.2%となっている。次いで「消防・救急体制の整備状況」(39.6%)、「幹線道路の整備状況」(29.2%)となっている。

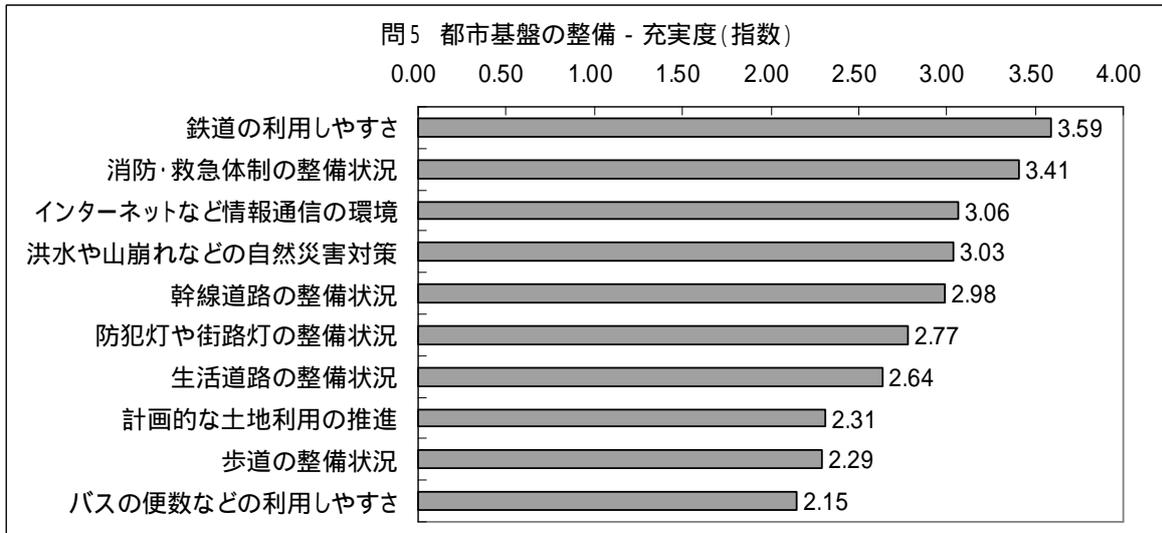
「不十分」と「やや不十分」を合わせた『不十分』の割合が高いのは、「バスの便数などの利用しやすさ」(60.0%)、「歩道の整備状況」(57.9%)、「計画的な土地利用の推進」(48.1%)となっており、いずれも半数近くが『不十分』としている。

「計画的な土地利用の推進」、「歩道の整備状況」、「生活道路の整備状況」、「バスの便数などの利用しやすさ」、「防犯灯や街路灯の整備状況」で『不十分』が『充実』を上回っている。

(『充実』、『不十分』は以下同様の意味で使用。)

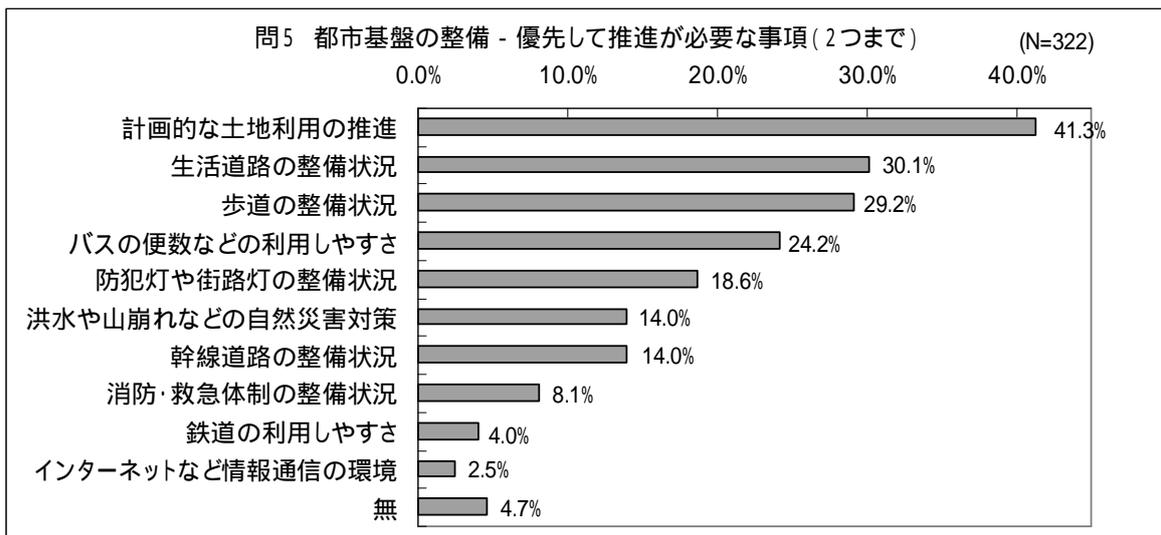


「充実」+ 5、「やや充実」+ 4、「普通」+ 3、「やや不十分」+ 2、「不十分」+ 1として加重平均し、充実度を指数化したものを見ると(「指数」は以下同様の意味で使用)最も数値が高いものは「鉄道の利用のしやすさ」(3.59)となっており、次いで「消防・救急体制の整備状況」(3.41)となっている。



< 優先して推進が必要な事項 >

「計画的な土地利用の推進」が最も多く 41.3%、次いで「生活道路の整備状況」(30.1%)、「歩道の整備状況」(29.2%)となっている。



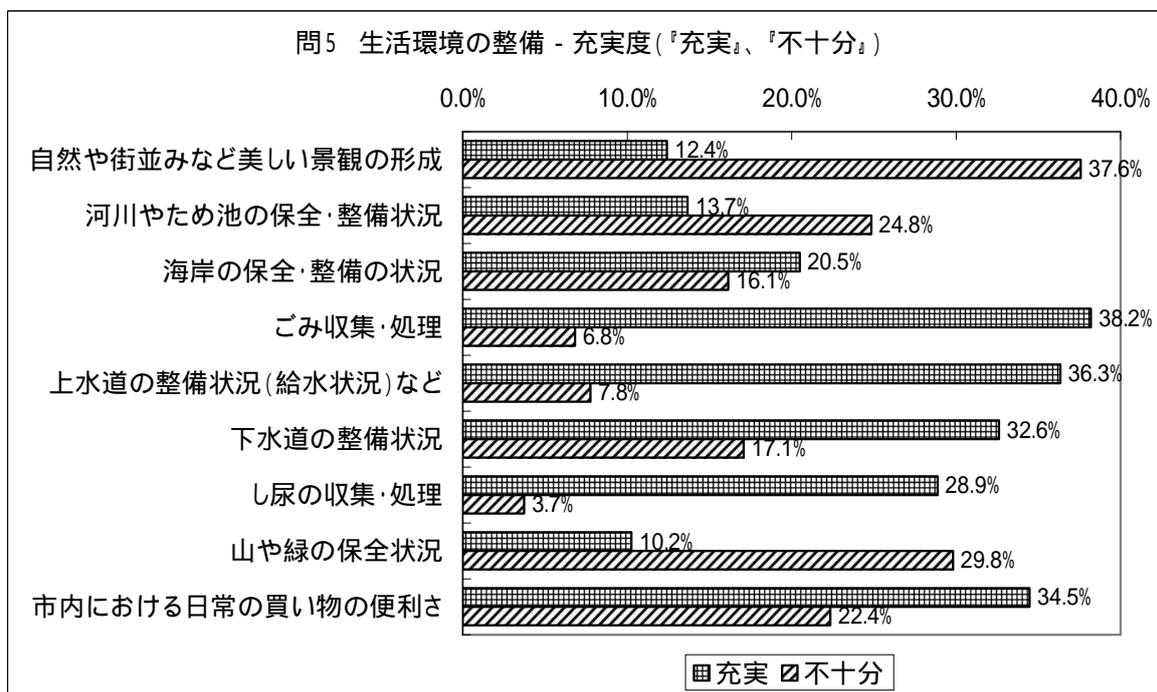
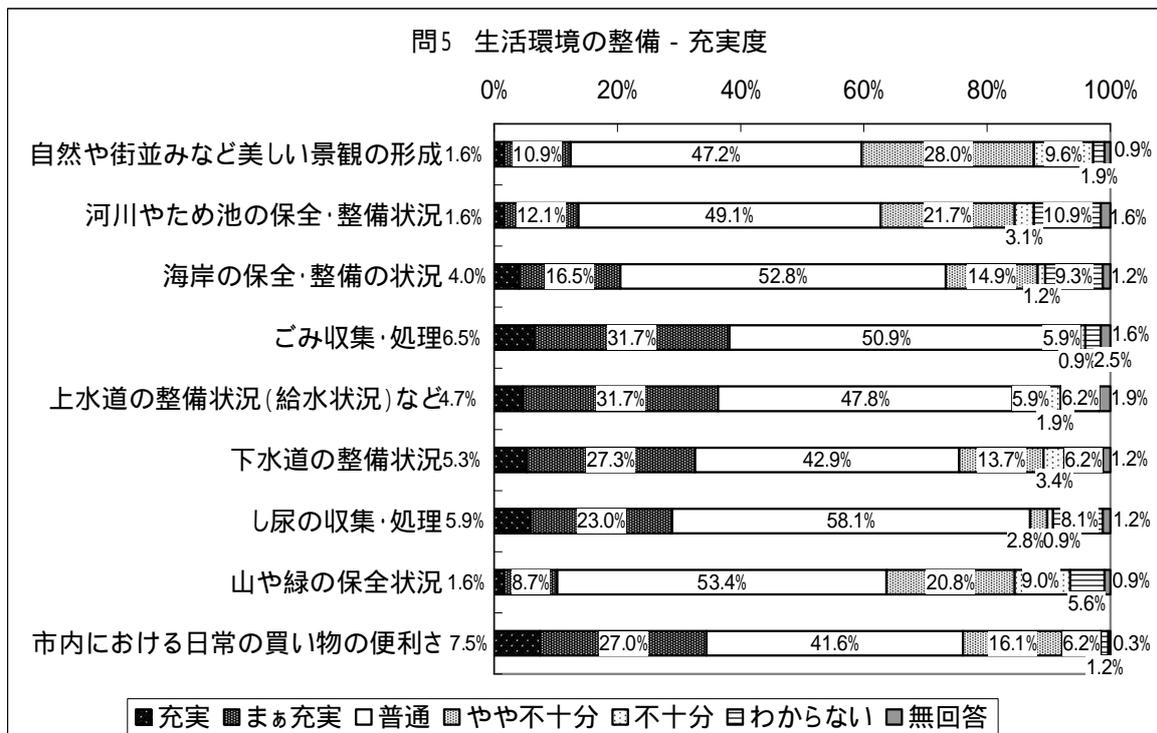
生活環境の整備

< 充実度 >

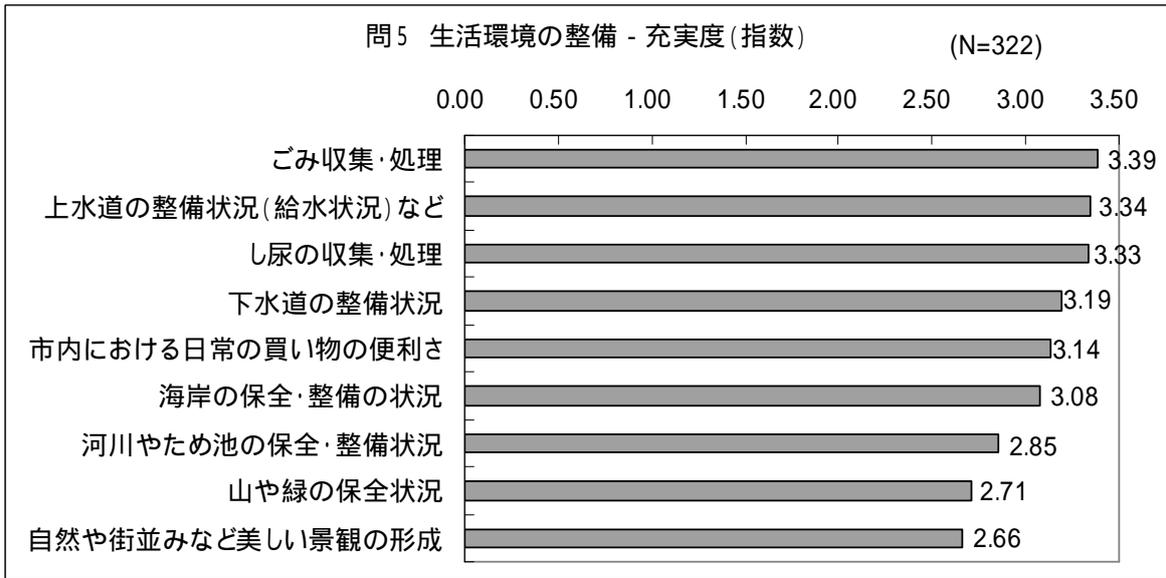
『充実』の割合が最も高いのは「ごみ収集・処理」(38.2%)であり、次いで「上水道の整備状況(給水状況)など」(36.4%)、「市内における日常生活の便利さ」(34.5%)となっている。

『不十分』の割合が最も高いのは「自然や街並みなど美しい景観の形成」(37.6%)、「山や緑の保全状況」(29.8%)となっている。

「自然や街並みなど美しい景観の形成」、「河川やため池の保全・整備状況」、「山や緑の保全状況」で『不十分』が『充実』を上回っている。

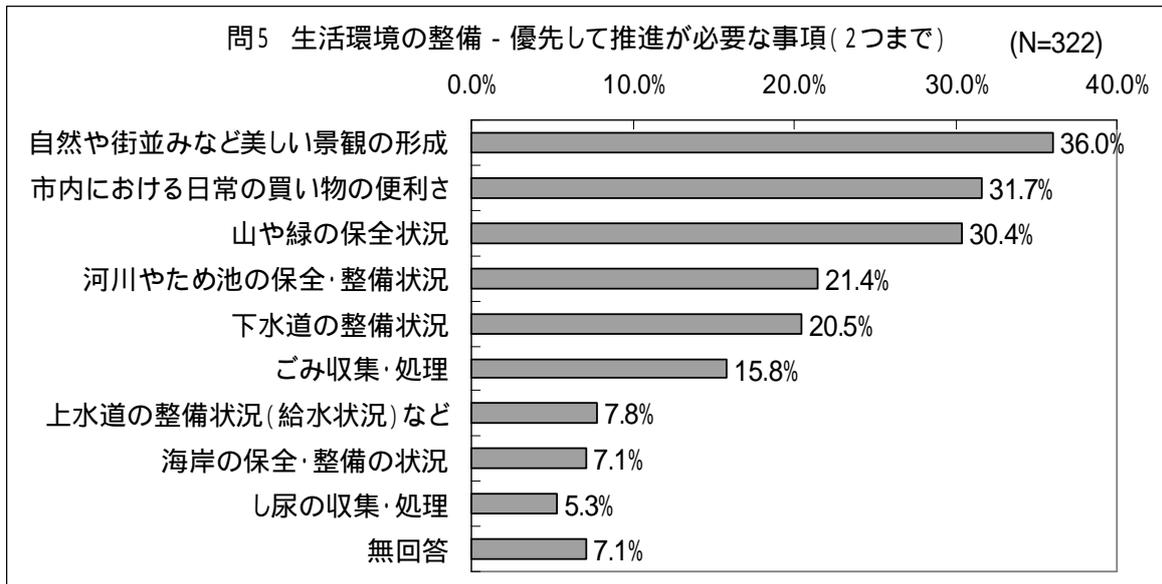


指数化したものを見てみると、「ごみ収集・処理」(3.39)「上水道の整備状況(給水状況)など」(3.34)「し尿の収集・処理」(3.33)となっている。



< 優先して推進が必要な事項 >

「自然や街並みなど美しい景観の形成」(36.0%)が最多であり、次いで「市内における日常の買い物の便利さ」(31.7%)、「山や緑の保全状況」(30.4%)となっている。



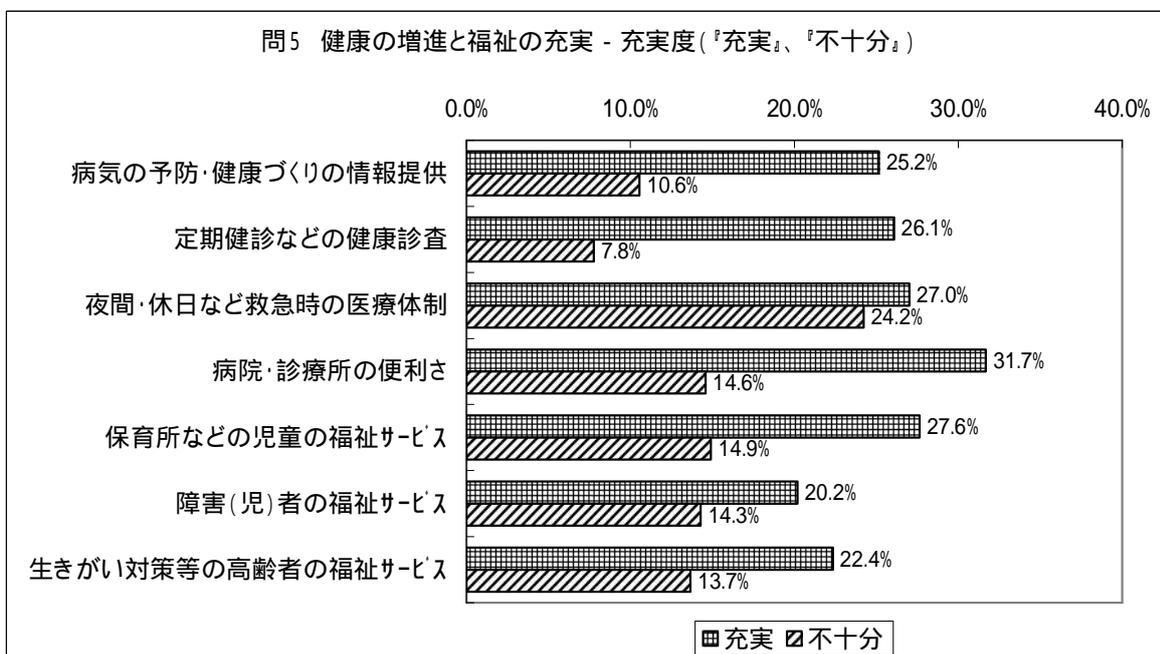
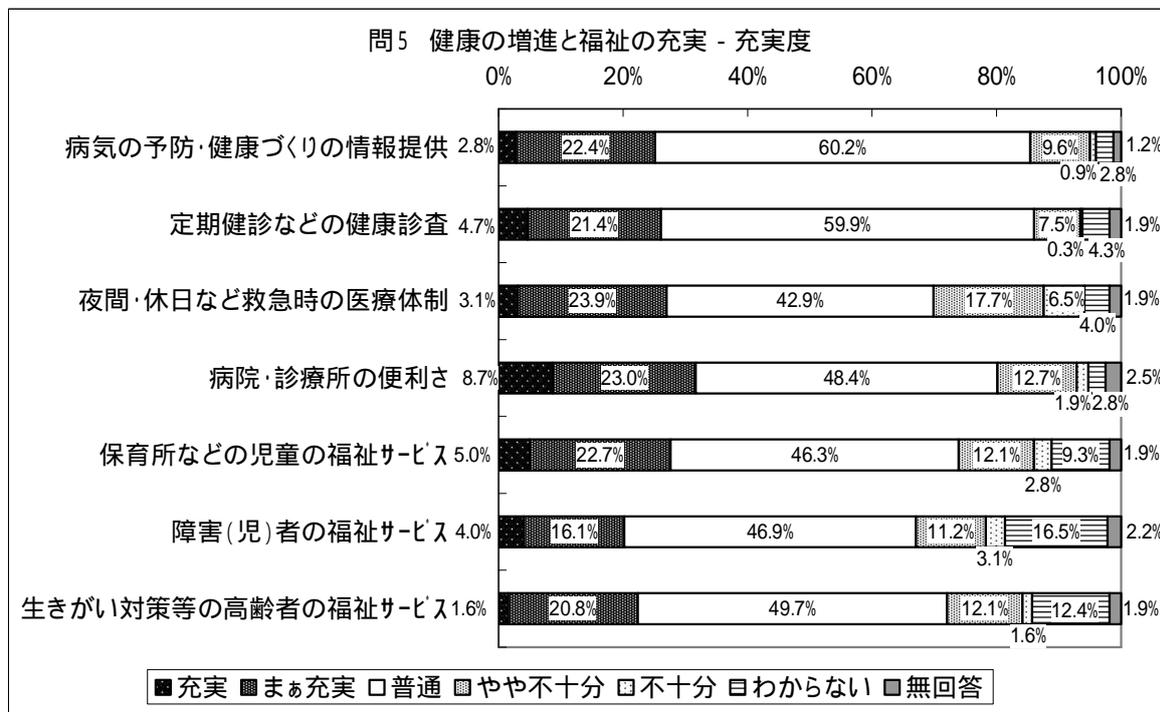
健康の増進と福祉の充実

< 充実度 >

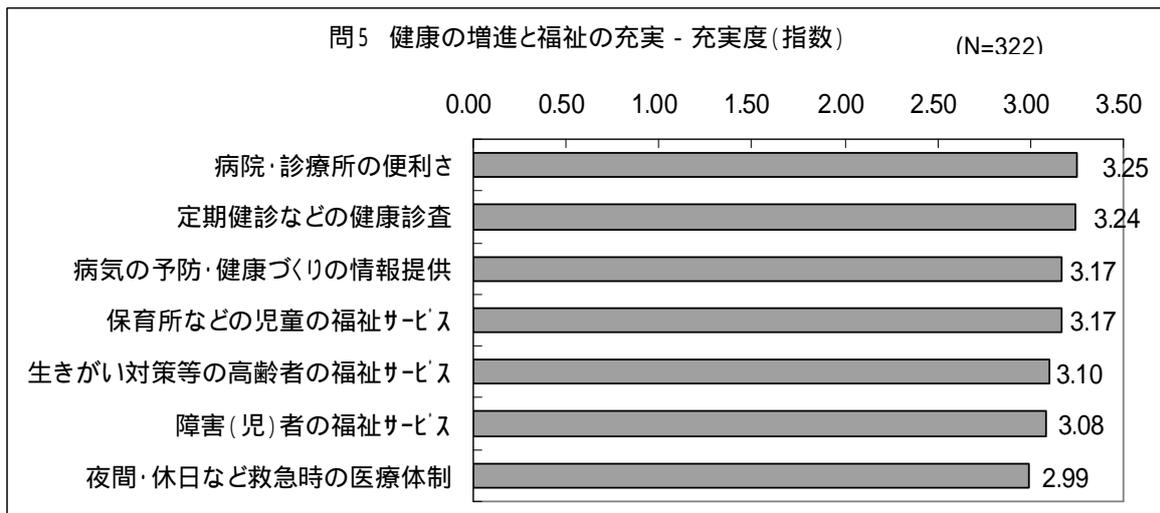
『充実』の割合が最も高いのは「病院・診療所の便利さ」(31.7%)であり、次いで「保育所などの児童の福祉サービス」(27.6%)、「夜間・休日など救急時の医療体制」(27.0%)となっている。

『不十分』の割合が最も高いのは「夜間・休日など救急時の医療体制」(24.2%)であり、次いで「保育所などの児童の福祉サービス」(14.9%)となっている。

『不十分』が『充実』を上回っている項目はない。

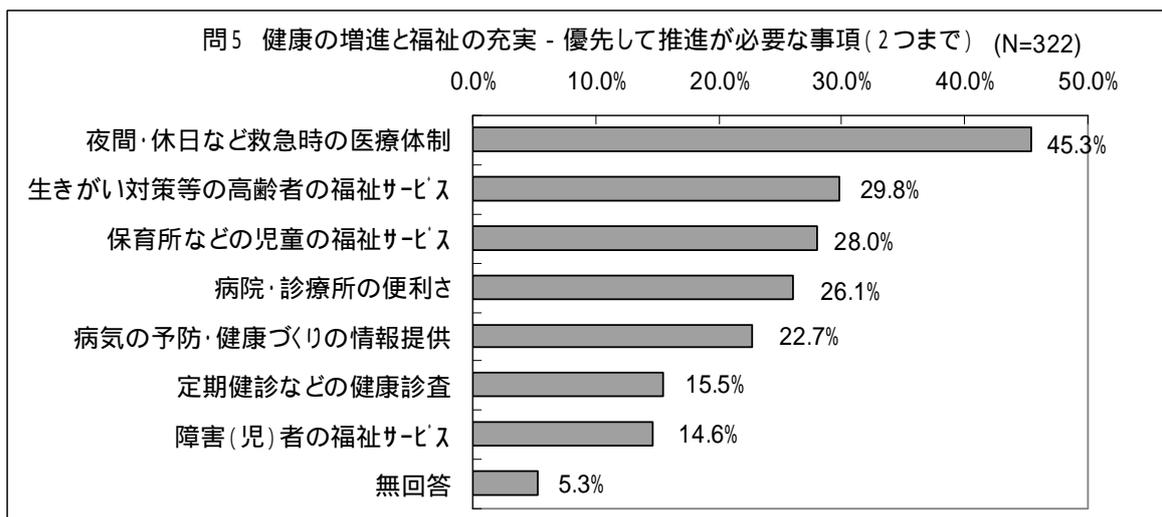


指数化したものを見てみると、高いものから「病院・診療所の便利さ」(3.25)、「定期健診などの健康診査」(3.24)、「病気の予防・健康づくりの情報提供」、「保育所などの児童の福祉サービス」(いずれも3.17)となっている。項目間の指数の差が少ない。



<優先して推進が必要な事項>

「夜間・休日など救急時の医療体制」が最も多く45.3%の職員が挙げており、次いで「生きがい対策等の高齢者の福祉サービス」(29.8%)、保育所などの児童の福祉サービス(28.0%)となっている。



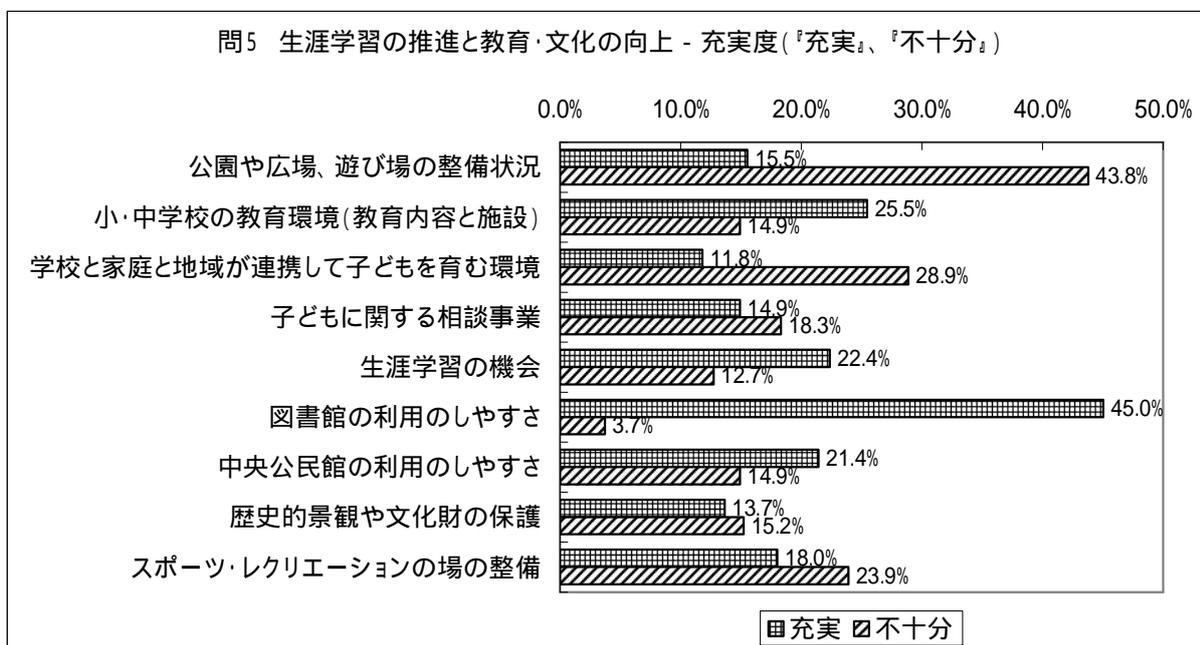
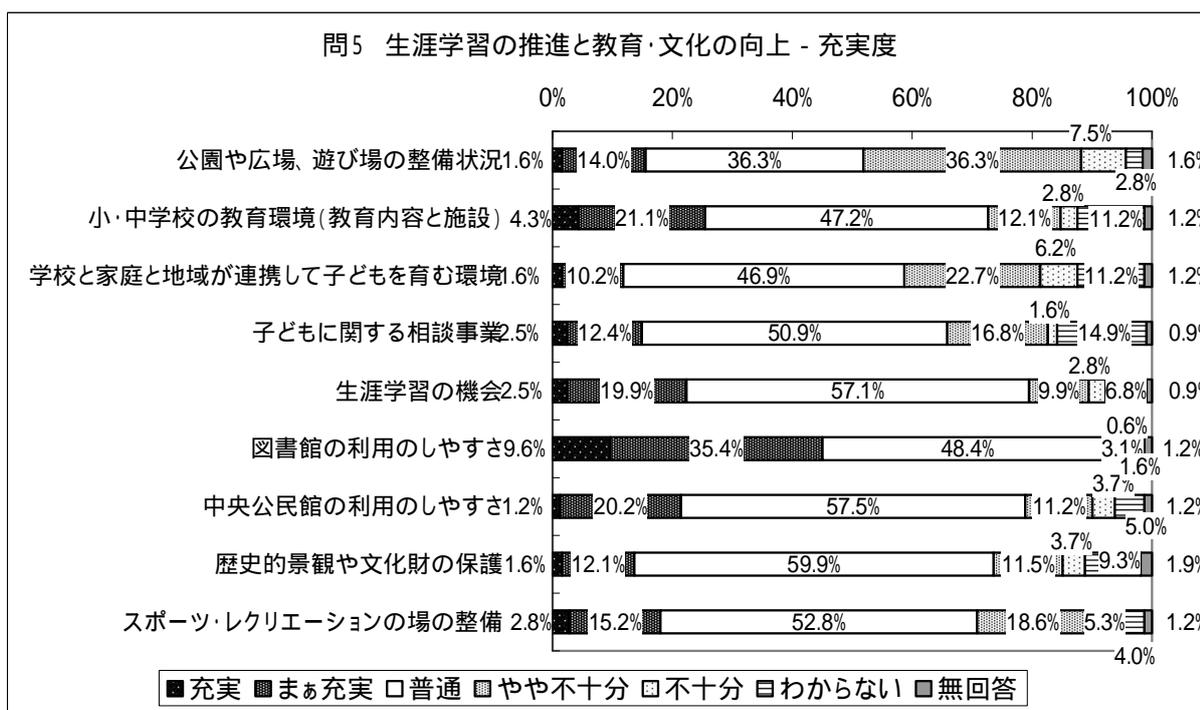
生涯学習の推進と教育・文化の向上

< 充実度 >

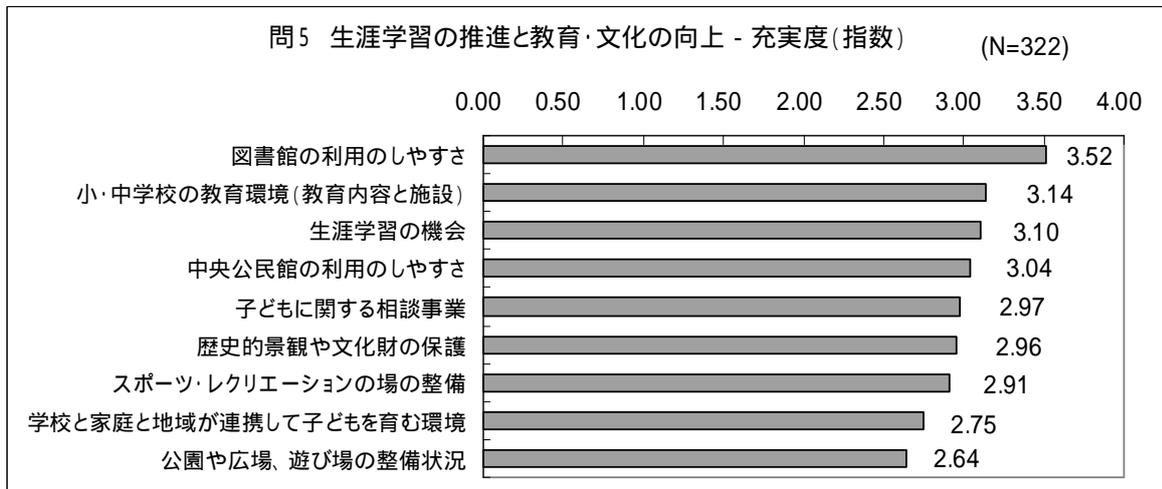
『充実』と回答した割合が最も高いのは「図書館の利用のしやすさ」(45.0%)であり、次いで「小・中学校の教育環境(教育内容と施設)」(25.5%)、「生涯学習の機会(趣味・資格取得・スポーツ・芸術文化など)」(22.4%)となっている。

『不十分』と回答した割合が最も高いのは「公園や広場、遊び場の整備状況」(43.8%)であり、次いで「学校と家庭と地域が連携して子どもを育む環境」(28.9%)、「スポーツ・レクリエーションの場の整備」(23.9%)となっている。

「公園や広場、遊び場の整備状況」、「学校と家庭と地域が連携して子どもを育む環境」、「子どもに関する相談事業」、「歴史的景観や文化財の保護」、「スポーツ・レクリエーションの場の整備」で『不十分』が『充実』を上回っている。

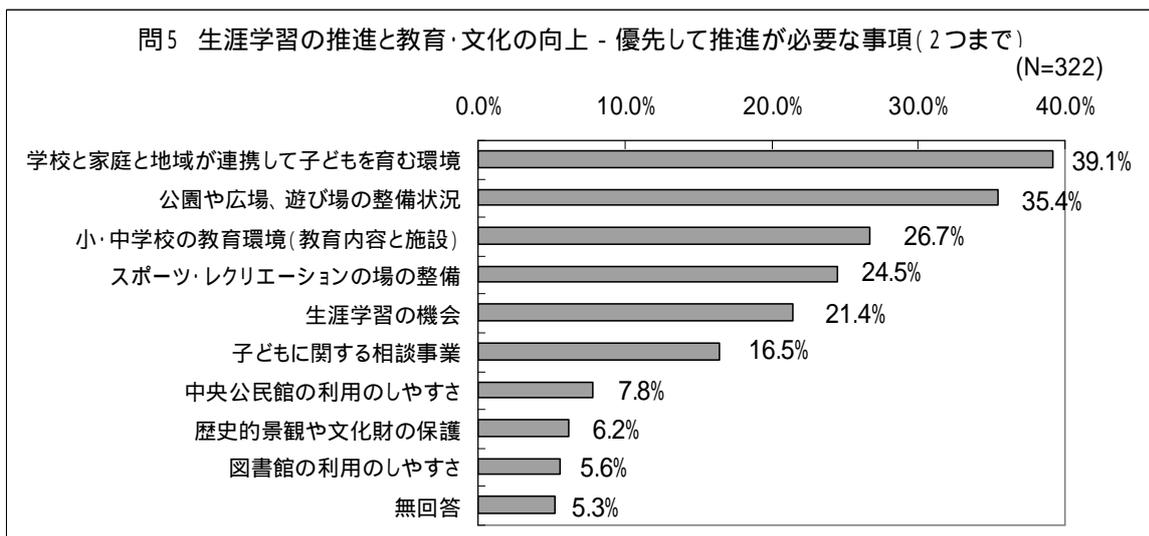


指数化したものを見てみると、高いものから「図書館の利用のしやすさ」(3.52)、「小・中学校の教育環境(教育内容と施設)」(3.14)、「生涯学習の機会(趣味・資格取得・スポーツ・芸術文化など)」(3.10)となっている。



<優先して推進が必要な事項>

「学校と家庭と地域が連携して子どもを育む環境」が最も多く、39.1%となっている。次いで「公園や広場、遊び場の整備状況」(35.4%)、「小・中学校の教育環境(教育内容と施設)」(26.7%)となっている。



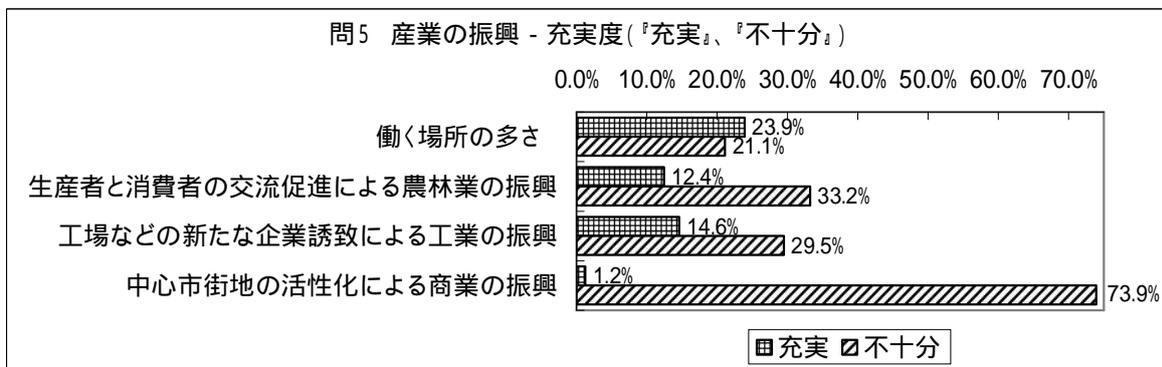
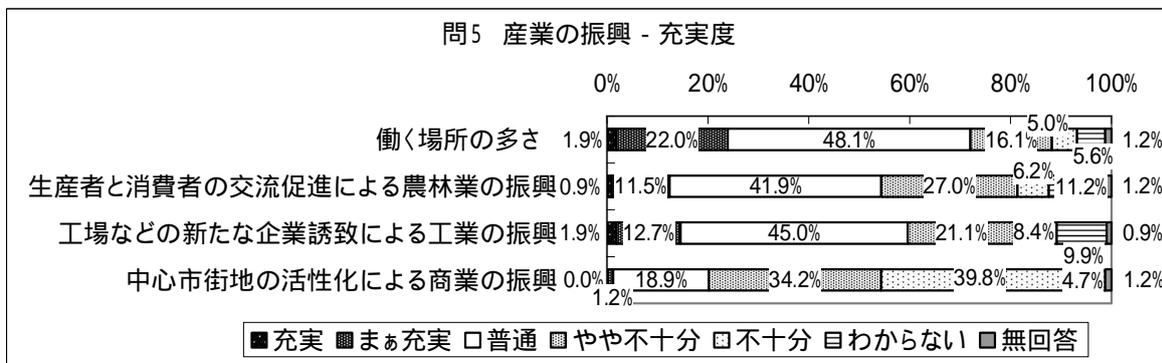
産業の振興

< 充実度 >

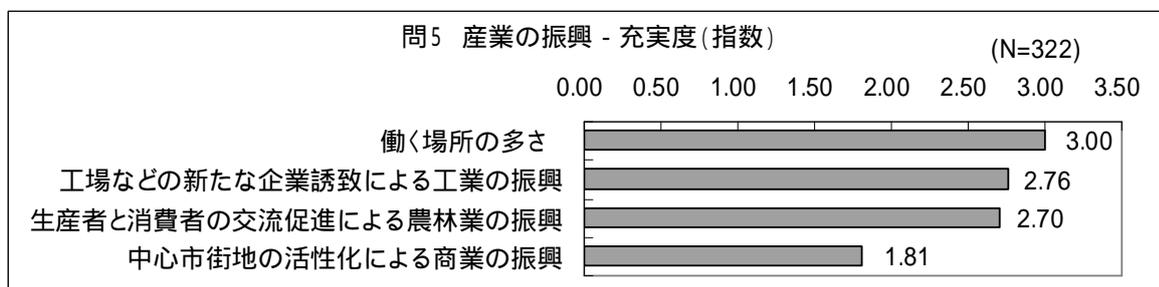
『充実』と回答した割合が最も高いのは、「働く場所の多さ」(23.9%)である。

『不十分』と回答した割合が最も高いのは「中心市街地の活性化による商業の振興」(73.9%)である。

「生産者と消費者の交流促進による農林業の振興」、「工場などの新たな企業誘致による工業の振興」、「中心市街地の活性化による商業の振興」において、『不十分』が『充実』を上回っている。

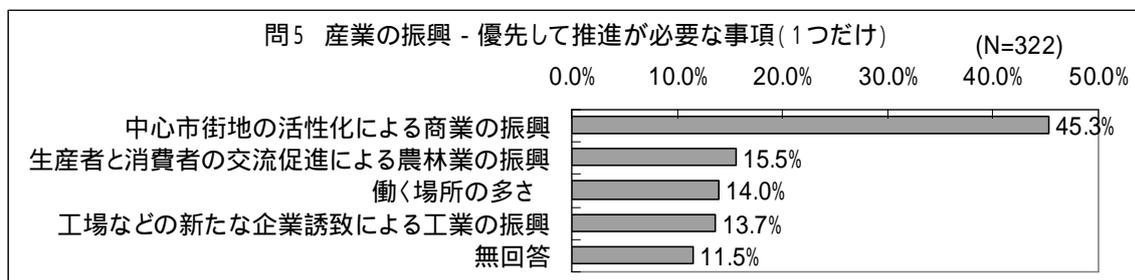


指数化されたものを見ると「働く場所の多さ」が最も高くなっている。



< 優先して推進が必要な事項 >

「中心市街地の活性化による商業の振興」が最も多く、45.3%の者が挙げている。



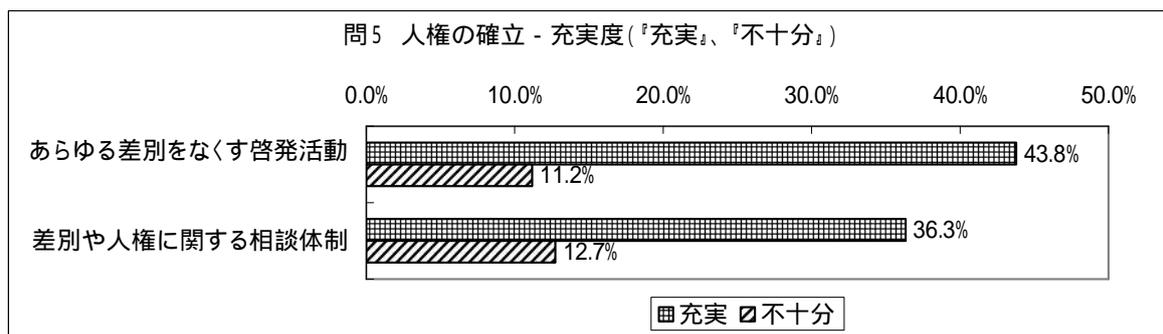
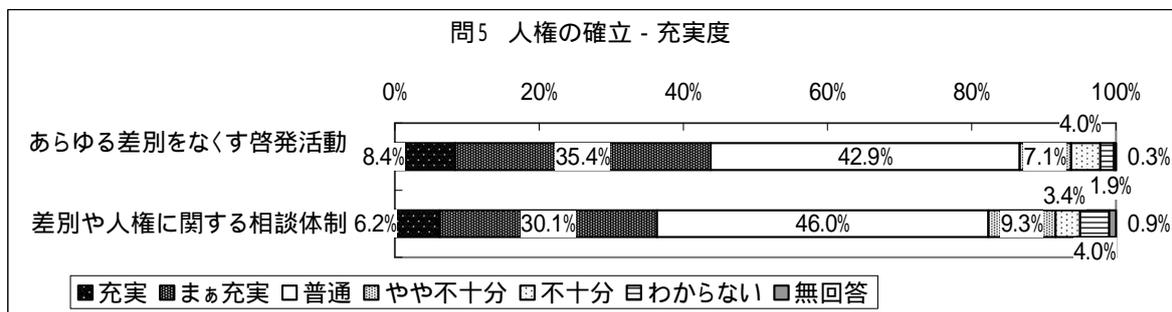
人権の確立

< 充実度 >

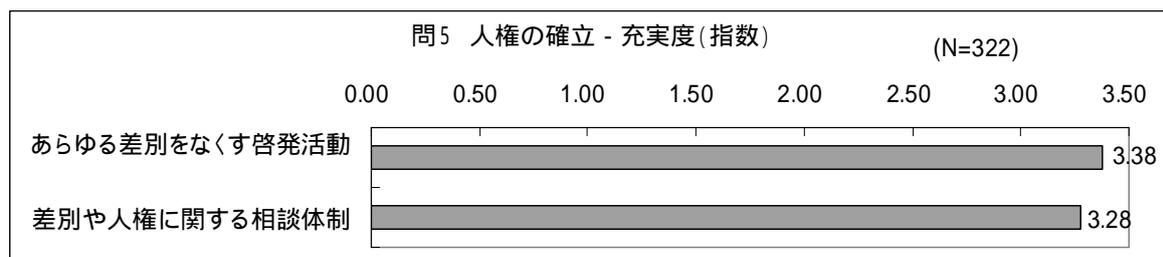
『充実』の割合が高いのは、「あらゆる差別をなくす啓発活動」であり、43.8%となっている。

『不十分』の割合が高いのは、「差別や人権に関する相談体制」であり、12.7%となっている。

いずれの項目においても、『充実』が『不十分』を上回っている。

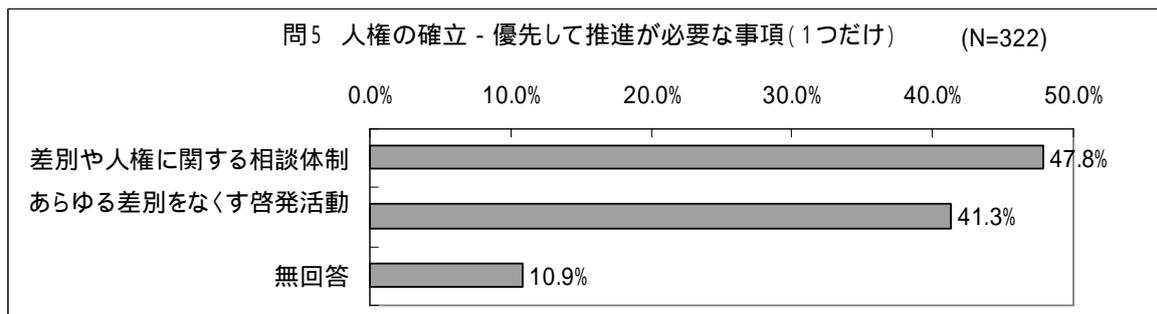


指数化されたものを見ると、「あらゆる差別をなくす啓発活動」の方が高い(3.38)。



< 優先して推進が必要な事項 >

「差別や人権に関する相談体制」が多く、47.8%の者が挙げている。



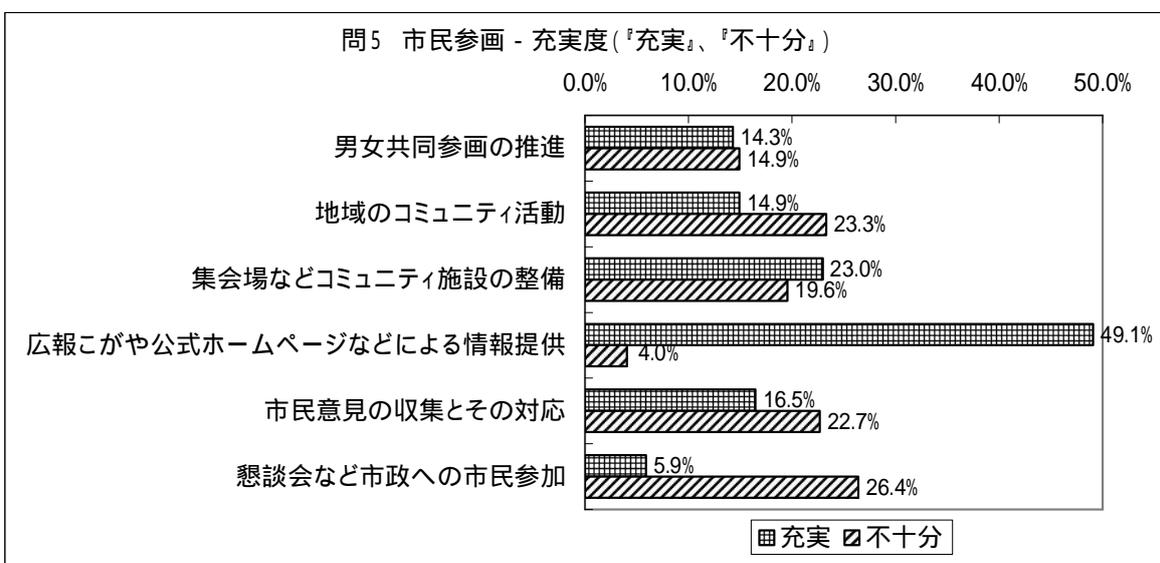
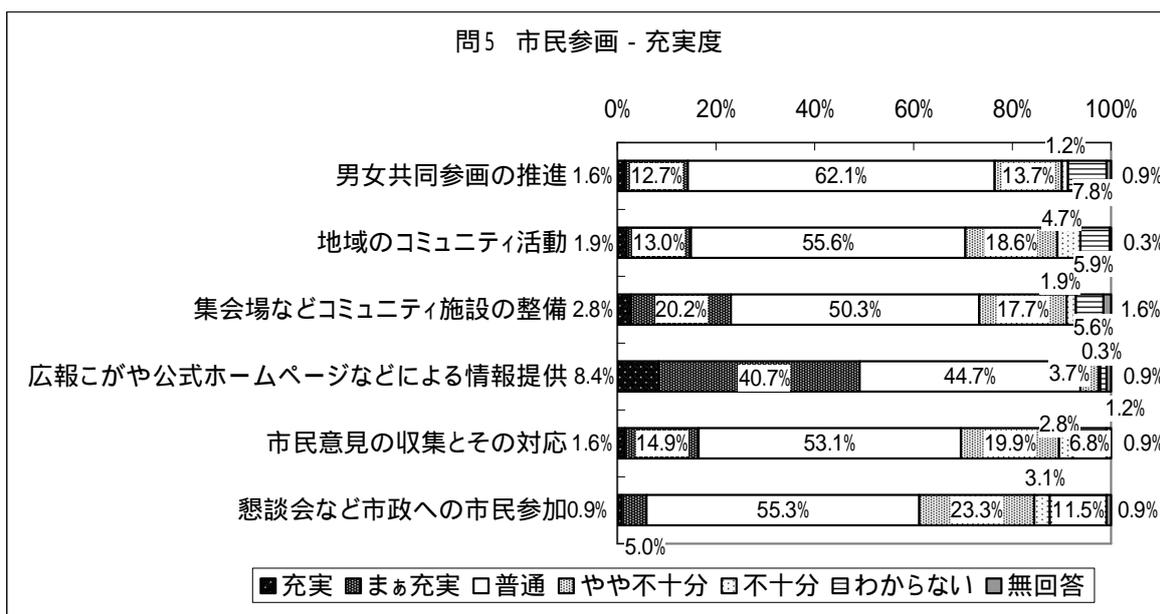
市民参画

< 充実度 >

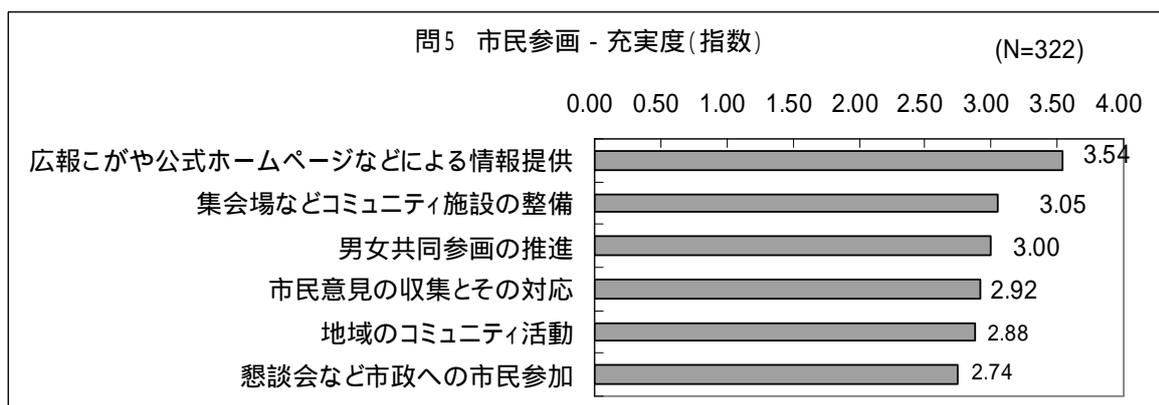
『充実』と回答した者の割合が最も高いのは「広報こがや公式ホームページなどによる情報提供」で、約半数(49.1%)が『充実』としている。次いで、「集会所やコミュニティ施設の整備」(23.0%)となっている。

『不十分』と回答した者の割合が最も高いのは「懇談会など市政への市民参加」(26.4%)となっており、次いで、「地域のコミュニティ活動」(23.3%)、「市民意見の収集とその対応」(いずれも22.7%)となっている。

「男女共同参画の推進」、「地域のコミュニティ活動」、「市民意見の収集とその対応」、「懇談会など市政への市民参加」において、『不十分』が『充実』を上回っている。

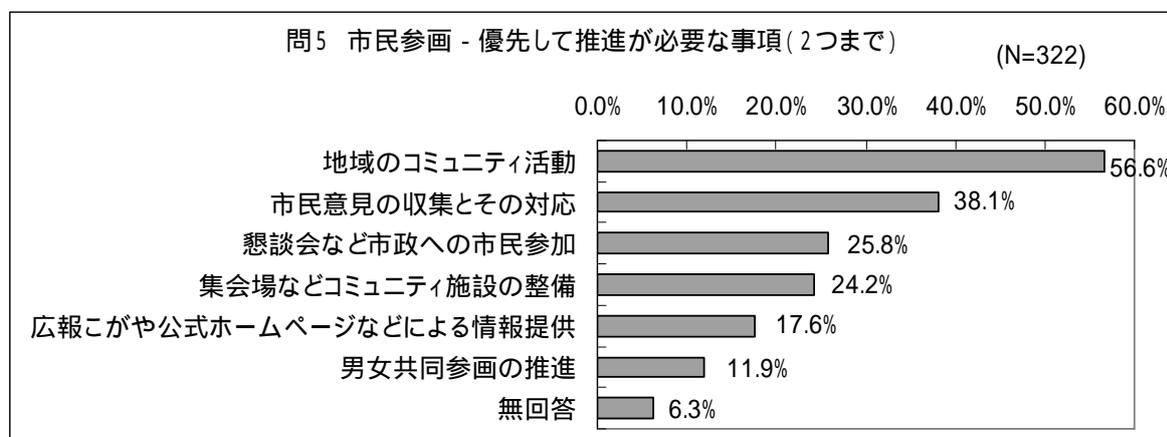


指数化されたものを見ると「広報こがや公式ホームページなどによる情報提供」が最も高く 3.54 となっており、次いで「集会場などコミュニティ施設の整備」(3.05)、「男女共同参画の推進」(3.00) となっている。



< 優先して推進が必要な事項 >

「地域のコミュニティ活動」が最も多く、回答者の半数以上(56.6%)が選択している。次いで「市民意見の収集とその対応」(38.1%)、「懇談会など市政への市民参加」(25.8%)となっている。



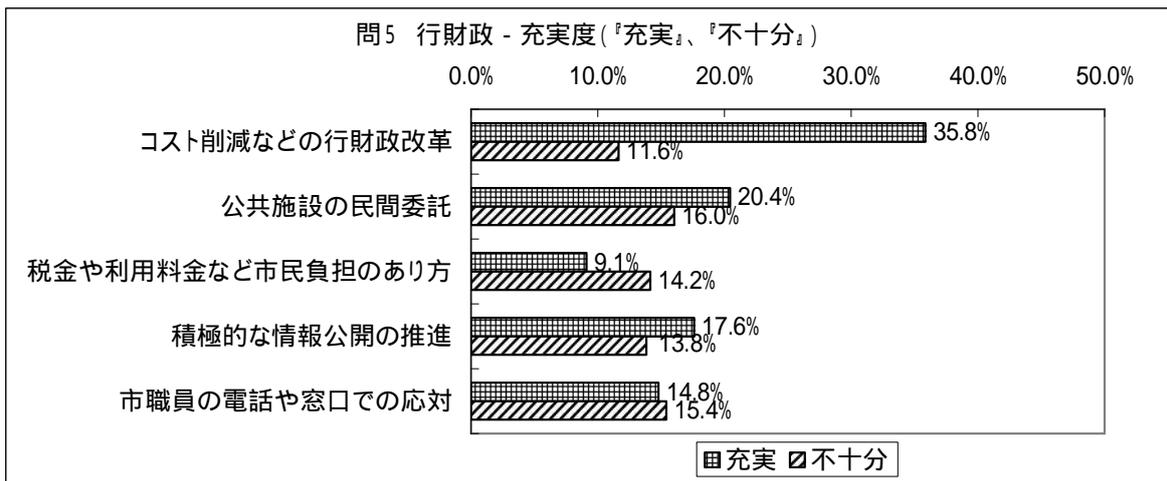
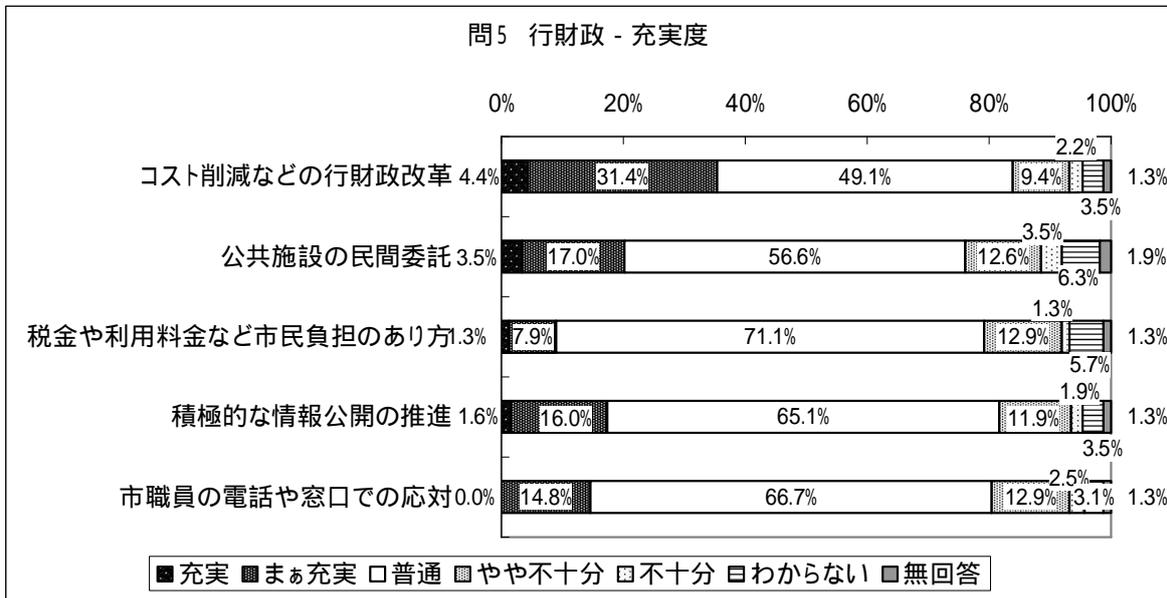
行財政

< 充実度 >

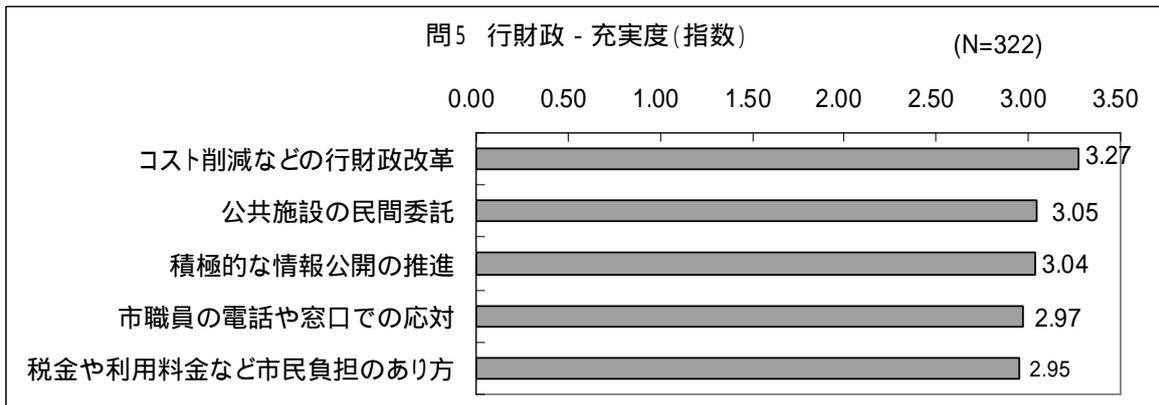
『充実』と回答した者の割合が最も高いのは「コスト削減などの行財政改革」であり、35.8%となっている。次いで「公共施設の民間委託」(20.4%)となっている。

『不十分』と回答した者の割合が最も高いのは「公共施設の民間委託」であり、16.0%となっている。次いで「市職員の電話や窓口での対応」(15.4%)となっている。

「税金や利用料金など市民負担のあり方」において、『不十分』が『充実』を上回っている。

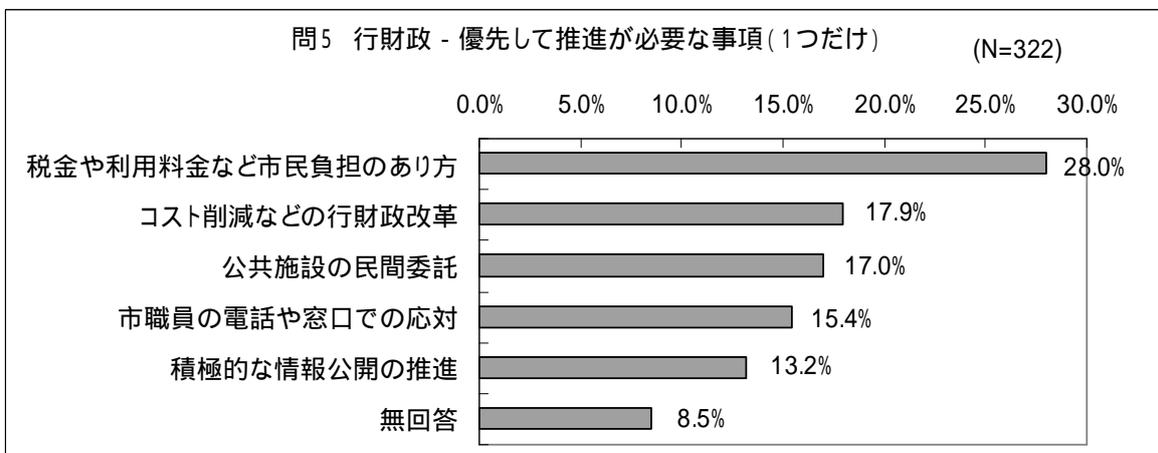


指数化されたものを見ると「コスト削減などの行財政改革」が最も高く 3.27 となっており、次いで「公共施設の民間委託」(3.05)、「積極的な情報公開の推進」(3.04)となっている。



< 優先して推進が必要な事項 >

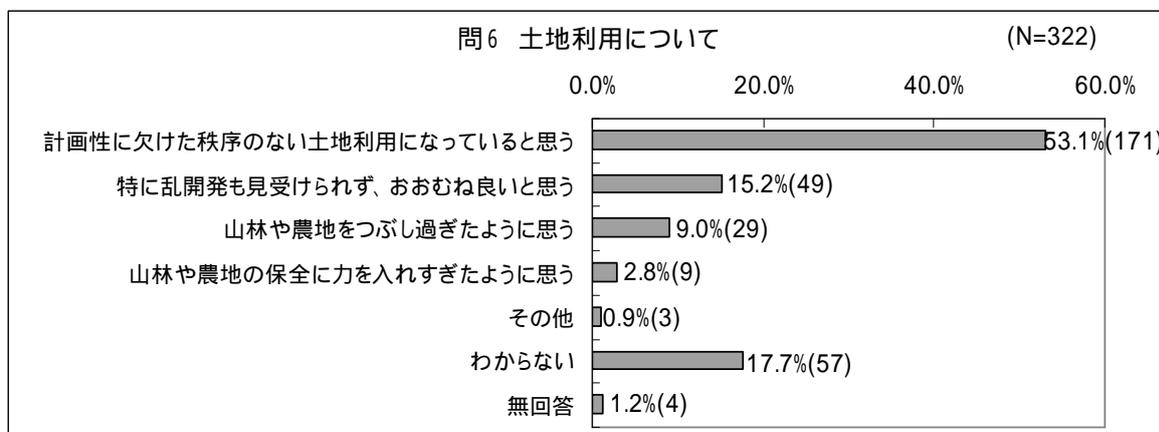
「税金や利用料金など市民負担のあり方」が最も高く、28.0%となっている。次いで「コスト削減などの行財政改革」(17.9%)、「公共施設の民間委託」(17.0%)となっている。



6)土地利用について

問6 これまでの古賀市の土地利用について、あなたはどのように思いますか。
次の中から1つだけ選んで、番号に 印をつけてください。

「計画性に欠けた秩序のない土地利用になっていると思う」とがもっとも多く、過半数の53.1%の者が挙げている。「特に乱開発も見受けられず、おおむね良いと思う」という肯定的な回答は、15.2%にすぎない。

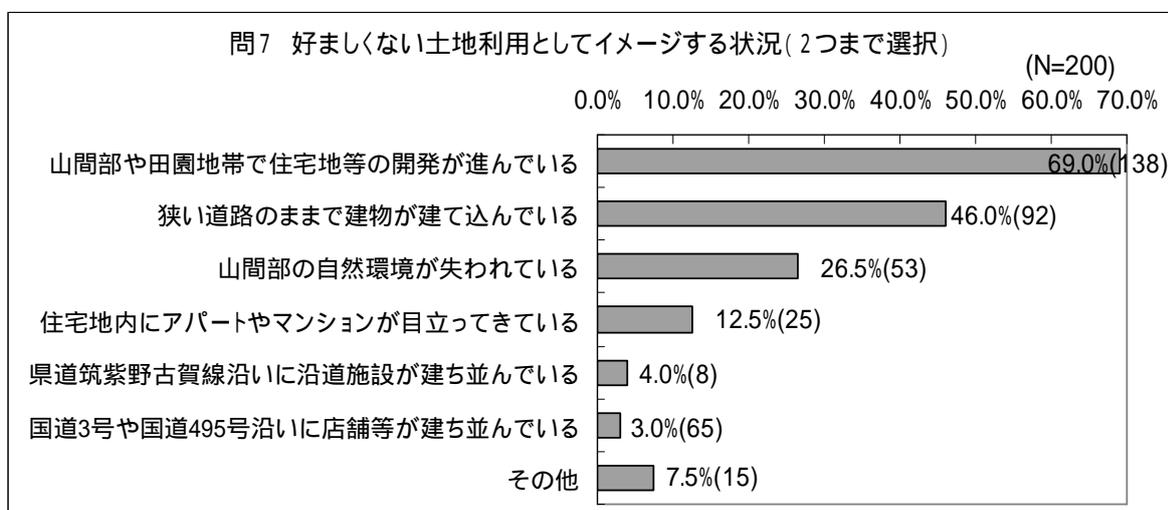


問6で「山林や農地をつぶし過ぎたように思う」または「計画性に欠けた秩序のない土地利用になっていると思う」に 印をつけた方にお聞きします。

問7 それはどのような状況をイメージされていますか。

次の中から2つまで選んで、番号に 印をつけてください。

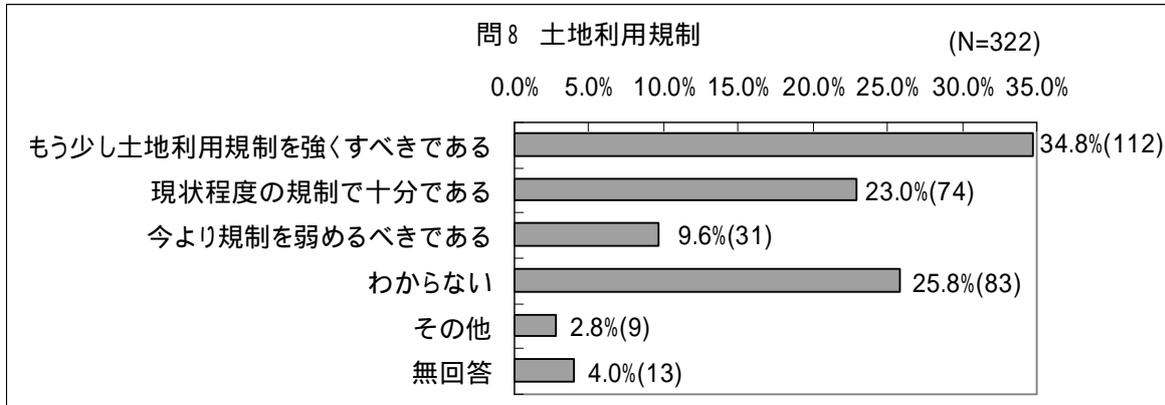
「山間部や田園地帯で住宅地等の開発が進んでいる」が最も多く、回答者の69.0%が挙げている。次いで「せまい道路のままで建物が建て込んでいる」(46.0%)、「山間部の自然環境が失われている」(26.5%)となっている。



問8 土地利用については、都市計画法などの法律で規制されていますが、本市の土地利用規制について、あなたはどのように考えますか。

次の中から1つだけ選んで、番号に 印をつけてください。

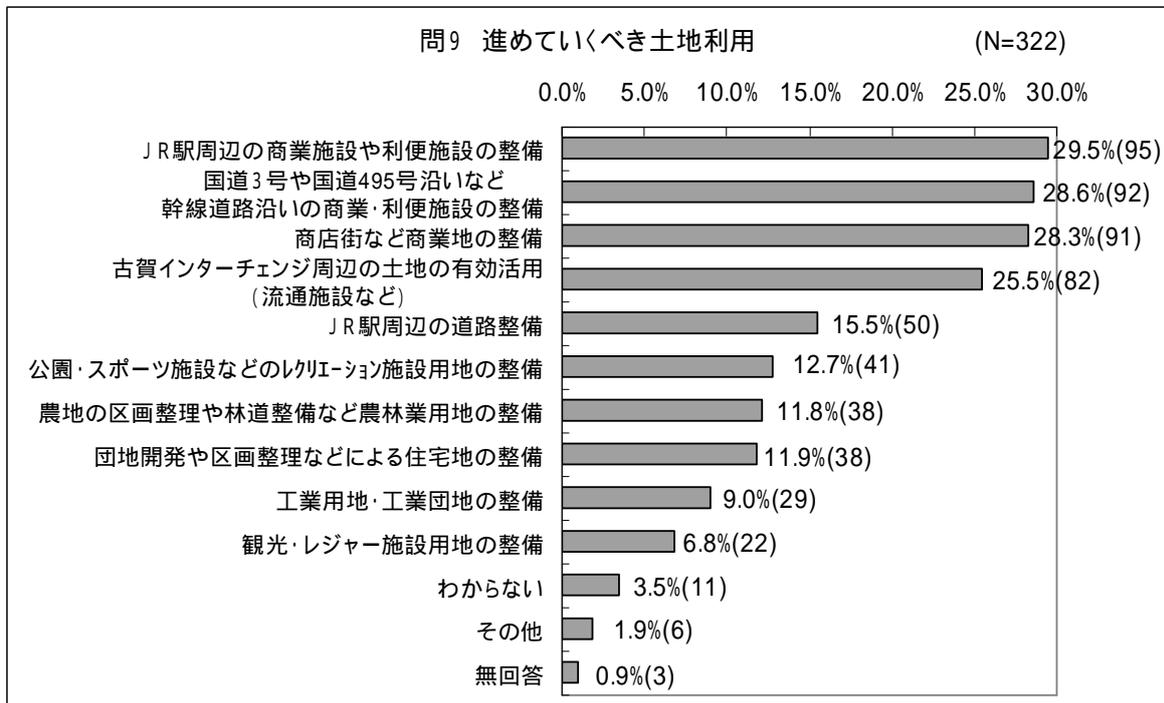
「もう少し土地利用規制を強くすべきである」と回答した者の割合が最も多く、34.8%となっている。「現状程度の規制で十分である」と回答した者は23.0%、「今より規制を弱めるべきである」とした者が9.6%となっている。



問9 古賀市発展のために、今後、計画的に進めていくべき土地利用は、何だと考えますか。

次の中から2つまで選んで、番号に 印をつけてください。

「JR駅周辺の商業施設や利便施設の整備」を挙げた者が最も多く、29.6%に上っている。次いで「商店街など商業地の整備」(28.6%)、「国道3号や国道495号沿いなど幹線道路沿いの商業・利便施設の整備」(28.3%)となっており、商業施設や利便施設の整備、商業地の整備といった項目を挙げる者が多くなっている。

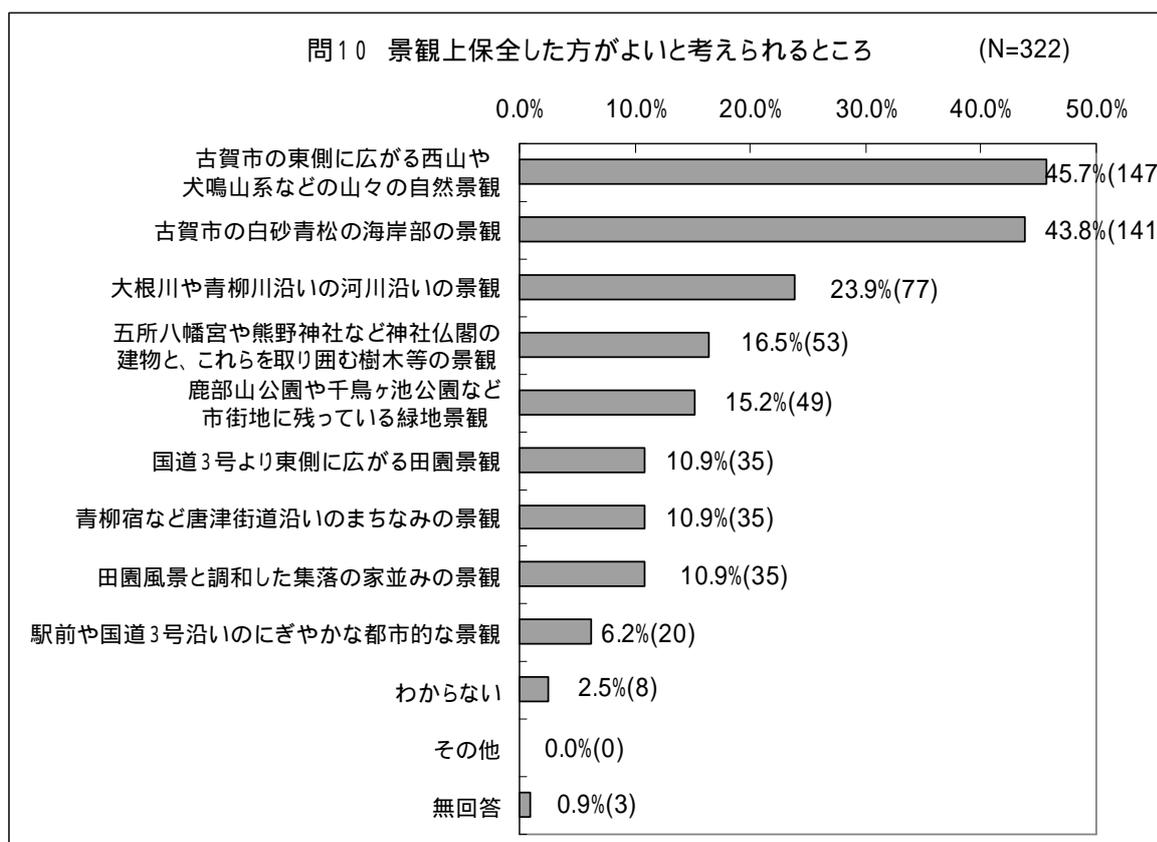


7) 景観について

問 10 古賀市内で景観上保全した方がよいと考えられるところはどこですか。次の中から2つまで選んで、番号に 印をつけてください。

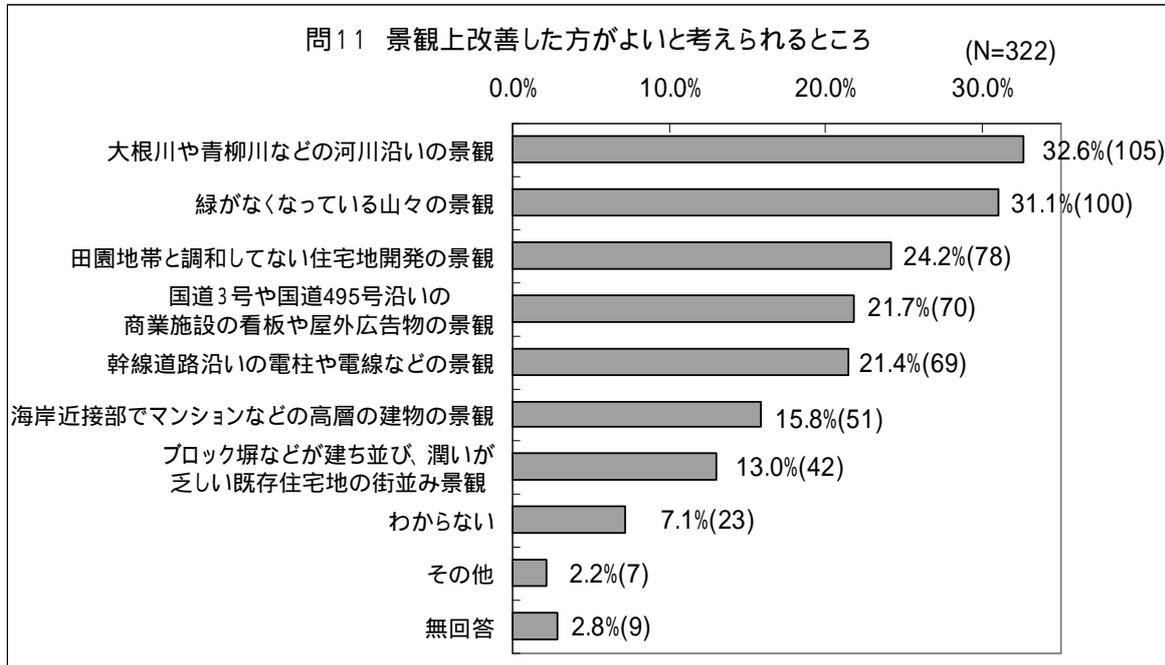
(景観とは、街並みや緑地などの人が眺める対象を示す「景」という言葉と、それを眺める人の感覚を表す「観」という言葉を組み合わせたものです。)

「古賀市の東側に広がる西山や犬鳴山系などの山々の自然景観」が最も多く、45.7%の者が挙げている。次いで、「古賀市の白砂青松の海岸部の景観」(43.8%)、「大根川や青柳川沿いの河川沿いの景観」(23.9%)となっている。



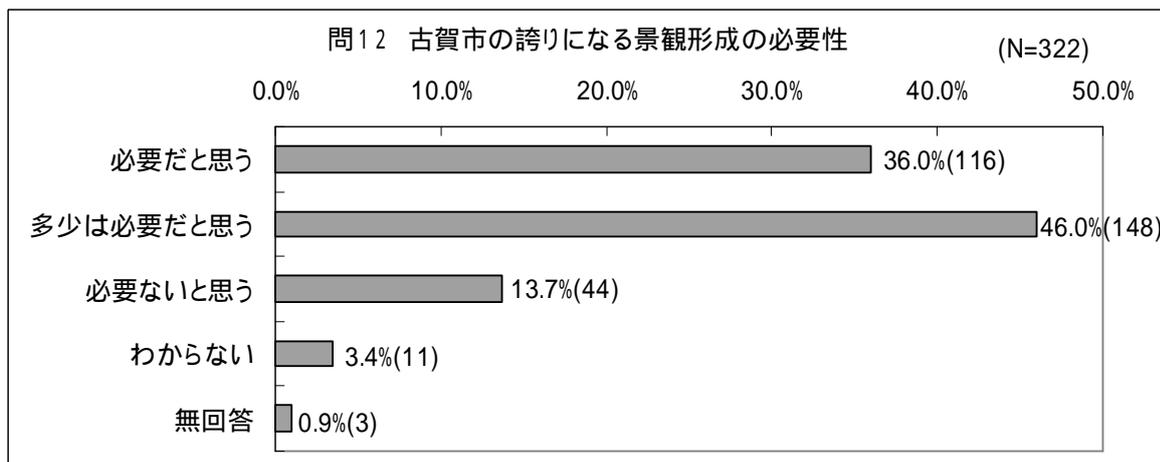
問 11 古賀市内で景観に問題があり改善した方がよいと考えられるところはどこですか。
次の中から2つまで選んで、番号に 印をつけてください。

「大根川や青柳川などの河川沿いの景観」が最も多く、32.6%の者が挙げている。次いで「緑がなくなっている山々の景観」(31.1%)、「田園地帯と調和してない住宅地開発の景観」(24.2%)となっている。



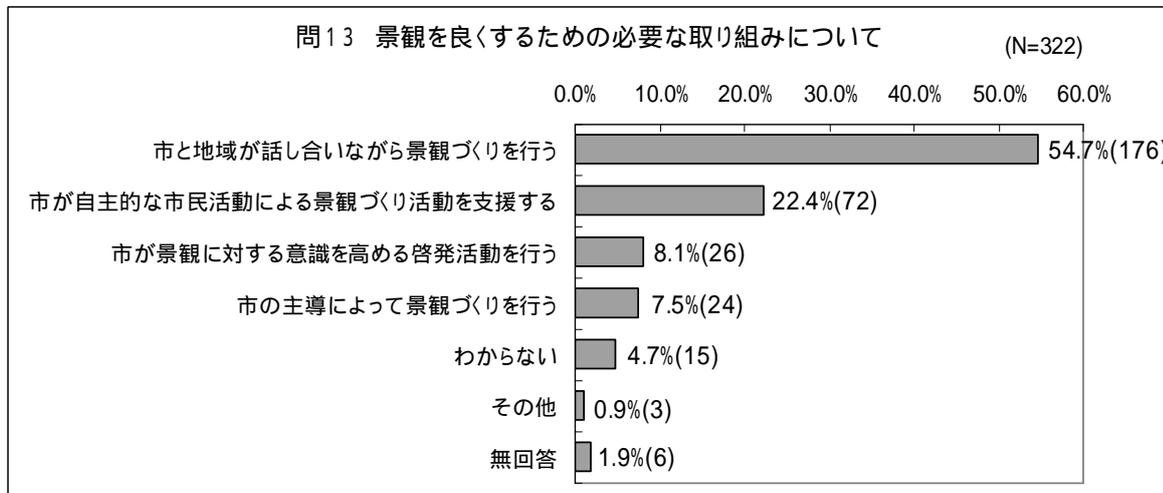
問 12 古賀市らしい特色を生かした古賀市の誇りになるような景観（例：青柳宿の街並み景観の復元など）の形成は必要だと思いますか。
次の中から1つだけ選んで、番号に 印をつけてください。

「必要だと思う」と「多少は必要だと思う」を合せた『必要だと思う』が82.0%挙げられており、景観形成の必要性が必要だと感じている職員が多いことがうかがえる。



問13 古賀市の景観を良くしていくために、どのような取り組みが必要だと考えますか。
次の中から1つだけ選んで、番号に 印をつけてください。

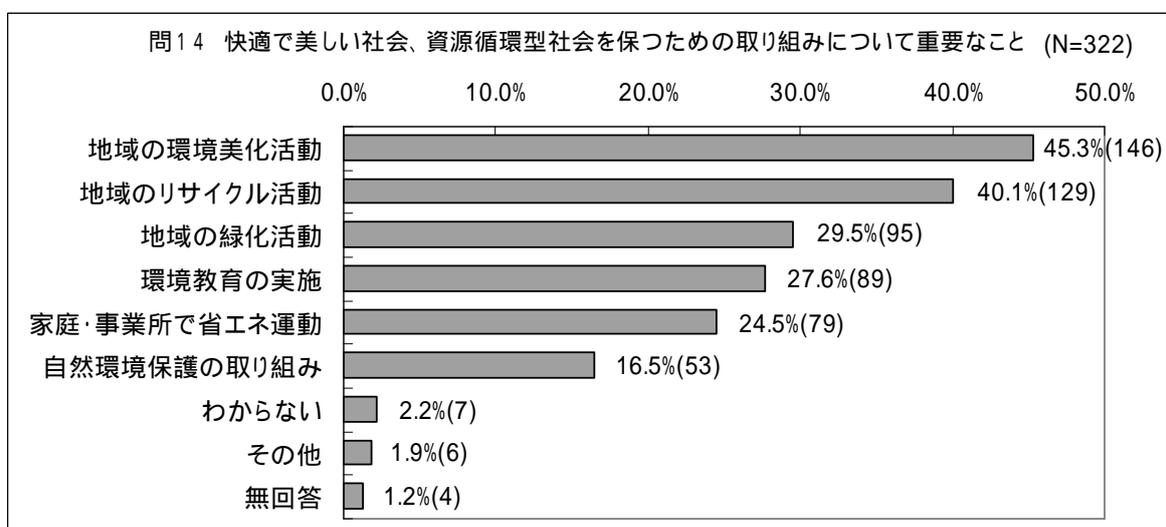
「市と地域が話し合いながら景観づくりを行う」が最も多く、54.7%の者が挙げている。次いで「市が自主的な市民活動による景観づくり活動を支援する」(22.4%)となっている。



8)生活環境について

問14 快適で美しい社会、資源循環の社会を保つための取り組みについて、どのようなことが重要と考えますか。次の中から2つまで選んで、番号に 印をつけてください。

「地域の環境美化活動」が最も多く、45.3%の者が挙げている。次いで「地域のリサイクル活動」(40.1%)、「地域の緑化活動」(29.5%)となっており、地域での活動が必要と考えている職員が多いことがうかがえる。

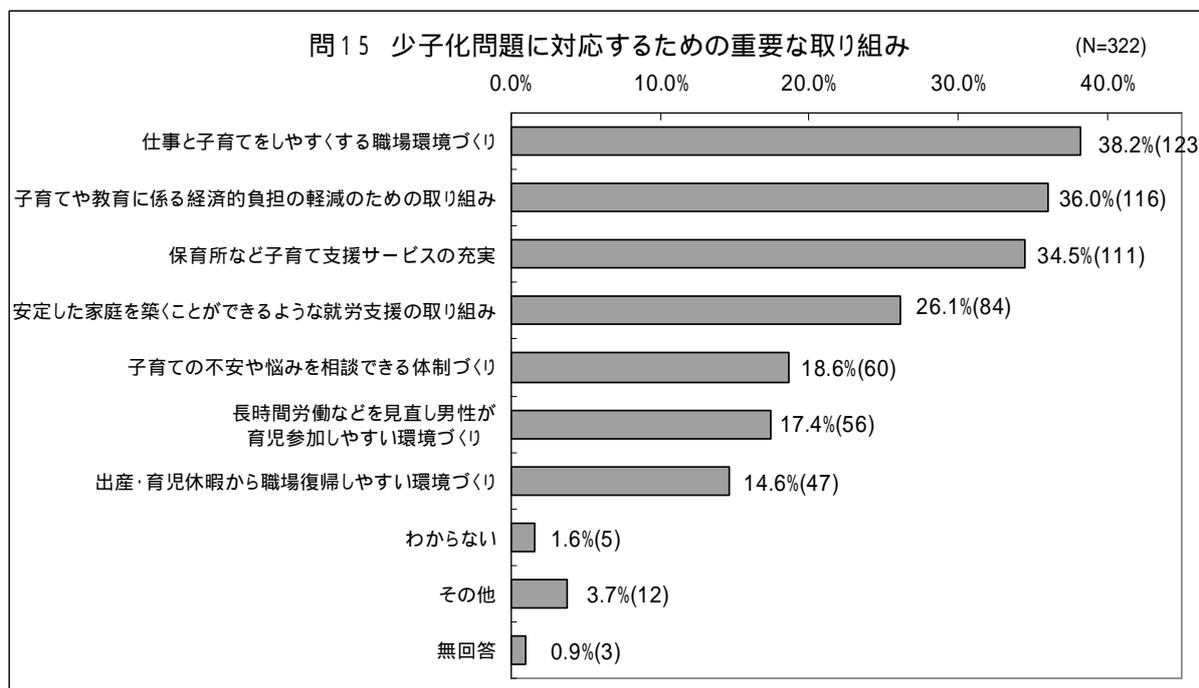


9)健康・福祉について

問 15 少子化問題に対応するためにどのような取り組みが重要と考えますか。

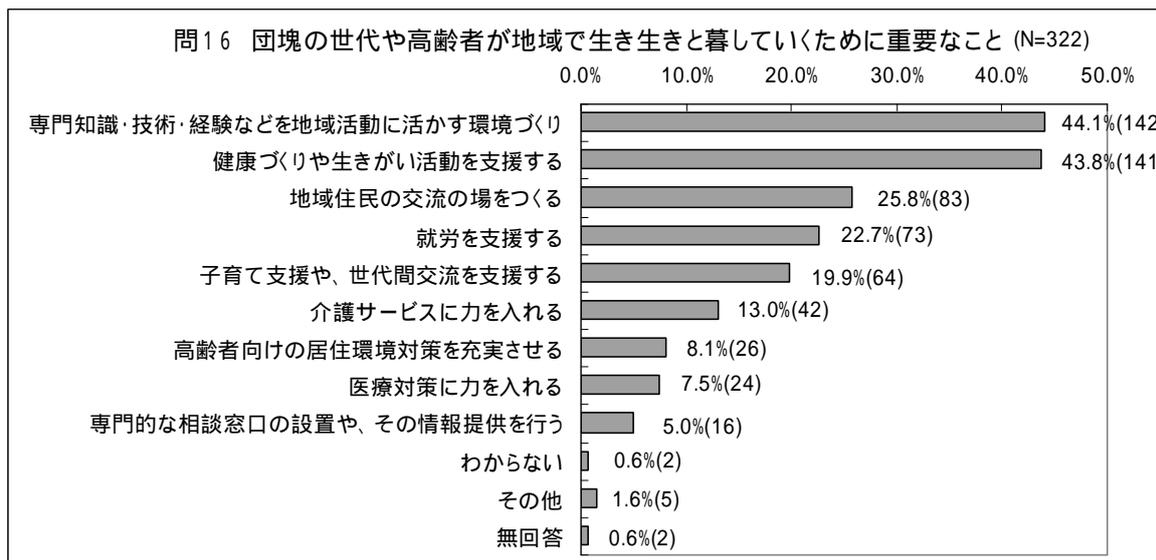
次の中から2つまで選んで、番号に 印をつけてください。

「仕事と子育てをしやすくする職場環境づくり」が最も多く、38.2%の者が挙げている。次いで「子育てや教育に係る経済的負担の軽減のための取り組み」(36.0%)、「保育所など子育て支援サービスの充実」(34.5%)となっている。



問 16 団塊の世代や高齢者が地域で生き生きと暮らしていくためにはどのようなことが重要と
考えますか。次の中から2つまで選んで、番号に 印をつけてください。

「専門知識・技術・経験などを地域活動に活かす環境づくり」が最も多く、44.1%の者が挙げている。次いで「健康づくりや生きがい活動を支援する」(43.8%)となっている。

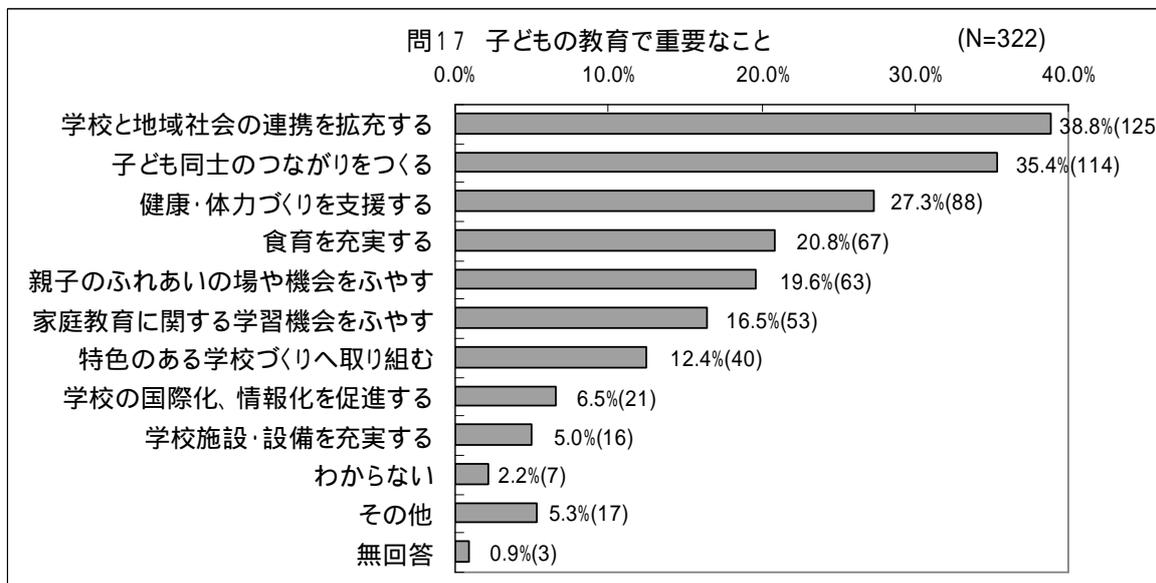


10)教育・生涯学習・スポーツについて

問 17 子どもの教育で何が重要だと考えますか。

次の中から2つまで選んで、番号に 印をつけてください。

「学校と地域社会の連携を拡充する」が最も多く、38.8%の者が挙げている。次いで「子ども同士のつながりをつくる」(35.4%)、「健康・体力づくりを支援する」(27.3%)となっている。

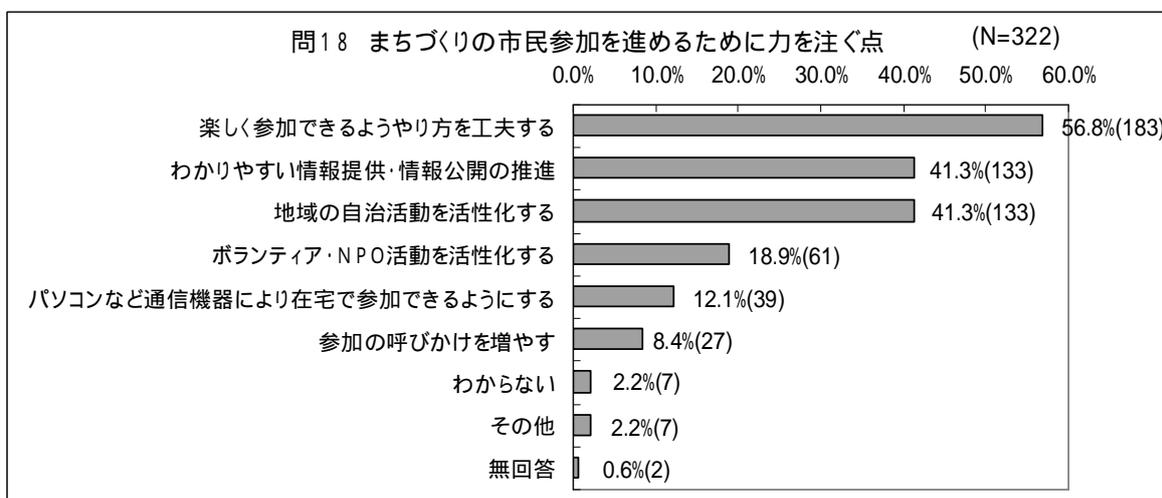


11)市民参画について

問 18 まちづくりの市民参加を進めるために、どのような点に力を注いだらよいと考えますか。

次の中から2つまで選んで、番号に 印をつけてください。

「楽しく参加できるようやり方を工夫する」が最も多く、56.8%の者が挙げている。次いで「わかりやすい情報提供・情報公開の推進」と「地域の自治活動を活性化する」が41.3%と同数となっている。



12) 古賀市のまちづくりについて

問 19 古賀市のまちづくりや総合振興計画策定について、ご意見、ご提案（アイデア）等をお持ちでしたら以下に記入してください。

p.131 参照。

問 19 自由意見

内 容	項 目
細かすぎる計画ではなく、古賀市がだれもが住みやすい市にするために、各部で声を上げた分を入れて大まかな計画としてはどうか。	計画規模
急激な高齢化により予想できない社会問題も発生するであろうし、計画期間も短めにして、策定期間も短くし、市民ニーズに応える計画としていく必要がある。	計画規模
マスタープランはどうしても総花的になってしまうが、分野ごとに「ここがキモ」みたいな、特に力を入れるところを打ち出せたら独自性が出るかも。(重点ポイントみたいな感じで)	計画規模
選択と集中。正しい選択と一定期間の重点配備。	計画規模
身の丈に合った、地に足のついた地道な政策を着実に遂行できるよりどころとなるような総合振興計画であって欲しい。総花的記述になってよいと思うが、古賀市固有の課題にきちんと向き合うことも大事だと思う。	計画規模
「古賀らしさ」を創出する10年にしたい。	目標
仕事をするのが目的となっているので、計画段階できちんとした目標(指標)をある程度示すことが必要。	目標
社会情勢の変化に対応した新規目標の設定をする必要がある。	目標
市民向けに分かりやすい策定体系図を作ってみては、10年後の古賀市のあるべき姿は「～」といった風に分かりやすい表現を使って示せば、もっと親しみやすい計画になると思う。またその目標を達成するためには、こういうことが必要で、そのためにこういうことをしていきます、といったことを記してみてもいい。	目標 わかりやすさ
わかりやすいビジョン。取り組みがいのある目標。職員一人一人が常に意識できるようになればと思う。	目標 わかりやすさ
市長の任期に合わせて策定し、マニフェストに近いものとして具体的な数字等も含めた計画のほうが良いと思う。	目標 策定手続き
計画づくりに期間(2～3年)と労力がかかりすぎと思う。	策定手続き
首長マニフェストの具現化であり、現状を踏まえての基本姿勢は必要であるが、どうしたいのかがベースであるべきであり主体性に欠ける策定に疑問を持っている。企画がベースをつくり、所管に投げ、完成させるべきではないか。	策定手続き
人が集まる場所があるといいと思う。目的がある人だけでなく、一息つけるような広場(公園みたいな)での人との出会いは生活にゆとりをもてると思う。セントラルパークみたいなイメージで。	施設・インフラ
維持に力を入れる。(建物・道路等。きちんとした歩いてん道の整備)	施設・インフラ
次回もし都市計画道路の見直しをする機会がある場合には、市内公共交通への影響も視野に入れて検討して欲しい。	施設・インフラ 交通
新しい道路づくりも必要だが、現況道路の状態が悪いので、維持工事が優先ではないか。	施設・インフラ
古賀市は交通の要所でもあり、そのことに不平を言われる市民の人もいますが、それゆえに日常生活が快適に保持されている面があることを十分認識していくことが健全なまちづくりにおいて重要ではないかと考えます。	施設・インフラ まちづくり
効率を考えるのも大事だと思うが、それと同じく人を大事にすることを踏まえてまちづくりをしていくことが大事。	まちづくり
合併できなくても両隣と一緒に広域で事業をすれば、必然的に古賀が真ん中となり、事務所も古賀にでき、市民にもメリットができる。最初は古賀がアドバンテージを持っている事業を、そして順次単独より一緒にした方がいいものやっていくようにすれば、事務所をJR古賀駅西側の空き商店や空事務所を利用すれば安価で実施でき、また商店街活性化の一助になるのでは。	まちづくり 商業
自分の住む区域は宅地だけでなく、近年廃棄物置き場的なところが増えつつあり、景観が悪いだけでなく虫も増えている。日本一住みやすいまちづくりに逆行してしまうのではないかと思える。	まちづくり 衛生
まちづくりの一つのコンセプトとして、資源循環システムの構築、生ゴミの減量化・堆肥化と市民の健康増進。参考例 山形県長井市「レインボープラン」	まちづくり ゴミ、健康
大根川は孫の代まで今の状態を保ちつつ、古賀を代表する川であって欲しい。まちづくり=自然破壊であってはならない。下水道の完全化は望ましいが、一度浄化した水を再度犬鳴山系の支流より流すような自然との共存を、この時代だからこそ求めたい。	自然環境
道路にごみ一つもないまち。シンガポールをイメージ。	自然環境
若い年齢層の市民確保のために特色ある対策をとるべき。	特色

内 容	項 目
古賀のもつポテンシャル(他市町と比較しての強み)を探求し、伸ばす。	特色
海側と山側で利便性が違いすぎるため、分野別の充実度、優先順位がつけにくい。	特色
古賀市と言えばこれ、というような、まちのシンボルイメージキャラ、ゆるキャラを作る公募もいいかも。食べ物にしてもよし、お土産、グッズで販売などできる。	特色 特産品
なるべく具体的に、市民の誰(老若男女)が読んで身近な物として実感できる内容に(市民の注目を得るように)	わかりやすさ
市民も職員もわかりやすい(取り組みやすい)チャレンジ目標みたいな目標設定がわかりやすくてよいのでは。	わかりやすさ
市民アンケートの実施など、公聴施策の中から政策に反映させることも重要。何でもきく係の設置目的からすれば、相談内容を統計的に整理し、公表することが重要(冊子として取りまとめることも含む)。	市民参画
市民のアイデアを積極的に取り入れるべき。またその環境、機会を増やすべき。	市民参画
国・県と同様に地方自治体も小さな行政を目指すべきであり、そのために地域社会・個人が責任をもってまちづくりに参画できるシステムを構築することを目標にすべきだと思う。	市民参画
市内バスの利用負担軽減と、路線を考えて欲しい。特に市役所・サンコスモ・古賀駅間の利便が悪すぎる。	交通
高齢社会が進む現在、交通事故も多発。病院や公共施設への交通手段を早く実現しなければならない。	交通
各部署で策定している個別計画はすでにその分野での市の意思表示をしているものであり、何をマスタープランに載せるか検討する前に、それらの計画を読み込み、将来像を描くことが必要。	将来像
乳幼児の教育にももっと力を入れるべき。	子育て
子育てしながら働きやすい住環境(24人保育など)	子育て、住環境
活気あるまちにすることで人口は増え、人口が減ることは活気なし、魅力がないまちとなるので、やはり住んでみたい、住みよい元気のあるまちにしていきたい。	住環境
仕事一筋で生きてきた、友人を持たず、プライドの高い団塊の世代の男性が、退職後、同世代の人たちと生きがいを見つけ、第2の人生を楽しめるような事業(生涯学習)を充実させてほしい。	生涯学習
まちづくりは日常生活の安定にあり、派手な取り組みではない。どう地域を安定した場にするかは一人一人の意識向上とコミュニティの充実と生涯教育にキーポイントがあると思う。	生涯学習 コミュニティ
これからは市民共働であり、コミュニティ活性化と思う。市全体で市民共働と地域コミュニティを再点検しなくてはならないと思う。	コミュニティ 共働
雇用は大きな問題で、一定程度の企業を受け入れ、市内の若者が保障されたところで働ける場をつくりだすことが必要。	産業
積極的な企業誘致(税収確保のため)	産業
国、県が頼りにならない現状では、まず自治体(広域含む)の財政力、市民力が重要となる。人口は現状で維持していくことが財政的に負担のかからない経営ができると思われる。	行財政
失業、不景気などにより金銭面で非常に困っている人が多い。市民負担を少しでも減らすべく、減税もくしはこれ以上増税しない。余分な事業に税を投入すべきではなく、市民と直接関係のある福祉面(医療、子育て、介護等)の充実をはかり、市民の負担が少しでも減るような住みやすいまちづくりをしていただきたい。	行財政
山、海、川、インターチェンジと揃っているが、何も生かされてない。これといって特産品もないし、イベントもないのでアピールできない。	特産品 広報
農、工、商、住が秩序ある土地利用で区別されていくことが新しい古賀には求められる。	土地利用
一部地域に限定した計画でなく、古賀市全体の発展を考えた土地利用計画を立案することが必要。	土地利用
マスタープランの実施には市民の協力・参加が不可欠であり、「人づくり」の取り組みが必要。	人材育成
団塊の世代に的を絞った行事を増やす。	イベント
古賀駅から山間部を見たときに、採石場の景観が悪い。	景観
職員の魂がこもった計画にすることが重要。	職員意識

内 容	項 目
コミュニティ、ボランティア、市の主催する行事への参加、消防団など共働や生涯学習、介護予防などの活動をした人にポイントなどを付与し、メリットを与える(市内で使える商品券とか)などできたらよいと思う。住基カードのそのような形で活用できれば。	その他
市民の公共心を盛り上げる施策がいい。	その他

- 4 行政区アンケート調査

(1) 調査の概要

1) 調査の目的

本調査は、行政区が抱えている課題、共働のまちづくりへの意識及び将来のまちづくりのイメージ等を調査し、第4次古賀市総合振興計画策定に生かすことを目的に実施しました。

2) 調査対象

全行政区

3) 調査方法

行政区長会で配布、郵送による回収

4) 調査期間

平成21年9月

5) 回収状況

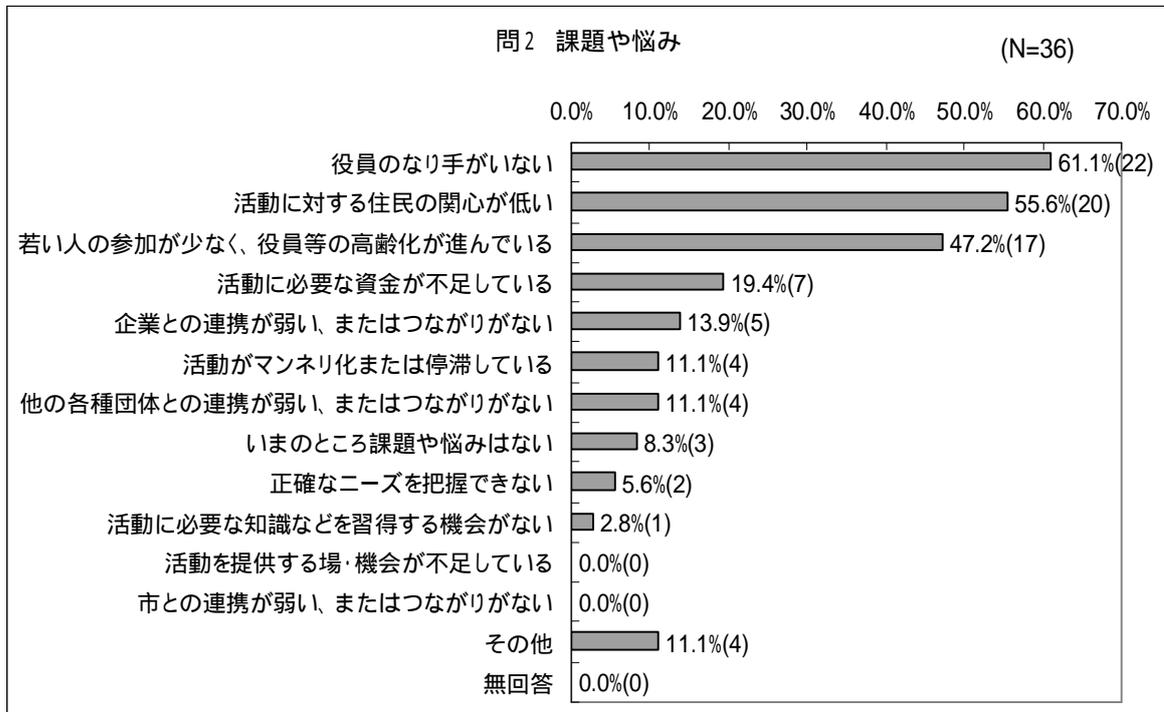
- ・ 配布数 45 票
- ・ 回収数 35 票
- ・ 回収率 77.8%

(2) 調査の結果

1) 行政区が抱える課題

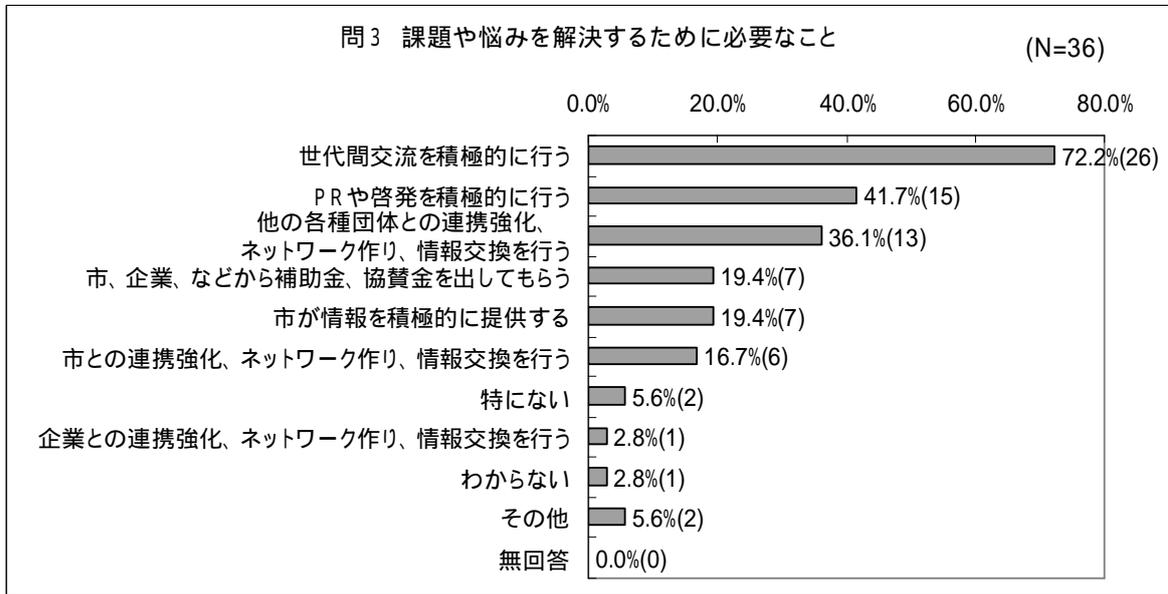
問2 現在、貴行政区が抱えている課題や悩みは何ですか？ < 3つ以内に 印 >

「役員のなり手がいない」が61.1%と最も多く、次いで「活動に対する住民の関心が低い」(55.6%)、「若い人の参加が少なく、役員等の高齢化が進んでいる」(47.2%)となっている。
 「その他」としては、転入者との連携や脱退者、住民の高齢化による活動の困難などがあげられている。



問3 貴行政区が抱えている課題や悩みを解決するためには、どのようなことが必要だと思いますか？ < 3つ以内に 印 >

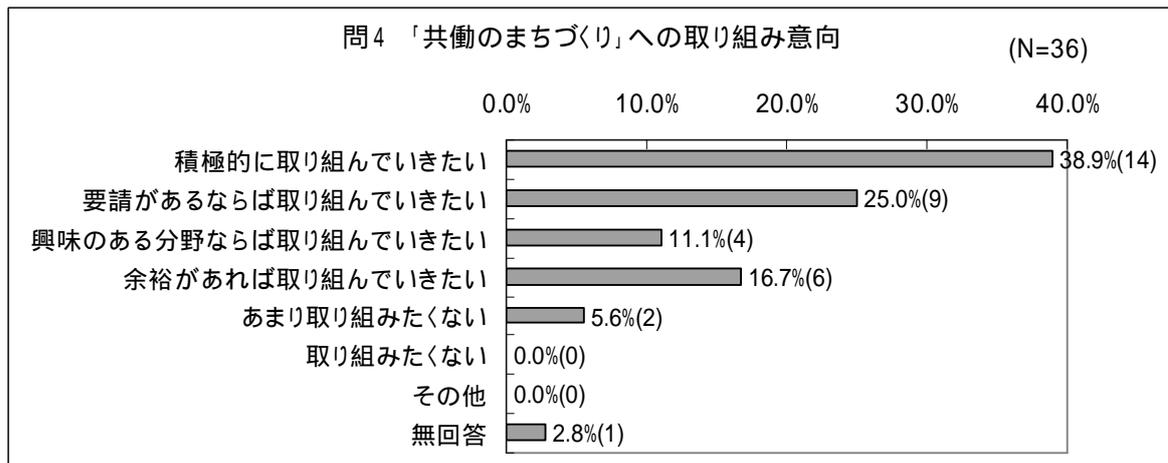
「世代間交流を積極的に行う」が最多であり、72.2%となっている。次いで「PRや啓発を積極的に行う」(41.7%)となっており、世代間交流や活動内容の周知により活動を活発化させる必要性を感じていることがうかがえる。



2) 共働のまちづくりについて

問4 貴行政区においては、これまでも様々な形で、市の発展に寄与・貢献されており、「共働のまちづくり」の一翼を担っていただいておりますが、貴行政区は、今後も「共働のまちづくり」に取り組んでいきたいと思いませんか？ < 1つに 印 >

「積極的に取り組んでいきたい」が最多で 38.9%にのぼっている。「あまり取り組みたくない」「取り組みたくない」を合わせた『取り組みたくない』は 5.6%にとどまっている。



問4 1 「積極的に取り組んでいきたい」「要請があるならば取り組んでいきたい」「興味のある分野なら取り組んでいきたい」「余裕があれば取り組んでいきたい」と回答された場合、今後、貴行政区が取り組みたいと考えていることや、興味のある分野・内容があれば、以下に記入してください。

「高齢者関連」(5件)、「子育て関連」(2件)、「少子高齢化社会関連」(2件)と少子高齢対応への取り組みが多くあげられている。また、「安全・安心関連」、「まちづくり関連」および「連携・交流関連」がそれぞれ4件あげられている。

・高齢者関連・・・5件	・安全・安心関連・・・4件	・まちづくり関連・・・4件
・連携・交流関連・・・4件	・施設・インフラ関連・・・3件	ほか

(詳細:p.142 参照)

問4 - 2 「あまり取り組みたくない」「取り組みたくない」と回答された場合、なぜ取り組みたくないかよろしければ以下に記入してください。

以下の2つの意見があげられている。

・新しいことを積極的に進めようとする、反対する人が多い・・・1件
・今まで通りで良い・・・1件

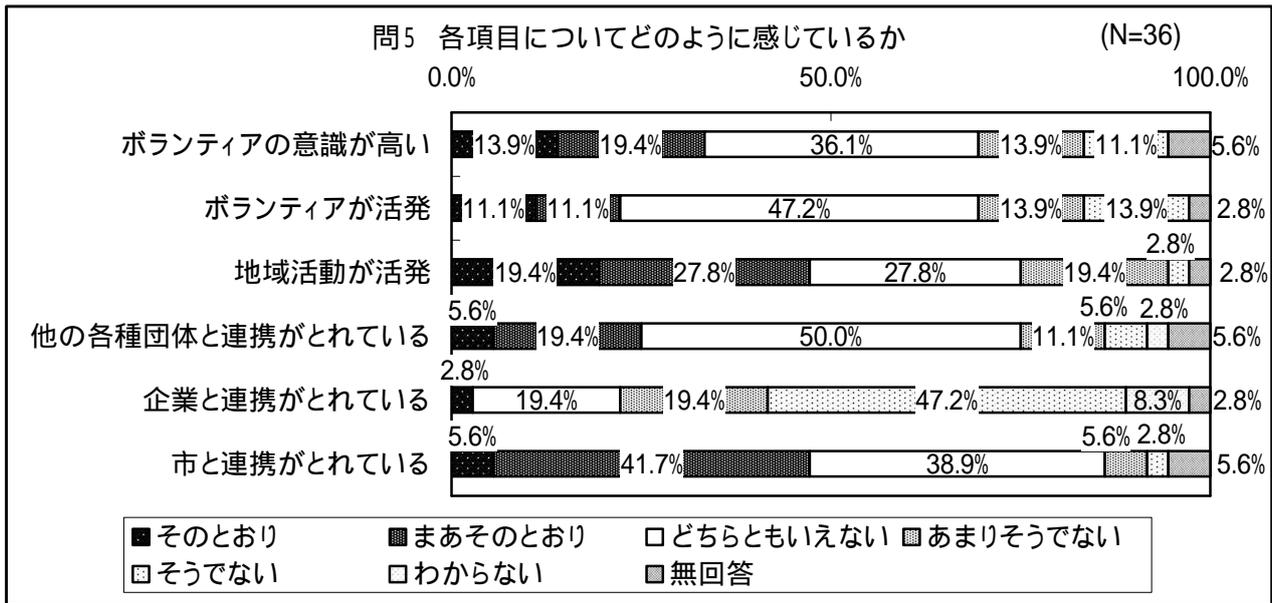
問5 貴行政区は、活動に取り組まれている中で、各項目についてどのように感じていますか？
<各項目それぞれ1つに 印>

「そのとおり」「まあそのとおり」を合わせた『そのとおり』と答えた行政区の割合が多いのは、「市と連携がとれている」「地域活動が活発」であり、それぞれ47.3%、47.2%となっている。最も低いのは「企業と連携がとれている」であり、2.8%となっている。

「あまりそうでない」「そうでない」を合わせた『そうでない』と答えた行政区の割合が最も多いのは、「企業と連携がとれている」であり、66.6%にのぼっている。最も低いのは「市と連携がとれている」であり、8.4%となっている。

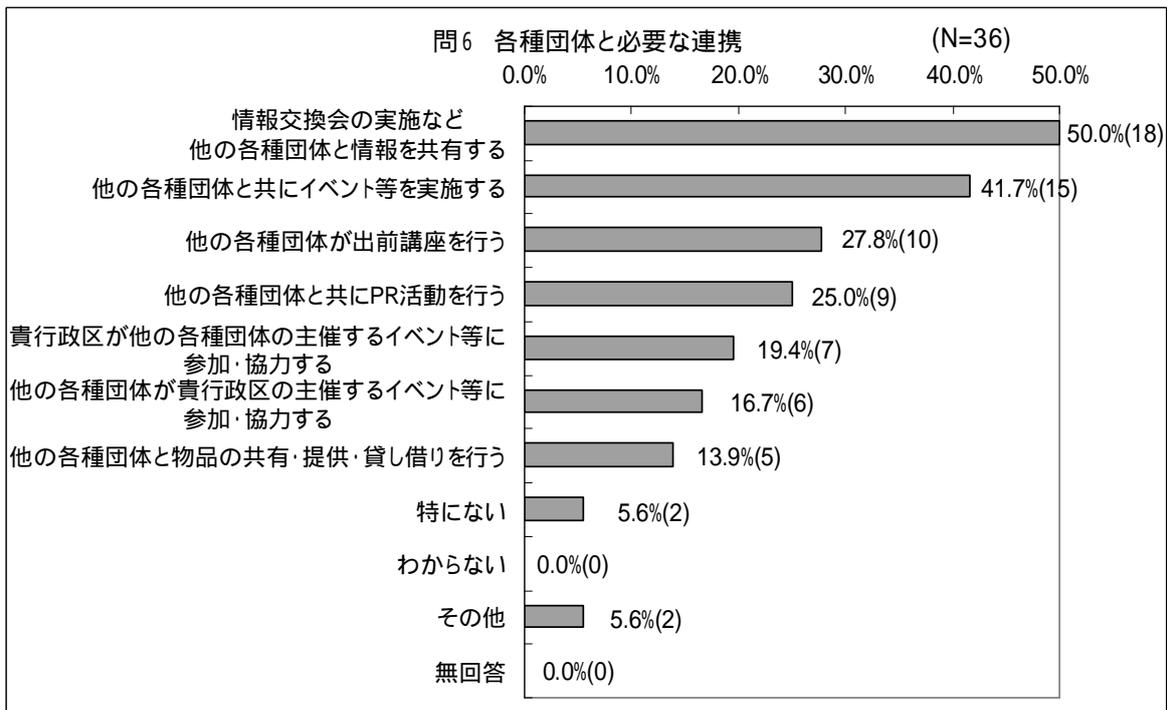
「ボランティアが活発」については、『そうでない』と答えた行政区の割合(27.8%)が『そのとおり』と答えた割合(22.2%)を上回っている。

「市と連携がとれている」については、『そのとおり』と答えた行政区の割合(47.3%)が高く、『そうでない』と答えた割合(8.4%)が低い。市との連携については、ある程度満足を得られていると考えられる。



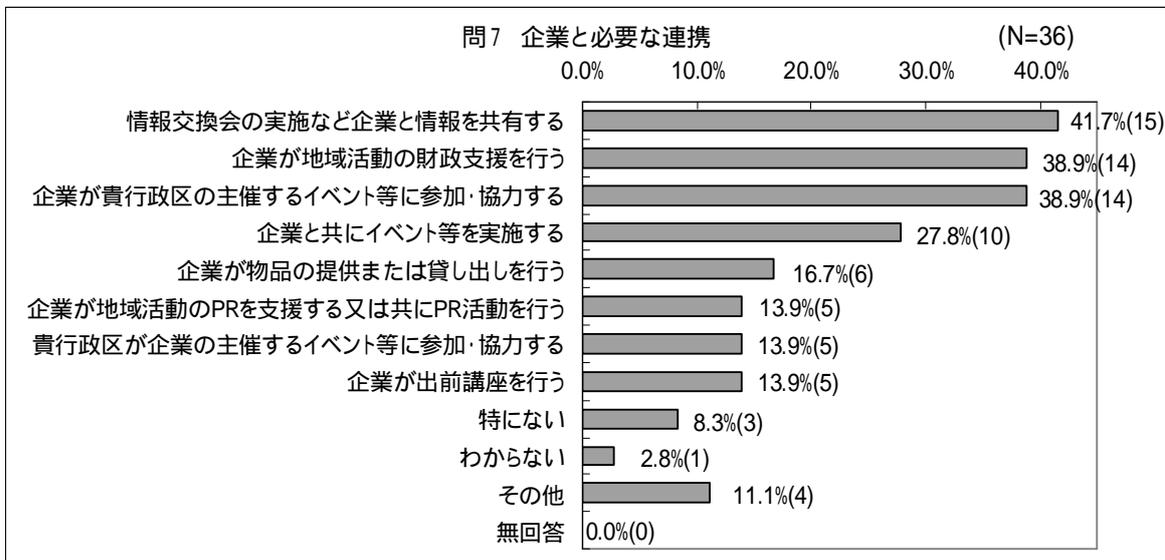
問6 貴行政区は、「共働のまちづくり」を進めるために、『他の各種団体』とどのような連携が必要だと思いますか？ < 3つ以内に 印 >

「情報交換会の実施など他の各種団体と情報を共有する」が最も多く、半数（50.0%）の行政区があげている。次いで「他の各種団体と共にイベント等を実施する」が41.7%となっている。



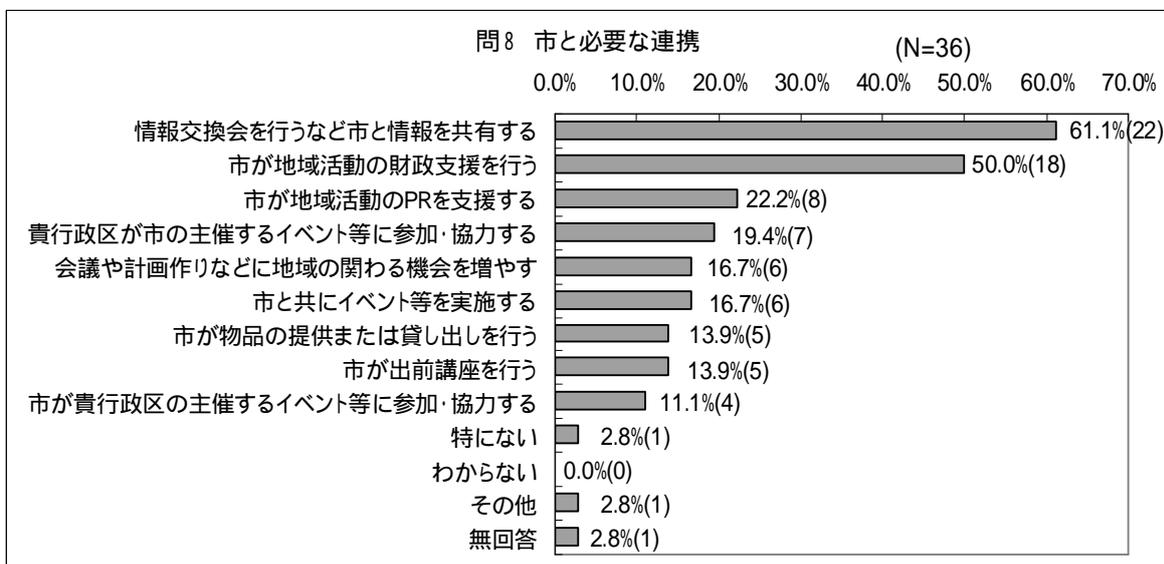
問7 貴行政区は、「共働のまちづくり」を進めるために、『企業』とどのような連携が必要であると思いますか？ <3つ以内に 印>

『他の各種団体』と同様、「情報交換会の実施など企業と情報を共有する」が最多(41.7%)となっている。次いで「企業が地域活動の財政支援を行う」、「企業が貴行政区の主催するイベント等に参加・協力する」(38.9%)となっている。



問8 貴行政区は、「共働のまちづくり」を進めるために、『市』とどのような連携が必要であると思いますか？ <3つ以内に 印>

『他の各種団体』、『企業』との連携同様、「情報交換会を行うなど市と情報を共有する」が最多(61.1%)となっている。次いで、『企業』との連携同様、「市が地域活動の財政支援を行う」(50.0%)となっている。



問 12 古賀市のまちづくりについて、ご意見やご提案（アイデア）等をお持ちでしたら、以下に記入してください。

p.145 参照

問4 取り組みたい共働の分野

内 容	項 目
高齢者とコミュニケーションをとるために、一人一人が昔の童話またはアンデルセン童話を持ちより会話する活動をしたいと思う。	高齢者
住民の高齢化が進む中、「体が動かないから…」と地域活動から脱退する人も多い。高齢者でも興味を持てる活動、例えばスポーツ・文化施策の更なる普及活動に取り組みればと思う。その一例として、公園をゲートボール場と兼用する法整備、中央公民館高齢者にふさわしい講演の招聘など。中央公民館行事は事前広報をしっかりとする必要あり。	高齢者
当行政区も他の校区同様高齢化が進んでいる。2～3年で65才以上が17～18%になると思う。老人クラブへの加入も少ないようである。高齢者用の趣味クラブを作り多くの老人が参加できるような組織を取り上げたい。	高齢者
高齢者を対象としたサロン活動。	高齢者
高齢化社会に対応するには昼間在宅の住人の協力を得るにはどうすればよいか考えてみたい。	高齢者
安全・安心のまちづくり。子とも見守り隊の強化と地域の安全強化。	安全・安心
現在は安全マップの作成に取り組んでいる。	安全・安心
生活の場における防犯防災体制の形成と具体的活動の推進。	安全・安心
地域で生活していく上で「いざ」というときに地域住民がまとまって行動することが安全・安心なまちづくりに必要と思います。	安全・安心
古賀市の中心(へそ)と言うべき場所に位置しながら、市街地や山村部(白地区)からも取り残され、旧態然の当区は諸問題が多く、その対応に追われる毎日である。当区の東部では迷惑産業の進出、隣接の福津市側も同じ。また、農業問題、人口問題、住民の意識問題等種々あり、今回のテーマ「共働のまちづくり」は重要な問題ではあるが肝心の地域の方向づけを優先させたい。	まちづくり
具体的な内容は今のところわからない。比較的新しい行政区(13～14年目の新興団地)のため、区内連携のためにも自治組織づくりは重要と思う。	まちづくり
9月に始めて出前講座を開催しましたが参加者が少ないため、今後は区民の興味のある講座を予定したい。	まちづくり
地区に適した出前講座の実施。	まちづくり
ボランティア団体の協力を得ながら学校・企業との連携を強める。	連携・交流
区の活動を活性化して、他の地域との交流を図りたい。	連携・交流
農区と行政及び企業との対話による地域一体のいろいろな問題の解決の場を持ちたい。	連携・交流
全市民が共通な課題で取り組み市民全体が参加できることを行う。例えば、大人からこどもまで参加できるスポーツ(シャッフルボードなど)まず区で選ばれたチームが校区大会 市の大会として行う。	連携・交流
区内にメインとなる道路がほしい。美明地域のような区画整理をししぶ駅西口側に繰り広げたい。	施設・インフラ
道路整備、環境美化。	施設・インフラ 自然環境
古賀海岸、松林の活用、留学生跡地の利用。	施設・インフラ 自然環境
急激な少子高齢化社会に対し地域としてどう対応していくか、2年前より舞の里1区ビジョン検討委員会(仮称)を立ち上げ、現在コンセプト、ビジョンづくりに定期的な会合を開き検討。	少子高齢化
少子高齢化に対する方策。	少子高齢化
子育て、福祉。	子育て
子育て。	子育て
福岡県内企業への見学。	産業
少数個数の区ですので、何かを始めようと思っても人数が集まらずできないし、夏祭り、盆踊り等は広場もせまく出来ないし、花いっぱい運動等はせまい土地、少人数でも出来るので、市の補助金を頂きながら一年中頑張っています。	コミュニティ
レベルの高い取組みがほしい。	その他
現段階で行政区として出来る行動を精一杯行っており、行政からも各分野において指導を受けており、毎月、区の団体は懸命に活動しているが要請があれば検討する。	その他

問9 古賀市の強み

内 容	項 目
市の担当課に持って行く問題については対応は良い。	行財政
西鉄バス薦野線存続について問題は残っているが即対応していただいたこと。	行財政
行政区に対し、市から積極的に支援をいただく。(用具、資料)	行財政
市職員の住民への対応が親切で早い。	行財政
何年か前までは各行政区の活動に補助金がずいぶん出ていましたが、年々少なくなっていますが、それでも打ち切りではないのが良い点。	行財政
行政レベルは格段に向上していると感じています。	行財政
市長がよくイベント・講演に参加されていて感謝しています。	行財政
産業基盤が整備され、比較的安定した税収が得られる。	行財政
東側に犬鳴山系、西側に玄界灘があり、自然環境に恵まれている。	自然環境
美しい自然環境に包まれ、公園も多く風光明媚な地域である。	自然環境
小野・青柳校区・花見北区等の自然を保持していくべき。	自然環境
山の幸、海の幸に恵まれている。	自然環境
山あり(温泉)海あり(海水浴等)の環境に恵まれている。	自然環境
海山隣接している。	自然環境
周辺市町村に比し、都市機能や交通の便に恵まれたいいロケーションの中にいる。これは大きな強みだ。	自然環境 交通
JR、高速道路、国道、県道が通っており、交通の便が良い。	交通
高速のICも近くJRの駅も3箇所あり交通の要所である。	交通
交通アクセスがよい。	交通
交通にも(市で駅が3ヶ所)めぐまれ人口が増えてきているので活力、活性化が望める。	交通
交通の便が良い、都心に近い。	交通 立地条件
教育に対する配慮が充足しているため教育水準が高い。	教育
歴史資料館を別棟にし、古賀市をもっとPRすべき。(立派な資料があるから)	教育
図書館、運動公園など文化、体育施設が充実している。	教育
地震等災害に強い地域であること。	安全・安心
市の大きさとして良い。	その他

問10 古賀市の弱み

内 容	項 目
審議会構成員の多くは大学教員が多く、その結末はあいまいさが多い。	行財政
財政面のこともあるが、区の活動に対して助成金のカットは活動の意欲を削ぐものである。	行財政
情報公開に対するプロパガンダが弱いため、市民が進捗状況を理解できていない面があるように思う。	行財政
美しい日本一住みたい町づくりでも良いでしょうが、収入が高ければ税金ばかり高くなって住み辛い町になるかもわかりません。皆様方の頭脳で日本一住みたい町づくりをしてください。	行財政
他県、他市町村に比べ水道料金が高い。	行財政
道路愛護デーで出た草(団地内の物)について運搬できない。	行財政
広報活動・PR活動がいまひとつの点がある。	行財政
市の職務遂行能力に疑問がある、市職員の中に部門ごとの専門家が少ない。	行財政
職員の明るさを望む。	行財政
要請に対して回答がない。(いつやる、いつやった)年1回の回答では意味がない。	行財政
市長が掲げる理想と行政の現実にギャップがありすぎる。	行財政
市長、市幹部の方は多忙と思いますが区民との会話や会議を実行してほしい。	行財政
トップの行動力を望む。	行財政
市は地域の特性について十分把握しているのか、市は地域づくりにその行政区の強みを生かす能力がないのでは。	行財政
校区コミュニティについて、余りにも数人の役員の犠牲で成り立っている(主に費用)もう少し資金援助が必要ではないでしょうか。	行財政
歩道の未整備な箇所が多い。	施設・インフラ
街並みの道路整備が計画的に行われていない。	施設・インフラ
幹線道路の周辺は他の市町に比べ開発が遅れている。	施設・インフラ
上下水道の全区普及(生活向上、環境美化)。	施設・インフラ
分館活動の中で、分館バレーボール等同一会場でできる大型体育館がない。	施設・インフラ
歴史に残る建造物、観光名物等が少ないので観光の目玉がない。従って古賀市の場所が分からない(他県に行っても古賀市がどこにあるかわかる人が少ない)	特徴のなさ
「古賀市はどんな町？」と問われた時、答えようがない。特徴がない。	特徴のなさ
伝統的な継承物が少ない(大々的な祭り等)	特徴のなさ
市内のバスが利用しづらく、身近な公共交通機関がない	交通
市内中心の公共交通関係。山手の方にも目を向ける事。	交通
災害が起きたときに町内会でどれだけのことができるか不安である。	安全・安心
防災、防犯的なものから見れば財政上の理由により行動、実施が遅すぎる。	安全・安心
戸建て住民とマンション住民との交流。	連携・交流
観光(海岸整備)、川の清掃整備。	自然環境
校区コミュニティの未来像が見えない。	コミュニティ
区の活動、行事に無関心すぎる。	関心のなさ
地域商店の活性。	商業
高速インターチェンジを擁しているが、利点が活かされていない。	立地条件
町部では商工会等の合同イベントが多く取り組まれているが、農村部への配慮を願う。	イベント

問 1 2 自由意見

内 容	項 目
これからの社会は今までの国、地方に対しての依存体質から自助努力、自己責任の社会にいかにか早く転換出来るかが地域の活性化につながると思う。市も行政が出来ること、やらなければならないことをはっきり示す必要があると共に、市民にも同じことを周知徹底させる必要があると思う。この際、市民に負担をかけなければならないこともきちんと示し、市民の合意のもと日本一住みたい古賀市にしなければならないと思う。	行財政
借金まみれの市には絶対してほしくない。無駄なことは絶対すべきではない。無駄のNo.1は議員報酬。議員の定数削減又は報酬削減をすべき。議員は報酬に相応しい仕事をしていない(半数以上)。	行財政
市や各団体のポスターの配布がありますが、掲示板がなく、集会所の入口のガラスに貼り付けている状態です。市の援助で掲示板の設置できればと思います。	行財政
要望書をいろいろと出しますが、回答が遅いので早めに回答してほしい。	行財政
市の企画室を大きくして市全体のマスタープラン等を取り組んで欲しい。(県職員、専門職、OBも含めて)。	行財政
市のいろいろな活動の一元化(建設課、産業振興課等)。	行財政
一村一品の見直しをし、もっと古賀市をPRするべき。	行財政
各方面における地域活動は、自治会活動と表裏一体である。地域活動を活性化されるには、それ相応の資金、人材が必要である。少子・高齢化を迎えて、世帯数が少ない自治会は十分な資金、人材が不足すると思われる。十分な資金、人材を確保するには、自治会加入世帯1000世帯位が必要である。各自治会に自主的な統合を求めても進展はしない。まず、行政区を統合するには、行政の強い指導力が必要である。これができれば8行政区への統合を行い、校区コミュニティとの整合性を図る。	行財政 コミュニティ
自然環境に包まれた街づくりや太陽熱利用の家づくり等、地球にやさしい事業に対し補助金を積極的に出す。	行財政 住環境
3号線沿線の活用を。	まちづくり
アートまち作りの一環としてJR古賀駅(古賀市の顔)のニピ醤油の壁面を何とかして欲しい。	まちづくり
少子・高齢化社会であっても共に共存・共栄できる地域を造ってほしい。そして笑い声のたえない町づくりをしてほしい。	まちづくり
古賀市都市計画マスタープランの策定に基づいて早急に実施してもらいたい。	まちづくり 土地利用
地域に住む区民一人ひとりが思いやりを持ち、積極的にまちづくりに参加し、地域の中で楽しく健康に生き生きと日々過ごせるような場所公園等を利用して健康用具等を設置し(設備投資)活用していくのも必要なことではないでしょうか。例、舞の里公園。	まちづくり 健康
道路(歩道を除く)やスポーツ・文化施設などのハード面では古賀市は充実してきたと考えられるため、今後は住民の安全・安心のためのまちづくり施策、公共料金の低廉化などで古賀市の活性化を行って欲しい。	まちづくり 安全・安心
自然環境は絶対守って欲しい。	自然環境
大根川を中心とした整備。	自然環境
緑豊かな古賀市とよく聞きますが、採石は、まだ続くのか、また、後地の緑化は。	自然環境
市街地のバス運行路線は、カラー歩道、及び街灯の設置を切に要望します。	施設・インフラ
各校区に生活支援施設の設置。	施設・インフラ
歴史資料館の別棟を新設し、市民からの展示品を集め鑑賞してもらおう。心のゆとりが必要。資料館の運営は第三セクターかシルバー会員に依頼する。	施設・インフラ
農区の集団化。	農業
高齢化等により農家が減少。農地を貸している人も固定資産税を払ったら収入が残らない。地方分権で財源確保をしなければならない状態でもあり、開発を進める方が市も農家も双方が潤うと思う。	農業
古賀市は高速道路のICもあり、交通アクセスがよい。積極的に企業誘致をしたらどうか。法人市民税の増、雇用対策等にもつながるのではないかと。	産業
工業、企業等は団地に集団化。	産業
ネットワークする公共交通。	交通
小野校区内に歩いてん道(上級山岳コース)を新設する。健康増進、市民のコミュニティの一環になる。	健康
コミュニティを立ち上げようとする中、気になるのが治安の問題。舞の里地区は共稼ぎが多く昼間不在が多く、隣近所とのつきあひも希薄であるため昼間の空き巣が多い。区民の声として近くに交番でもあれば抑止力もありと手前勝手な要望が多い。そこで地域内に交番設置の嘆願書を糟屋警察署、県会議員、行政相談員、市長に提出している。	安全・安心
古賀市は都市機能も充実した「住みよい街」である。また大都市福岡市の衛星都市でもあり、住環境を求めて来る人も多いと思う。しかし、雇用は福岡市に依存しているので、古賀市内にては雇用の創出は不要。住環境整備に努めるべし。	住環境

- 5 校区コミュニティアンケート調査

(1) 調査の概要

1) 調査の目的

本調査は、校区コミュニティが抱えている課題、共働のまちづくりへの意識及び将来のまちづくりのイメージ等を調査し、第4次古賀市総合振興計画策定に生かすことを目的に実施しました。

2) 調査対象

校区コミュニティ協議会及び校区コミュニティ準備会

3) 調査方法

郵送による配布、回収

4) 調査期間

平成21年9月

5) 回収状況

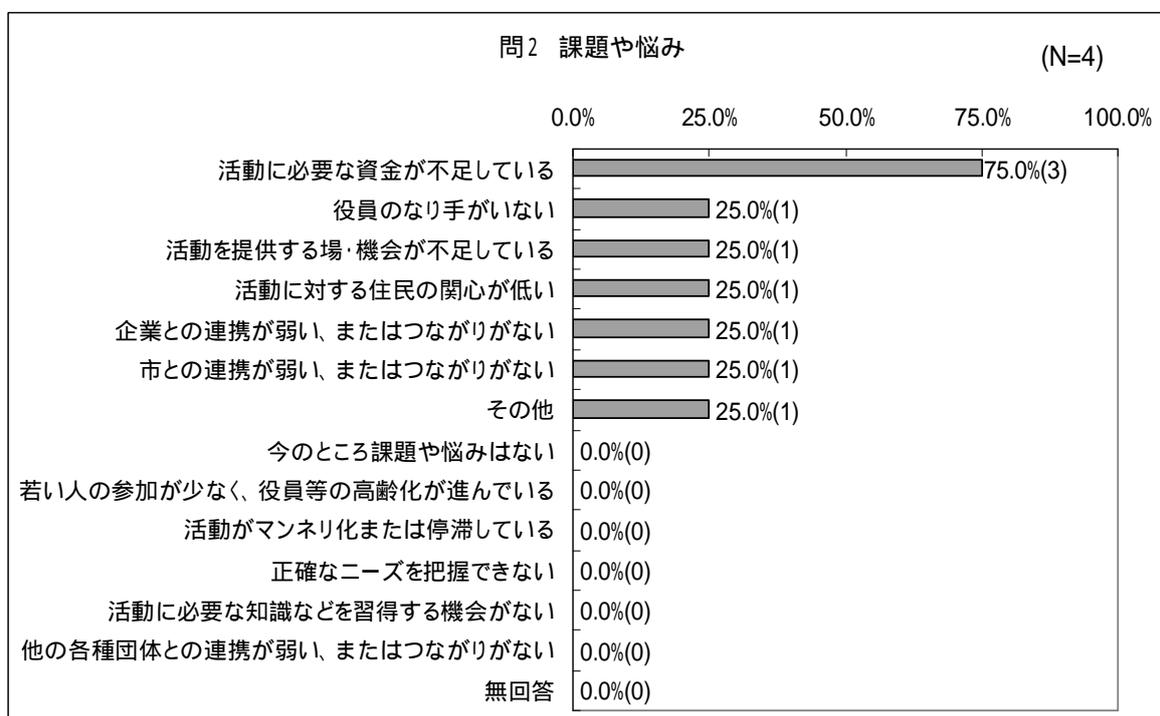
- ・ 配布数 7 票
- ・ 回収数 4 票
- ・ 回収率 57.2%

(2) 調査の結果

1) 校区コミュニティが抱える課題について

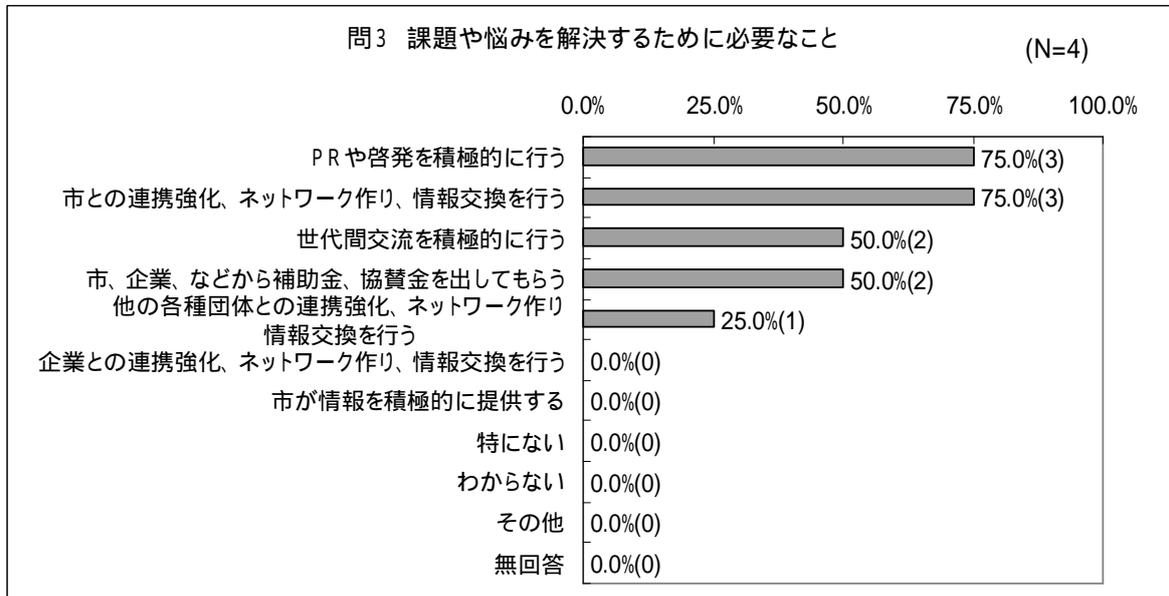
問2 現在、貴校区コミュニティが抱えている課題や悩みは何ですか？ < 3つ以内に 印 >

「活動に必要な資金が不足している」が最も多く、75.0%になっており、資金不足が最大の悩みとなっている。「その他」としては、「事務局の部屋がない」があげられている。



問3 貴校区コミュニティが抱えている課題や悩みを解決するためには、どのようなことが必要だと思いますか？ < 3つ以内に 印 >

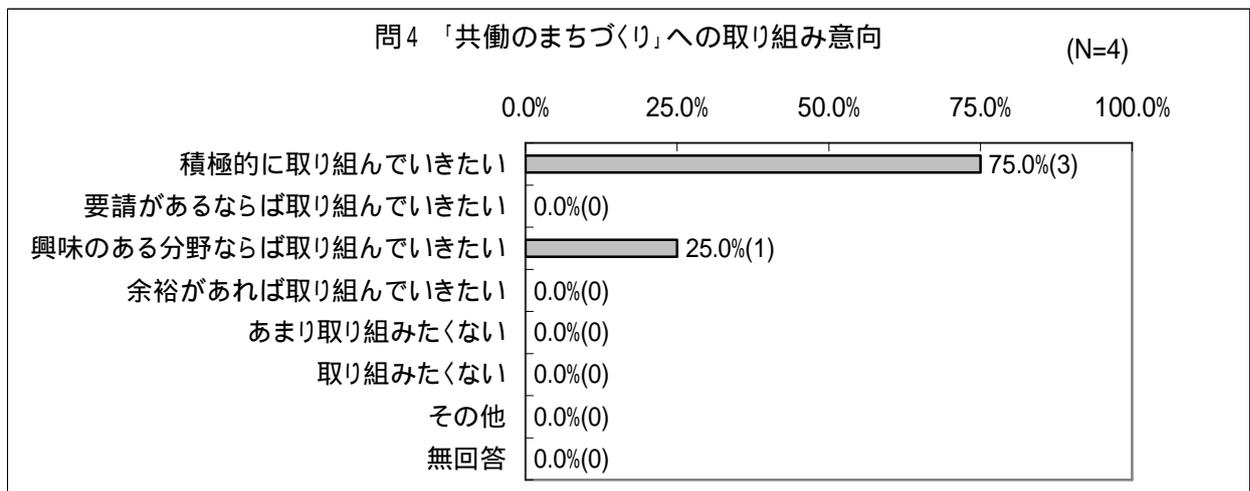
「PRや啓発を積極的に行う」、「市との連携強化、ネットワーク作り、情報交換を行う」が75.0%と最多であり、活動内容の周知や市との連携の必要性を感じていることがうかがえる。



2) 共働のまちづくりについて

問4 貴校区コミュニティにおいては、これまで様々な形で、市の発展に寄与・貢献されており、「共働のまちづくり」の一翼を担っていただいておりますが、貴校区コミュニティは、今後も「共働のまちづくり」に取り組んでいきたいと思いませんか？ < 1つに 印 >

「積極的に取り組んでいきたい」が最多で75.0%となっている。「あまり取り組みたくない」「取り組みたくない」を合わせた『取り組みたくない』と回答した校区コミュニティはなかった。



問4 1 「積極的に取り組んでいきたい」「要請があるならば取り組んでいきたい」「興味のある分野なら取り組んでいきたい」「余裕があれば取り組んでいきたい」と回答された場合、今後、貴校区コミュニティが取り組みたいと考えていることや、興味のある分野・内容があれば、以下に記入してください。

幅広く様々な分野において、取り組みたいと考えていることがうかがえる。

・高齢者関連・・・2件 ・子育て関連・・・2件 ・安全・安心関連・・・1件
 ・世代間交流関連・・・1件 ・地域間交流関連・・・1件 (詳細:p.152 参照)

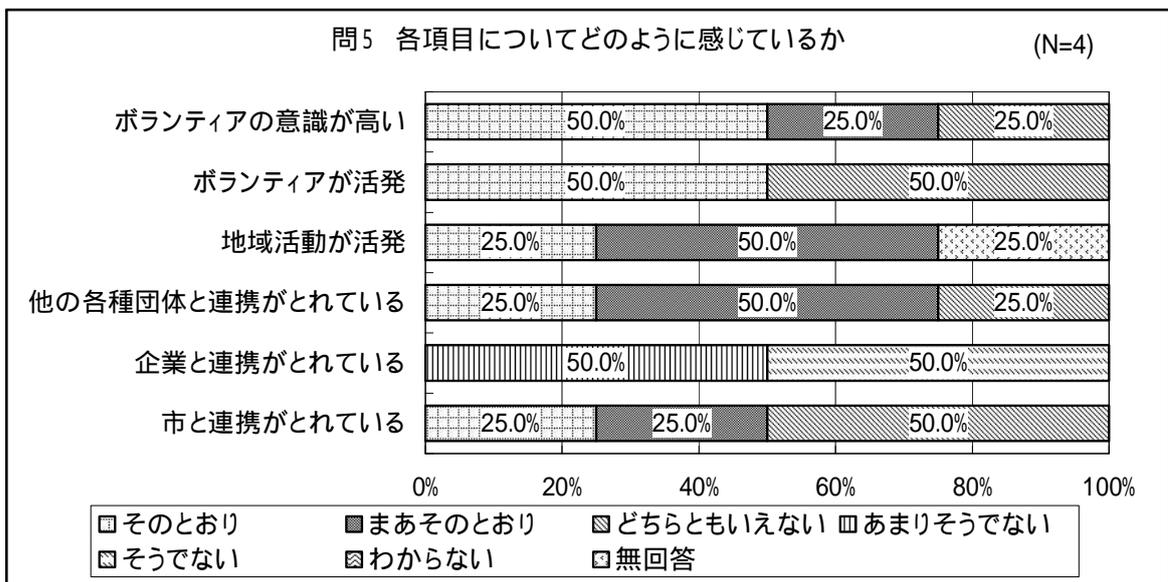
問4 - 2 「あまり取り組みたくない」「取り組みたくない」と回答された場合、なぜ取り組みたくないかよろしければ以下に記入してください。

該当なし。

問5 貴校区コミュニティは、活動に取り組まれている中で、各項目についてどのように感じていますか？
 <各項目それぞれ1つに 印>

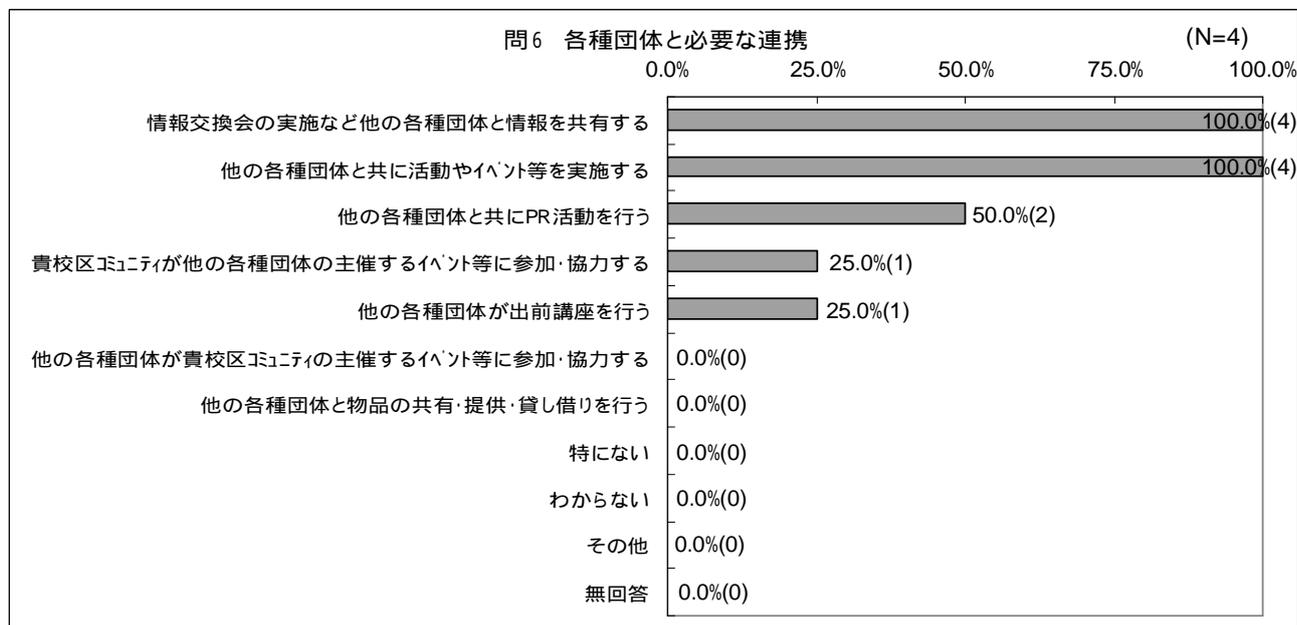
「そのとおり」「まあそのとおり」を合わせた『そのとおり』と答えた校区コミュニティの割合が最も多いのは、「ボランティアの意識が高い」、「地域活動が活発」となっており、75.0%となっている。最も低いのは「企業と連携がとれている」であり、0.0%となっている。

「あまりそうでない」「そうでない」を合わせた『そうでない』と答えた校区コミュニティの割合が最も多いのは、「企業と連携がとれている」であり、100.0%にのぼっている。それ以外では『そうでない』と回答された項目はなかった。



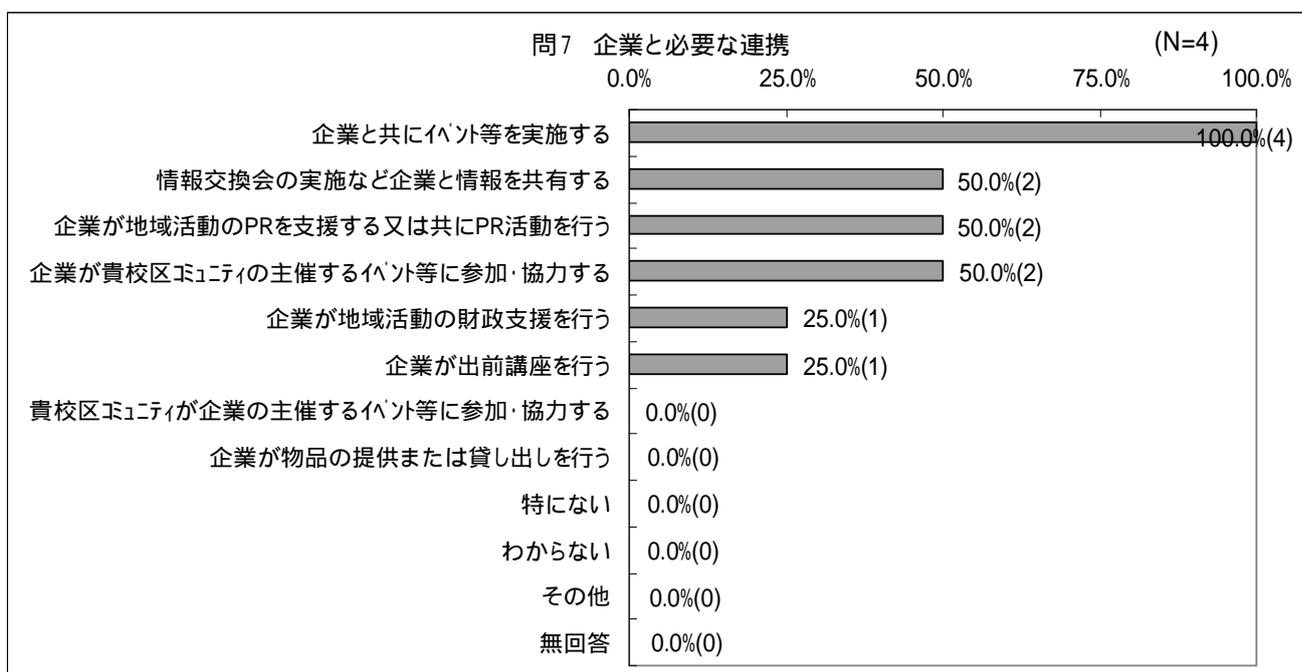
問6 貴校区コミュニティは、「共働のまちづくり」を進めるために、『他の各種団体』とどのような連携が必要だと思いますか？ < 3つ以内に 印 >

「情報交換会の実施など他の各種団体と情報を共有する」「他の各種団体と共にイベント等を実施する」が最も多く、回答したすべての校区コミュニティがあげている。次いで「他の各種団体と共にPR活動を行う」が50.0%となっている。



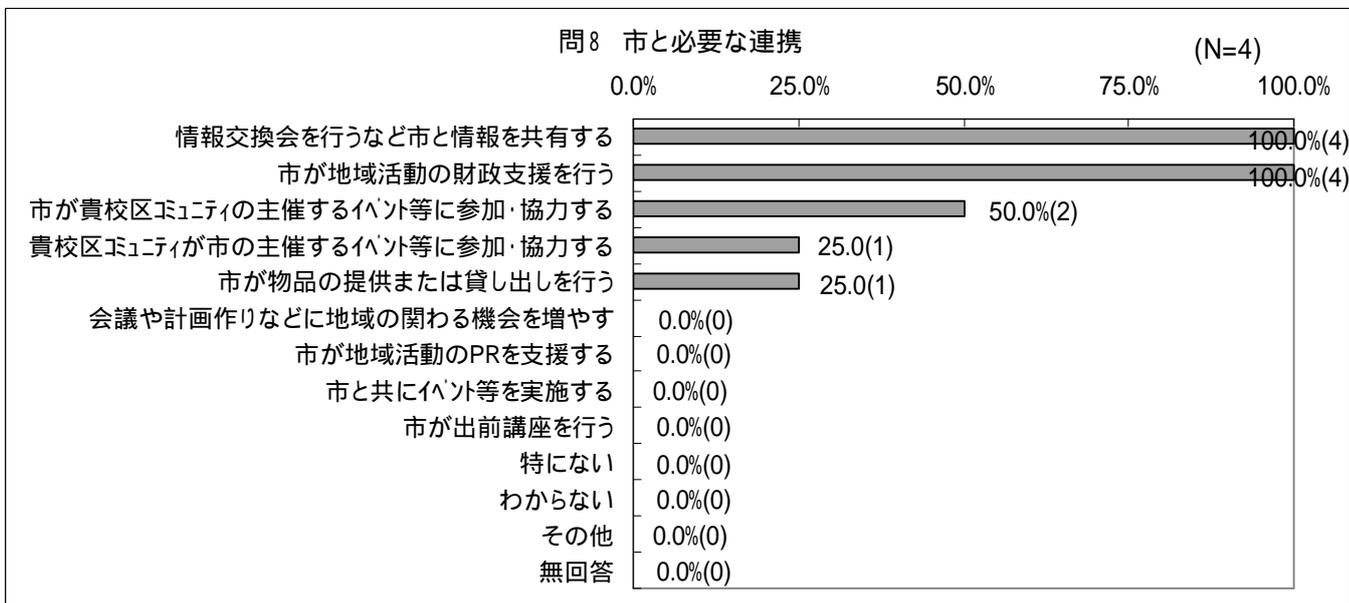
問7 貴校区コミュニティは、「共働のまちづくり」を進めるために、『企業』とどのような連携が必要であると思いますか？ < 3つ以内に 印 >

「企業と共にイベント等を実施する」が最も多く、回答したすべての校区コミュニティがあげている。



問8 貴校区コミュニティは、「共働のまちづくり」を進めるために、『市』とどのような連携が必要
 であると思いますか？ < 3つ以内に 印 >

「情報交換会を行うなど市と情報を共有する」、「市が地域活動の財源支援を行う」が最多となっており、回答したすべての校区コミュニティがあげている。次いで、「市が貴校区コミュニティの主催するイベント等に参加・協力する」が50.0%となっている。



3) 校区コミュニティから見た古賀市の強み、弱み

問9 貴校区コミュニティが活動に取り組まれている中で感じる古賀市の強み（良い点、生かすべき点）があれば教えてください。 < 箇条書きでご記入ください >

「校区コミュニティづくり」「校区コミュニティ支援」に関するものが3件で最多となっており、校区コミュニティづくりの活動やそれに対する支援体制が古賀市の強みとしてあげられている。

・校区コミュニティづくり関連・・・3件
 ・校区コミュニティへの支援関連・・・3件
 ・地域活動関連・・・1件 (詳細:p.152 参照)

問 10 貴校区コミュニティが活動に取り組まれている中で感じる古賀市の弱み（悪い点、改善が必要な点）があれば教えてください。＜箇条書きでご記入ください＞

「校区コミュニティの方針」「校区コミュニティのPR」に関するものが2件と最多となっており、校区コミュニティの方針の不明確化やPR不足が弱みとしてあげられている。

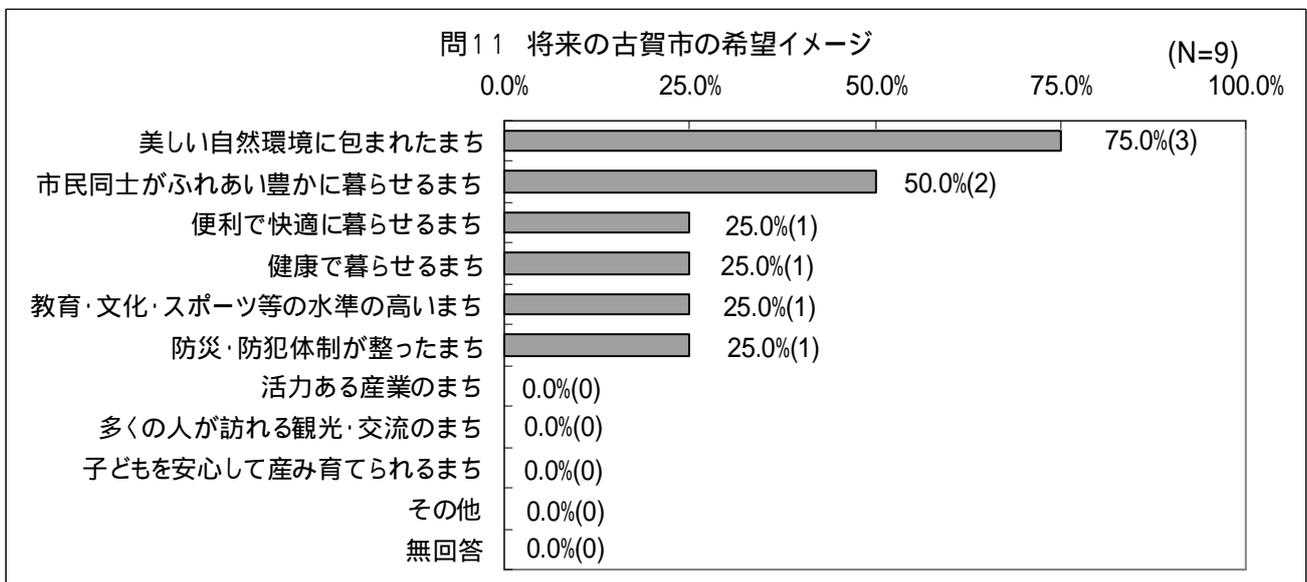
・校区コミュニティの方針関連・・・2件
 ・校区コミュニティのPR関連・・・2件
 ・校区コミュニティづくり関連・・・1件
 ・行財政関連・・・1件

(詳細:p.152 参照)

4) 将来の古賀市のイメージについて

問 11 貴校区コミュニティは、将来の古賀市がどのようなイメージのまちになることを望みますか。
 ＜2つ以内に 印＞

「美しい自然環境に包まれたまち」が最多（75.0%）となっている。次いで「市民同士がふれあい豊かに暮せるまち」（50.0%）となっている。



問 12 古賀市のまちづくりについて、ご意見やご提案（アイデア）等をお持ちでしたら、以下に記入してください。

p.153 参照

問4 取り組みたい共働の分野

内 容	項 目
現在、小学校と一体となり運動会、野草山草おのみつり、女子ソフトバレー、男子ソフトボール大会、防犯パトロール、健康講座等を実施しているが、高齢者対象のレクリエーション行事、こども対象の行事を今後考えていきたい。現在、行政で行われているコミュニティシンポジウムを、行政と校区コミュニティで各校区で実施し、校区民へのPRを行うとよい。	高齢者 子育て
校区コミュニティとして実現できるものから取り組むことを各部会へ呼びかけ、あわせて各部会の見直しを行い、6部会を3部会にしぼり、各部会活動の目標を作成中。これまで松原保全活動、見守り活動が中心であったが、更に新たな活動(こども、高齢者向け)を検討中。	高齢者 子育て
校区全体での安全・安心組織づくり、3世代交流の場づくり(校区フェスタ)	安全・安心 世代間交流
現在、大根川の自然を取りもどす活動を中心にやっていますが将来は幅広く各行政区の交流を図る施策へ転換して行きたいと思います。	地域間交流

問9 古賀市の強み

内 容	項 目
進んでいるコミュニティ協議会ができたこと(小野校区)。	校区コミュニティづくり
校区コミュニティの構築が無理なく緩やかに進められている。	校区コミュニティづくり
コミュニティシンポジウムの開催によるPR。	校区コミュニティづくり
市民共働課にコミュニティ係を設置されていること。	校区コミュニティへの支援体制
校区コミュニティに対する支援体制ができている。	校区コミュニティへの支援体制
若干ではあるが運営資金(市補助金)が出ていること。	校区コミュニティへの支援体制
校区コミュニティ以外の各種団体の活動が活発である。	地域活動

問10 古賀市の弱み

内 容	項 目
市が校区コミュニティに具体的に何を期待しているか見えてこない。	校区コミュニティの方針
校区コミュニティ協議会の位置づけ、将来構想が明確でない。	校区コミュニティの方針
市民に対しPR不足を感じる。	校区コミュニティのPR
まだまだ市全体での市民へのコミュニティPRが不足。	校区コミュニティのPR
全校区の足並みがそろっていない。	校区コミュニティづくり
コミュニティの窓口は市民共働課となっていると思っているが、社会教育課で実施される行事等をみていると執行上問題があるかもしれないが一本化してはいかがでしょうか。	行財政

問 1 2 自由意見

内 容	項 目
校区コミュニティについては、全校区が早急に立ち上げ(内容は各校区で良い)同一歩調で活動が進む様に行動をすべきだと感じます。	校区コミュニティづくり
いずれにしても古賀市として校区コミュニティを中心に変遷していくことが予測されます	校区コミュニティづくり
近隣の他市町のコミュニティでは立派なセンターが拠点となっているが古賀市では現在の各区公民館を拠点として地域細やかな配慮できるよう生かしていきたい。(古賀市として特性あるコミュニティづくりを目指したい。)	校区コミュニティづくり
校区コミュニティが全校区で立ち上がった段階では、現在各区活動と整合性を図る必要がある。	校区コミュニティづくり
住み良い地域づくりを目標の一つとして活動していますが地域の乱開発が目につき、秩序ある開発を市として指導してほしい。	開発
こども(青少年)育成への取り組みとしてこども総合コミュニティ館の設立 子育ての充実等 教育の水準レベルアップ策 体験活動の強化 以上こども政策を最優先に行いたい。	子育て
中長期的の中で30代～40代ファミリー層の家族を増やす。他市町村からの移住を促進する。そしてその層の住宅確保を促進する。	定住促進
市が明確な方針を示してほしい 人材の育成 組織の基準、権限 活動補助金 先進地を参考にして	市の方針

- 6 各種団体アンケート調査

(1) 調査の概要

1) 調査の目的

本調査は、各種団体が抱えている課題、共働のまちづくりへの意識及び将来のまちづくりのイメージ等を調査し、第4次古賀市総合振興計画策定に生かすことを目的に実施した。

2) 調査対象

各種団体

- ・ 古賀市ボランティアセンター登録団体
- ・ 市民共働課登録団体
- ・ その他市民活動団体

3) 調査方法

郵送による配布、回収

4) 調査期間

平成21年9～10月

5) 回収状況

- ・ 配布数 130票
- ・ 回収数 89票
- ・ 回収率 68.5%

(2) 調査の結果

1) 各種団体の概要について

問2 貴団体は、主にどのような活動をしていますか？

<最も主な活動に1つに 印、その他の主な活動にいくつでも 印>

各種団体が行っている最も主な活動については、「子どもの健全育成」が19.1%で最多となっており、各種団体が行っているその他の主な活動についても、「子どもの健全育成」が14.5%で最多となっている。

問2 - 1 各種団体の活動分野

(印：最も主な活動)

活動分野	回答割合	回答数
子どもの健全育成	19.1%	17
災害の防止・対応	14.6%	13
福祉の推進	11.2%	10
自然環境の保全	4.5%	4
産業の振興	4.5%	4
清掃・美化活動の推進	3.4%	3
人権の擁護	3.4%	3
健康づくりの推進	2.2%	2
社会教育・生涯学習の推進	2.2%	2
文化芸術の振興	2.2%	2
交通安全の推進	2.2%	2
スポーツの振興	1.1%	1
犯罪の防止	1.1%	1
国際協力・交流の推進	1.1%	1
医療の推進	0.0%	0
コミュニティ活動の推進	0.0%	0
男女共同参画社会の形成	0.0%	0
市民活動団体の支援	0.0%	0
その他	4.5%	4
無回答	22.5%	20

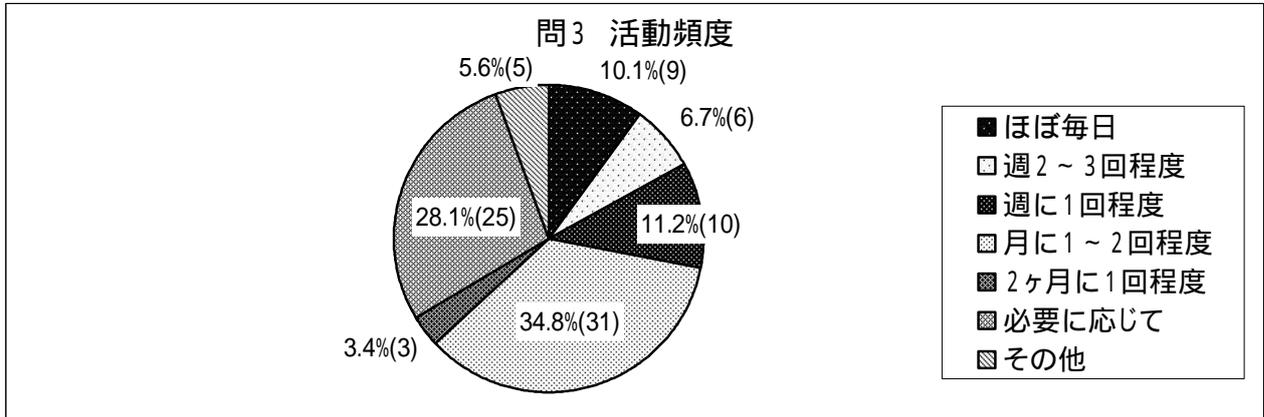
問2 - 2 各種団体の活動分野

(印：主な活動)

活動分野	回答割合	回答数
子どもの健全育成	14.5%	33
災害の防止・対応	9.6%	22
清掃・美化活動の推進	7.5%	17
コミュニティ活動の推進	7.0%	16
自然環境の保全	7.0%	16
産業の振興	7.0%	16
福祉の推進	6.6%	15
市民活動団体の支援	5.7%	13
社会教育・生涯学習の推進	5.3%	12
人権の擁護	4.8%	11
健康づくりの推進	4.4%	10
スポーツの振興	3.9%	9
犯罪の防止	3.5%	8
文化芸術の振興	3.1%	7
交通安全の推進	3.1%	7
男女共同参画社会の形成	1.8%	4
医療の推進	0.9%	2
国際協力・交流の推進	0.9%	2
その他	3.5%	8
無回答	0.0%	0

問3 貴団体の活動は、どのくらいの頻度で行っていますか？ < 1つに 印 >

各種団体の活動頻度については、「月に1～2回程度」が34.8%で最多となっている。

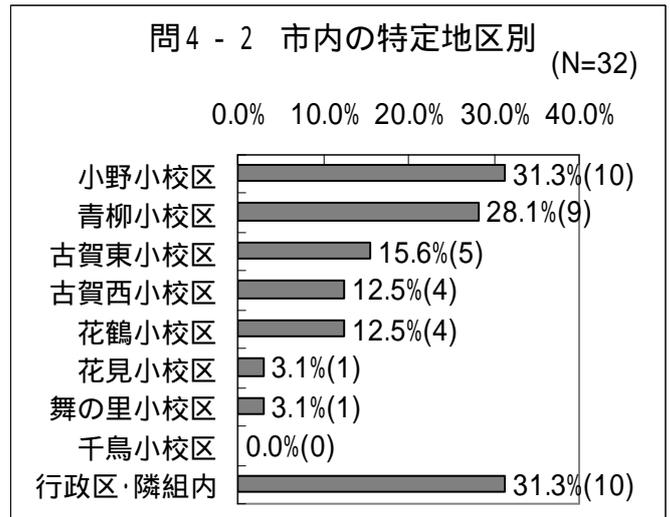
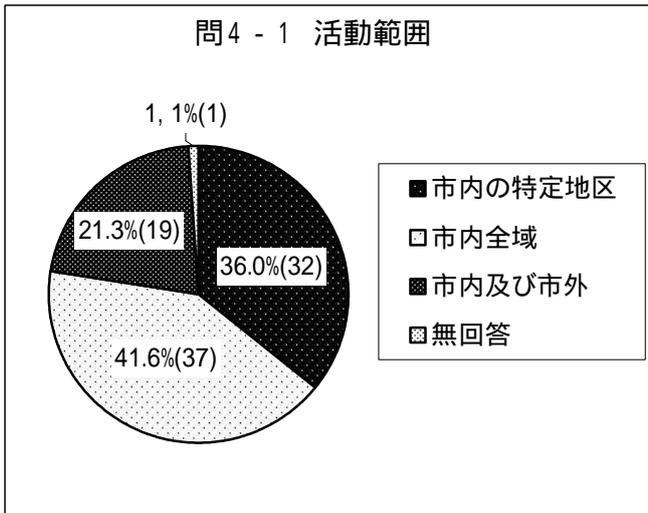


問4 貴団体は、主にどのような地区で活動していますか？ < 1つに 印 >

市内の特定の地区で活動している場合はその地区（小学校区等）もお答えください。

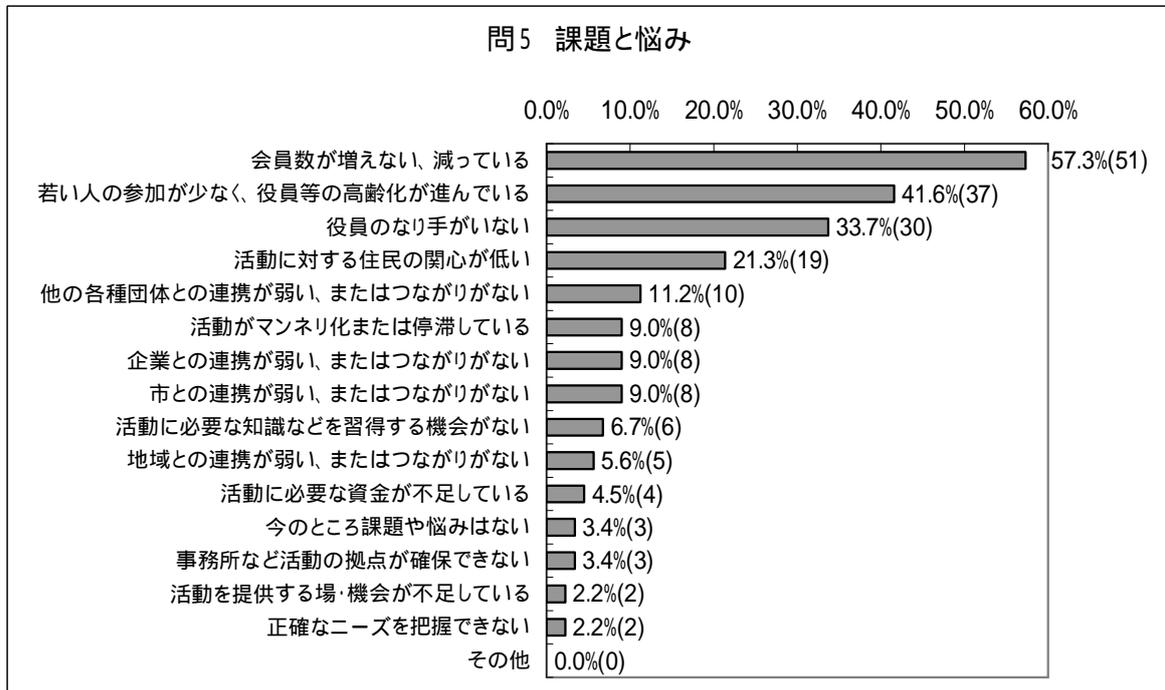
各種団体の活動範囲は、「市内全域」が41.6%で最多となり、次いで「市内の特定地区」が36.0%となっている。

「市内の特定地区」と回答した団体の活動範囲をみると、「小野小校区」、「行政区・隣組内」が31.3%で最多となり、次いで「青柳小校区」が28.1%となっている。



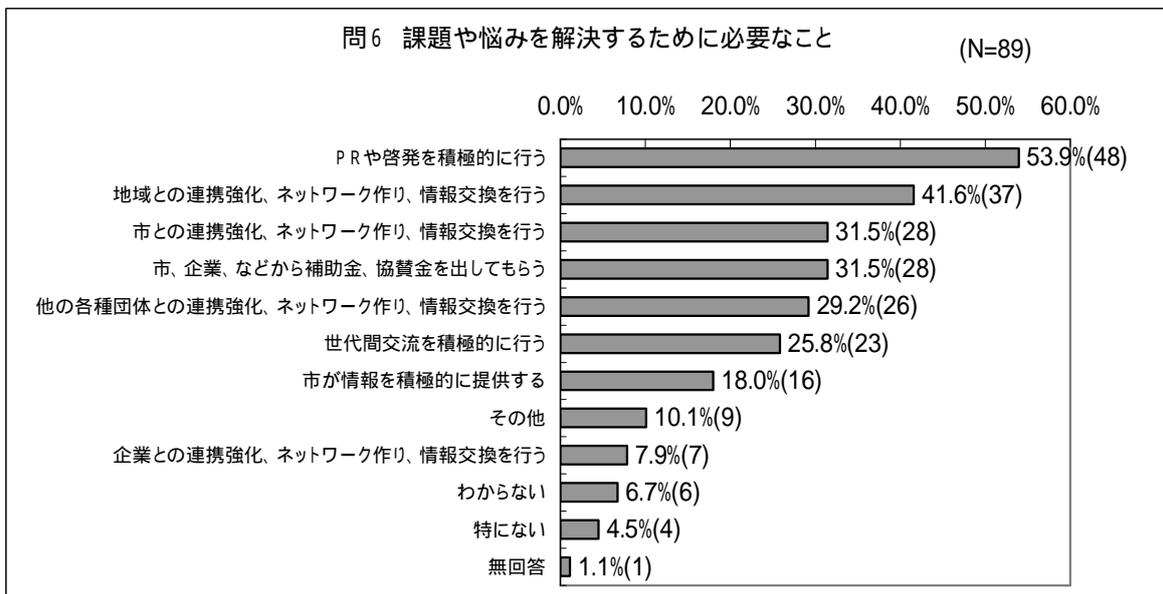
問5 現在、貴団体が抱えている課題や悩みは何ですか？ < 3つ以内に 印 >

「会員数が増えない、減っている」が57.3%で最多となり、次いで「若い人の参加が少なく、役員等の高齢化が進んでいる」(41.6%)、「役員のなり手がいない」(33.7%)となっていることから、会員数や役員の問題が課題や悩みとなっていることがうかがえる。



問6 現在が抱えている課題や悩みを解決するためには、どのようなことが必要だと思いますか？ < 3つ以内に 印 >

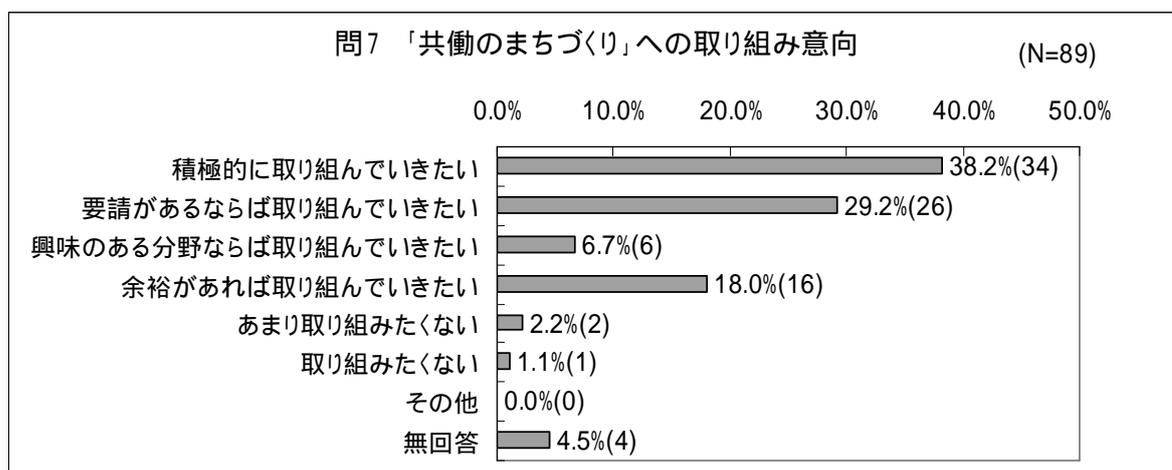
「PR や啓発を積極的に行う」が53.9%で最多となり、次いで「地域との連携強化、ネットワーク作り、情報交換を行う」が41.6%となっている。



2) 共働のまちづくりについて

問7 貴団体においては、これまでも様々な形で、市の発展に寄与・貢献されており、「共働のまちづくり」の一翼を担っていただいておりますが、貴団体は、今後も「共働のまちづくり」に取り組んでいきたいと思いませんか？ <1つに 印>

「積極的に取り組んでいきたい」が最多の 38.2%、「あまり取り組みたくない」と「取り組みたくない」の合計は、3.3%であることから、各種団体に「共働のまちづくり」への参加意向は高いことがうかがえる。



問7 1 「積極的に取り組んでいきたい」「要請があるならば取り組んでいきたい」「興味のある分野なら取り組んでいきたい」「余裕があれば取り組んでいきたい」と回答された場合、今後、貴校区コミュニティが取り組みたいと考えていることや、興味のある分野・内容があれば、以下に記入してください。

「子育て」に関する分野が 13 件と最多であり、次いで「環境美化」「連携・交流」に関する分野が 12 件、「安全・安心」に関する分野が 8 件となっている。

・子育て関連・・・13 件	・環境美化関連・・・12 件	・連携・交流関連・・・12 件
・安全・安心関連・・・8 件	・農業関連・・・5 件	・文化芸術関連・・・3 件
・障害者福祉関連・・・3 件	ほか	(詳細:p.163 参照)

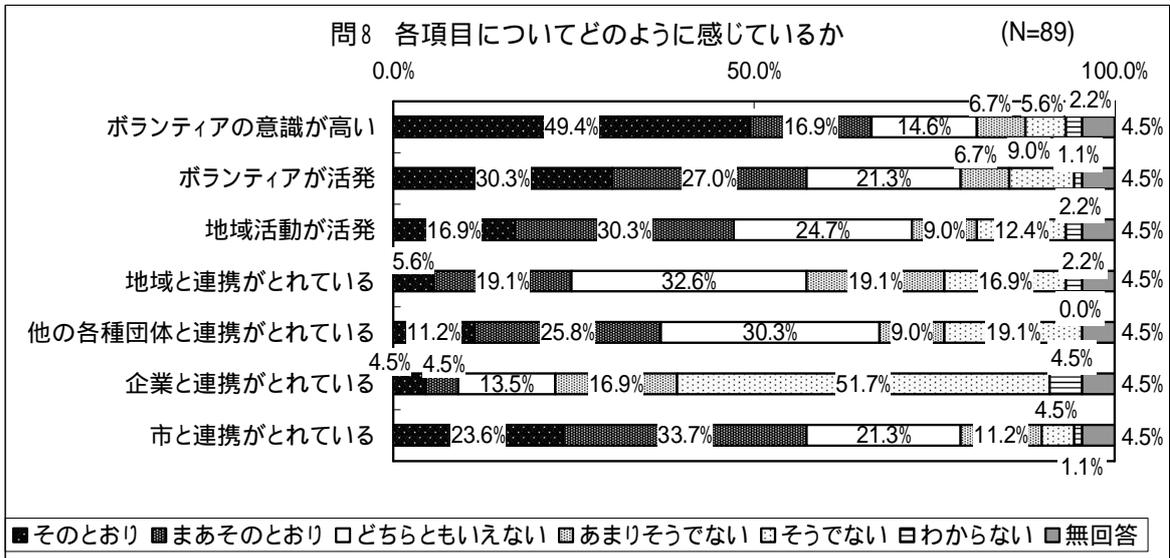
問7 - 2 「あまり取り組みたくない」「取り組みたくない」と回答された場合、なぜ取り組みたくないかよろしければ以下に記入してください。

「極小団体で人が少ないため」、「仕事が増えるため」、「本来、行政職員がすべきことを「共働」の名のもとボランティアに依存する姿勢が見られたため」がそれぞれ 1 件あげられた。

問8 貴団体は、活動に取り組まれている中で、各項目についてどのように感じていますか？
 <各項目それぞれ1つに 印>

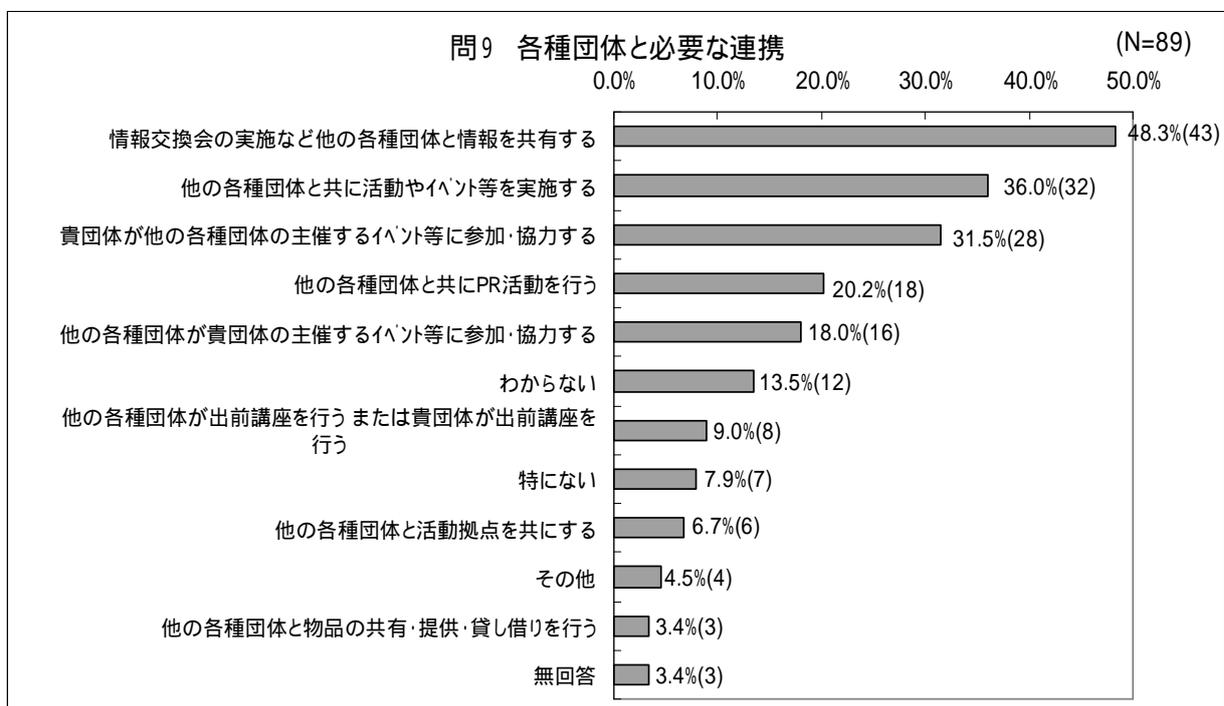
「そのとおり」「まあそのとおり」を合わせた『そのとおり』と答えた割合が最も多い項目は、「ボランティアの意識が高い」で66.3%となっている。

「あまりそうでない」「そうでない」を合わせた『そうでない』と答えた各種団体の割合が最も多いのは、「企業と連携がとれている」で68.6%となっている。



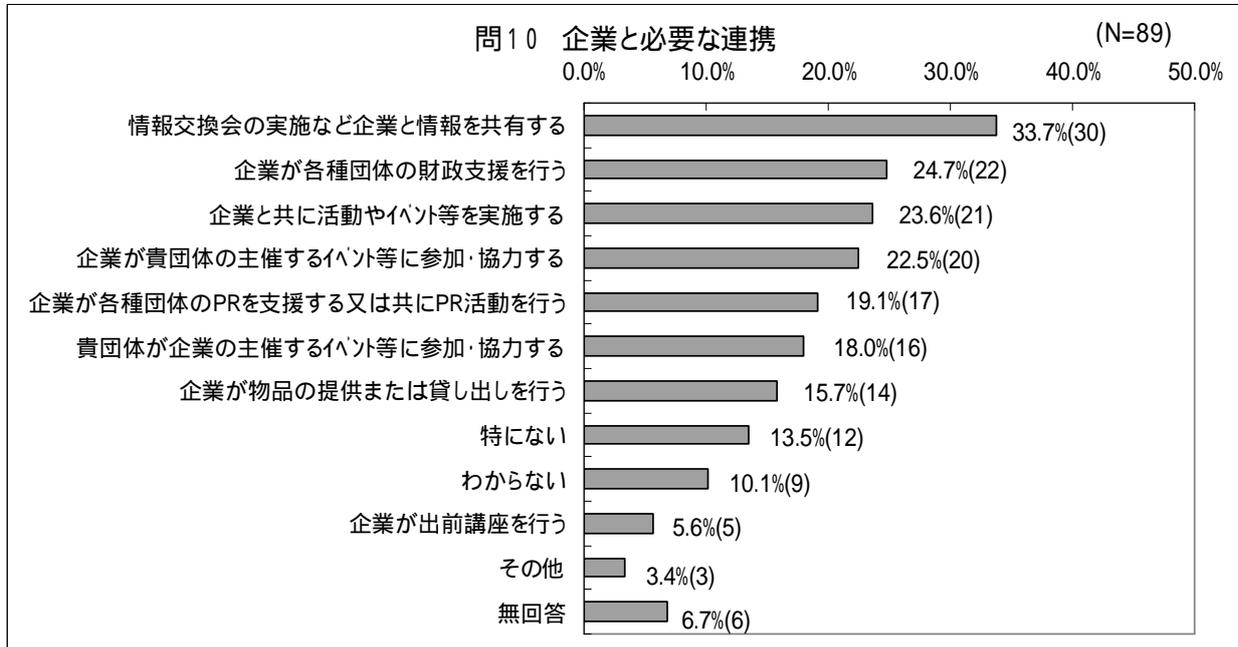
問9 貴団体は、「共働のまちづくり」を進めるために、『他の各種団体』とどのような連携が必要だと思いますか？ <3つ以内に 印>

「情報交換会の実施など他の各種団体と情報を共有する」が48.3%と最も多く、次いで「他の各種団体と共に活動やイベント等を実施する」が36.0%となっている。



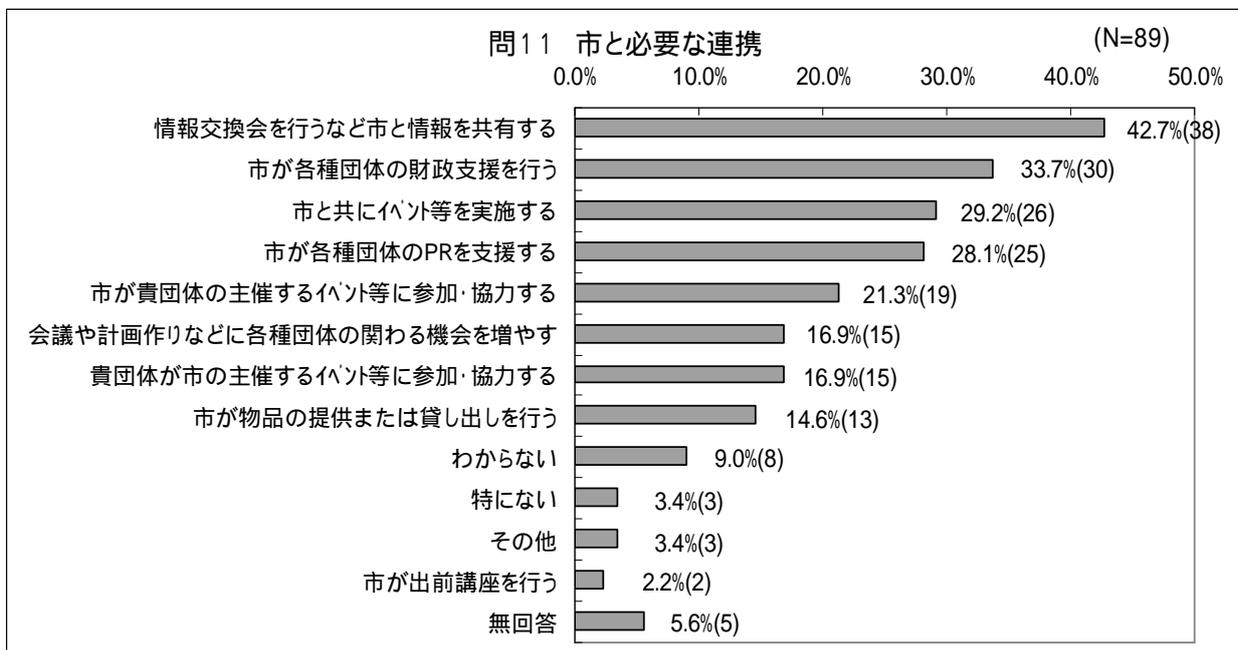
問 10 貴団体は、「共働のまちづくり」を進めるために、『企業』とどのような連携が必要であると思いますか？ < 3つ以内に 印 >

「情報交換会の実施など企業と情報を共有する」が 33.7%と最も多く、次いで「企業が各種団体の財政支援を行う」が 24.7%となっている。



問 11 貴団体は、「共働のまちづくり」を進めるために、『市』とどのような連携が必要であると思いますか？ < 3つ以内に 印 >

「情報交換会の実施など市と情報を共有する」が 42.7%と最も多く、次いで「市が各種団体の財政支援を行う」が 33.7%となっている。



3) 各種団体から見た古賀市の強み、弱み

問 12 貴団体が活動に取り組まれている中で感じる古賀市の強み（良い点、生かすべき点）があれば教えてください。＜箇条書きでご記入ください＞

市の支援体制などの「行財政」に関することが19件で最多となっており、次いで「交通・立地」に関することが14件、「連携・交流」に関することが10件となっている。

・行財政関連・・・19件	・交通・立地関連・・・14件	・連携・交流関連・・・10件
・自然環境関連・・・8件	・図書(館)関連・・・4件	ほか

(詳細:p.165 参照)

問 13 貴団体が活動に取り組まれている中で感じる古賀市の弱み（悪い点、改善が必要な点）があれば教えてください。＜箇条書きでご記入ください＞

市の支援体制や縦割り行政などの「行財政」に関することが25件で最多となっており、次いで地域や団体のつながりなどの「連携・交流」に関することが11件、「まちづくり」「施設・インフラ」に関することが9件となっている。

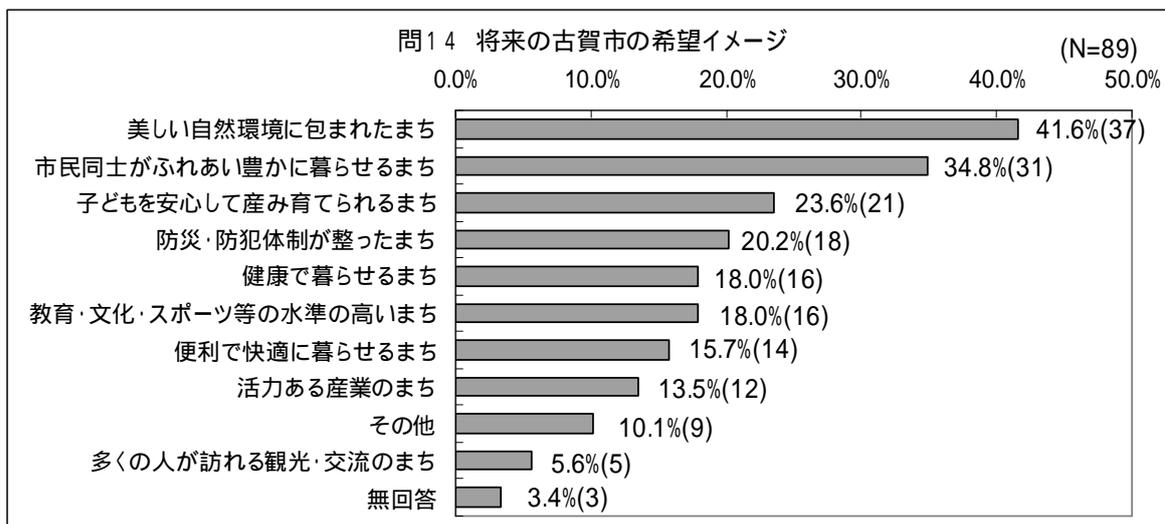
・行財政関連・・・25件	・連携・交流関連・・・11件	・まちづくり関連・・・9件
・施設・インフラ関連・・・9件	・安全・安心関連・・・6件	・交通関連・・・5件

ほか
(詳細:p.167 参照)

4) 将来の古賀市のイメージについて

問 14 貴団体は、将来の古賀市がどのようなイメージのまちになることを望みますか。
＜2つ以内に 印＞

「美しい自然環境に包まれたまち」が41.6%と最多となっており、次いで「市民同士がふれあい豊かに暮せるまち」(34.8%)となっている。



問 15 古賀市のまちづくりについて、ご意見やご提案（アイデア）等をお持ちでしたら、以下に記入してください。

p.169 参照

問7 取り組みたい共働の分野

内 容	項 目
子どもの体力の低下とその親に対してコミュニティづくりの一環としてスポーツ(遊びながら)を積極的に活動したい。現状各校区へ出向いても参加者が非常に少ない。	子育て
「まちづくり」の次代を担う子ども達の健全・安全・安心につながる効果的な活動であれば積極的に取り組みたい。宛職・宛参加の内容の活動は遠慮させていただきたい。	子育て
昨今、少年犯罪等が多発しており、特に福岡県は少年犯罪発生率が7年連続ワースト1ということで子ども達を取り巻く環境、特に家庭での関わり方をもう一度根本的に見直す必要性があると強く感じます。親の自覚を促す「親育ち」のための取り組みが急務と感じています。	子育て
古賀市こどもわくわくフェスタ、市民体験の日(海洋スポーツ)。	子育て
児童館活動の活性化を補完する関係を強化する。児童館活動が活性化すると文庫へ来る子も増えると思う。	子育て
こども参加のまちづくり(子どもは古賀市の未来を創る)(子どものあそび環境を考え保証していくまちづくり)。	子育て
共働の分野に入れるかどうかわかりませんが市内地域の子どもたちによるデイキャンプやイベント等。	子育て
体力向上、学校、地域共に子どもの健康、体力向上、健康づくりの場を提供。	子育て
生活困窮者や高齢者への取り組みはしっかり行っているが児童への対応が遅れていたのが現在強化しているが今後更に充実させて行き、子どもから高齢者身障者一般の大人でも困っていること、悩んでいることに地域住民として対応していきたい。	子育て 高齢者
「子育てサロン」や「託児」を設置する団体(特に催しをするとき)の情報がほしいです。	子育て
「古賀町の民話」を朗読テープにしているが、活用されることを願っている。「なみの里」での絵本の読み聞かせ活動をしているが、他の施設でも活動できればと思っている。	子育て
子育て支援に関する研修、文化交流、スポーツ振興。	子育て 文化・芸術 スポーツ
地域コミュニティの活性化や子どもの居場所または高齢者と子ども、中高生をつなぐような事業ができればと思います。(人形劇などの活動、昔あそび、読書推進)	子育て 連携・交流
人員確保のため、若い年代の交流を行いたい。また、市民の理解を十分得るために活動の意義が伝わる情報を流していきたい。	連携・交流
「食」「農」「健康」「医療」「子育て」「環境」は一つの環で結ばれているという基本認識に立ち協働する諸団体、機関ネットワークを組んでいく必要性を感じています。	連携・交流
農業、工業との連携、教育分野との連携。	連携・交流
イベントの共同開催。	連携・交流
ボランティアをする人たちを広げること。ボランティアをする人たちを広げること。ボランティアの質の向上のための研修・講演会などの実施。	連携・交流
市や地域、他団体の活動に積極的に参加し、連携を取って行きたい。	連携・交流
当グループのメンバーは各々別のグループに所属しているので互いのグループの活動の情報交換やOPEN企画の参加などをする。	連携・交流
物品の共同販売。	連携・交流
行政、商工会、企業、各種団体への呼びかけを積極的に進めていきたい。	連携・交流
社会的に貢献できることなら何でも協力したい。	連携・交流
学社連携・社会教育事業について行政内の協調体制についての提言。	連携・交流 教育
市内全域花いっぱい運動、清掃活動。	環境美化
大根川、用水路の浄化。	環境美化
川の清掃活動、水を守る一環で取り組んでいるが、里山、森林が荒れ、保水の目的からもこれらと通じるものがあることから何かボランティアで参加できないかと思っている。	環境美化
松林から海岸へ通じる雑木や雑草を撤去して散歩道の整備を進めていきたい。	環境美化
「川づくりでまちづくりを」という気持ちで活動をしています。自分達のまちの環境を自分たちのできることから始めて気持ちのよい環境にできればと考えます。主に大根川の多自然型川づくりを目指しています。	環境美化
EMぼかしづくりの交流会の開催については環境課と連携していきたい。	環境美化

内 容	項 目
古賀市中心で自然環境保全・育成の活動(森づくり)、公共施設や養護・老人施設等の花・緑の環境整備(園芸福祉)。	環境美化
竹林対策。	環境美化
森林を市で購入し、ボランティア団体等に活用する。	環境美化
地球環境の整備、通行する車からのポイ捨て、速度、運転者のマナーが悪いので今後を考えて行きたい。	環境美化 マナーアップ
農業と自然環境の保護と地域活性化への取り組み。	環境美化 農業 まちづくり
防災活動はもとより、救急・救護など、地元の清掃活動。	環境美化 安全・安心
防災。	安全・安心
防災、安全、安心。	安全・安心
消防・防災。	安全・安心
防災に関すること。	安全・安心
消防活動とまちづくりとは関係が深く、互いに意志が通りあわないとお互いの活動しづらくなるのでまずは意志疎通が大切だと思っています。	安全・安心
防犯や見守りパトロール隊との意見交換。	安全・安心
地域との防災訓練。	安全・安心
農業担い手問題。	農業
農業の存在する意義をもっと広く知ってもらえるような活動。	農業
地産の直売所の場。	農業
委員がそれぞれに専業農家の働き手であり、家族のこと、仕事を頑張りながら活動を続けています。今の折、要請に応じることで対応することで私達の活動を理解していただきたいと思っています。	農業
障害者と地域との連携をとりながら現在は行われています。社会の中に障害者も入れて活動してほしい。	障害者福祉
少しでも多くの視覚障害者の方々に利用していただくためには一人でも多くの当事者の方々に自分達の団体のことを知ってほしいと思っています。	障害者福祉
障害者福祉の充実(学校教育支援、就職支援、生活支援など)。	障害者福祉
伝統文化史跡等の記録保存の取り組み、市内の史跡等を市民にわかりやすく解説した冊子の作成。	文化・芸術
文化・芸術・社会教育・学校教育の場において私達ができることがあれば何でも積極的に取り組みたい。	文化・芸術
早寝、早起き、朝ごはんがテーマですが食育について何か親子で取り組んでいけたらと考えています。そこから学力の向上につながっていくのだと思うからです。	食育
幼稚園、小、中学校でも出前講座やボランティア活動、若いお母さん方への食育活動に取り組んでいきたいと思っています。	食育
市内各企業における人権意識向上に資する研修会の開催等	人権施策
マスタープラン等に策定された「教育」「子育て」「環境」「介護」等にセンター会員の知識や経験を生かしていきたい。	人材育成
高齢者がいつまでも地域に住み続けるためにはどうしたらよいか。何が出来るか。	高齢者
地域の活性化や地域での教育につながる事。	まちづくり 教育
マニフェスト型公開討論会や評価検証大会を定着させ、市長選挙でのマニフェスト選挙を古賀市に根づかせたい。市長のマニフェストが市政にどのように生かされ実践されているのかの市民評価と行政の行政評価とをリンクさせ、連携を図っていければ。	行財政
生活するだけ余裕を作るためには収入が増えなければと思う。	その他
組織の強化、若手高齢者の加入の問題、各団体との協議など課題が多い。	その他
地球民族幸福のために地球国家を創る運動をしたい。	その他
農村地区と市街地区の不平等の是正。	その他

問 1 2 古賀市の強み

内 容	項 目
市役所職員の説明が丁寧である。	行財政
他市町村に比べ装備が充実している。	行財政
市が団体に対してよく理解していただきありがたく思っている。	行財政
若い職員の方にはたまには熱意のある方がいるようです。	行財政
活動に対するしっかりしたサポート体制ができています。	行財政
維持、補修に相当な支援をしてもらっている。	行財政
活動に対する理解が深い。	行財政
市長の意志が下まで通じている。	行財政
特定の部課では積極的に支援していただきますが担当部課がよく替わる点は強みであり、弱みです。	行財政
市が中心となって古賀市を守るという意識が高い。	行財政
社会教育にご理解いただいている。	行財政
「なのみの里」での朗読会に職員が協力していただける。	行財政
最近は少しづつPRにも取り組んでいただいている。	行財政
市の協力にはいつも感謝。他の市町村にはない市の体制がよい。	行財政
清掃活動に対してはごみ袋の提供、回収等積極的に協力している。	行財政
市内7箇所の郵便局に市長自ら要請を行ったこと。	行財政
情報発信、提供に協力(まだ十分とはいえないが)。	行財政
講師料が条件に合えば市が負担してもらえる。	行財政
市の協力にはいつも感謝し、私達の活動が続けられるのも他の市町村にはない市の体制に私達も活力をいただいています。	行財政
交通の便がよい。	交通
交通の便がよく人が集まりやすい。	交通
交通機関の便利さ。	交通
JR、高速道路、3号線等の交通アクセス。	交通
交通の便がよい、他都市からのアクセスがしやすい。	交通
高速道路、バイパスなど立地条件に恵まれている。	交通
交通網の充実(道路、鉄道等という意見で)	交通
あまり道がこまない。	交通
高速インターがあり、流通等で便利である。	交通
高速道路のインターもあり、立地条件がよい。	交通 立地条件
恵まれた環境下にある。(自然・新旧住宅地帯・企業立地(誘致)・交通)	交通 立地条件
都心に近く、田舎もあり、海も山もある立地環境。	立地条件
都市に近い所にある。現在よりも住みよい市に。	立地条件
大都市圏のぎりぎりはじ。	立地条件
各行政区でコミュニティが立ち上がり校区毎活動の活発化。	連携・交流
地域の連携体制。	連携・交流
その発展組織ともいえる「コミュニティ」が各所で発足、活動を開始している。	連携・交流
農村地域での区民どうしの繋がり。	連携・交流
比較的古い住宅地が多く、地域としての団結・活動はよく行われている	連携・交流
良好な人間関係が構築される。	連携・交流
地区で細分化されている。	連携・交流
各行政区に公民館分館という社会教育施設がある。	連携・交流
地縁が強い。	連携・交流
地域の方、行政の方々がよく活動に参加される。	連携・交流 行財政
素晴らしい自然がある。市内の中央を縦横に走る大根川系、東に犬鳴山系、西に玄界灘。	自然環境
自然豊かな(山、川、海等)まちである。	自然環境

内 容	項 目
自然環境に恵まれている。	自然環境
自然に恵まれている。	自然環境
白砂青松の海と西山の大自然。	自然環境
山があって、海がある。	自然環境
自然(山、川、海、田園)が残るまち。	自然環境
環境がまあまあ良い。	自然環境
町の中心に図書館がある。	図書(館)
市や学校、文庫の読書活動の充実。	図書(館)
図書館が理解があり協力的であること。	図書(館)
市立図書館の「点字朗読室」を利用できる。	図書(館)
人の顔が見えやすい規模のまちである。	市の規模
市の規模が大きすぎず、全体的に把握しやすい。	市の規模
程よい人口のため、スポーツ、文化を楽しむにしても並ぶことなく自分の趣向に合わせて楽しめるところ。	市の規模
さまざまな活動をしている団体が多くいる。	ボランティア
個々の団体がよく活動している(社協の中)。	ボランティア
社協のボランティアセンター関係のボランティアさんはよい。	ボランティア
高校が2つあること。	教育施設
大学ができたこと。	教育施設
障がい者の教育施設が割合充実(小・中特別支援学級、高等養護学校等)。	教育施設
障害者の方々が協力的で、一緒に活動していただける。	障害者福祉
日夜人権問題にとりくんであること。	人権施策
「同和」教育、事業等の長年の人権擁護等の実績が他の様々な課題の下積みに少なからずなっていると思う。	人権施策
スポーツが強い。	スポーツ
スポーツが活発であり明るい街である。	スポーツ
清掃後のゴミ処理。	ゴミ
組織があることの大切さを感じています。	その他
労働力が少しずつ生かされている。	その他
活動に対し理解が深まっている。	その他
講演会をする際、市青少年育成会議から講師を紹介していただける。	その他
漁業を除く、あらゆる業種の人達が在住されていること。	その他
市団体がまとまっている。	その他
定期的な訓練会がある。	その他
研修会や講演が活発に行われている。	その他
消防団に対する理解と支援の支援の充実。	その他
土地は安い。	その他

問 1 3 古賀市の弱み

内 容	項 目
市財政のたてなおしを急ぐ。	行財政
財政が弱い。	行財政
財政支援が弱く、情報提供のスピードが遅い。	行財政
財政支援が弱い。	行財政
ボランティア団体に対する補助制度(金額、物品)。	行財政
青少年健全育成団体として、財政支援が必要だと思うが、補助金がカットされた。	行財政
市の予算がなく、地域活動が活発にできない。	行財政
市からの補助金が年々少なくなっている。	行財政
担当部署以外からは援助いただけることは難しい。(縦割行政)	行財政
ご理解をいただいているが各団体へおまかせのところもある。	行財政
行政の中の連帯感がない。(同じような行事をおのおのが実施している)	行財政
行政の横の繋がり、広がりがいい。	行財政
各セクションとの連携が取れていない。	行財政
社会教育、教育全般、福祉に対するトップ(市長部局)の熱意が感じられず、情報公開も遅れている。典型的な縦割り行政となっている。	行財政
単に事務的に協力を処理していると感じられ、積極的に共働していく姿勢がみえない。	行財政
行政の関わりが中途半端で、丸投げ的でおまかせで、ボランティアは市民がするものと思っている職員が多い。	行財政
まつり古賀を商工会、JAで受けた形となっているが、市は活性化のため、市民共働というならば、他団体を含めた構成で改善していくべき。	行財政
担当部署の人事をあまり変えないでください。非常に急変する国の政策に係長以下は大変忙しい。また、我々と部、課長の人達は非常に遠い人のようだ。	行財政
古賀市職員の地域に対する密着性が低い。	行財政
「コミュニティ活動」を発展させつつ、市の下部組織作りとすべき支援の不足。	行財政
子どもの為の施策が保健・福祉・教育など縦割りであること。子どもを発達過程の現在、未来ととらえ、総合的に成長を保証していく部局が必要。	行財政
図書司書、職員が専門職でない。	行財政
研修会や講演の日程が急な時が多く、PR不足のため参加者が少ない。地域のニーズに合う講演なのかりサーチが不足している。	行財政
行政の指導力のなさ。	行財政
どこの市町村も財政の苦しい中、欲を言えばきりがいい状態です。これから私達もその点は考えて活動していくべきだと痛感しております。	行財政
地域での連携も最近特に希薄になった気がする。	連携・交流
新興住宅地での区民どうしの繋がり。	連携・交流
さまざまな活動団体があるが、全体のつながりを感じられない。	連携・交流
好環境を生かした「まちづくり力」不足、一体感・連帯力不足。	連携・交流
新興住宅とのふれあいの少なさ。	連携・交流
新興住宅地(マンション含む)の団体活動への参加意識が希薄。	連携・交流
地域に温度差がある。	連携・交流
市民と行政がつながっていない感じがする。	連携・交流
青少年に対する団体の連携が少なく弱い。	連携・交流
福祉的な視点が不十分。「地域づくり」を本気で。	連携・交流
活動に対し、積極的に参加していない。	連携・交流
若者に魅力ある町づくりになってほしい。	まちづくり
海があるのに活用されていない。(漁港、海水浴場、釣堀)	まちづくり
方向性が見えず、未来指向と思えない	まちづくり
他の市(福岡市、宗像市等)と見比べて自身を見たり考えている部分があるように思う。古賀市独自の考えをもっと持てたらと思う。	まちづくり
市の方向、将来へのビジョンがよくわからない。いろんな面で積極的な取り組みをしてほしい。	まちづくり
福津、新宮の活性化に比べ、沈んでいくようでさびしい。	まちづくり

内 容	項 目
継続的な企画が少なく、年々テーマが変化。	まちづくり
市政に関心のある人が少ないように感じる。	まちづくり
地域性を生かした開発がない。(福岡市と北九州市の間であること)	まちづくり
福祉施設の数が足りない。	施設・インフラ
農道等の工事要望しているが未実施のものが多。	施設・インフラ
スポーツ施設が点在していて利用しづらい(計画性なし)	施設・インフラ
幹線道路等の多さの割りに商業施設等が少ない。	施設・インフラ
中央公民館の利用料が必要であること。	施設・インフラ
団体が施設を利用しているが利用料が高いと思う。市民が利用しているのでその点考慮していただきたい。	施設・インフラ
体育施設の老朽化、設備の不備が目立つ。	施設・インフラ
宿泊施設がない。	施設・インフラ
公的施設が一極集中しておらず、イベント等を開催する会場がない。(駐車場が少ない)	施設・インフラ
新興住宅地などで消防活動への理解が低いケースがある。	安全・安心
消防活動(防災の必要性、重要性)を理解していない市民(他地域からの移住者)から理解を得られていない。	安全・安心
事件が多く、治安が悪い。	安全・安心
ホームタウン的な要素があり、昼間の有事に備えられない。	安全・安心
火事のと看、どこらへんなのか目印があまりない。	安全・安心
登下校の安全について道路状況がよくない。	安全・安心
市内の移動が不便(公共交通網)。	交通
交通の不便が多い。	交通
交通機関が弱い。	交通
バス路線の少なさ。	交通
交通の拠点があるのに西鉄バス等の高齢化社会に対応した視点がない。	交通 高齢者
農業政策が不十分。	農業
地産、地消をもっとPRし、取り入れること。	農業
農業など地域で根づいて活動できる環境の弱体化。	農業
障害者への環境整備や行政側から障害者などへの具体的情報の提示。(書類を置くだけでなく、言葉・声で知らせる)	障害者
点字、朗読、手話など特別知識を必要とする分野のボランティア活動に対する理解が意外に薄い。	障害者
ボランティアコーディネータがいらない。	人材
強力なリーダーがいらない。	人材
道路等にゴミの不法投棄が多い。	ゴミ
人権問題解説への成果があがらない。もっと啓発をしっかりと。	人権施策
通過する人は多いらしい。古賀で特に何かする人は少ない。	その他
企業との取り組みの方が重点におかれている。	その他
個人情報等何もかも見えない中での活動。	その他
生かす場所がない。	その他
子どもの本ばなれ。	その他
古賀市の玄関であるJR古賀駅前の開発なし。	その他
愛郷心の低下。	その他
都市部と農村部の格差。	その他
地域内で働く場所が少ない。	その他
活動資金の不足。	その他
周辺の市町村には目玉となる史跡があるが古賀は総じて小粒、目玉がほしい。多くの史跡があるのに市民の関心が乏しい。折角発掘された県指定の文化も埋め戻され市民の目に触れない。遺跡の保存、標識の増設などの対策がほしい。	その他

問15 自由意見

内 容	項 目
高齢者が散歩や買い物の途中で一休みできるベンチが欲しい。	高齢者
介護者のメンタルケア充実。	福祉
福祉に頼らず、自分の力でなるべく1人歩きができるような呼びかけを。	福祉
福祉用具の給付対象外になった者への貸与制度創設して欲しい。	福祉
子ども達が企画し、大人が協力できる大きなイベントがあれば。	子育て
子育て支援に関して、研修会や講演を行う前にPTA等を利用し、住民ニーズリサーチのうえ内容決定に。	子育て
子どもの目線でのまちづくりを。	子育て まちづくり
学術拠点づくり。	教育 まちづくり
教育に力を入れた市に。	教育 まちづくり
生涯文化活動のできる環境の整ったまち。	生涯学習 まちづくり
史跡、名所を紹介する冊子が欲しいと要望される。当会で作成したいが資金がないので援助を。	文化・芸術 行財政
伝統を大切に。	文化・芸術
スポーツイベントの開催。 1～3年目 体育協会主催、体育指導員協賛 3～5年目 地域をまきこむ 6年目～ 古賀市大運動会	スポーツ
市民が一堂に会してスポーツに親しむ機会を。	スポーツ
「人権」にこだわることに意識が固定化しているような気がする。	人権施策
環境施策充実。	自然環境
海岸、松原、河川清掃。	自然環境
環境を守る。	自然環境
川づくりに市の積極的な関わりを。市だけでは解決できないと断られるが、古賀市だけを流れる川。福津市を参考に。	自然環境
松林、河内池、興山園等を総合的に整備、美化し、愛着のわくまちづくり、観光へ。	自然環境 まちづくり
自然を生かしたまちづくりを。	自然環境 まちづくり
海を生かしたまちづくり。	自然環境 まちづくり
青少年会館の建設(ボランティアや青少年団体、子育て団体が自由に利用できる施設)。	施設・インフラ
設備の整った文化会場(売店、レストラン、バリアフリー)が欲しい。	施設・インフラ
リーパスプラザを図書館、歴史資料館と廊下でつなぐ。	施設・インフラ
体育施設の充実。	施設・インフラ
クロスパルの利用価値が少ない。市民の有効利用につながる検討をしてほしい。	施設・インフラ
通学路の整備をしてほしい。	道路
道路の計画的整備が必要。	道路
道路整備。市役所前の通りの狭さ。歩行者、自転車のための安全通路の確保。	道路
柔軟性をもった都市計画(特に中山間)	まちづくり
農地の有効活用をし、開発を。	まちづくり
まとまりのない都市計画は住みにくい。	まちづくり
まちの顔にできるような面を打ち出す。	まちづくり
市の特徴となるものを。地球国家を創る運動を。	まちづくり
市の特徴がない。	まちづくり
全ての年代で活気あるまちづくりを。	まちづくり
人権、福祉、教育、環境の充実した町づくり。	まちづくり
今ある資源を生かした自立した特色のあるまちづくりを行って欲しい。	まちづくり
合併の議論は避けて通れない。まず、地域の将来像を議論する機会を。	まちづくり
古賀駅前からの市内行きバスの便が少ない。	公共交通
市内交通網について。公的施設をつなぐ等。	公共交通

内 容	項 目
共働(消防団・市・企業)による防災啓発へのPR活動を。	安全・安心
安全・安心のまちづくり。(大麻栽培、強盗等事件が頻発)	安全・安心
暴力団対策を。	安全・安心
市民が入った会議の立ち上げ等、「人づくりでまちづくり」ができる市へ。	人材 まちづくり
市全体の統一性や街全体の統一性があれば。	まちづくり
若い人たちが戻って来れる環境づくりに取り組んで欲しい。	まちづくり
駅前の総合的な開発と利用を。	古賀駅周辺 まちづくり
古賀駅周辺のイメージアップ。	古賀駅周辺 まちづくり
古賀駅前の再開発。若者が集うまちづくり。	古賀駅周辺 まちづくり
古賀駅周辺整備。駐車場確保により商店街への人の流れをつくる。	古賀駅周辺 商業
古賀駅周辺、商店街活性化。	古賀駅周辺 商業
大規模商業施設が欲しい。	商業
環境保全型農業振興。	自然環境 農業
特産品を作る。農産物を生かして企業と連携し、地域の活性化を。	農業
積極的な企業誘致をしては。	産業
大手企業との積極的な連携強化をすべき。	産業
観光資源がない。	観光
情報発信不足(「ホームページ参照」に頼りすぎ)。	情報
人材登録システムの設置。	人材、情報
総合的な対応で「人」への投資を第一優先とした取り組みを。	人材
ボランティアの心をもっている市民を大切にしたい。	ボランティア
ボランティアセンターの設置。	ボランティア
市全体がボランティアに対する意識がやすい。	ボランティア
ボランティアの定例会に来て直接説明会をして欲しかった。	ボランティア
・市の主催事業への動員廃止。 ・行政区長のあて職を廃止し、負担軽減を。 ・校区コミュニティに1～2名のコーディネーターを配置し、行政区と校区のパイプ役にして窓口の一本化を。 ・このアンケートの結果を報告を。市民共働課、社会教育課等さまざまなアンケートに回答してきたが、結果が返ってきたことがない。	コミュニティ その他
コスモスの一大イベントをやりたい。	連携・交流
なの花まつり、まつり古賀の際にJR九州が実施しているウォーキングの際に、市も連携した取り組みが欲しい。	連携・交流
地域コミュニティを全校区で、20～40代の参加率を上げ、活性化へ。位置づけを明確に。地域企業、市の支援を充実させる。	連携・交流
行政区公民館の開放(世代間交流等)	連携・交流
地域コミュニティのすぐれたまちでありたい。	連携・交流
校区コミュニティづくりは市の指針を明確にし、人も金もつぎこむこと。	連携・交流
新しい青年団、婦人会の立ち上げと老人クラブの意識の変革を。	連携・交流
高齢者と子どもの交流の場設置。	連携・交流
各種団体の代表者が利害関係のないところで市政について意見交換できる場の設定をしては。	連携・交流
市民と職員が本音で話し込める時間をもつように心がける。	連携・交流
実行性のある計画に。現場に行き、実状を理解する。地域の時代にうつっている。市長以下、職員がそれぞれの地域に関わるように。	連携・交流
・市の職員がもっと活発に市民活動に参加して欲しい。 ・市民活動に対し、積極的な財政支援をして欲しい。	連携・交流 行財政
各種団体があつまり、まちづくり計画やアンケートの内容等の意見を交換し、取り組んでいけるよう話し合いの場を設けて欲しい。	連携・交流 まちづくり
各団体の事務局業務に市職員を送り込み、市民の声、各団体の意見を行政に生かすべき。	行財政

内 容	項 目
市が積極的に活動のPRを。	行財政
市のPRが足りない。もっと市のPRを。	行財政
<ul style="list-style-type: none"> ・検証をしているか。次へ生かしているか。 ・PDCAを実行できているか。 ・経営企画課の職員は各種団体の現場へ足を運んで欲しい。アンケートをとっただけで計画を立案しないで欲しい。 	行財政 その他
コミュニティの推進、アンビシャスの推進等市民に課すことについては、最初は行政がコーディネートする必要がある。	その他
一つの取り組みが軌道に乗るまで、ねばり強い継続的な取り組みを。	その他
青柳、小野地区も古賀地区と同様の考えを。	その他

- 7 学校等アンケート調査

(1) 調査の概要

1) 調査の目的

本調査は、学校等の共働のまちづくりへの意識及び将来のまちづくりのイメージ等を調査し、第4次古賀市総合振興計画策定に生かすことを目的に実施した。

2) 調査対象

市内大学、高等学校、中学校、小学校、保育所（園）、幼稚園、養護学校

3) 調査方法

郵送による配布、回収

4) 調査期間

平成21年9月

5) 回収状況

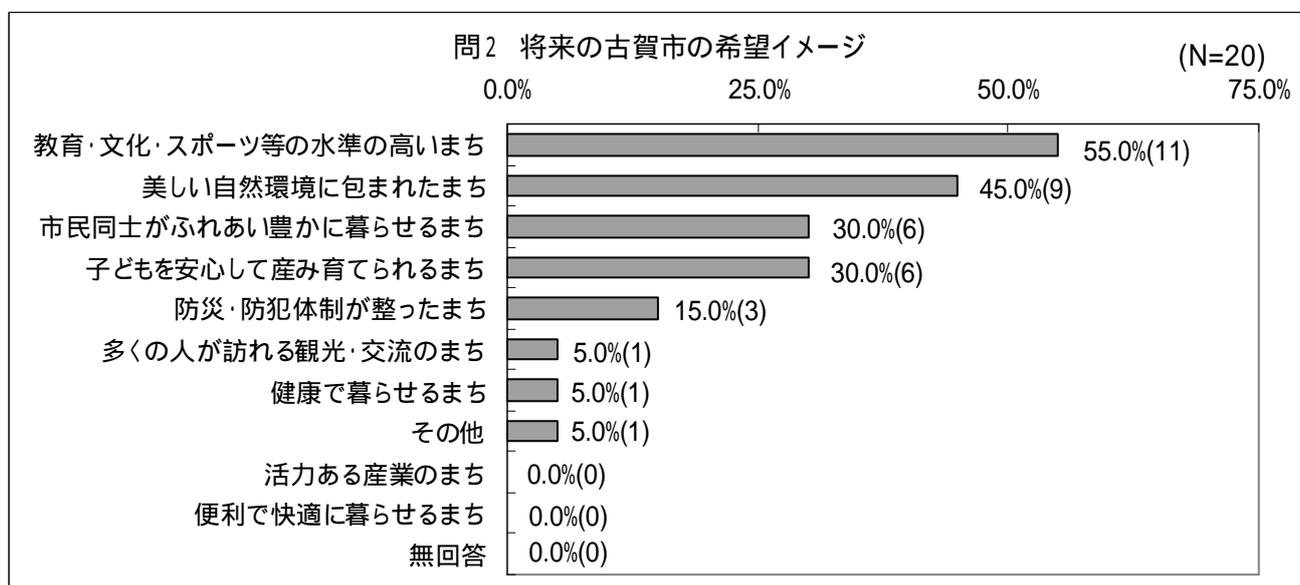
- ・ 配布数 29 票
- ・ 回収数 20 票
- ・ 回収率 69.0%

(2) 調査の結果

1) 将来の古賀市にイメージについて

問2 貴学校等は、将来の古賀市がどのようなイメージのまちになることを望みますか。 < 2 つ以内に 印 >

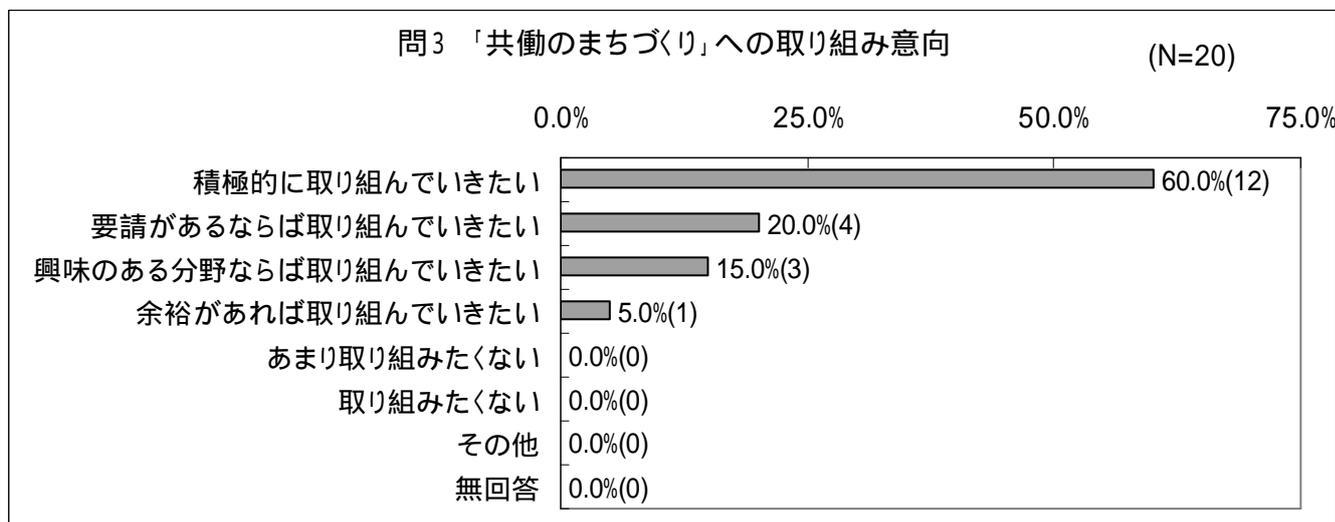
「教育・文化・スポーツ等の水準の高いまち」が55.0%で最多となっており、次いで「美しい自然環境に包まれたまち」(45.0%)となっている。



2) 共働のまちづくりについて

問3 貴学校等においては、これまでも様々な形で、市の発展に寄与・貢献されており、「共働のまちづくり」の一翼を担っていただいておりますが、貴校区コミュニティは、今後も「共働のまちづくり」に取り組んでいきたいと思いませんか？ <1つに 印>

「積極的に取り組んでいきたい」が60.0%と最多で、回答したすべての学校等が何らかの形で取り組んでいきたいと答えていることから、学校等に「共働のまちづくり」への参加意向があることがうかがえる。



問3 1 「積極的に取り組んでいきたい」「要請があるならば取り組んでいきたい」「興味のある分野なら取り組んでいきたい」「余裕があれば取り組んでいきたい」と回答された場合、今後、貴学校等が取り組みたいと考えていることや、興味のある分野・内容があれば、以下に記入してください。

「地域との交流」と「環境美化」に関するものがそれぞれ4件あげられ、関心があり取り組んでみたいという意向があることがうかがえる。また、「世代間交流」に取り組んでいきたいという意向もあることがうかがえる。

・地域との交流関連・・・4件 ・環境美化関連・・・4件 ・子育て関連・・・3件
 ・世代間交流関連・・・2件 ほか (詳細:p.178 参照)

問3 - 2 「あまり取り組みたくない」「取り組みたくない」と回答された場合、なぜ取り組みたくないかよろしければ以下に記入してください。

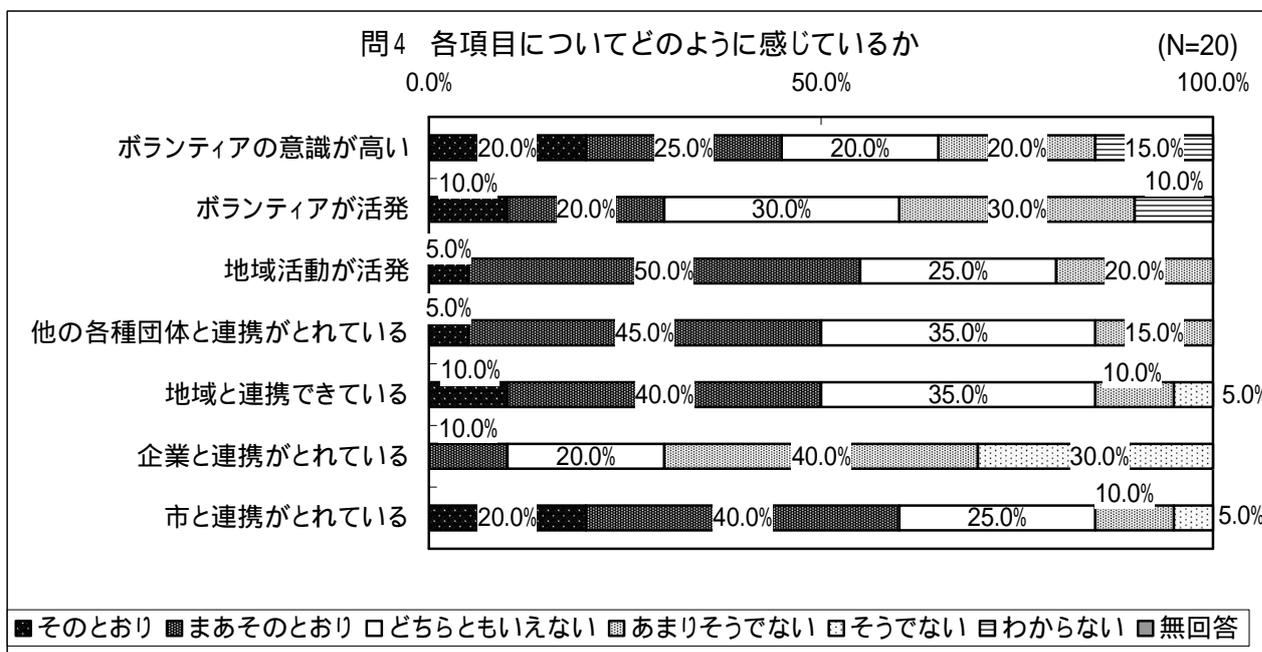
該当なし。

問4 貴学校等は、活動に取り組まれている中で、各項目についてどのように感じていますか？
 <各項目それぞれ1つに 印>

「ボランティアの意識が高い」の設問については、「そのとおり」「まあそのとおり」を合わせた『そのとおり』と答えた学校等は45.0%で、「あまりそうでない」「そうでない」を合わせた『そうでない』と答えた学校等は、20.0%となっており、各学校等によって感じ方が異なることがうかがえる。また、「ボランティアが活発」の設問についても、『そのとおり』と答えた学校等は30.0%で、『そうでない』と答えた学校等は、30.0%となり、同様なことがうかがえる。

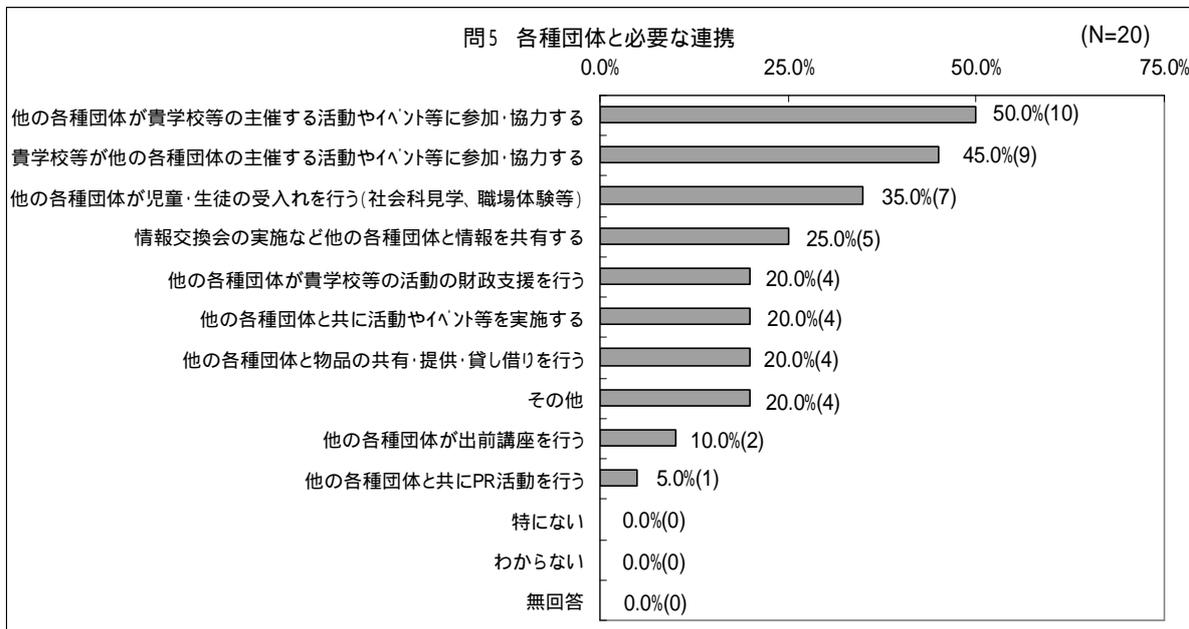
「地域活動が活発」の設問については、55.0%が『そのとおり』となっており、地域活動が活発な地域であると感じていることがうかがえる。

「各種団体」「地域」「市」との連携については、『そうである』が『そうでない』を大きく上回っているが、「企業」との連携については、『そうでない』が『そうである』を大きく上回っており、「企業」との連携がとれていないと感じていることがうかがえる。



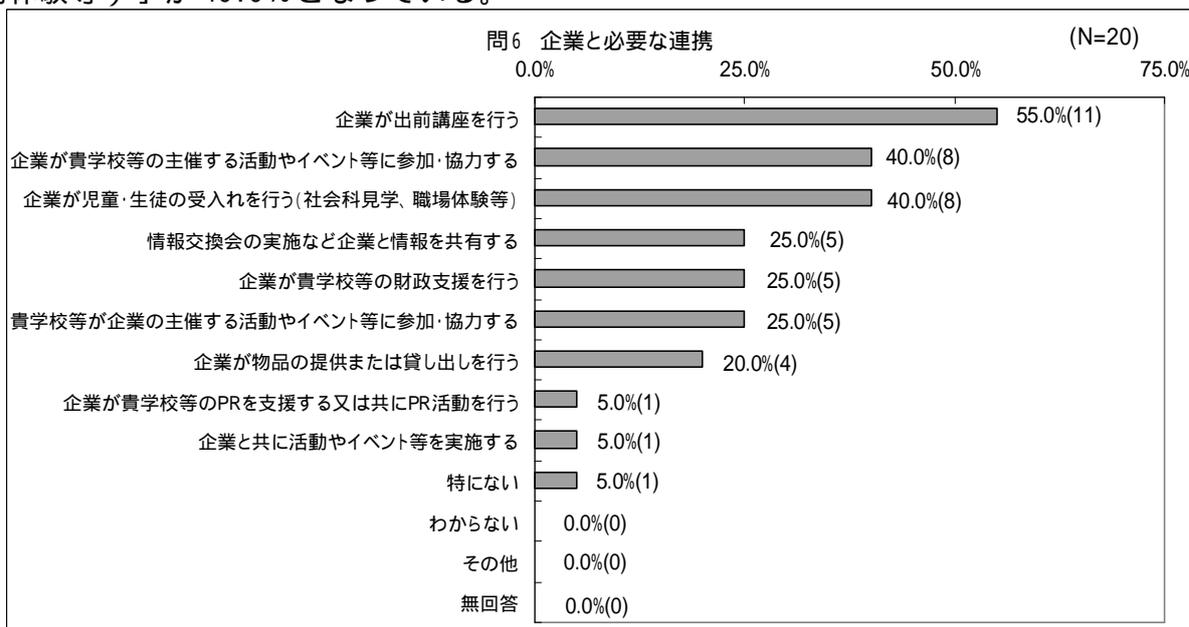
問5 貴学校等は、「共働のまちづくり」を進めるために、『他の各種団体』とどのような連携が必要だと思いますか？ <3つ以内に 印>

「他の各種団体が貴学校等の主催する活動やイベント等に参加・協力する（50.0%）」、「貴学校等が他の各種団体の主催する活動やイベント等に参加・協力する（45.0%）」と回答した学校等が多く、活動やイベントを相互に参加・協力していくことが必要であると感じていることがうかがえる。



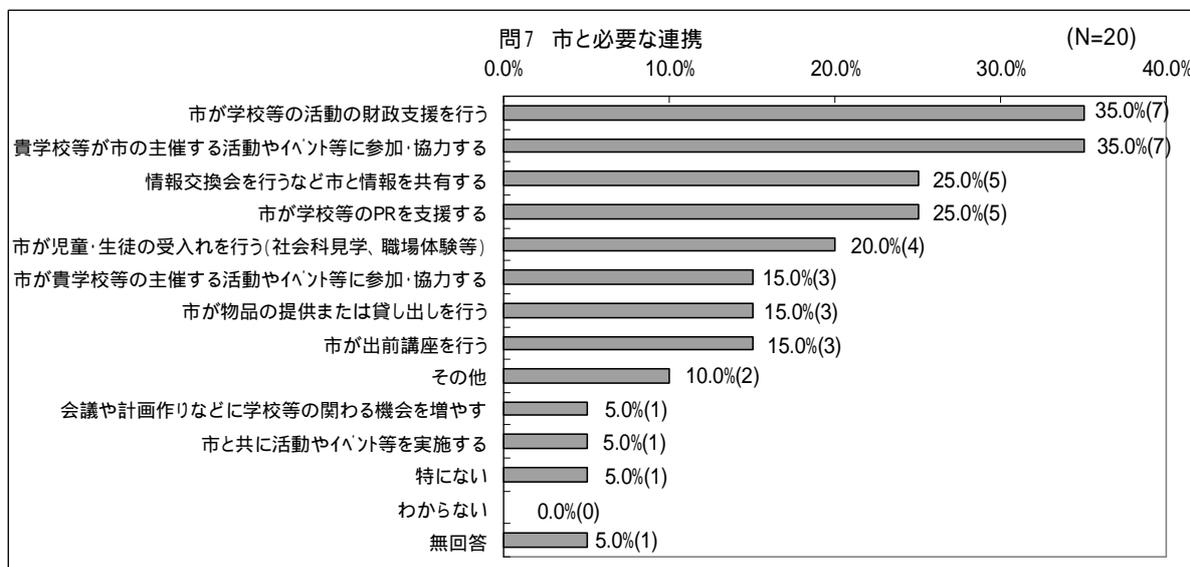
問6 貴学校等は、「共働のまちづくり」を進めるために、『企業』とどのような連携が必要であると思いますか？ <3つ以内に 印>

「企業が出前講座を行う」が55.0%と最多となり、次いで「企業が貴学校等の主催する活動やイベント等に参加・協力する」、「企業が児童・生徒の受入れを行う（社会科見学、職場体験等）」が40.0%となっている。



問7 貴学校等は、「共働のまちづくり」を進めるために、『市』とどのような連携が必要であると思いますか？ <3つ以内に 印>

「市が学校等の活動の財政支援を行う」、「貴学校等が市の主催する活動やイベント等に参加・協力する」が最多の35.0%となり、次いで「情報交換会を行うなど市と情報を共有する」、「市が学校等のPRを支援する」が25.0%となっている。



3) 学校等から見た古賀市の強み、弱み

問8 貴学校が活動に取り組まれている中で感じる古賀市の強み(良い点、生かすべき点)があれば教えてください。<箇条書きでご記入ください>

学校等に対する支援などの「行財政」に関するものが10件で最多となっており、次いで「連携・交流」「自然環境」に関するものが4件、「交通」に関するものが3件あげられている。

・行財政・・・10件
 ・連携・交流・・・4件
 ・自然環境・・・4件
 ・交通・・・3件
 ・ボランティア・・・2件
 ほか
 (詳細:p.179 参照)

問9 貴学校等が活動に取り組まれている中で感じる古賀市の弱み(悪い点、改善が必要な点)があれば教えてください。<箇条書きでご記入ください>

関係機関間の「連携・交流」に関するものが最多の6件で最多となっており、次いで「市民モラル」に関するものが3件あげられている。

・連携・交流・・・6件
 ・市民モラル・・・3件
 ほか
 (詳細:p.180 参照)

問 10 古賀市のまちづくりについて、ご意見やご提案（アイデア）等をお持ちでしたら、以下に記入してください。

p.180 参照

問3-1 取り組みたい共働の分野

内 容	項 目
保育所本来の子ども達の活動も重視しながら地域などとも交流しまちづくりをしていきたい。	地域との交流
本校では、地元校区運営協議会と連携して運動会やまつりを実施しています。今後も本校の教育活動を豊かなものにするために連携を強めると共に、学校が地域コミュニティの中心となるように機能できればと考えています。	地域との交流
本校では、ふるさとに愛着を持つ子どもを育てたいと考えています。そのためには古賀市を知り、古賀市に関わりの持てる子どもを多く育てたいので、様々な社会体験活動や地域住民との関わりの場を教育活動に取り入れたいと考えます。ただ学校は学校の使命として学力保障等取り組むべき内容が多々あるので、全ての分野に関わりを持つことは無理がでます。	地域との交流
公教育機関であるので要請に応えるのは当然のこと、地域の文化発展への参画、地域づくりへの積極的参画。	地域との交流
地域の人材活用・学習ボランティア等の活用・花見松原の清掃活動・アンビシャス広場の活用。	環境美化
環境保全等に関連した取組み、グリーンパークでの催し等への協力、あるいは共同した取組み。	環境美化
現在、本校が取り組んでいることとして、学校近郊の清掃ボランティア活動や生徒会による募金活動があげられる。これらのことは教育的効果も高いと考えており、今後も継続して取り組んでいく予定である。	環境美化
日本一美しい古賀市づくりに清掃ボランティアを計画したい。又は文化的なイベントに参加したい。ただ、費用の面に不安を感じる。	環境美化
子育て支援。	子育て
子どもに関わること。	子育て
こどもの健全育成や生涯学習に関わる内容であれば連携を強めていきたい。今、課題として考えていることは、学校の教育目標「地域を愛し…」の部分です。学校が支えてもらうだけでなく学校が支えるといったスタンスの取組みができればと思います。	子育て 生涯学習
様々な地域活動に取り組んでいる。(世代間・異年齢・保育所体験)	世代間交流
地域交流(世代間、異年齢など)を実践しているが、それぞれは1~2回でもあちこちとの交流で回数が多くなるため子どもたちに影響が出るため整理できたらと考えています。	世代間交流
近隣の学校(小・中・高)との交流及び共同学習・古賀市内へのボランティアの要請・古賀市文化協会で出前講座の利用・人材派遣事業の利用・地域の方々へ障害児や特別支援教育についての理解、啓発。	学校間交流
アジア諸外国との教育に関する交流、特にフィリピン、韓国、学園が行っているモンテッソーリ教育のわかちあいとそのボランティア。	国際交流
「興味のある分野」 特別支援学校としての専門性と考えています。・病気や心の病で学校に行けなくて悩んでいる子どもの保護者、児童生徒への支援、心の病や思春期の心の在り方に悩みをもつ子どもの保護者、児童生徒への支援。	その他
園としては何よりも子ども達の安全を第一に尽力していきたい。他に園として協力できることがあれば少しでも市の発展に寄与貢献したいと思っている。	その他
学校教育に課せられたものが大きく毎日の教育活動で余裕がありません。ただ本校では砂の芸術大会、松林の学習をしていますので新たなことというより現在実施していることとつなげて共働できればという意見です。	その他
人が中心となるためには教育の充実が不可欠。豊かな人づくりを目指し、それぞれの立場で共働のまちづくりに取り組みたい。	その他
首長をはじめとして市政が解りかねます。行政がもっと意欲を持ってやれば他の自治組織が特に子ども達が変わり意欲規範意識、自尊心を大切に取組んでいくのではないかと。首長に特に自覚してほしいと思います。	その他

問8 古賀市の強み

内 容	項 目
園に対する行政の理解があることを感じている。	行財政
学校を支えるサポート機関の充実。	行財政
教育委員会がしっかりしていて安心して学校経営ができる。	行財政
人的施策(環境整備員、小1プロブレム、特別支援相談員等)が充実している。	行財政
学校への人的援助(小1プロブレム、特別支援教育支援員等)の豊かさをはじめとする教育に対する支援。	行財政
教育施策の充実。	行財政
学校支援に対して積極的であること。	行財政
学校予算が他町と比較して配慮していただいている。	行財政
人に対する予算作りがある。	行財政
「いのち輝くまち古賀」で示されるように市民一人一人を大切にした市行政。	行財政
学校が集まっており、交流がしやすい。	連携・交流
市内に高校が2つあり、学校行事等において上級学校との交流が計画しやすい。	連携・交流
子育てに係る関係機関の連携。	連携・交流
学校教育課と学校の連携ができています。	連携・交流
自然環境。	自然環境
水がよい。森もよい。	自然環境
自然が多く、街中がきれい。	自然環境 景観
地の利(交通網、豊かな自然(山、海、平野))。	自然環境 交通
県北部の交通の要所である。(しかし通過点にしかなっていない)	交通
交通の要所である。	交通
ボランティア意識が高いこと。	ボランティア
学校行事・校外学習等でボランティアの呼びかけをし多数参加していただいている。	ボランティア
自然災害が少なく、地理的条件もバランスが取れてよい。	その他
地域の方々が学校を大切に下さること。	その他
様々な人のおいがある。	その他
文化的な行事については現物のものを使用するのではなく、プロのコーディネータを使用することが望ましい。	その他
市内に特別支援学校が2校あり、地域の方々の障害児・者や特別支援教育に対するの理解がすすんでいる。	その他

問9 古賀市の弱み

内 容	項 目
市全体が形式的には共働しているように見えるが、形式的な組織がいくつもあり連携していない。(個々の活動は実によく機能しているようだが)	連携・交流
同じような行事、イベントがそれぞれの団体で取り組まれ統一性がないこと。	連携・交流
学校と他課(市役所)との連携(情報交換等)。	連携・交流
保護者を含めた幼・小・中・高の連携がない。	連携・交流
ひとつひとつの共働体の中の個人は協力を結びつき活動しているが、上記のことから市政施行後、人口増に対応できず、全体的に人間関係が希薄化している。	連携・交流
人口増に伴う都市部と農村部の遊離(住民意識等)。	連携・交流
市民としてのモラルの低さがあるのでは(交通マナー、道路のゴミ等)。	市民モラル
社会的ルールの醸成力が弱い。	市民モラル
常識で考えると当然個人や家庭、保護者がすべきことに対して、学校や行政等に不当に要求や苦情がある。	市民モラル
農村部からの交通アクセスの不便さ。(バスと線及び本数)	交通
市内の景観や整備の悪いところがある。(川、道路状態)	景観
(私が知らないであろうが)文化的側面をあまり感じない。	文化・芸術
住民の社会参画(まちづくり等)が弱い。	市民参画
行政の横の連携が取れていないこと。	行財政
大麻栽培の悪印象がぬぐえていない。	その他
住民の生きるベクトルがあまりにも様々。	その他
小学校教育(1~3年生)の充実、教育が死語になっては…。「安心してお仕事をしてくださいの社会よりも安心して子育てをしてくださいの社会」の実現をお願いします。	その他

問10 自由意見

内 容	項 目
来年度、高等部が新設され、新しい特別支援学校として開校します。障害のある子どもたちの自立・社会参加に向けて、就労・社会生活において今より地域と連携し、障害児・者がより住みやすい町づくりを望みます。	障害者 連携・交流
(私が知らないであろうが)文化的側面をあまり感じない。	文化・芸術
小学生も中学生も若い人たちが参加できるまちづくりが考えられるといいのでは。	まちづくり
古賀市商店街の活性化を図る事業ができないか。道駅の移転を含め、人を集めることが必要ではないか。当然場所が必要である駅前開発が重要。	古賀駅周辺 商業
本校は、3年前は不登校生徒が2ケタを数えていました。それを改善できている理由は、教育委員会より中1ギャップや心の相談員、特別教育支援員、学習支援アシスタント等人に予算をあてていただいていることです。特に中1ギャップ対応講師は、朝の迎えや個別の支援を繰り返し、特別な不登校対策ではなく、人がたくさん関わる人海戦術によって、不登校減少の成果を得ています。「教育は人なり」といわれますが引き続きご支援をいただきたい。	行財政
古賀市の伝統的な行事や特色のある環境を取り出し、もっとアピールする。それらのよさが市民の郷土愛を高める上で不可欠であると思う。自信を持つことは重要である。	その他
古賀市 = という部分がイメージできない。大きな市町になれば難しいとは思いますが、焦点化できればと思います。「日本一住みたい町」= 古賀市では抽象的だと思います。学校も特色化では悩んでいる課題のひとつです。	その他
小学校教育(1~3年)の充実、教育が死語になっては…。「安心してお仕事をしてくださいの社会よりも安心して子育てをしてくださいの社会」の実現をお願いします。	その他

- 8 企業・事業所アンケート・ヒアリング調査

(1) 調査の概要

1) 調査の目的

本調査は、古賀市の企業立地、企業活動のしやすさや共働のまちづくりへの意識及び将来のまちづくりのイメージ等を調査し、第4次古賀市総合振興計画策定に生かすことを目的に実施した。

2) アンケート調査

対象

古賀市商工会加盟企業・事業所

調査方法

郵送による配布、回収

調査期間

平成21年9～10月

回収状況

- ・ 配布数 30票
- ・ 回収数 19票
- ・ 回収率 63.3%

3) ヒアリング調査

対象

上記アンケート調査回答企業・事業所

調査方法

アンケート調査結果を基にヒアリングによる聞き取り

調査期間

平成21年11～12月

回収状況

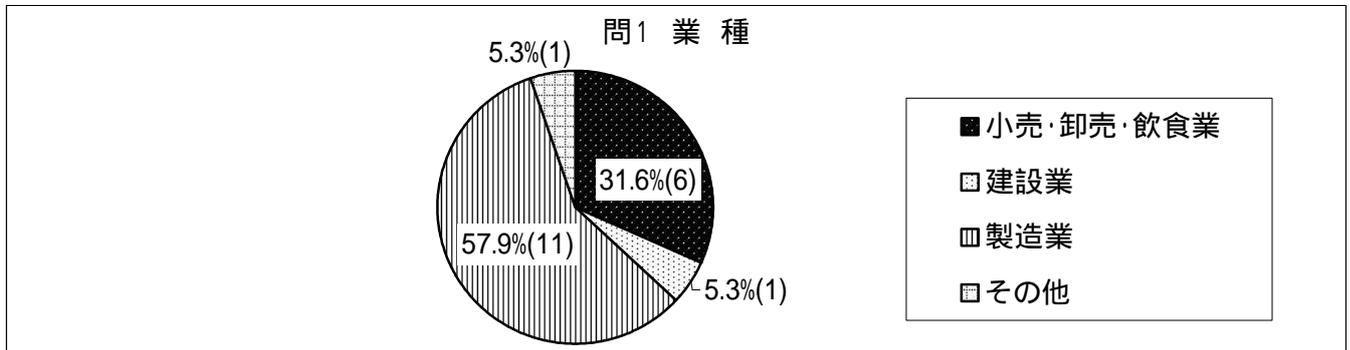
- ・ 依頼数 19社
- ・ 承諾数 17社
- ・ 承諾率 89.5%

(2) アンケート調査の結果

1) 企業・事業所の概要について

問1 貴社の業種を教えてください。(主な業種に1つに 印)

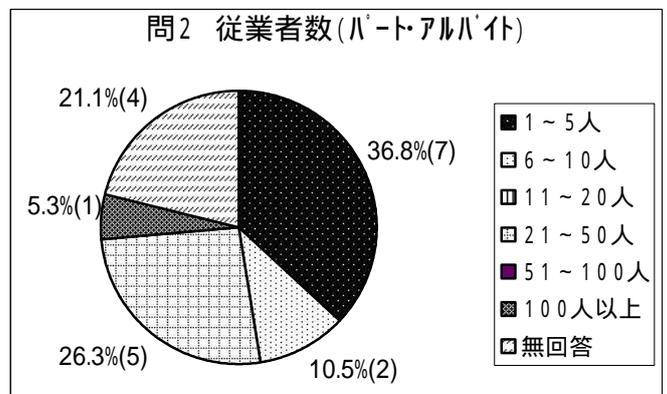
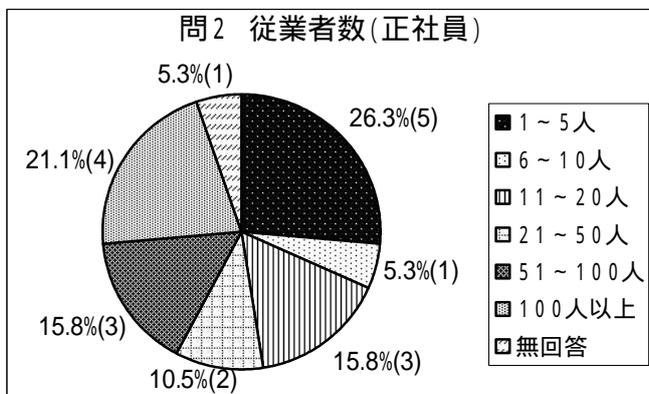
「製造業」が57.9%と最多で、次いで「小売・卸売・飲食業」が31.6%となっている。



問2 貴社の従業者数は何人いらっしゃいますか？(それぞれ1つに 印)

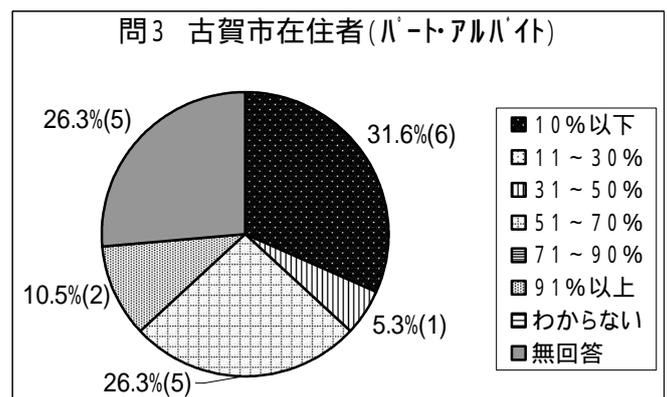
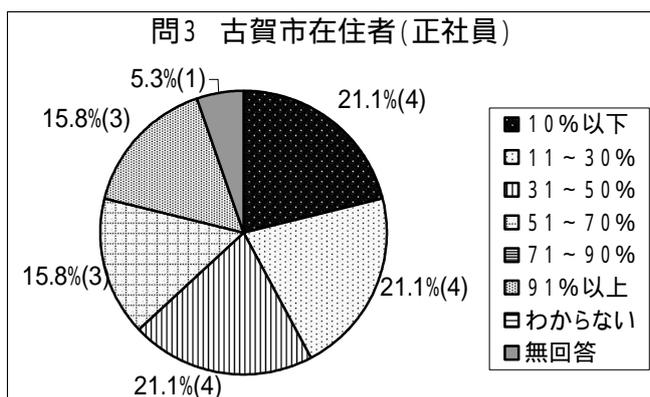
平成20年度1年間の実人員でお答えください。

正社員、パート・アルバイトともに「1～5人」がそれぞれ26.3%、36.8%と最多となっている。



問3 そのうち古賀市在住者の割合はどのくらいですか？(それぞれ1つに 印)

正社員の古賀市在住割合は「10%以下」、「11～30%」、「31～50%」が最多の21.1%で、パート・アルバイトの古賀市在住割合は「10%以下」が31.6%で最多となっている。



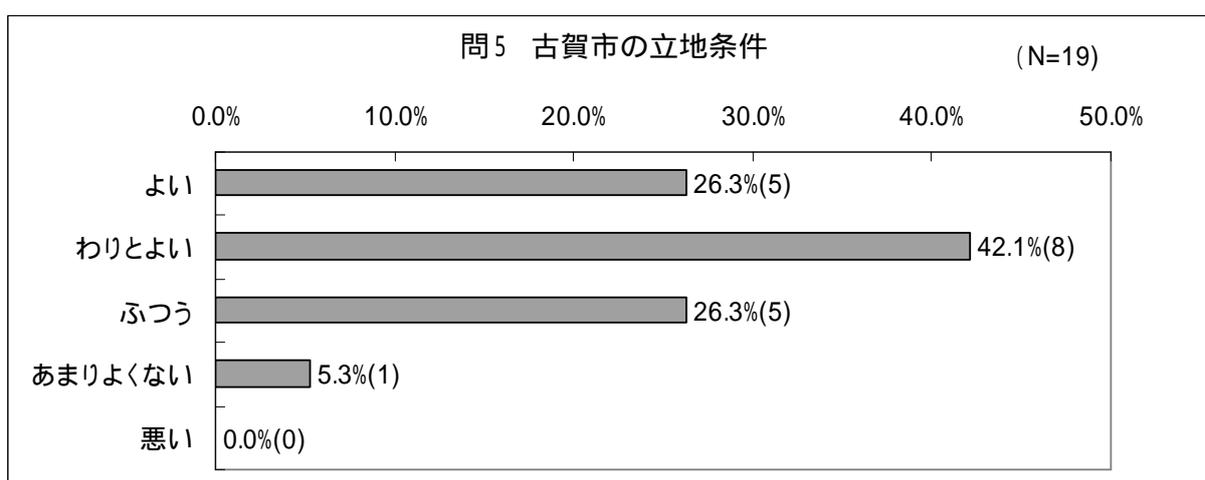
問4 貴社の技術やノウハウ、シェアなどで全国的または世界的に優れているものがあればご記入ください。

回答非公開

2) 企業の立地条件及び企業活動について

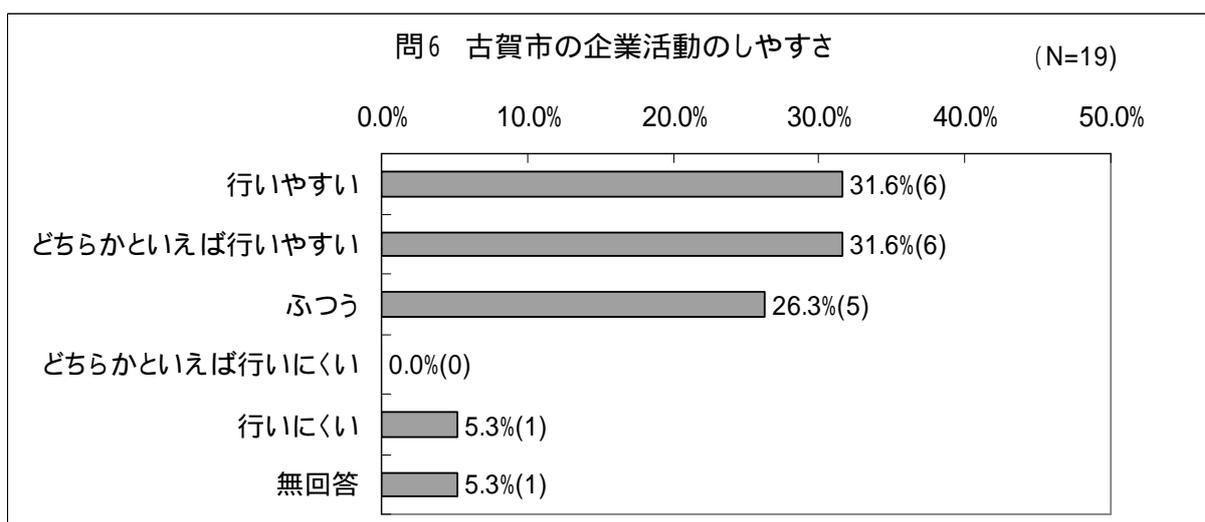
問5 立地条件として古賀市をどのように思いますか？（1つに 印）

「よい」と「わりとよい」を合せた『よい』が68.4%、「あまりよくない」と「悪い」を合せた『悪い』が5.3%となり、古賀市は企業・事業所の立地条件はよいと思われていることがうかがえる。



問6 貴社にとって古賀市は企業活動が行いやすい地域だと思いますか？（1つに 印）

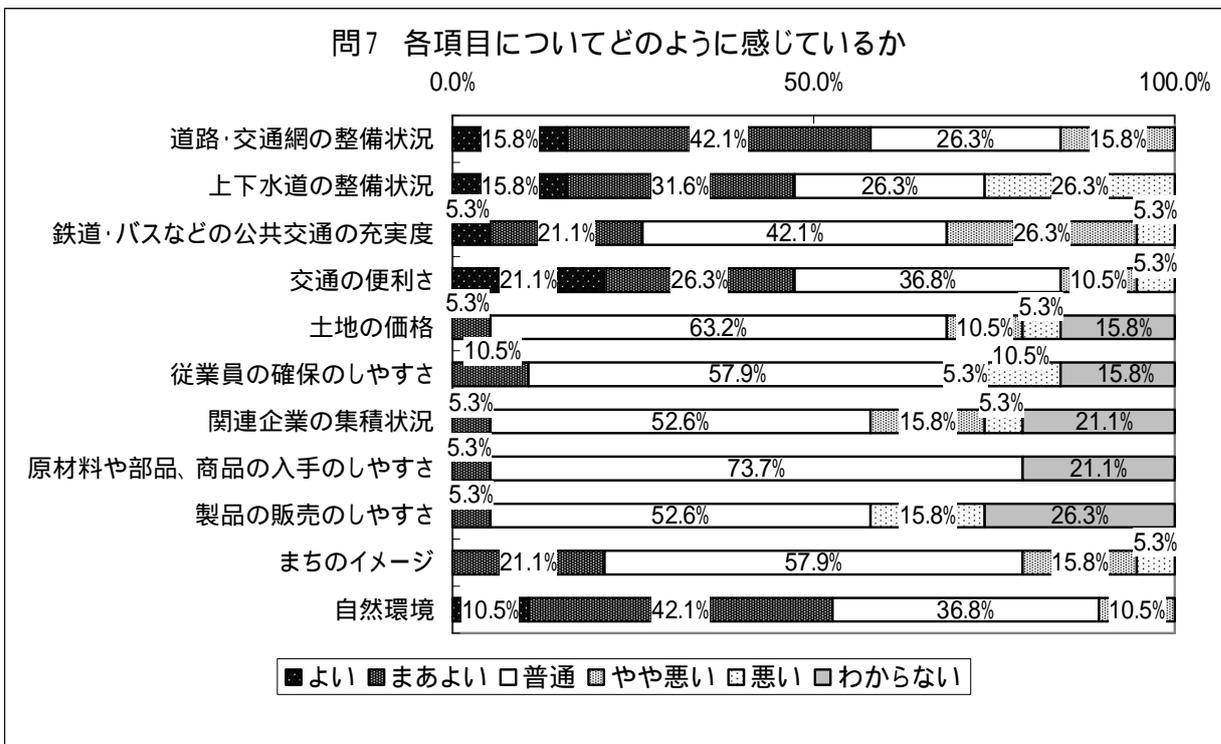
「行いやすい」と「どちらかといえば行いやすい」を合せた『行いやすい』が63.2%、「どちらかといえば行いにくい」と「行いにくい」を合せた『行いにくい』が5.3%となり、古賀市は企業活動の行いやすい地域であると思われていることがうかがえる。



問7 古賀市で企業活動を行う上で次の各項目についてどのように感じますか？
 (選択肢の中からそれぞれ1つに 印)

「よい」と「まあよい」を合わせた『よい』は、「道路・交通網の整備状況」が最多の 57.9%となり、次いで「自然環境」(52.6%)、「上下水道の整備状況」(47.4%)、「交通の便利さ」(47.4%)の順番となっている。

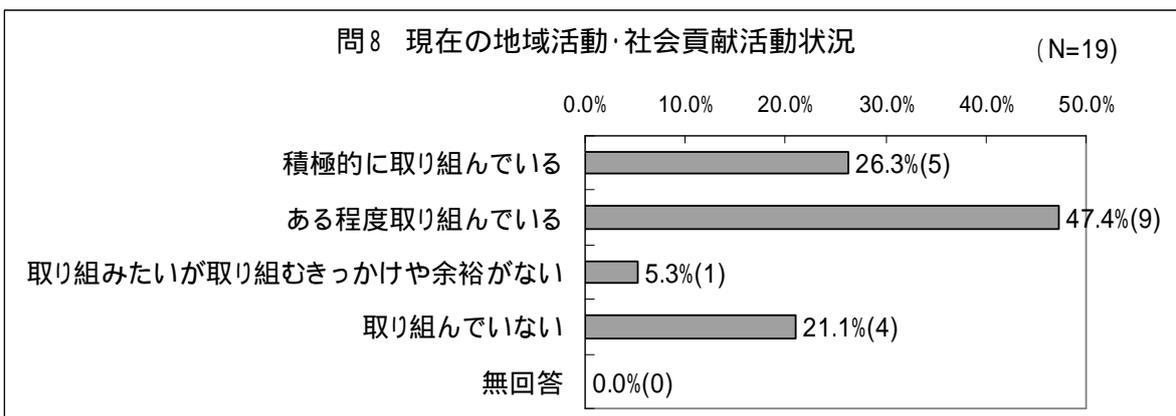
「やや悪い」と「悪い」を合わせた『悪い』は、「鉄道・バスなどの公共交通の充実度」が最多の 31.6%となり、次いで「上下水道の整備状況」(26.3%)となっている。



3) 共働のまちづくりについて

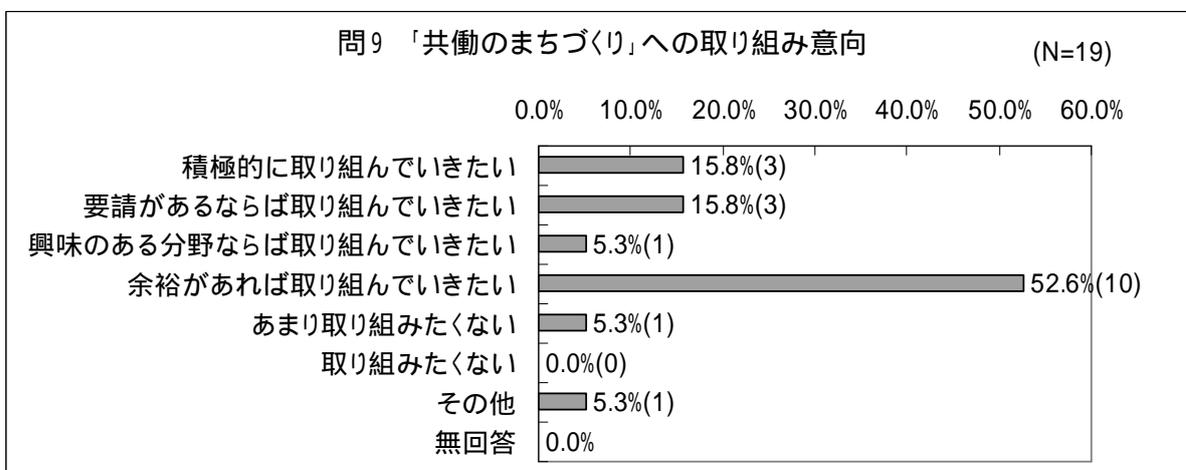
問8 古賀市内の企業・事業所では、これまでも様々な形で社会貢献をされ、「共働のまちづくり」の一翼を担っていただいておりますが、貴社は、現在、地域活動への参加や社会貢献活動などに取り組んでいますか？(1つに 印)

「積極的に取り組んでいる」と「ある程度取り組んでいる」を合わせた『取り組んでいる』は 73.7%となり、多くの企業・事業所が地域活動への参加や社会貢献活動を行っていることがうかがえる。



問9 貴社は、今後、社会貢献活動などによる「共働のまちづくり」に取り組んでいきたいとお考えですか？(1つに 印)

「余裕があれば取り組んでいきたい」が52.6%と最多で、何らかの形で取り組んでいきたいと答えた企業・事業所は、合計89.5%となっていることから、企業・事業所に「共働のまちづくり」への参加意向があることがうかがえる。



問9 1 「積極的に取り組んでいきたい」「要請があるならば取り組んでいきたい」「興味のある分野なら取り組んでいきたい」「余裕があれば取り組んでいきたい」と回答された場合、今後、貴社が取り組みたいと考えていることや、興味のある分野・内容があれば、以下に記入してください。

「環境美化」に関する分野が3件と最多であり、環境美化活動に取り組みたいまたは興味があることがうかがえる。

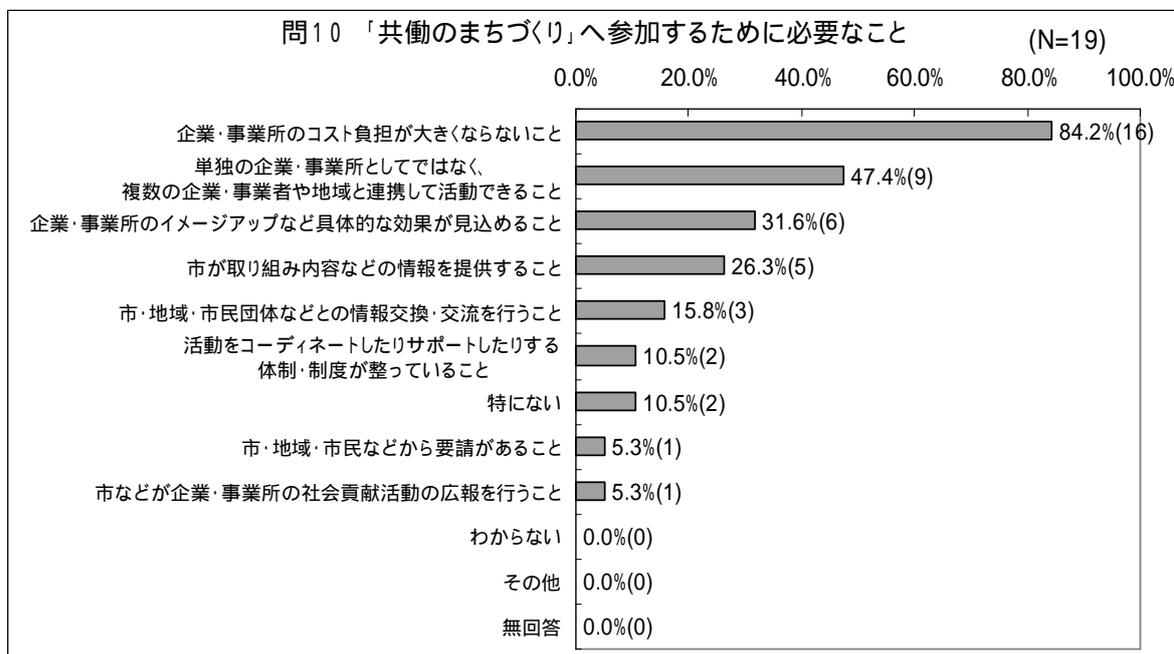
内 容	項 目
環境美化活動(工場周辺、海岸、河川等)。	環境美化
海岸清掃活動。	環境美化
環境美化活動。(2件)	環境美化
地域のスポーツ大会、イベントへの参加。	連携・交流
地域の交通安全運動や防災運動。	安全・安心
工場見学の受入れ。	その他
基本的には「共働のまちづくり」に寄与したい 但し、今は厳しい経営環境なので出資面での制限がある。	その他

問9 - 2 「あまり取り組みたくない」「取り組みたくない」と回答された場合、なぜ取り組みたくないかよろしければ以下に記入してください。

回答なし

問10 貴社は、社会貢献などによる「共働のまちづくり」に積極的に参加するために、何が必要だとお考えですか？(3つ以内に 印)

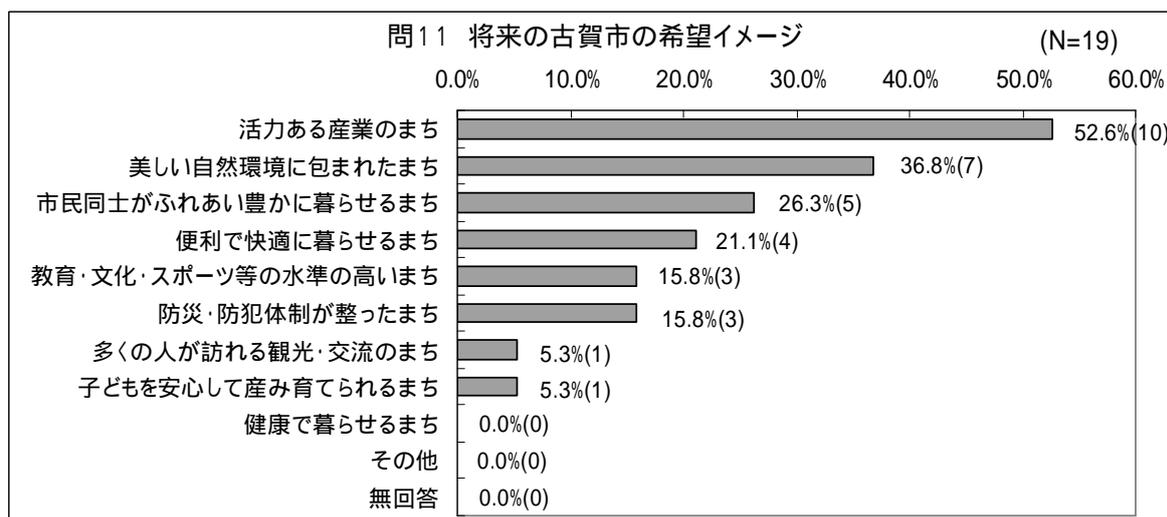
「企業・事業所のコスト負担が大きくなること」が84.2%と最多となっており、企業・事業所との「共働のまちづくり」をすすめるためには、企業・事業所のコスト負担とならないように取り組むことが必要であることがうかがえる。



4) 将来の古賀市のイメージについて

問11 貴社は、将来の古賀市がどのようなイメージのまちになることを望みますか。(2つ以内に 印)

「活力ある産業のまち」が52.6%と最多となり、次いで「美しい自然環境に包まれたまち」(36.8%)となっている。



問 12 古賀市のまちづくりについて、ご意見やご提案(アイデア)等をお持ちでしたら、以下に記入してください。

下記のとおり意見や提案があがっている。

内 容	項 目
ビジネスホテルの誘致。	施設・インフラ
宿泊施設の充実。	施設・インフラ
上下水道の整備や街灯の蛍光灯切れの交換等生活に必要なことから取り組んでいただきたいと思います。	施設・インフラ
美術館の建設。	文化・芸術
交通事故が発生しないまちづくりの取組み。	安全・安心
古賀市をあげての清掃、運動等を同一日時に一斉に行う。(企業など住民を含む)	環境美化
ゴミ袋が高いので、少しでも安くしていただきたい。	ゴミ

(3)ヒアリング調査の結果

1)企業から見た古賀市の強みについて

「古賀ICの存在」に関する意見が最多の14件あげられ、「陸送による材料の調達、製品の出荷等を行う場合において古賀ICの存在は大きい」という意見が多くあげられた。また、交通に関しては、「国道3号・495号の存在」や「都市高速への近さ」、「福岡市内ほど道が混まず、渋滞が少ない」などもあげられた。

「工業団地の存在」に関する意見が3件あげられ、「企業間での情報交換のしやすさ」や「関連企業が近くにあり便利」、「近隣に住民が住んでいないため騒音、悪臭などの苦情が少ない」などの意見があげられた。

「上下水道の整備」に関する意見が3件あげられ、「企業で下水処理を行うと経費がかさむため、下水道が整備されていなかったら古賀市に進出していなかった」などの意見があげられた。

「豊かな自然環境」に関する意見が3件あげられ、「自然環境がよいとクリーンな企業イメージとなってよい」などの意見があげられた。

その他の意見として「医療と食品関係が強い」や「多種多様な業種の企業があるので、ある業界が傾いたから総崩れといった状況にはならないのが強み。古賀市を総合力でアピールしてみてもどうか」という意見もあげられた。

- ・古賀ICの存在・・・14件
- ・工業団地の存在・・・3件
- ・下水道の整備・・・3件
- ・豊かな自然環境・・・3件

2) 企業から見た進出しやすい条件について

上記(1)の回答の他に「従業員の確保のしやすさ」や「通勤の利便性」、「近くに公園化された場所があること」、「公共機関が近いこと」などがあげられた。

3) その他の意見について

古賀市は、「福岡市と北九州市の間に位置し、自然も豊かで、交通アクセスもよく住みよく生活しやすいまちである」という意見が多数あげられた。

「福岡市と北九州市の間に位置する好立地条件」や「古賀IC、国道3号・495号などの交通アクセスがよいので積極的に企業誘致をしてはどうか」という意見が多数あげられた。

古賀駅付近(商店街)については、「活気がなく寂しい」という意見があげられ、「古賀駅前の魅力作りやビジョンを示すことが必要」という意見などがあげられた。

古賀市の商業については、「国道495号線沿いが商売しやすく、国道3号より山手になると不向き」という意見などがあげられた。

ビジネスホテルについては、「ほしい」という意見と「ニーズはあるのではないか」という意見、「必要ない」という意見に分かれた。また、「接待できる料亭の数がない(少ない)ため、古賀市内にできても福岡市に泊まるのではないのか」という意見などもあげられた。

まちの活気・イメージ・PRについては、「若者が少なく活気がない」という意見があげられ、「若者が集まるようなまちづくりが必要」という意見などがあげられた。

【まちの住みやすさ(生活しやすさ)】

- ・住みよい(生活しやすい)まち。(6件)
- ・駅の近くが住みやすい。
- ・住みやすいまちではあるが、行ってみたいと思える活気の出るようなものがない。
- ・仕事があれば古賀に住みたいと思っている人は多いと思う。

【企業誘致について】

- ・工業が強いのもっと誘致してさらに強くしたらよいのに。
- ・工業のまちにするために、もっと企業誘致してはどうか。
- ・もっと企業誘致すればよいのに。
- ・国道3号付近に工場を誘致したらよいのに。
- ・土地利用の規制を外さないと企業誘致は難しい。
- ・せっかくICがあるのにその周辺が活かされていない。
- ・ICもあり企業は来ると思う。
- ・立地する場所があれば、企業は進出したい場所だと思う。
- ・税収の面からも工業が発展していくことが大切。
- ・企業の設備投資に対して補助や優遇制度を作るのもひとつの方法。
- ・ICもあるので、アウトレットモールを誘致すればまちに活気ができる。

【古賀駅前(商店街)について】

- ・古賀駅前(商店街)が寂しい。活気がなく問題。(3件)
- ・駅はまちの顔。まちに元気があるかどうかの判断となる。駅前の魅力作りが必要。
- ・商店の数も少なく、集まっても盛り上がる(イベントをする)場所がない。
- ・ビジョンがないのでみんなバラバラに活動している。ビジョンがあればみんな同じ目標を持ってやっていける。
- ・商店街はマンションが建っているので何かしようと思った時に何もできない。規制をかけるなどして、行政が駅前をどうしたいか示さないといけないのでは。マンションが建っても1階は商店にすべき。
- ・車社会なので駅周辺も車の利用しやすいまちなみになったら。

【古賀市の商業について】

- ・平日だけでも古賀市内で買物が完結できるようにしたい。
- ・古賀市では、国道495号沿いが商売しやすく、国道3号より山手は商売には不向きと言われている。
- ・国道495号沿いは歩けるスペースがないと人が寄り付きにくい。
- ・若者がお店を開きたくなるようなまちづくりをしてほしい。

【ビジネスホテルについて】

- ・ほしい。(2件)
- ・あったらよいと思う。
- ・ないのが不思議。
- ・ニーズはあるのではないか。
- ・どの程度ニーズがあるかわからないがあれば利用するのではないか。
- ・あれば便利だが、福岡市内に泊まるのでは。
- ・需要(必要性)はない。(3件)
- ・魅力あるまちになれば建つのでは。
- ・古賀市に魅力があれば、値段も安い古賀市に泊まる。
- ・接待できる料亭がない(少ない)。(4件)
- ・食事も泊まりも福岡市に行くので波及効果がない。

【まちの活気・イメージ・PRについて】

- ・町全体のイメージ作りが大切。
- ・古賀市は何もないというイメージで、国道3号を走っていても古賀市に入ったら暗くなる。
- ・若い人が集まらなると活気がない。そのためには、ひとつ核となるものが必要。
- ・海が見える温泉として「薬王寺温泉」をもっとアピールできないか。
- ・海や山がせっかくあるのに観光に力を入れてみてはどうか。
- ・もっと海を活用すべき。
- ・古賀に名菓がないので、お土産に困る。
- ・旅行会社などとタイアップして、もっとみかん狩りやイチゴ狩りをPRしてはどうか。薬王寺温泉なども併せて。知らない人はわざわざ遠くまで行っている。

- ・企業同士でジョイントやコラボレーションができればおもしろい。
- ・ホークスの2軍の寮や女子プロ野球養成所の誘致など人が集まるようにしなければならない。
- ・古賀SAで古賀の物産が売れないか。
- ・工場マップみたいなものがあればよいのは。
- ・みかんを「こがみかん」として売ればよい。
- ・企業誘致にあわせて、若い人を呼び込むような施策をすれば、若い人が住み活気ができるのでは。

【その他】

- ・まちがよくなると雇用につながる。
- ・国道495号の交通量が多く、時間帯によっては渋滞するので緩和策が必要。
- ・商工会工業部会で他業種の人と情報交換できるのはよい。
- ・企業が区の行事に協賛することで、区の行事のものは区内の企業から購入するなどの関係がある。
- ・青少年の健全育成が重要。子どもが住みやすいまちづくりをすることが最優先。
- ・夢の持てるようなお金の使い方をしてほしい。
- ・行政区への加入は義務化すべき。
- ・行政の横の連携がなく、同じような事業をいろいろな部署でやっている。
- ・高齢化しているので、健康づくりや趣味の講座を多くした方がよい。
- ・都市、農村、工業とエリア分けをしてまちづくりをしてはどうか。
- ・JR駅の駐輪場は有料化すべき。

第4次古賀市総合振興計画策定に係る
各種アンケート報告書
平成22年3月

(発行元) 古賀市役所 経営企画課

〒811-3192 福岡県古賀市駅東1丁目1番1号

TEL : 092-942-1113 FAX : 092-942-3758

E-mail : k-kikaku@city.koga.fukuoka.jp

(古賀市HP) <http://www.city.koga.fukuoka.jp/>